

TU Library

Tsukuba Urban Transportation Center

2024年度レポート

51

令和7年3月発行
Published in March 2025
by Tsukuba Urban Transportation Center

一般財団法人 つくば都市交通センター

はじめに

一般財団法人つくば都市交通センターは、つくばセンター地区において7つの駐車場(約3,800台収容)を運営管理すると共に、公益目的事業として都市交通の円滑化と都市機能の充実育成に向けた調査研究活動を実施し、その成果をTUTCライブラリーとして発刊しております。

51号目となる本号では、大きく二つの調査を行いました。

一つ目は、第48号以降継続的に取り組んでいる「つくばセンター地区における都市活動実態調査」として、「人流や生活余暇活動」、「人口や住宅供給」、「産業経済」、「研究や教育活動」に関わる各種データを収集し、分析を行っております。今年度はコロナ禍前(2018年)からアフターコロナ(2023年)までの6年分のデータをとりまとめ「つくばセンター地区」の都市活動の変化について総括を行いました。

二つ目は、「つくば駅周辺におけるパブリックスペース活用実践調査」として、つくば市中心市街地まちづくりビジョンの柱のひとつである「一日中過ごせるサードプレイスを創出することによる訪れたくなるまち」に基づき、日常的に多様な人が溜まれる居場所づくりを目指した実証実験として、つくばセンター広場に様々な形態のイスやテーブルを設置し、その利用状況や満足度等について利用者の声を整理いたしました。

当財団は、今後もつくばセンター地区を中心としたまちの変化の記録や、その時に応じたテーマを検討することを通じて、筑波研究学園都市とその都心機能を担うつくばセンター地区のまちづくりのあり方について検討を進めていく所存です。

決して大きな存在ではありませんが、これまでのライブラリーの蓄積や今後の発刊が、まちづくりに関心をお持ちの皆様やまちの活動に関わる方々の参考となれば幸いです。

最後に本号の発刊に対して、多くの関係者の皆様にご協力を頂きました。この誌面を通じて、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後のレポートの発刊に対しても、ご理解とご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

令和7年3月

一般財団法人 つくば都市交通センター
理事長 関 俊介

— 目 次 —

I つくばセンター地区における都市活動実態調査(2018-2023) ……	1
1. 調査概要 ……	3
1-1 調査の目的・方法 ……	3
1-2 コロナ禍がつくばセンター地区に及ぼした影響と変化(まとめ) ……	4
2. 分野別調査データ ……	12
2-1 人流 ……	12
(1) 鉄道 ……	12
(2) バス ……	15
(3) 駐車場 ……	21
(4) 駐輪場 ……	25
(5) 歩行者・自転車交通量 ……	30
2-2 生活・余暇活動 ……	34
(1) イベント ……	34
(2) 文化活動 ……	38
(3) 市民活動 ……	43
(4) スポーツ・屋外活動 ……	45
2-3 人口・住宅 ……	54
(1) 人口の動向 ……	54
(2) 住宅供給動向 ……	59
(3) 地価 ……	61
2-4 産業・経済 ……	63
(1) 景気動向 ……	63
(2) 商業 ……	66
(3) オフィス ……	68
(4) 観光・交流 ……	70

(5)市財政	74
2-5 研究・教育	76
(1)研究活動	76
(2)交流活動	80
(3)創業活動	82
(4)普及活動	83
資料 コロナ禍における筑波研究学園都市の研究・教育活動に係る調査	
.....	85
(1)調査概要	87
(2)事業所調査結果	88
(3)従業者調査結果	94
(4)アンケート票	104
II つくば駅周辺におけるパブリックスペース活用実践調査	119
1. 調査の目的	121
2. 今までのパブリックスペースの取組み	122
(1)つくば市におけるこれまでの取組み	122
(2)つくばまちなかデザインにおける取組み	125
3. 今後のパブリックスペース活用の方向性	126
4. プレイスメイキング実証実験について	127
(1)実証実験の目的	127
(2)実証実験の実施事項の検討	127
(3)効果検証	131
(4)実証実験の結果	145
5. 今後の取組みについて	146

Ⅲ つくばセンター地区の動き	147
2024 年のできごと	149



つくばセンター地区における都市活動実態調査
(2018-2023)
—コロナ禍の影響の把握—

つくばセンター地区における都市活動実態調査(2018-2023)

1. 調査概要

1-1 調査の目的・方法

コロナ禍におけるつくばセンター地区を中心とした都市活動の状況について把握することを目的に、2021年度より、人流や暮らし、経済、研究・教育活動に関わる各種データの収集・分析を行ってきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが、2023年5月に5類感染症に移行したことをふまえ、2018年度～2023年度における各種データをとりまとめ、コロナ禍の影響によるつくばセンター地区の都市活動の変化等について、総括的に整理しました。

(1)調査対象エリア

つくばエクスプレスつくば駅から約1kmの範囲に広がる「つくばセンター地区」を基本とし、一部データは、その周辺地域やつくば市全域を対象としました。

(2)調査対象期間

過年度に収集したコロナ禍発生前の2018～2019年度、発生直後の2020年度、ワクチン接種が開始した2021年度、行動制限が緩和された2022年度のデータに加え、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したアフターコロナ期にあたる2023年度のデータを新たに収集しました。

なお、人流データ等については、一部2024年度のデータまで加え年次集計を行っています。

(3)調査項目

以下の項目により、都市活動の変化の把握を行いました。

1. 人流 鉄道、バス（路線バス、高速バス）、駐車場、駐輪場利用状況
つくばセンター地区歩行者・自転車交通量
2. 生活・余暇活動 つくばセンター地区イベント開催状況
文化施設利用状況（図書館、博物館、ホール）
市民活動施設利用状況（市民活動センター、会議室）
スポーツ・屋外活動状況（公園、運動施設、キャンプ場、レンタサイクル）
3. 人口・住宅 つくば市の人口動向、つくばセンター地区の人口推移
住宅供給動向（住宅着工数、マンション供給）、地価
4. 産業・経済 景気動向（事業所・従業者数、市内総生産数）
駅周辺商業施設の来客数・売上高
オフィスエリアの人流の動向
観光客数、宿泊者数
市の歳入・歳出、税収

5. 研究・教育 研究活動(研究発表数、共同研究数、筑波大学人流等)
 交流活動(留学・外国人受入数、国際会議開催状況等)
 創業活動(ベンチャー企業設立数、スタートアップパーク利用状況)
 普及活動(研究機関見学者数、科学講座参加者数等)

(4)調査方法

以下の方法により、各種データの収集・分析を行いました。

○統計データ等調査

- ・人口や住宅着工数、地価、税金などの各種統計データを、公開資料等から収集し・分析

○各種施設等利用状況調査

- ・交通機関や駐車場・駐輪場、文化施設、運動・屋外施設、商業施設、宿泊施設等、都市活動と関係の深い各種施設の利用状況や研究活動等に関するデータを、公開資料や関係機関からの提供により整理・分析

○既存調査データを用いた分析

- ・関東鉄道(株)が経年的に実施しているつくば市内の路線バスの乗降客数調査データの提供を受け、つくばセンター地区発着便に着目して分析
- ・(一財)つくば都市交通センターがつくば駅周辺で定点観測を行っている「つくば中心市街地歩行者・自転車交通量調査」のデータを用いて、コロナ禍前後の人の動きの変化について分析

○人流データ調査

- ・携帯電話(au)の位置情報による人流データ提供サービスを用いて、つくば駅周辺やオフィスエリア、公園等の人流(来訪者数)を把握

○アンケート、ヒアリング調査

- ・つくばまちなかデザイン(株)、(公財)つくば文化振興財団、つくば国際会議場へのヒアリング、及び筑波研究学園都市交流協議会参加機関へのアンケートを行い、データでは把握できない都市活動の実態を確認

1-2 コロナ禍がつくばセンター地区に及ぼした影響と変化(まとめ)

コロナ禍がつくばセンター地区の都市活動にどのような影響や変化を与えたのか、5年間の調査のまとめを行いました。

※各データの出典は「2. 分野別調査データ」をご参照ください。

コロナ禍の経過とつくばセンター地区の動向

年度	コロナ禍の動向	つくば市・つくばセンター地区の動向
2005		つくばエクスプレス開通
2010		センター地区で初めて公務員宿舍跡地売却
2016		クレオ 西武閉店
2017		クレオ イオン・専門店街閉店
2019	12月 中国武漢で初の感染者確認	
	1月 国内で初の感染者確認(1/15)	
	2月 ダイヤモンド・プリンセス号で集団感染発生	
	3月 WHOがパンデミックを宣言(3/11) 水際対策の強化(38か国の入国制限)(3/21)	3月 つくば市内の小中学校で臨時休校措置(3/6) つくば市内で初の感染者確認(3/18)
第1波	3月 東京、大阪、福岡等に緊急事態宣言発出(4/7)	つくば市ほか県内8市町に週末・平日夜間の外出自粛要請(4/2)
	4月 緊急事態宣言を全都道府県に拡大(4/16)	豊里の森宿泊施設、JAL CITYで軽症者・無症状者の受入
	4月 緊急事態宣言全面解除(5/25)	5月 茨城県内の緊急事態宣言解除(5/14)
2020	7月 「Go Toトラベル」開始(東京都除く)	
	第2波	8月 市内飲食店での感染者発生に伴う集中検査実施
	10月 「Go To Eat」開始「Go Toトラベル」に東京都追加	10月 筑波大学秋学期の非正規留学生受入を停止
	12月 空港検疫でオミクロン株が確認される 「Go Toトラベル」停止 外国人の新規入国の停止(12/28)	11月 つくば市ほか県内7市町に外出自粛要請(11/28-12/13)
第3波	1月 東京都等に緊急事態宣言発出(1/8-3/21)	1月 茨城県内に外出自粛要請・県独自の緊急事態宣言(1/8-2/22)
	2月 医療従事者へのワクチン接種開始	
2021	4月 一般へのワクチン接種開始 東京都等にまん延防止等重点措置(4/12-) 緊急事態宣言発出(4/25-、沖縄県以外6/20解除)	4月 つくばまちなかデザイン発足 5月 つくば市ほか県内4市町に外出自粛要請(5/6-19) クレオリニューアルオープン(5/19)
	7月 東京都等に緊急事態宣言発出(7/12-9/30) 東京オリンピック・パラリンピック(7/23-9/5)	7月 つくば市ほか県内15市町に外出自粛要請(7/30-) 8月 茨城県にまん延防止等重点措置(8/8-) 緊急事態宣言発出(8/20-9/30)
	第4波	
	11月 留学・技能実習生の入国緩和(11/8) オミクロン株が空港検疫で初確認(11/30) 外国人の新規入国原則停止	
第5波	1月 東京都等にまん延防止等重点措置(1/21-3/21)	1月 茨城県にまん延防止等重点措置(1/27-3/21)
	3月 観光目的を除く外国人の新規入国制限の緩和	
2022		4月 羽田空港行きリムジンバス運行再開 5月 コワーキングスペースco-en開設
		第7波
	10月 水際対策の大幅緩和(入国者数の上限撤廃、 個人の外国人旅行客の入国解禁)	10月 クレオ跡地にレ・ジェイドつくば竣工 LALAガーデンつくば閉店 12月 成田空港行きリムジンバス運行再開 1月 つくば市南原に臨時医療施設開設(1/10-2/28)
		第8波
2023	5月 新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行	8月 まつりつくば4年ぶりに開催
		2月 JAL CITYつくば営業再開 市民活動拠点コリドイオ開設

新型コロナウイルス感染症発生期

ワクチン接種期

Withコロナ期

After
コロナ期

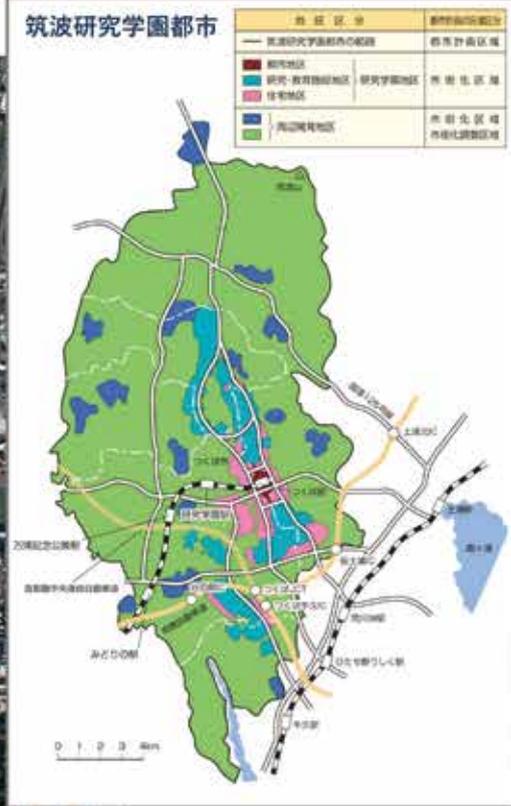
■ 新規感染者数(厚生労働省資料より作成)
■ 定点医療機関報告数(国立感染症研究所資料より作成)

調査対象地

つくばセンター地区



筑波研究学園都市

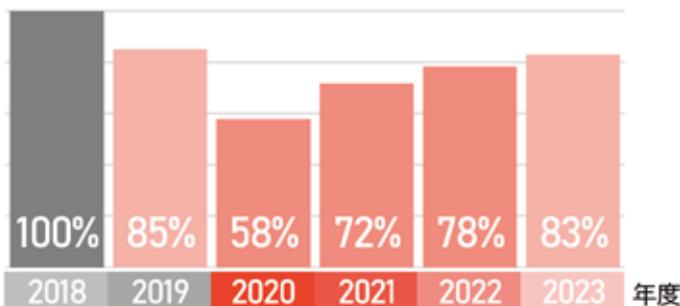


出典：国土交通省パンフレット「筑波研究学園都市」

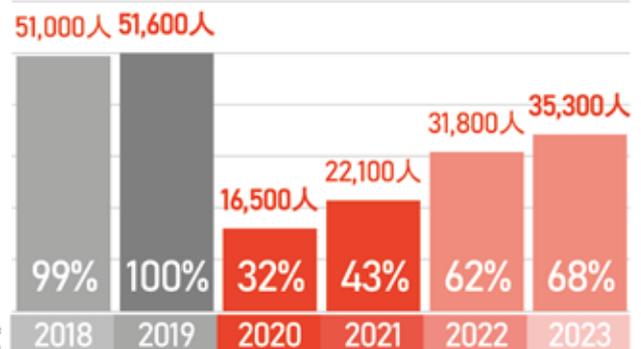
人流

- ◆ 多様な都市機能が集積し、外部からの来訪者の多いつくば駅周辺の人流は、コロナ禍による影響を比較的大きく受けました。
- ◆ 2021年にクレオがリニューアルオープンし、イベントも再開したことで、駐車場利用や一部の地点の人通り、滞在時間はコロナ禍前より増加が見られますが、2023年度時点では通勤通学の人流や遠方からの来訪者も以前より少なく、駅利用者など通過する人を含めた駅周辺の来訪者数はコロナ禍前と比べ増えていません。
- ◆ 高速バスは鉄道より影響を大きく受け、運休や減便、路線の再編も行われました。

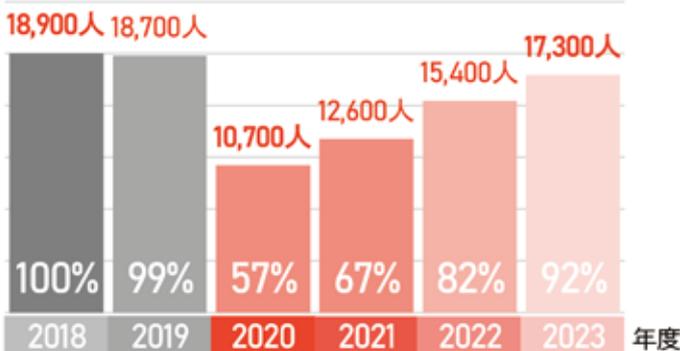
つくば駅周辺来訪者数（一日平均）



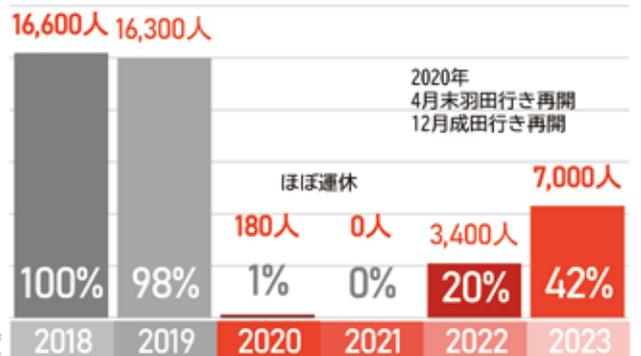
高速バスつくばー東京線乗車人員（月平均）



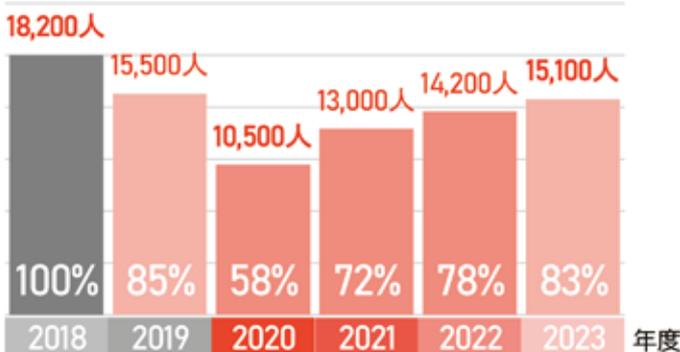
つくば駅乗車人員（一日平均）



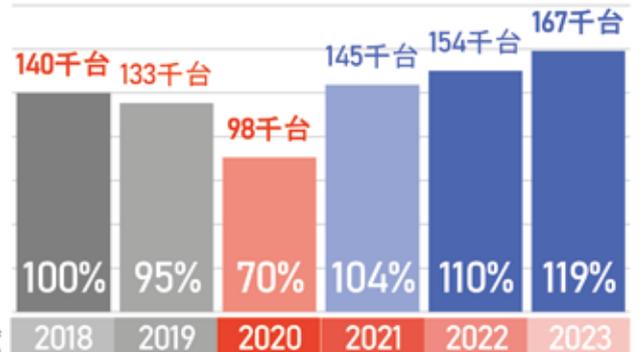
空港リムジンバス乗車人員（月平均）



路線バスつくばセンター乗降客数（一日）



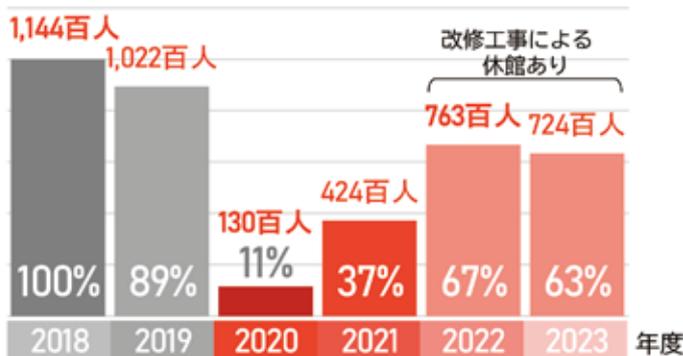
共同利用駐車場利用台数（月平均）



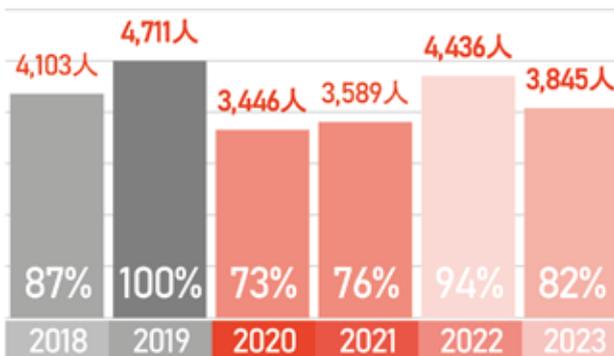
生活・余暇

- ◆ 感染拡大期は多くのイベントや公共施設の利用が中止・停止となり、市民だけでなく学外の施設で活動する学生サークル等にも大きな制約が生じました。
- ◆ ホールやアリーナなどの大勢が集まる屋内施設で特に影響が大きく、テニスコートやキャンプ場などの屋外施設は、時期によっては例年以上に利用されていることもありました。図書館も来館者数は減少しましたが貸出冊数に大きな変化はなく、緊急事態宣言中は一人あたりの貸出冊数は増加しました。
- ◆ ホールの利用やイベントは順調に回復が進んでいますが、図書館の自習利用や、ホールでのイベント規模の縮小傾向はやや残っています。

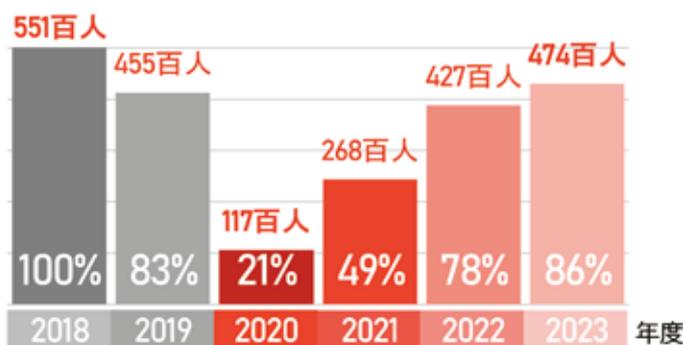
ノバホール入場者数



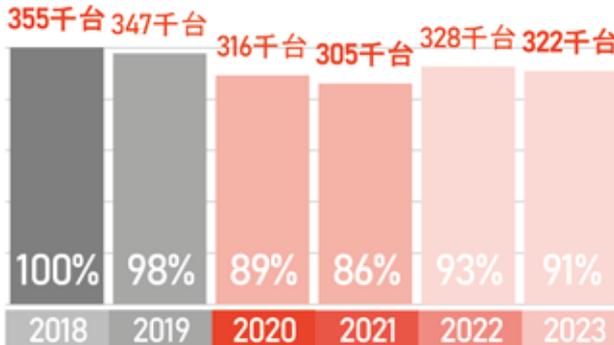
ゆかりの森テントサイト利用者数



つくば美術館展覧会入館者数



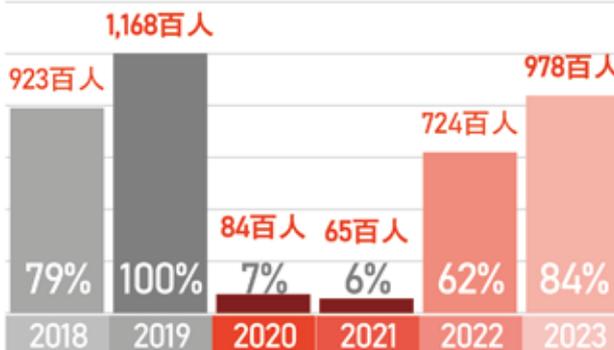
洞峰公園駐車場利用台数



中央図書館貸出冊数



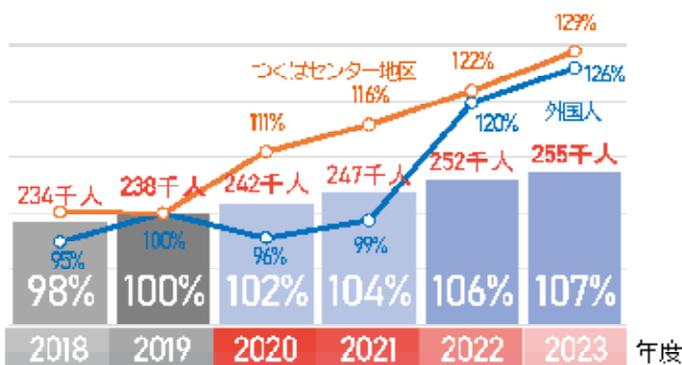
センター広場等イベント来場者数



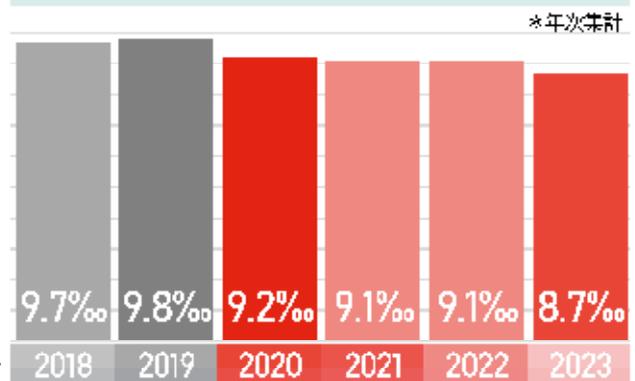
人口・住宅

- ◆ 増加が続いていたつくば市の人口は、コロナ禍においては東京都内や関東圏外からの転入が増加したことに加え国外や都内への転出が減少したことで益々増加しました。
- ◆ 海外からの転入は2022年度より増加し、外国人数もコロナ禍前の1.2倍となっています。
- ◆ 住宅着工数は2020年度は減少しましたが2021年度は増加、つくばセンター地区においても毎年マンションが竣工し人口が増加しています。
- ◆ 地価も一時停滞が見られましたが、その後は再び高い伸び率で上昇しています。

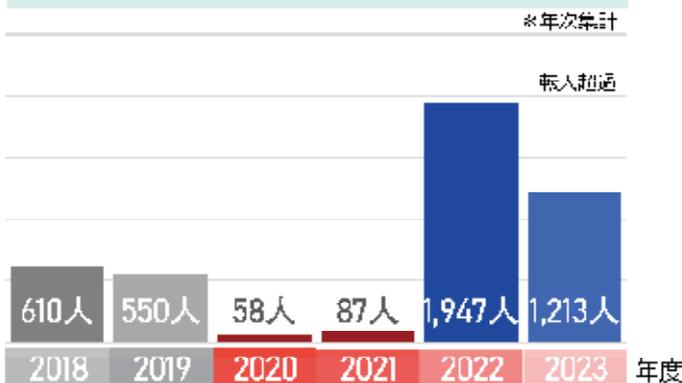
つくば市人口（各年度1月）



つくば市出生率



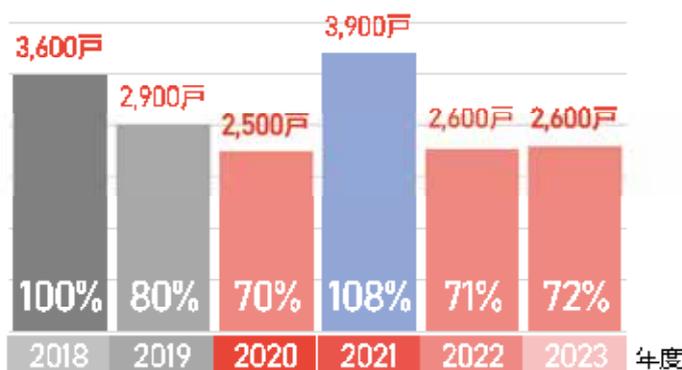
つくば市と国外との転出入



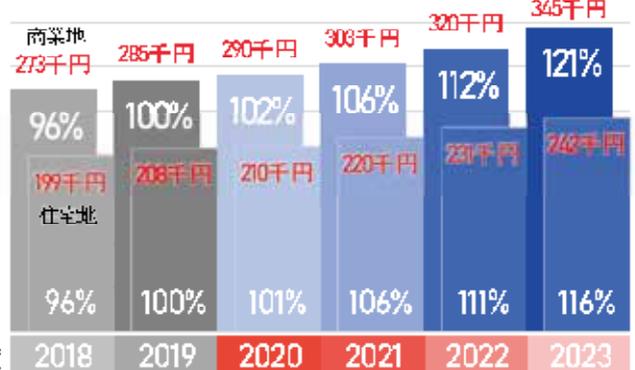
つくば市と東京都との転出入



つくば市新設住宅着工数



つくば駅周辺地価（各年度1月）



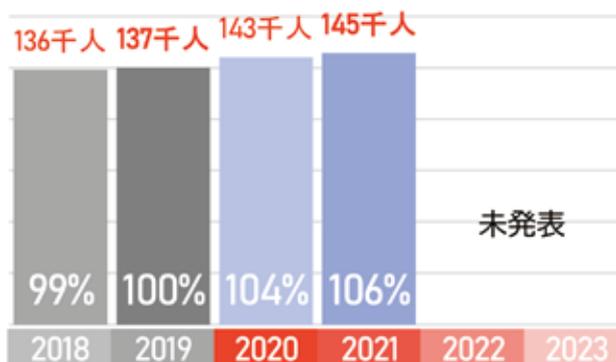
産業・経済

- ◆ つくば市の経済成長率は2019-2020年度はマイナスとなりましたが、2021年度にはプラスに転じ、就業者数はコロナ禍にかかわらず増加が続いています。宿泊・飲食サービス業は全国的な傾向と同様、大きな打撃を受け、つくばセンター地区のホテルの宿泊者も大きく減少しました。
- ◆ 2021年5月にクレオがリニューアルオープンし、つくば駅周辺の商業施設の売上・来客数は増加しています。オフィスで働く人の人流は、緊急事態宣言時等に減少が見られましたが、都内に比べ顕著な減少はみられませんでした。
- ◆ 2020年度は、筑波山では時期によっては平年以上の出が見られ、遠方への移動が強く抑制されていた間、身近な観光地として多くの人が訪れたことがうかがえます。

つくば市経済成長率



つくば市就業者数



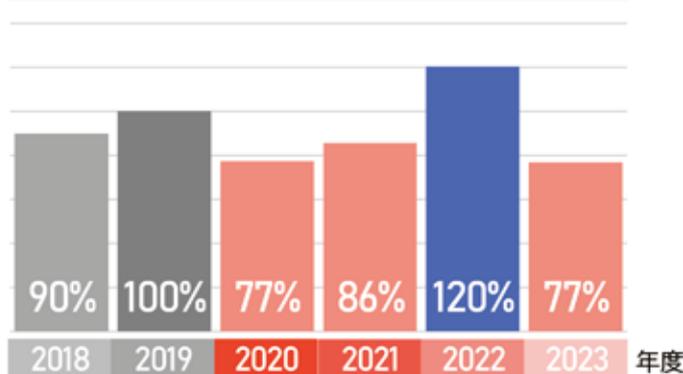
つくば駅周辺商業施設来客数



つくば駅周辺宿泊者数



つくば駅周辺オフィス来訪者数 (各年5月)



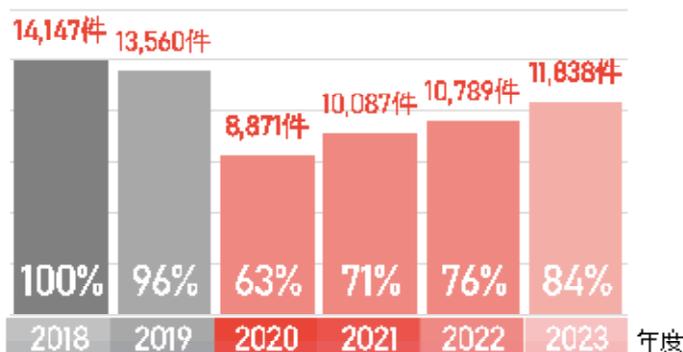
筑波山観光客数 (各年8月)



研究・教育

- ◆ 研究機関や大学では、研究発表や研究者の受入れ、図書館の利用数などにコロナ禍の影響が見られました。
- ◆ 特に国際会議や海外からの研究員の受入れなど海外との人的な交流は大きな影響を受け、筑波大学では2020年度秋学期は非正規生の留学受入れが中止となりました。
- ◆ 毎年多くの人を訪れる研究機関の見学は、施設の休館等もあり2020年度は大きく減少しましたが、コロナ禍前の水準に回復しています。

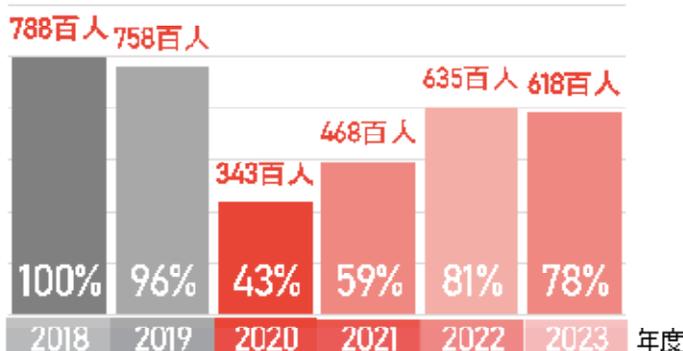
産業技術総合研究所 研究発表数



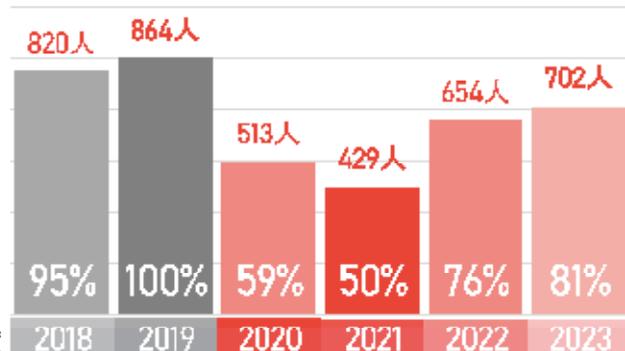
つくば国際会議場 国際会議参加者数



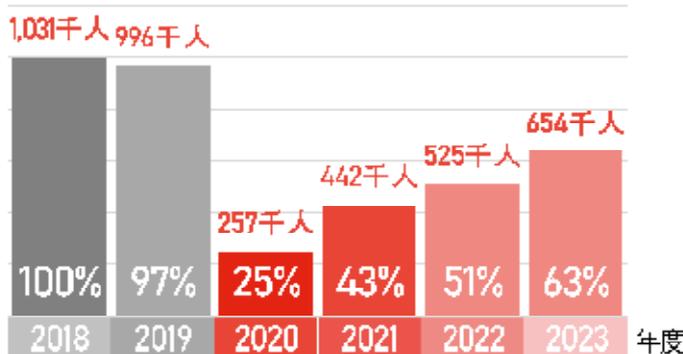
高エネルギー加速器研究機構共同研究者等受入数



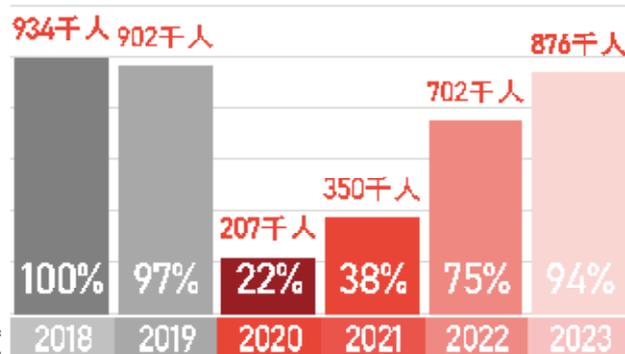
産業技術総合研究所 外国人受入数



筑波大学附属図書館入館者数



つくばサイエンスツアー協力研究機関等見学者数



2. 分野別調査データ

2-1 人流

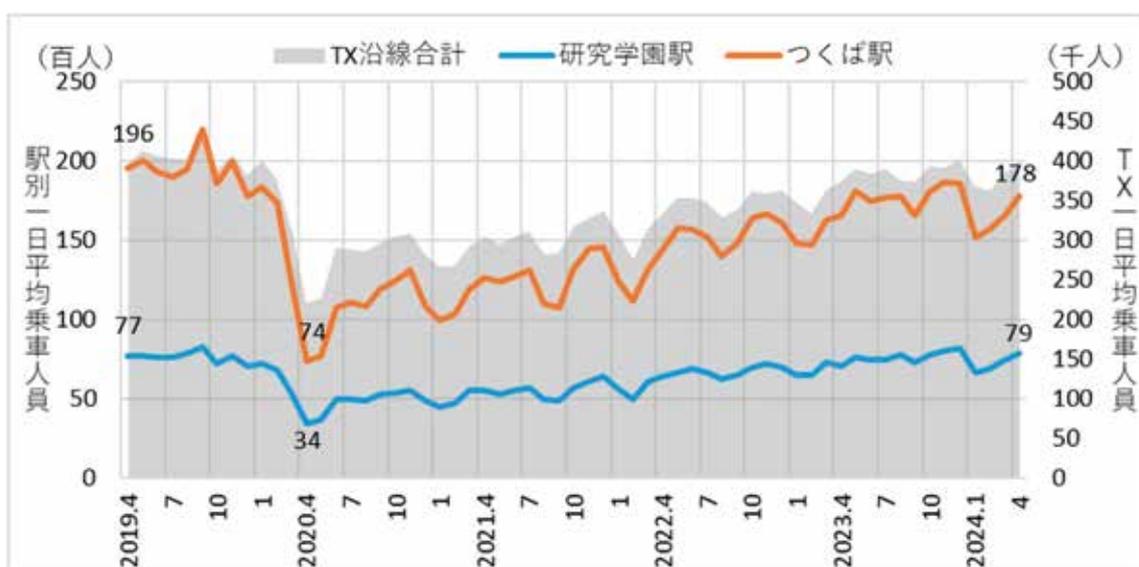
(1) 鉄道

つくばエクスプレス沿線駅の全体の2020年度の乗車人員は2018年度の約7割に減少、その後2021年度までは、感染拡大期の外出抑制に合わせて増加と減少を繰り返しながら徐々に上昇し、2023年度はコロナ禍前と同程度に回復しています。

首都圏の主要な民鉄路線と比べるとつくばエクスプレス沿線は回復率が高く、沿線の人口増加が影響していると考えられ、研究学園駅の乗車人員はコロナ禍前以上となっています。

つくば駅においては、つくばエクスプレス全体と比べコロナ禍による減少がやや大きく、2020年4月の緊急事態宣言時には2019年4月の4割弱まで減少、2024年4月時点で約9割となっています。多様な都市機能が集積し地域外からの来訪者の多いつくば駅の方がより大きな影響を受けたと考えられます。

鉄道利用者の定期外比率は、不要不急の外出が呼びかけられた2020年度は低下しましたが、以降は上昇に転じており、リモートワークの定着等により、毎日出勤する人が減少していると考えられます。



出典:首都圏新都市鉄道(株)資料より作成

図1-1つくばエクスプレス一日平均乗車人員の推移(沿線計・つくば駅・研究学園駅)



※首都圏大手民鉄:東武、西武、京成、京王、小田急、東急、京急、東京メトロ、相鉄の9社の輸送人員
 出典:首都圏新都市鉄道(株)資料、一般社団法人日本民営鉄道協会「大手民鉄鉄道事業データブック」より作成

図1-2 年度別乗車人員の推移(2019年度比)



出典:首都圏新都市鉄道(株)資料、一般社団法人日本民営鉄道協会「大手民鉄鉄道事業データブック」より作成

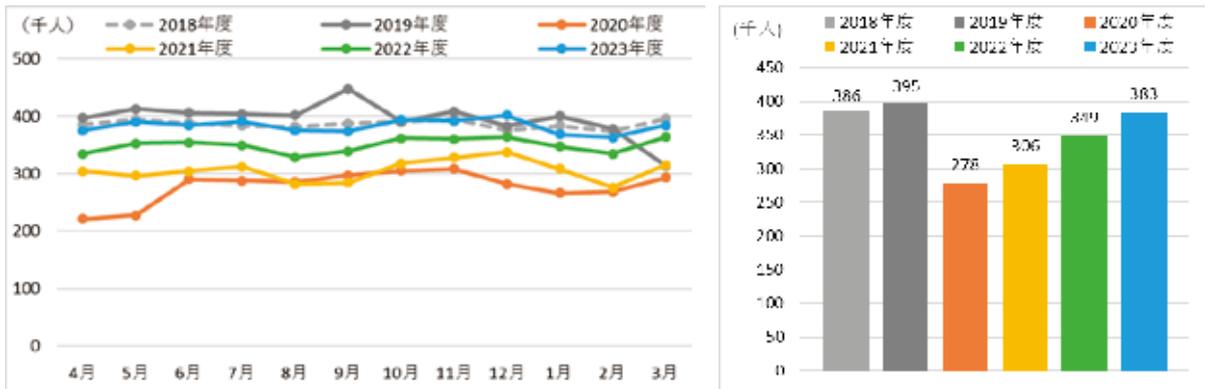
図1-3 つくばエクスプレスの定期・定期外別輸送人員の推移



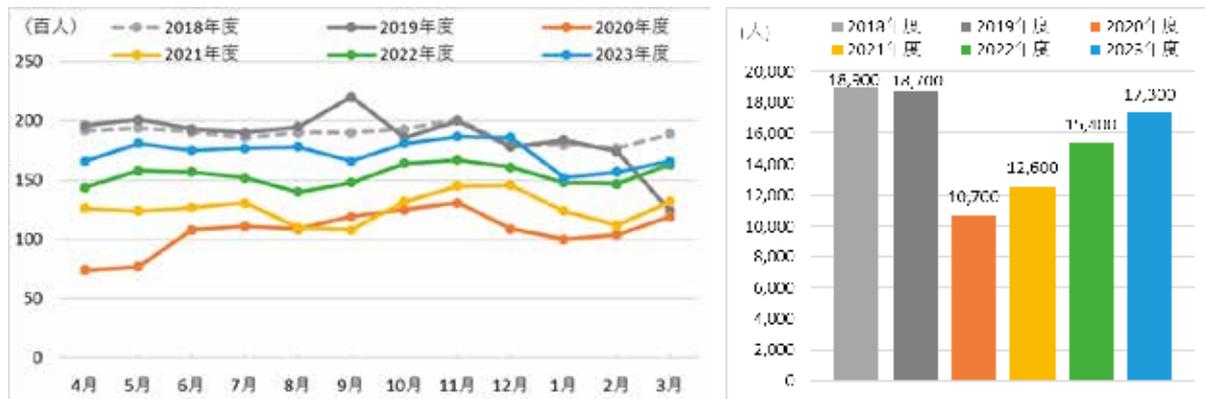
※各町丁目別人口を面積按分により算出
 出典:つくば市人口行政区別人口統計表(住民基本台帳人口・各年10月1日時点)より作成

図1-4 (参考)駅圏人口の推移

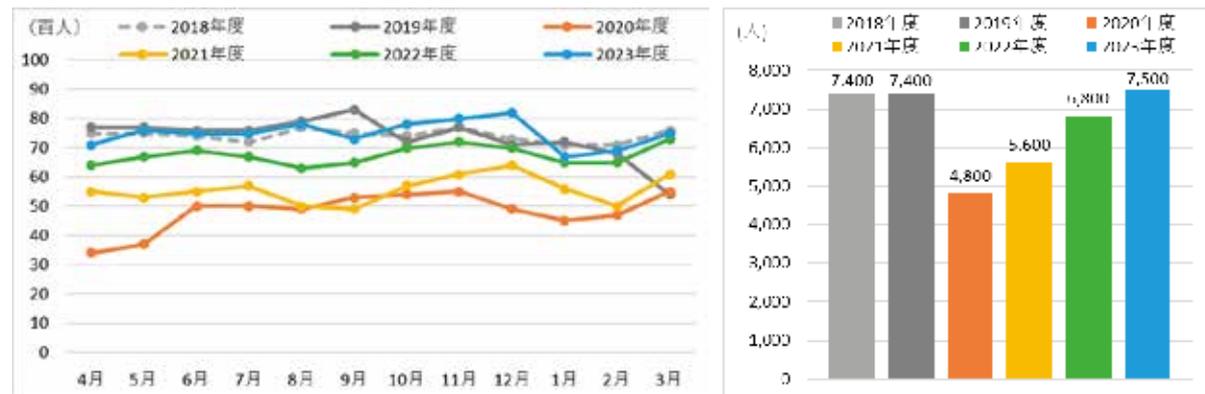
【つくばエクスプレス沿線合計】



【つくば駅】



【研究学園駅】



出典:首都圏新都市鉄道(株)資料より作成

図 1-5 つくばエクスプレス 一日平均乗車人員

(2) バス

1) 路線バス

つくば市内の路線バスの乗降客数の推移を、関東鉄道運行路線の各年度の特定日の乗降客数データより把握を行いました。

市内全体の2020年度の乗降客数は、外出抑制等の影響が比較的少なかった10月で平年の約7割となりました。

調査日による変動や運行路線、運行便数の変更もあるため単純な比較はできませんが、各路線の乗降客数が減少する中、イオンモール停留所はコロナ禍中も影響が少なく、また筑波山に向かうバスの乗降客数は、2020年度の調査日が行楽シーズンの10月にあたったこともあり、大きく増加しました。

市内全体の乗降客数は、2023年時点でコロナ禍前の約9割となっていますが、荒川沖駅、ひたち野うしく駅を結ぶ路線をはじめ、つくばセンター発着の主要な路線ではコロナ禍前と同程度に回復が見られます。

松代循環線については、2020年10月のLALAガーデンつくばの閉店や、同じく2020年10月より開始した松代南循環実証実験の影響も考えられます。

表 1-1 路線バス乗降客数調査概要

対 象	関東鉄道のつくば市内運行バス路線 (関鉄パープルバス運行路線を除く)
調査日	2018年 6月14日(木)
	2019年 6月13日(木)
	2020年 10月29日(木)
	2021年 12月22日(水)
	2022年 6月20日(月)
	2023年 6月29日(木)又は 7月18日(火) ※路線により計測日が異なる



図 1-6 つくば市内路線バス・つくばセンター停留所一日乗降客数(関東鉄道運行路線)

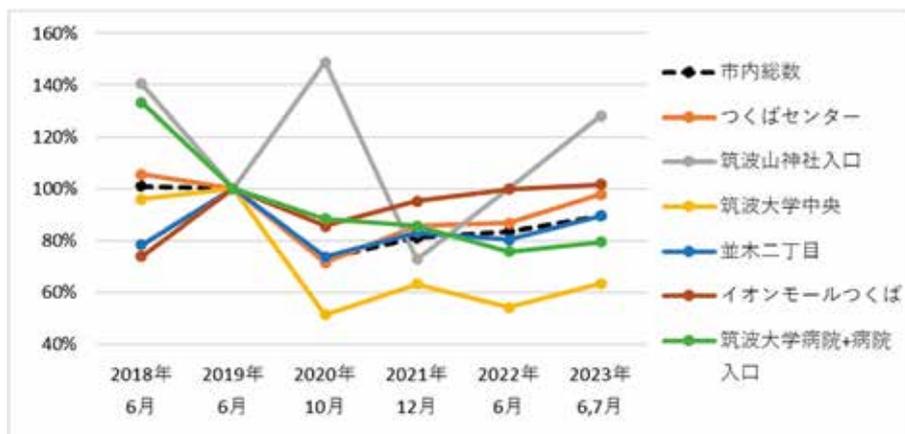
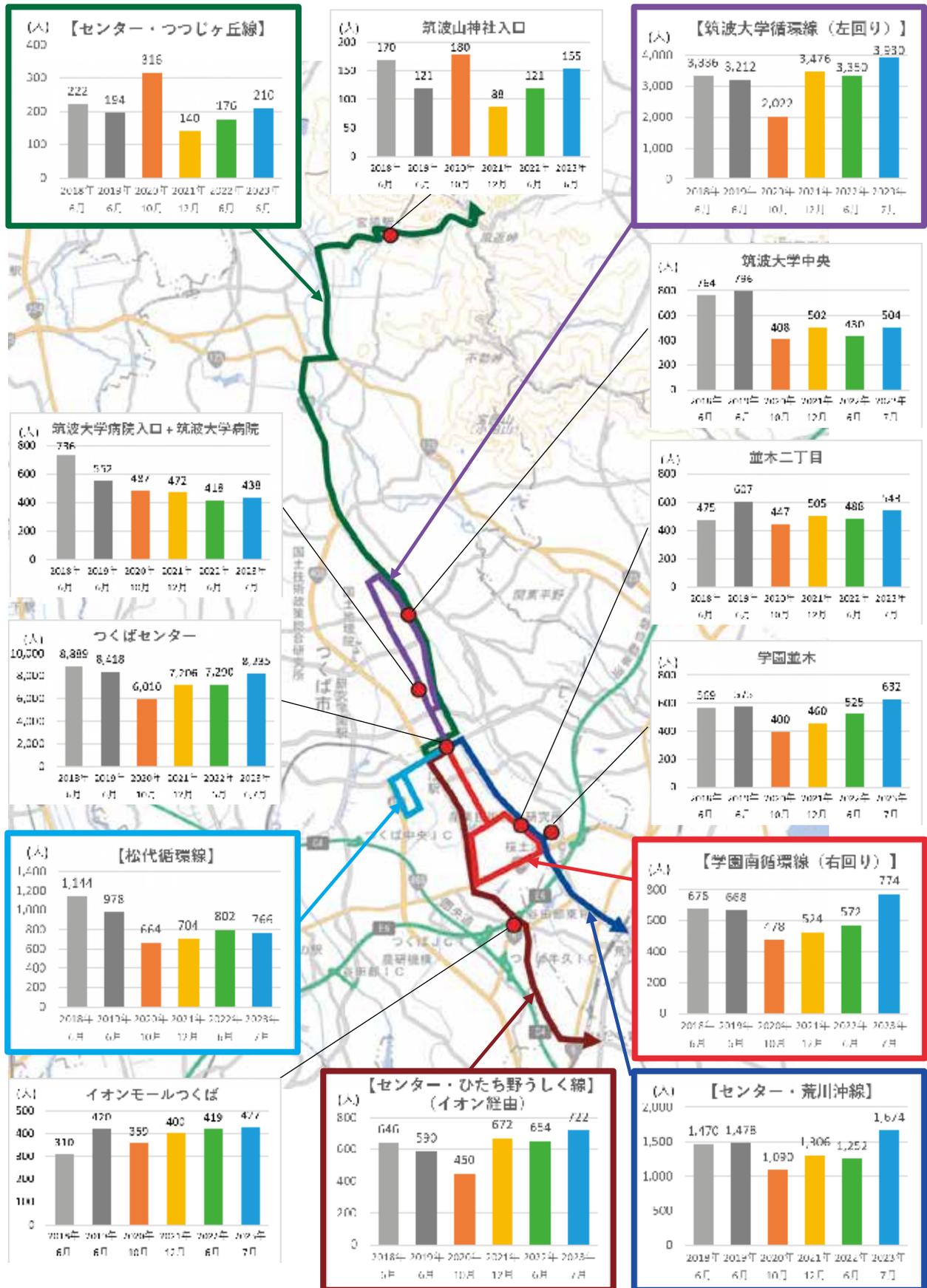


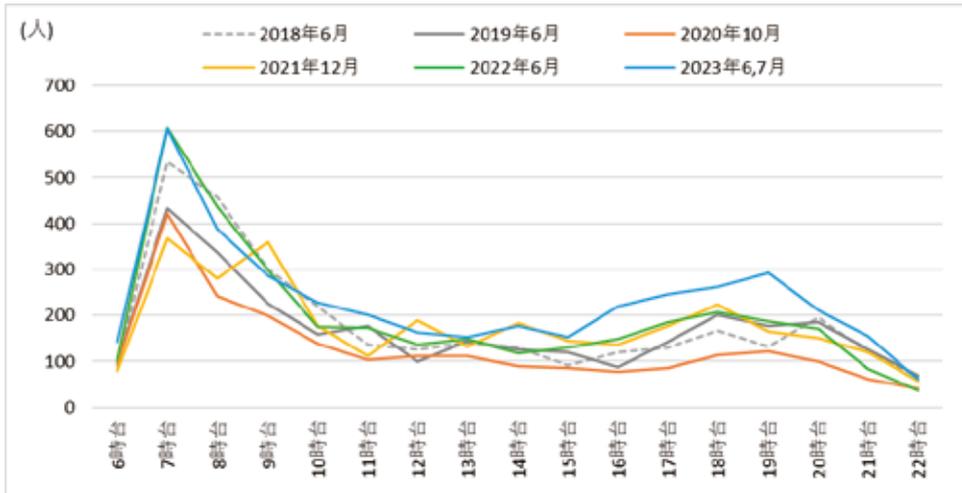
図 1-7 つくば市内主要路線バス 一日乗降客数(2019年比)

出典:関東鉄道(株)資料より作成



地図:地理院地図(電子国土WEB)を一部加工 データ:関東鉄道(株)資料より作成

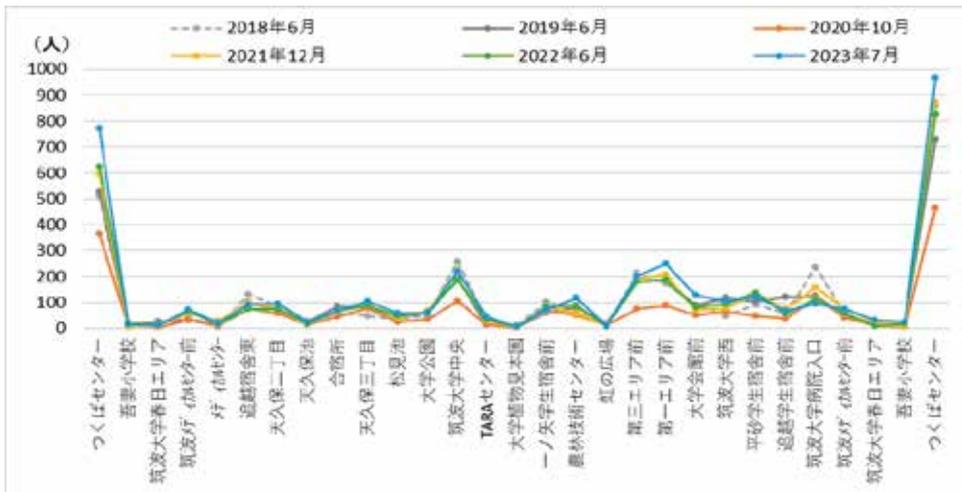
図 1-8 つくば市内の主なバス路線及び停留所の乗降客数



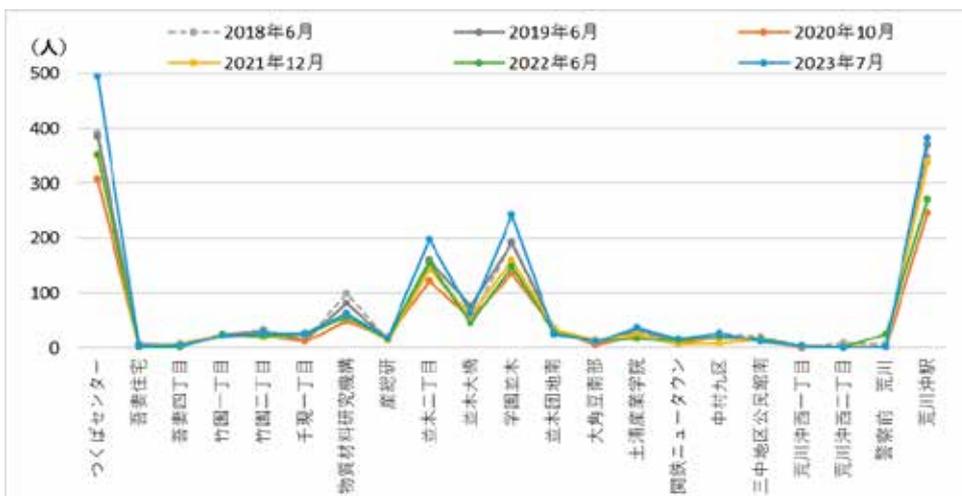
※つくばセンター始発バスのみ集計。年により運行本数や運行経路に変動がある。

図 1-9 つくばセンター停留所 時間帯別乗車人数

【筑波大学循環線(左回り)】



【つくばセンター・荒川沖線】

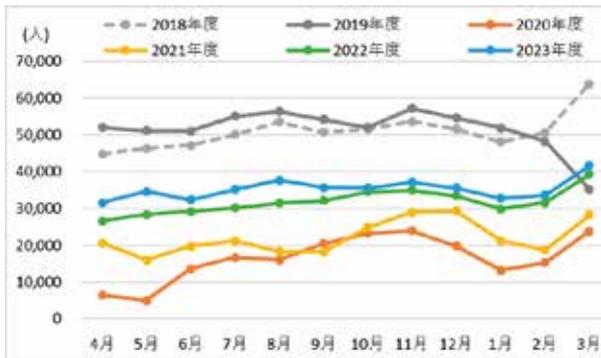


※つくばセンター発荒川沖駅着運行便の合計

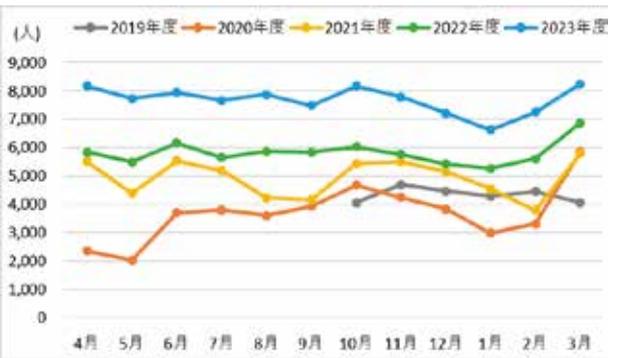
図 1-10 主要バス路線の停留所別乗降客数

出典:関東鉄道(株)資料より作成

【つくばー東京駅】



【水戸ー土浦・つくば】



※茨城県都市間高速バスの増便実証運行により、2019年10月～2022年9月の間、平日のみ4便から平日16便土日祝日8便に増便

【土浦・つくばー東京ディズニーリゾート・東京レポート駅】



【水戸・赤塚・石岡・つくばー東京ディズニーリゾート】



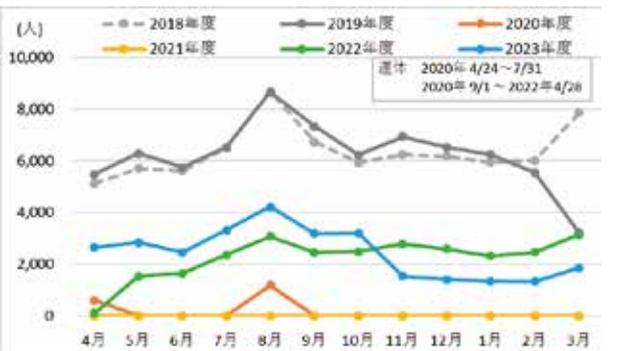
※「水戸・赤塚・石岡～東京ディズニーリゾート」線は2020年8月より運転再開。同年9月16日より、つくばセンター経由に運行ルートを変更

【水戸・土浦・つくばー京都・大阪】



※関東鉄道(株)運行便のみ

【つくばー羽田空港】



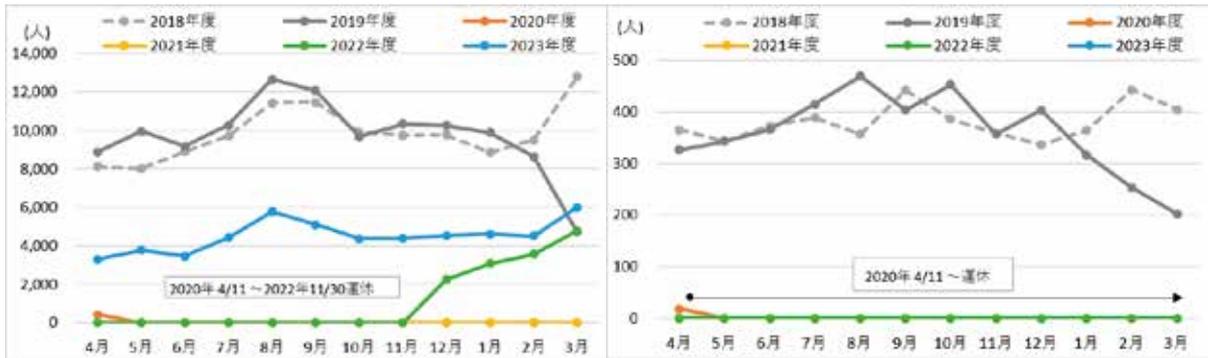
※2023年11月以降一部減便

出典:関東鉄道(株)資料より作成

図 1-12 高速バス月別乗車人員の推移①

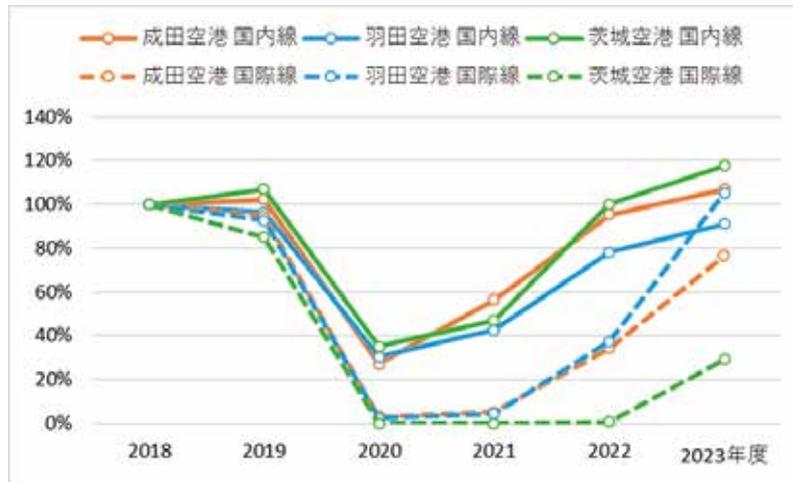
【土浦・つくばー成田空港】

【茨城空港ーつくば】



出典:関東鉄道(株)資料より作成

図 1-13 高速バス月別乗車人員の推移②



出典:国土交通省「空港管理状況調書」より作成

図 1-14 (参考)空港別乗降客数(2018年度比)

(3) 駐車場

つくば都市交通センターが管理・運営するつくばセンター地区の共同利用駐車場の利用台数は、2020年度は2018年度の約7割に減少しました。緊急事態宣言が発出された4月の一般利用は、前年同月比の約6割まで減少し、定期利用も減少しました。南1駐車場では駐車時間の短縮傾向も見られました。

2021年度以降は、クレオがリニューアルオープンしたことで、全体の利用台数はコロナ禍前を越えましたが、クレオ閉店前の2016年度の水準には達していません。

駅からやや離れた場所にある南3駐車場、南4駐車場は、2023年度時点で2018年度の8割弱と回復が弱く、近傍のカピオホールが改修工事により貸出休止期間があったことや、周辺に民間駐車場が増えた影響なども考えられます。

1) 利用台数

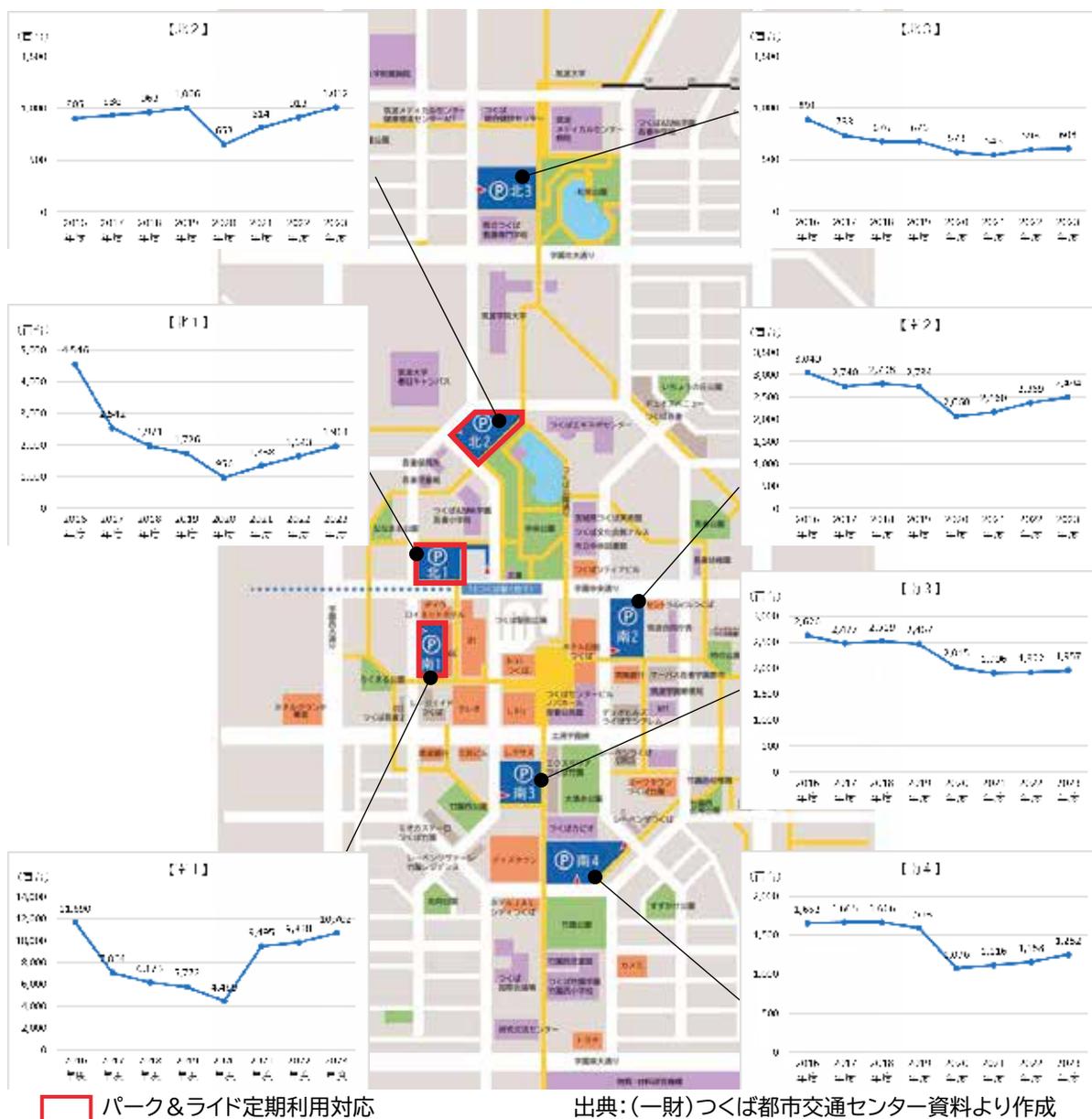


図 1-15 つくば都市交通センター管理・運営駐車場 年度別利用台数の推移



図 1-16 利用形態別月別駐車場利用台数の推移

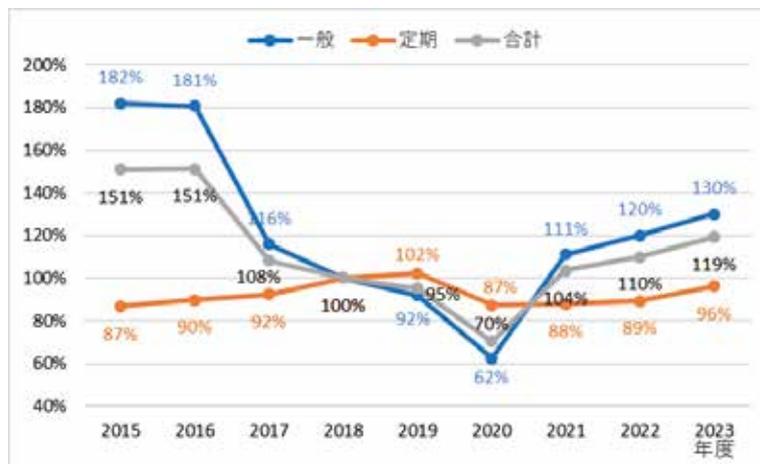


図 1-17 利用形態別駐車場利用台数の推移(2018 年度比)

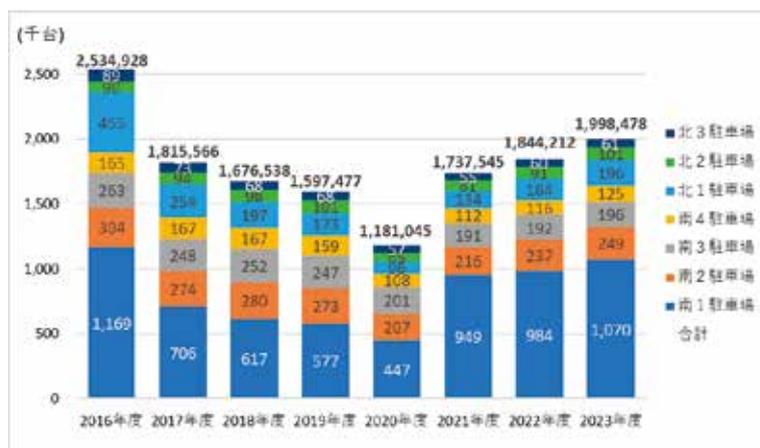
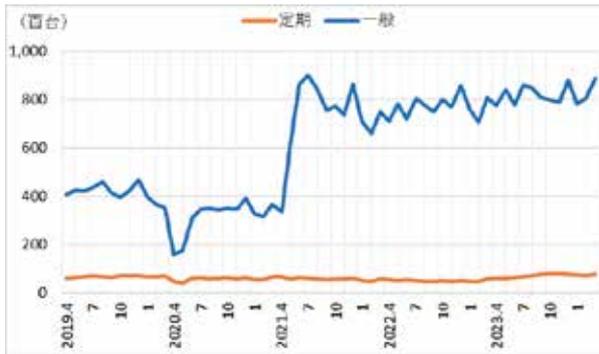


図 1-18 駐車場別利用台数の推移

出典：(一財)つくば都市交通センター資料より作成

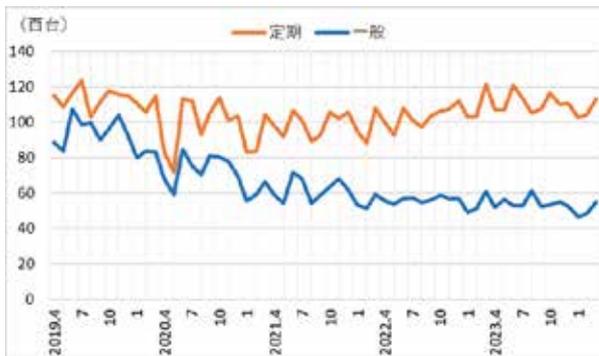
【南1駐車場】



【南2駐車場】



【南3駐車場】



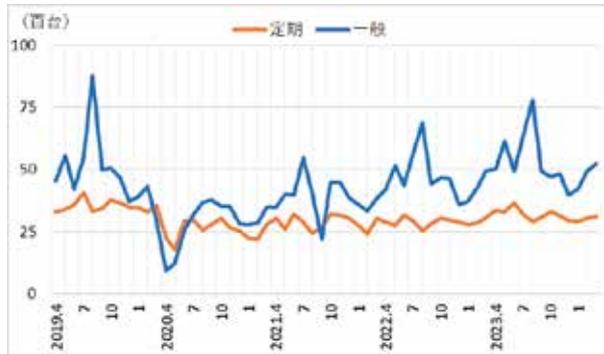
【南4駐車場】



【北1駐車場】



【北2駐車場】



【北3駐車場】

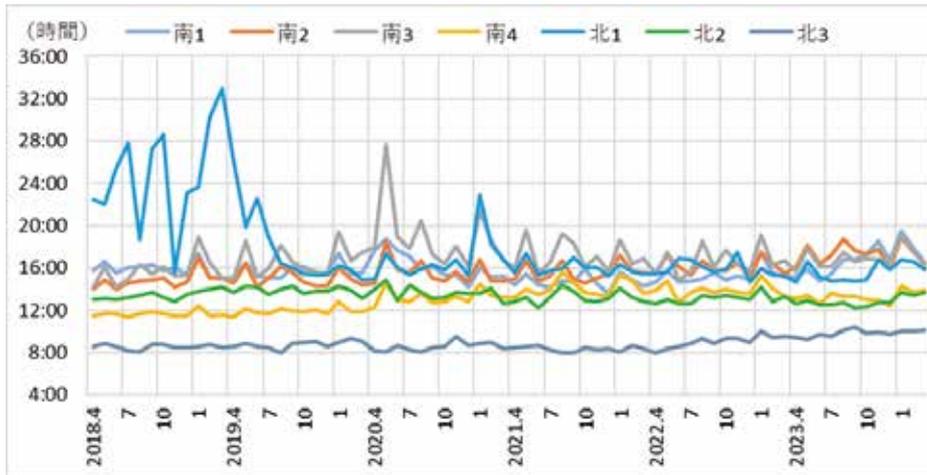


出典：(一財)つくば都市交通センター資料より作成

図 1-19 駐車場別利用台数の推移

2) 駐車時間

【定期利用】



【一般利用】

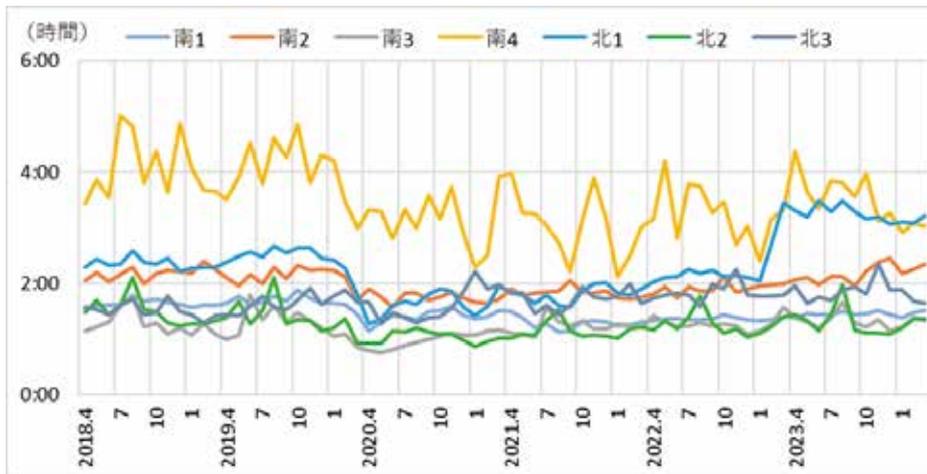


図 1-20 月別平均駐車時間の推移

【定期利用】

【一般利用】

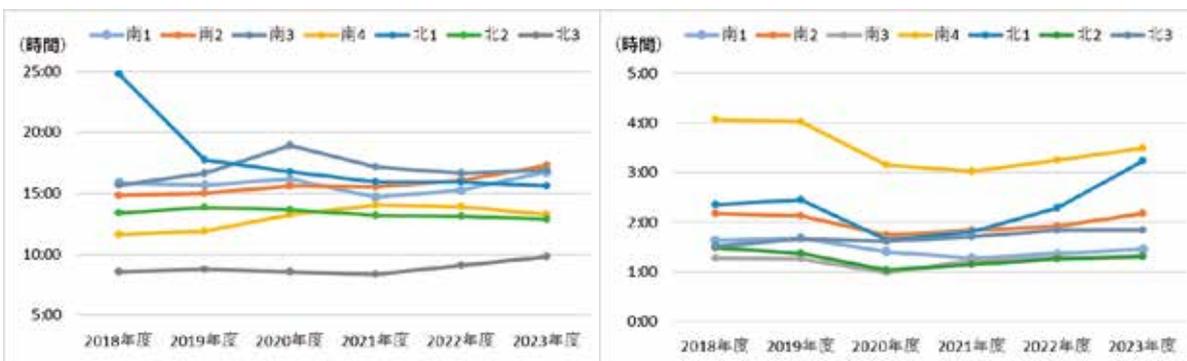


図 1-21 年度別平均駐車時間の推移

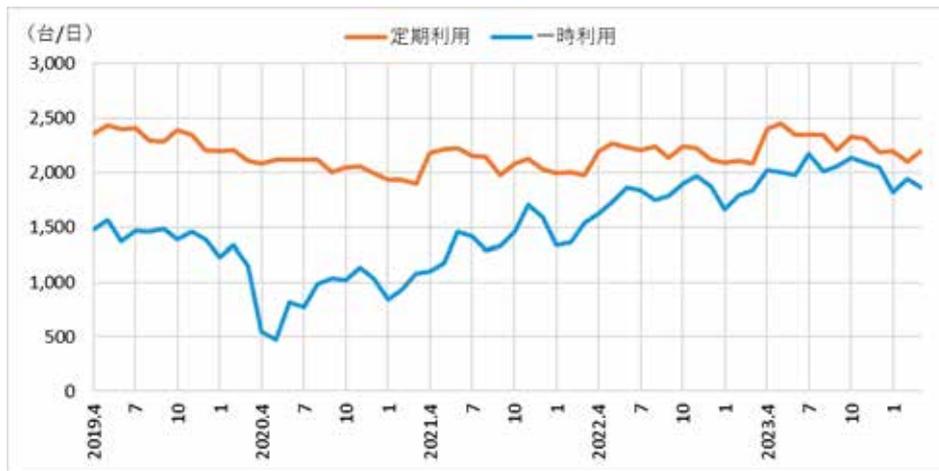
出典：(一財)つくば都市交通センター資料より作成

(4) 駐輪場

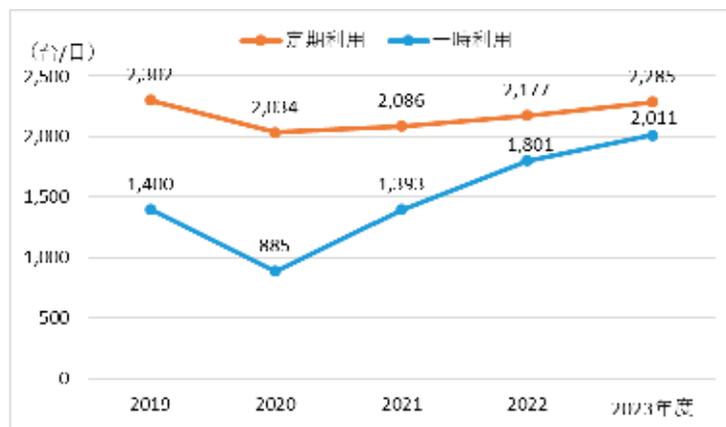
つくば駅周辺駐輪場の一時利用台数は、2020年4月の緊急事態宣言時に平時の約3割まで減少しましたが、定期利用はゆるやかな減少にとどまりました。

2021年度以降は定期利用、一時利用とも上昇に転じ、特に一時利用は2021年5月のクレオのリニューアルオープンと、これと合わせたトナリエAB駐輪場の再開により、大きく増加しています。

【月別平均】



【年度別平均】



※原付、自動二輪を除く。定期利用台数は定期契約数。

出典:つくば市公園・施設課資料、(株)日本エスコン、(一財)つくば都市交通センター資料より作成

図 1-22 つくば駅周辺駐輪場 一日平均利用台数の推移

表 1-2 つくば駅周辺駐輪場の概要

	駐輪場名	一時利用			定期利用		備考
		収容台数	利用料金	無料時間	収容台数	利用料金 (一般利用者)	
市営	つくば駅中央 [第1区画]	150台	100円/回・日		770台	1,280円/月～ 1,600円/月	利用時間：6時～24時 (土日祝日～22時)
	つくば駅中央 [第2区画]	58台	150円/24時間				
	つくば駅中央 [第3区画]	88台	150円/24時間				
	駅西				121台	2,130円/月	
	つくば駅A5南路上	60台	150円/24時間				
	つくば駅北1				293台	2,130円/月	
	つくば駅北2				305台	2,130円/月	
	つくば中央公園東	39台	150円/24時間	2時間以内無料			
	つくば中央図書館西	162台	150円/24時間	2時間以内無料			
	つくば中央図書館南	50台	150円/24時間	図書館・美術館利用 者は終日無料			
	さくら大橋南	117台	150円/24時間*				*2020/6/1～ (それ以前は無料)
	さくら大橋北				309台	2,130円/月	
	センター広場東1				55台	2,130円/月	
	センター広場東2	44台	150円/24時間	2時間以内無料			
	つくば駅前広場	96台	150円/24時間				
つくば駅前広場南	42台	150円/24時間		500台	2,130円/月		
財団	つくば都市交通センター				126台	2,120円/月	
民営	A B	155台	100円/20時間	3時間以内無料			2018/2/26～ 2021/5/18まで休止
	C	128台	100円/5時間*				*2021/5/19～ (それ以前は20時間)
	D	176台	100円/20時間				2階
	E	189台	150円/10時間				1階
	F	78台	200円/10時間				

※原付、自動二輪を除く

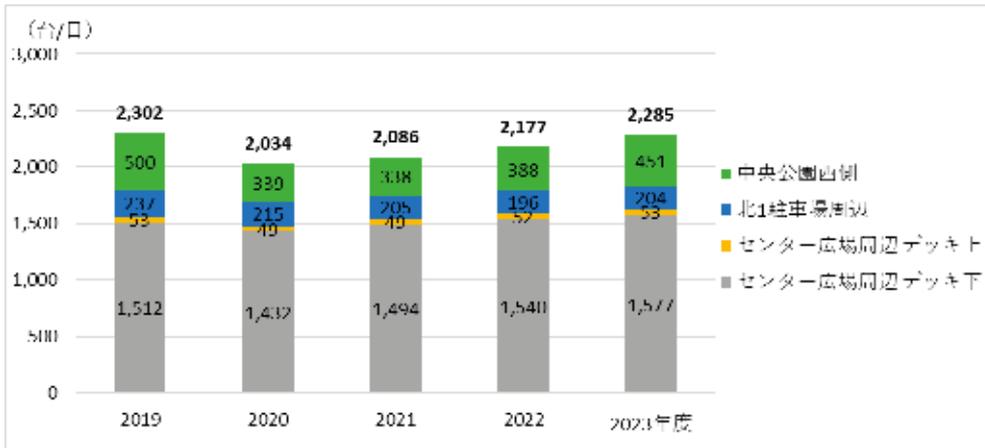
出典：つくば市HP(公園・施設課)、
株式会社日本エスコン資料より作成



図 1-23 つくば駅周辺駐輪場位置図

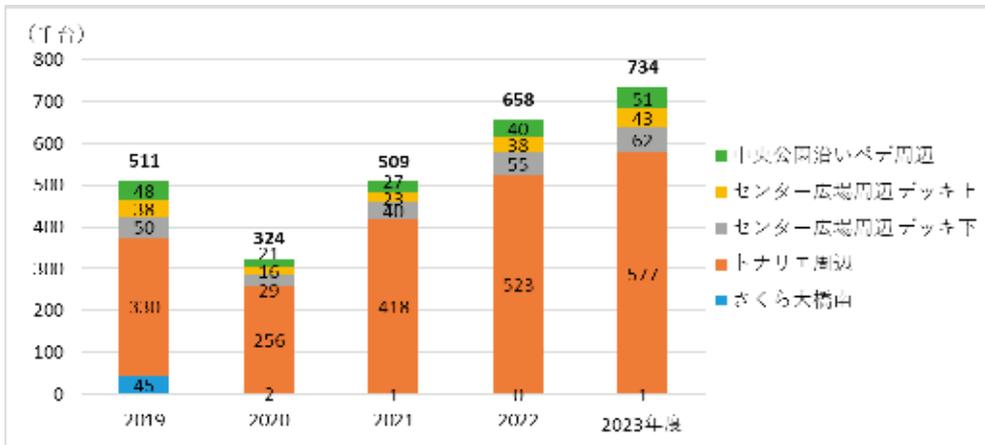
地図：地理院地図(電子国土WEB)を一部加工し作成

【定期利用】



※一日平均利用台数(契約台数)

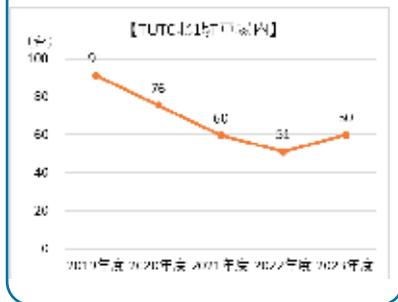
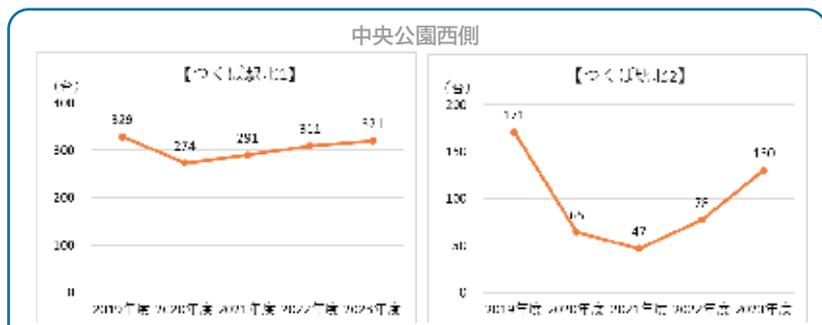
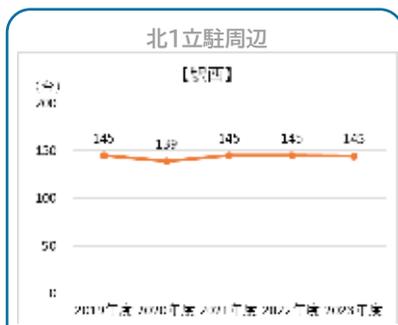
【一時利用】



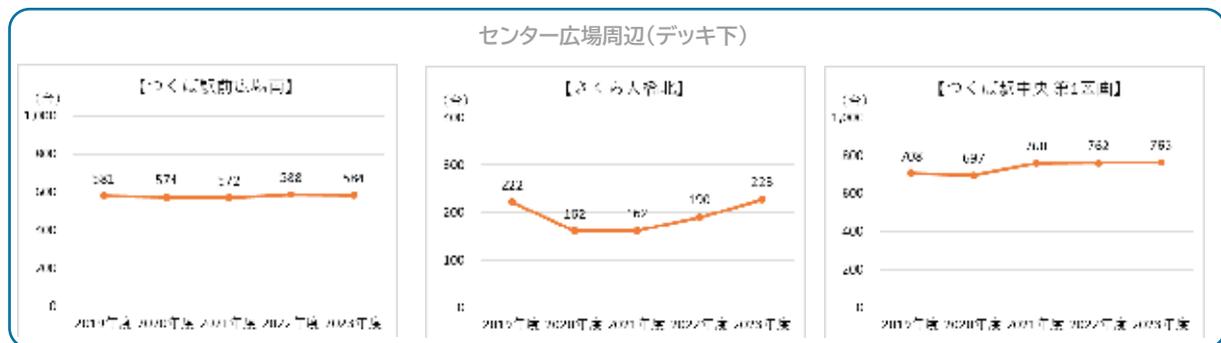
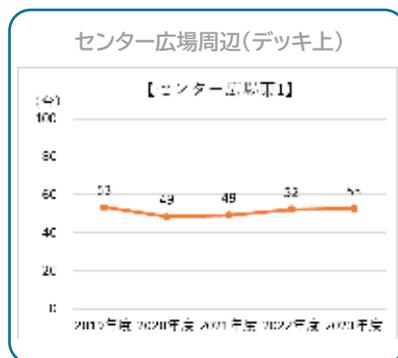
※年間累計利用台数

出典:つくば市公園・施設課資料、(株)日本エスコ、(一財)つくば都市交通センター資料より作成

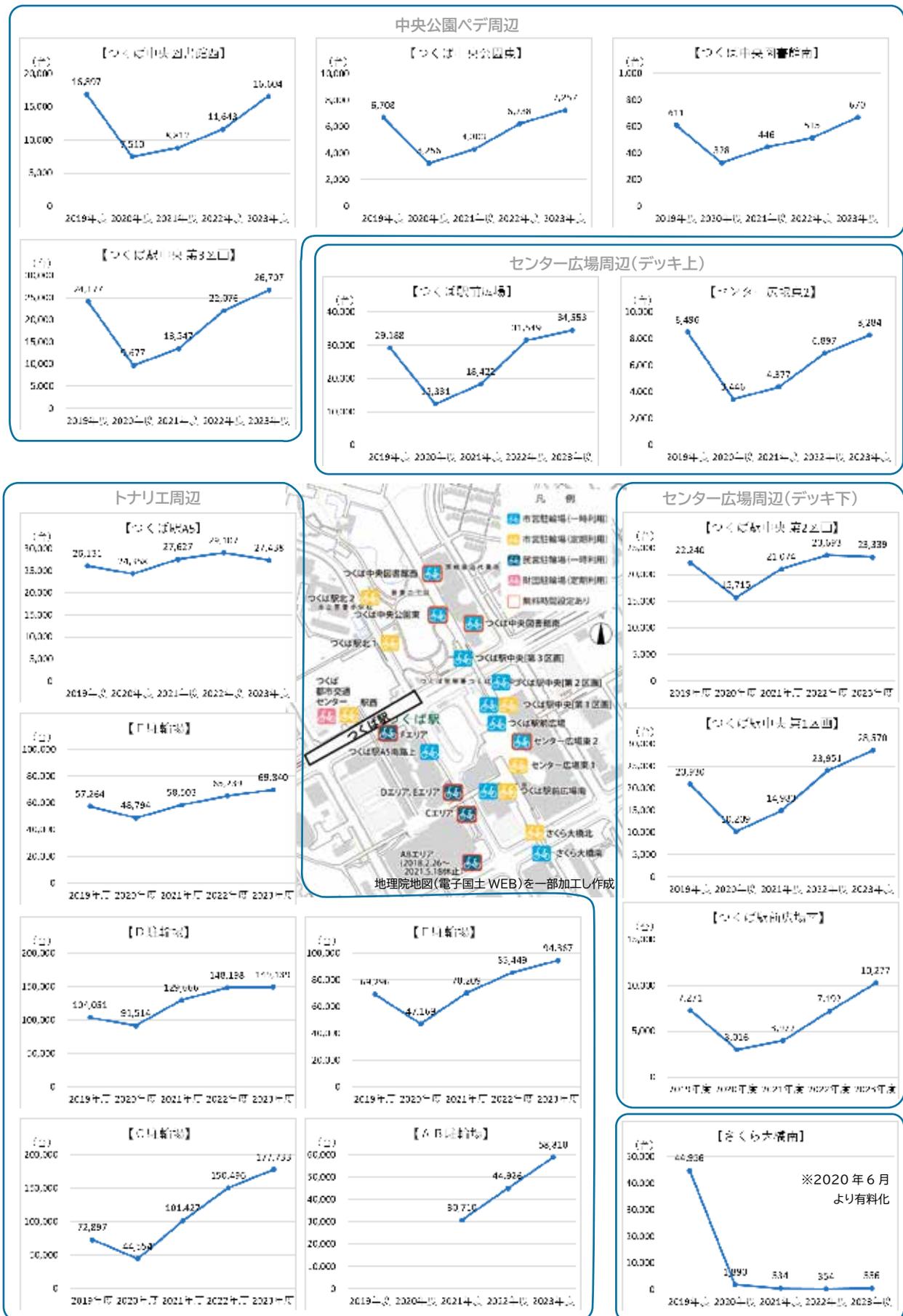
図1-24つくば駅周辺駐輪場 エリア別利用台数



地理院地図(電子国土WEB)を一部加工し作成



出典:つくば市公園・施設課資料、(株)日本エスコン、(一財)つくば都市交通センター資料より作成
 図 1-25 つくば駅周辺駐輪場 一日平均利用台数【定期利用】



出典:つくば市公園・施設課資料、(株)日本エスコ、(一財)つくば都市交通センター資料より作成
 図 1-26 つくば駅周辺駐輪場 年間利用台数【一時利用】

(5) 歩行者・自転車交通量

つくば駅周辺の歩行者・自転車交通量を、各年度の特定日の計測により把握を行いました。

駅の入出口周辺とバスターミナルからセンター広場へのアプローチ部では、コロナ禍での減少が大きくその後もあまり回復していません。さくら大橋(B地点)も減少していますが、クレオ東側のペDESTリアンデッキ(J地点)が開通した影響によると思われます。南1立駐前(G地点)は、クレオがリニューアルオープンした2021年度以降大幅に人通りが増えており、トナリエとセンター広場を結ぶデッキ(H地点)の人通りも増加傾向となっています。

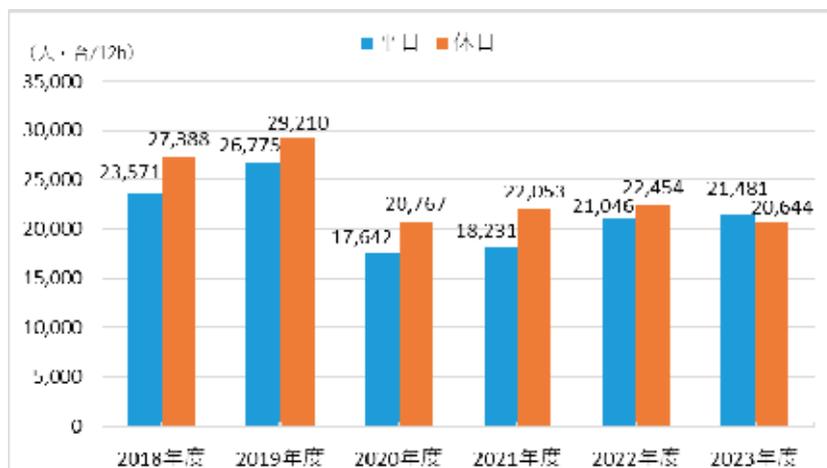
センター広場への出入り口にあたる地点の

合計交通量は、2020年度に約7割に減少して以降、大きな回復が見られていません。イベント等の影響が少ない日を調査日としており、平常時の交通量はあまり伸びていないことがうかがえます。

表 1-3 つくば中心市街地歩行者・自転車交通量調査概要

調査主体	一般財団法人つくば都市交通センター		
調査地点	つくば駅周辺 2018年度：8地点 2019年度～2020年度：9地点、 2021年度～2023年度：10地点		
調査時間	7時～19時（12時間）		
調査日	年	平日	休日
	2018年	10月25日（木）	11月3日（土）
	2019年	10月31日（木）	10月26日（土）
	2020年	10月29日（木）	10月31日（土）
	2021年	11月11日（木）	11月6日（土）
	2022年	10月27日（木）	10月29日（土）
	2023年	10月26日（木）	10月28日（土）

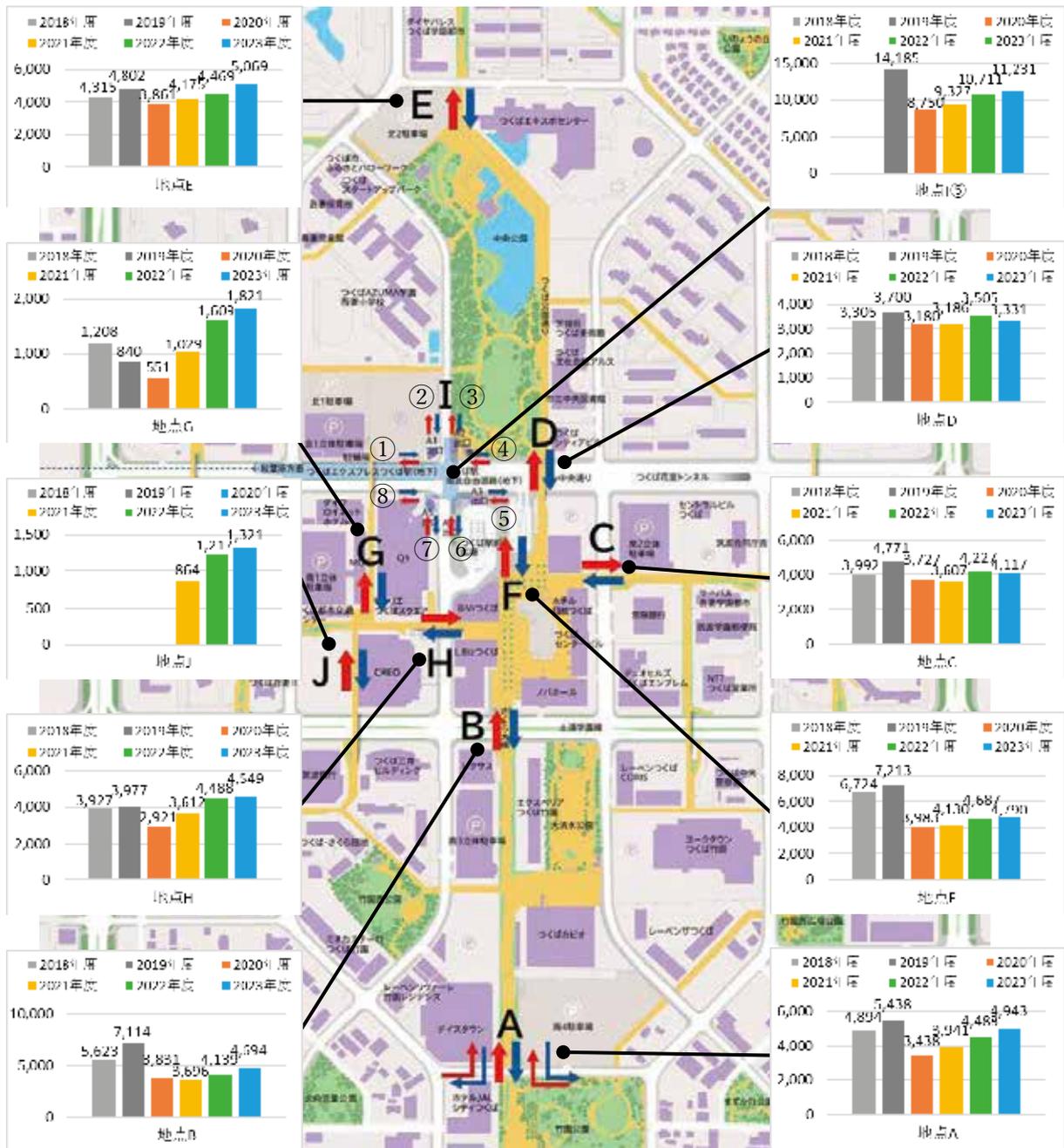
1) 平日・休日通行量



※センター広場周辺の地点B、地点C、地点D、地点F、地点Hの合計

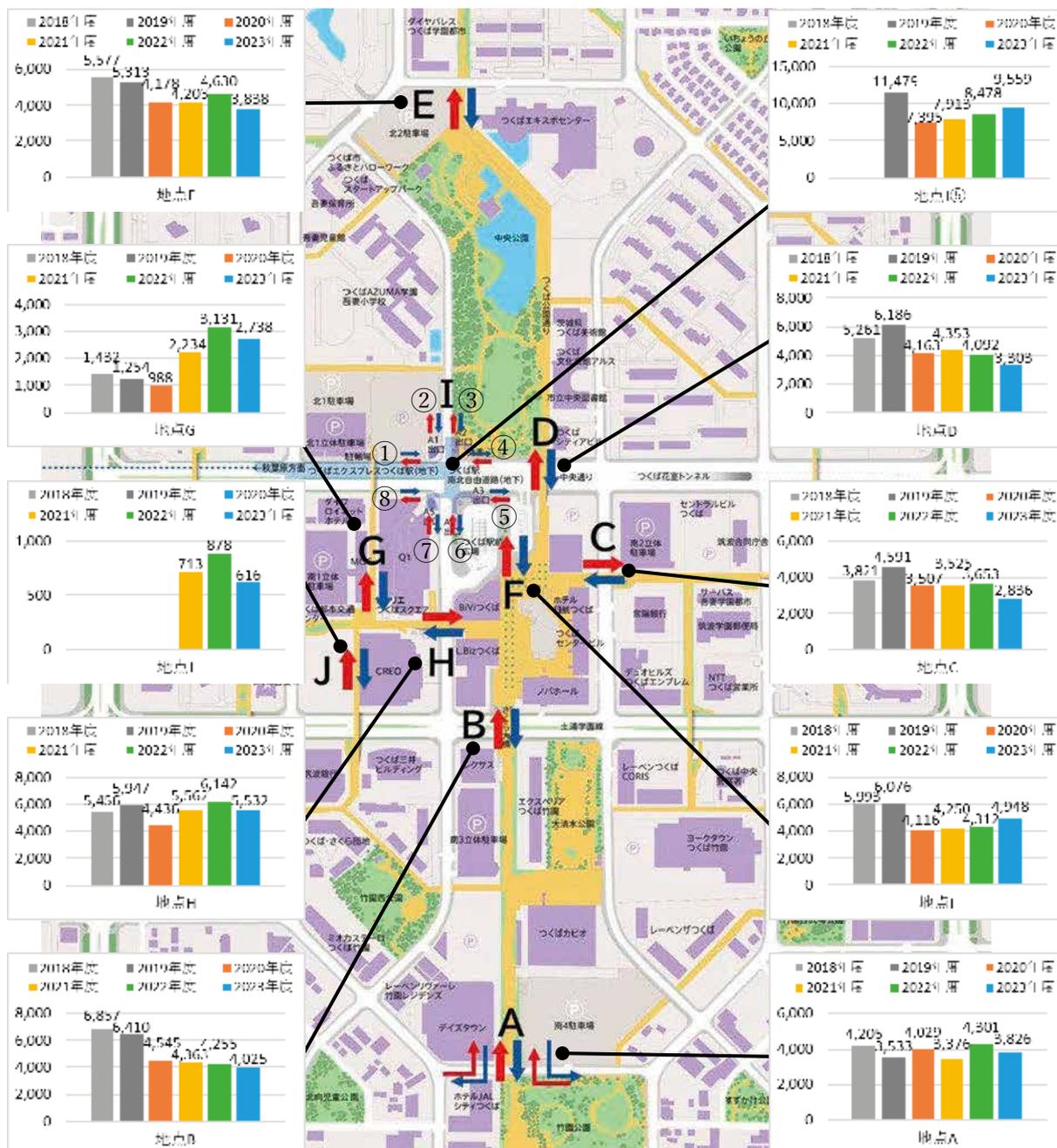
出典：(一財)つくば都市交通センター「つくば中心市街地 歩行者・自転車交通量調査」

図 1-27 つくばセンター広場周辺平日・休日通行量



単位:人

出典:(一財)つくば都市交通センター「つくば中心市街地 歩行者・自転車交通量調査」
 図 1-28 つくばセンター地区歩行者・自転車通行量(平日)



単位:人

出典:(一財)つくば都市交通センター「つくば中心市街地 歩行者・自転車交通量調査」

図 1-29 センター地区歩行者・自転車通行量(休日)

コラム つくば駅周辺の人流

スマートフォンの位置情報に基づくつくば駅周辺の来訪者数は、2020年度は大きな減少が見られました。クレオのリニューアルオープンもあり、2023年度は他都市と比べ高い回復率となっていますが、来訪者の総数はコロナ禍前より少なく、高齢者や関東圏外からの来訪者の回復の遅れが目立ちます。

また、日中の人流はコロナ禍前の水準に回復していますが、夜の人流はあまり回復していません。



図 1-30 つくば駅周辺来訪者計測エリア

【居住地別】

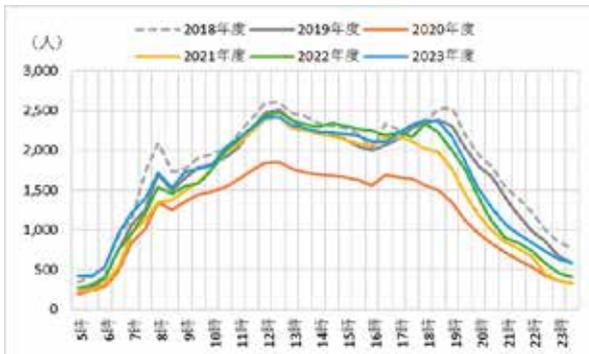


【年代別】



図 1-31 (参考)年度別つくば駅周辺来訪者数の推移(推計値)

【平日】



【土日祝日】

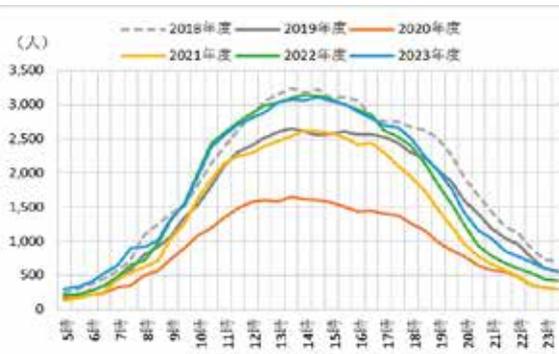


図 1-32 (参考)時間帯別つくば駅周辺来訪者数の推移(推計値)

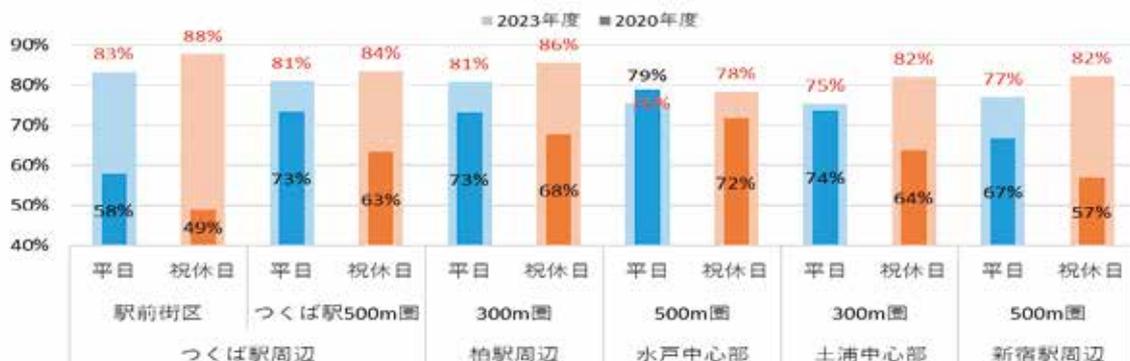


図 1-33(参考)各地域の人流の動向(2018年度比)

※スマートフォン位置情報による拡大推計値(20才未満及び訪日外国人含まず)

出典:技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

2-2 生活・余暇活動

(1) イベント

イベントは2020年3月頃から中止されるようになり、2020年度・2021年度は小規模なものを除き多くが中止となりました。特に飲食を伴うもの、多くの人が集まるものは開催のハードルが高かったようです。感染状況が落ち着いている時期に開催できたイベントもありましたが、実施の方向で準備していたものの直前に感染が拡大しやむを得ず中止となったイベントもあり、感染状況に翻弄されました。

リアルでのイベントを開催しない代わりに、オンラインでの開催や、スタンプラリーなど人が集まりにくい形態での実施も模索されました。

2022年度から徐々にイベントが再開されるようになり、食のイベントも盛んに開催されるようになっていきます。2023年には市内最大のお祭り「まつりつくば」も4年ぶりに再開しました。コロナ禍を境に開催されなくなったイベントもありますが、2021年4月につくばセンター地区の活性化を担う「つくばまちなかデザイン(株)」の設立もあり、新たなイベントも増えており、イベントは活発化しています。

表1-4 つくばセンター地区における主なイベントの開催状況

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
つくばフェスティバル	5月	5月	5月中止	5月オンライン開催	5月オンライン開催	5月
つくばパンまつり		5月	5月→秋→中止		10月	5月
肉肉パーク						5月・8月
まつりつくば	8月	8月	8月中止	8月代替イベント開催	8月中止	8月
プレミアムビールとうまいもの祭り	9月	9月	9月	9月中止	9月	5月・9月
あまスタ緑日	10月	10月	10月→3月→荒天中止			
つくばクラフトピアフェスト	7月	10月	10月中止	10月→3月→中止	7月	7月
食と酒東北祭り	10月	10月	10月代替イベント開催		11月	
音の宝箱	11月	11月	11月	5月・10月	5月・10月	5月・10月
コーヒーフェスティバル	11月	11月	11月オンライン開催			11月
世界のうまいもんをつくばで	12月	12月				
冬のイルミネーション	12月	12月	12月	12月	12月	12月
一本からのクリスマス	12月	12月	12月			
ランタンアート	12月	12月	12月中止	12月中止	12月	12月
梅に願いを	2月	2月	2月中止			
ふるさとつくばゆいまつり	3月	3月中止				
ダンスフェスティバル				3月	3月	3月
ストリートサンデー	通年	通年	通年中止			
つくばセンターマルシェ	通年	通年	一部期間中止	一部期間中止	通年	～9月末
ソトカフェ			9月開始	通年	通年	通年

※中止情報は、出典資料のほか、主催者やイベント告知サイト等で確認できたものみの記載

出典：つくばセンター地区活性化協議会、つくば市学園地区市街地振興課資料ほかより作成

表 1-5 つくばセンター広場における主なイベントの開催状況(詳細)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4月				アフリカ音楽コンサート センター広場で街頭紙芝居 よって	新酒を唄く会 北政と雑貨と花市場	新酒を唄く会 【雨天中止】Happy Easter Festival
5月	つくばフェスティバル フラワーゲートボール ストリートサンデー祭り	つくばフェスティバル つくば(ん)まつり ハンギングバスケットで街を飾ろ う!	【中止】つくばフェスティバル	音の宝箱	音の宝箱 Village Market Tsukuba ソトカフェライブ (和太鼓パ フォーマンス)	つくばフェスティバル プレミアムビールとうまいもの祭 り 【中止】とっておきのまちなか音 楽会 co-en FESTIVAL HAPPY 1st ANNIVERSARY DAY 肉肉パーク つくば(ん)まつり
6月	市民活動フェスタ オークラバーベキュー & ピアガ ーデン	市民活動フェスタ オークラバーベキュー & ピアガ ーデン		梅雨空アート	ソトカフェライブ (和太鼓パ フォーマンス) 小児がん支援のためのチャリ ティーマルシェ インドネシア日本友好祭 平砂アートムーヴメント	小児がん支援のためのチャリ ティーマルシェ つくば(ん)ばく
7月	学外宣伝演奏 (フォルクロー レ) つくばクラフトピアフェスト			つくまちアート ソトカフェ×和太鼓パフォーマンス	つくばクラフトピアフェスト ソトカフェライブ (和太鼓パ フォーマンス) SORA sta, ダンスフェスティバル つくばセンター広場Engiライブ	つくばクラフトピアフェスト ウオーターアドベンチャー
8月	まつりつくば 打ち水遊びで夕涼み	まつりつくば 打ち水遊びで夕涼み				まつりつくば 肉肉パーク つくば古着フェス
9月	プレミアムビールとうまいもの祭 り インドネシアウィーク	Doo-Wop夏ライブ プレミアムビールとうまいもの祭 り	プレミアムビールとうまいもの祭 り インスタレーションアートシリー ズ kachofugetul heart(o)l	【中止】プレミアムビールとうま いもの祭り	プレミアムビールとうまいもの祭 り	プレミアムビールとうまいもの祭 り とっておきのまちなか音楽会
10月	あまスタ緑日 食と酒東北祭り つくばハロウィン 秋のイベントラ ー つくばFlower Market & Open Library	つくばクラフトピアフェスト あまスタ緑日 食と酒東北祭り つくば国際アーティストインレ ジ デンス センター広場でハッピーハロウ ィン	ソトカフェ×和太鼓パフォーマンス フィラガンでのイベント	【中止】つくばクラフトピアフェ スト	平砂アートムーヴメント がんロコモチャレンジいばらき み んなでENJOY つくば(ん)まつり	インドネシア日本友好祭 つくば音楽祭つくば(ん)匠 つくば駅前マルシェ よりみちコンサート ドリームフェスタ 【雨天中止】co-en秋のピア ーガーデン
11月	コーヒーフェスティバル ワンダーフェスティバル with つ くば緑日	コーヒーフェスティバル センター地区建築&イベントラ ー抽選会	音の宝箱 コーヒーフェスティバル (オン ライン開催) 【中止】つくポド (ボードゲ ム) 【中止】和太鼓チーム土鼓	センター広場で街頭紙芝居 Xmas Town2021クリスマス マーケット&フラワーマーケット	つくば(ん)おまつり We love つくば! 食と酒東北祭り	ワニナルフェス コーヒーフェスティバル 音と絵の具で遊ぼう つくばよさこい祭り
12月	世界のうまいもんをつくばで イルミネーション 一本からのクリスマス ランタンアート	世界のうまいもんをつくばで イルミネーション 一本からのクリスマス ランタンアート つくばセンター広場ストリートライ ブ	イルミネーション 一本からのクリスマス つくばクリスマスマーケット センター広場で街頭紙芝居 【中止】ランタンアート	ソトカフェ×和太鼓パフォーマンス イルミネーション 学生ひろば美術館 クリスマスタウン クリスマスマ ーケット&フラワーマーケット	イルミネーション カラフルマルシェ ランタンアート	クリスマスマーケット ランタンアート イルミネーション ウインターアドベンチャー
1月						新春まちなか もちつき&凧あげ 大会
2月	梅に願いを	梅に願いを	【中止】梅に願いを	【中止】小児がんチャリティー マルシェ		Yarn bombing in Tsukuba
3月	ふるさとつくばゆいまつり	【中止】ふるさとつくばゆいまつり	平砂アートムーヴメント企画展 【荒天中止】あまスタ緑日	ダンスフェスティバル 【中止】つくばクラフトピアフェ スト	SORA sta, ダンスフェスティバル	SORASTAダンスフェスティバル
通年 開催	つくばセンターマルシェ ストリートサンデー (毎月第3 日曜日)	つくばセンターマルシェ ストリートサンデー (毎月第3 日曜日)	つくばセンターマルシェ (4/4~ 6/7, 11/28~12/14, 1/8 ~2/22中止) ソトカフェ (9月~) 【中止】ストリートサンデー (毎 月第3日曜日)	つくばセンターマルシェ (5/6~ 5/19, 7/30~9/30中止) ソトカフェ	つくばセンターマルシェ	つくばセンターマルシェ (~9月 末)

出典:つくばセンター地区活性化協議会資料、つくば市学園地区市街地
振興課「つくばベデカフェプロジェクトイベント開催状況」ほか



※来場者数・開催日数は、継続的かつ反復的に公共空間を使用した取組(マルシェ、展示発表会等)を除く

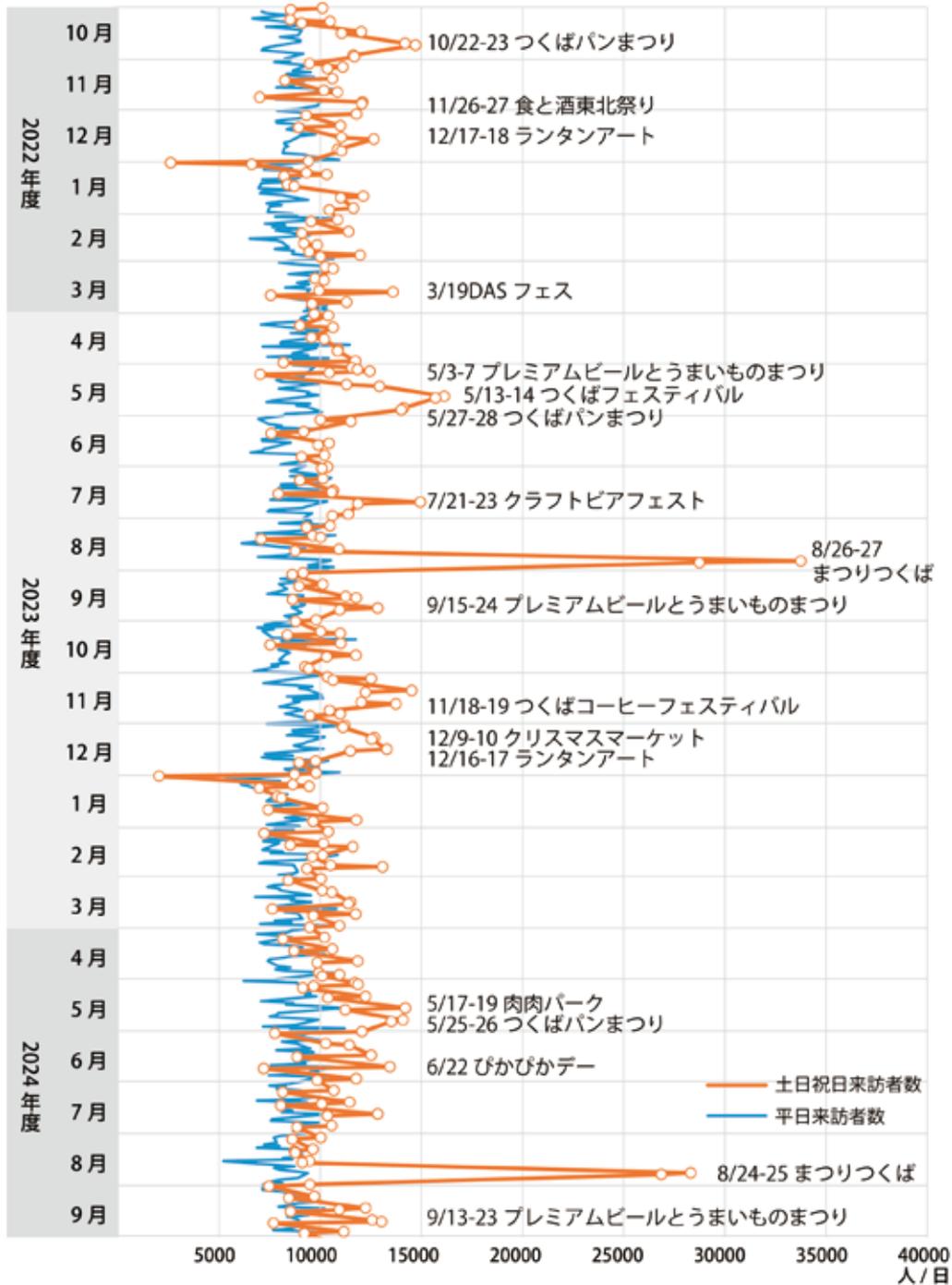
出典: つくば市学園地区市街地振興課資料より作成

図 1-34 つくばペデカフェプロジェクト イベント来場者数・開催日数

コラム イベントによる人流の変化

2022年度の下期頃から徐々にイベントが再開されるようになり、2023年には市内最大のお祭り「まつりつくば」も4年ぶりに再開しました。センター広場周辺ではコロナ禍前以上に多くのイベントが行われるようになっており、つくば駅周辺の休日の人流は増加傾向が見られます。

パンまつりやクラフトビアフェストなど食のイベントの際に、多くの人が集まっていることがわかります。



※つくば駅南口の2街区(トナリエ、つくばセンタービルが立地する街区)の15分以上滞在者(20才未満及び訪日外国人含まず)。スマートフォン位置情報による拡大推計値。

出典: 技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-35 (参考)つくばセンター駅周辺来訪者数の推移(推計値)

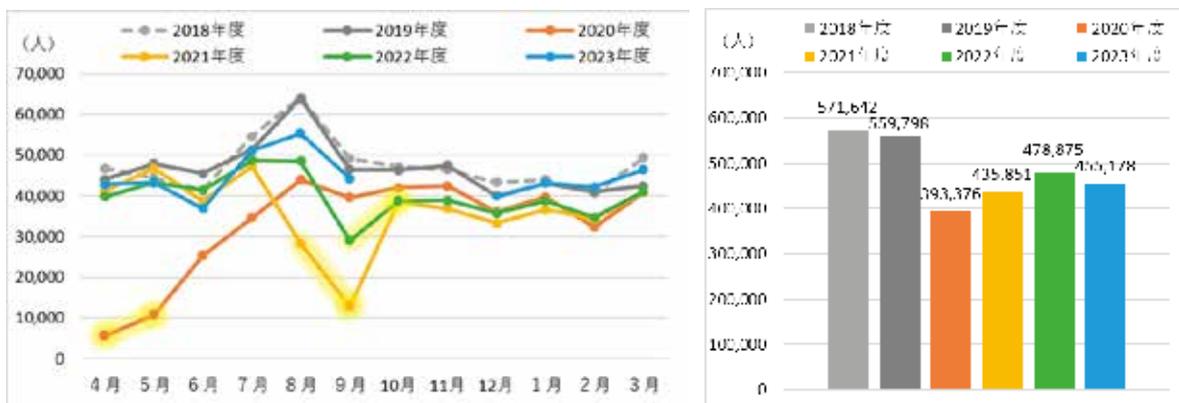
(2) 文化活動

つくば駅周辺の文化施設の利用は、2020年度は多くの施設が件数・利用者ともに例年の半分以下となりましたが、図書館については影響が少なく、特に緊急事態宣言期間中は普段より一人あたりの貸出冊数は増加しました。

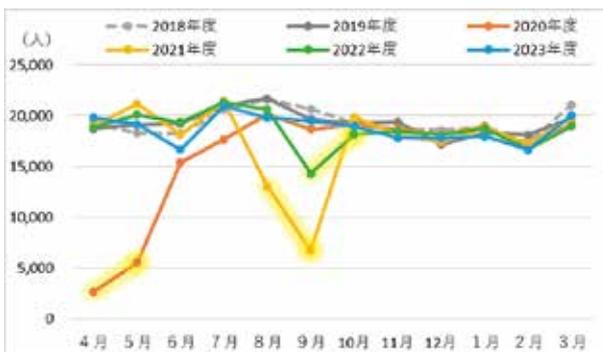
ノバホール、カピオホールについては改修工事による休館の影響がありますが、2022年度以降、多くの施設で利用が大きく回復しています。しかし、利用件数に比べ来館者数の回復が弱く、コロナ禍中に催事等の規模が大幅に縮小して以降、徐々に回復しつつあるものの、以前より規模が小さくなっています。図書館においても自習等の利用と想定される夏休みの利用がコロナ禍前より少ないままとなっています。

1) 図書館

【来館者数】



【貸出利用】



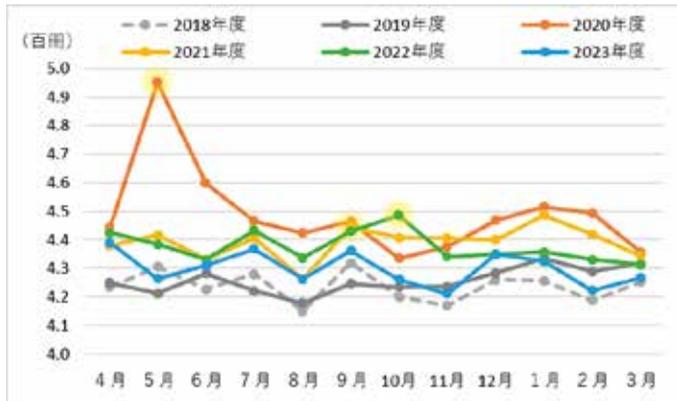
【滞在型利用】



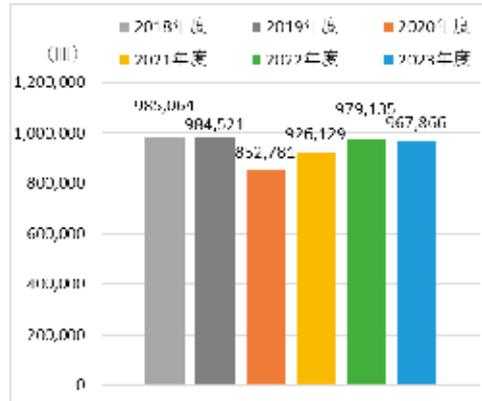
※滞在型利用: 来館者数 - 貸出人数により算出

図 1-36 中央図書館利用状況①

【一人あたり貸出冊数】



【貸出冊数】



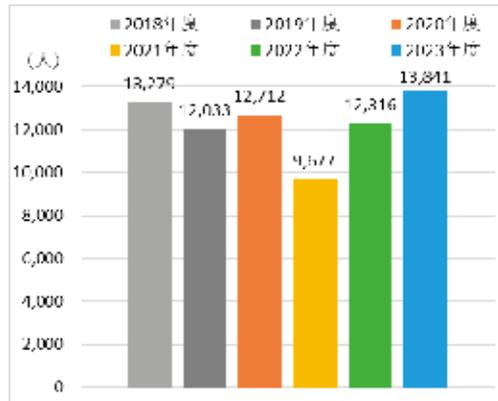
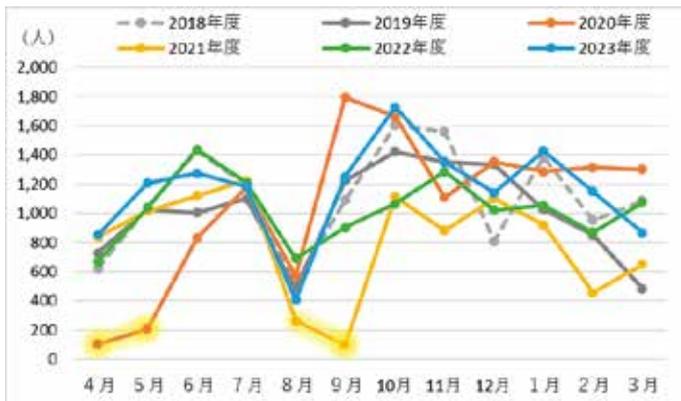
※休館:2020/4/4~5/11(4/7は時間短縮開館)、2021/8/18~9/23、2022/9/20~10/3
 予約本貸出のみ:2020/5/12~5/19(時間短縮開館)
 滞在型サービス休止:2020/5/12~6/30(時間短縮開館)、2021/1/18~2/23
 カウンターの故障により来客数計測不可:2023/8/1及び10/8~11/30の間(うち開館日46日)

● 休館期間含む

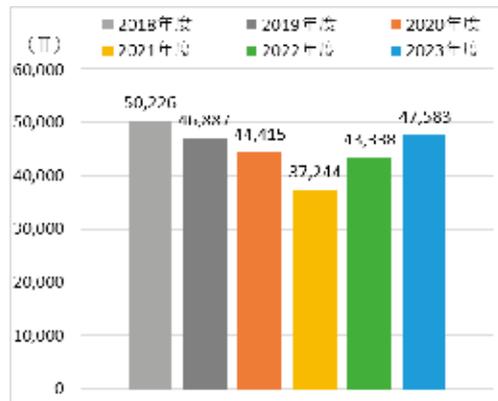
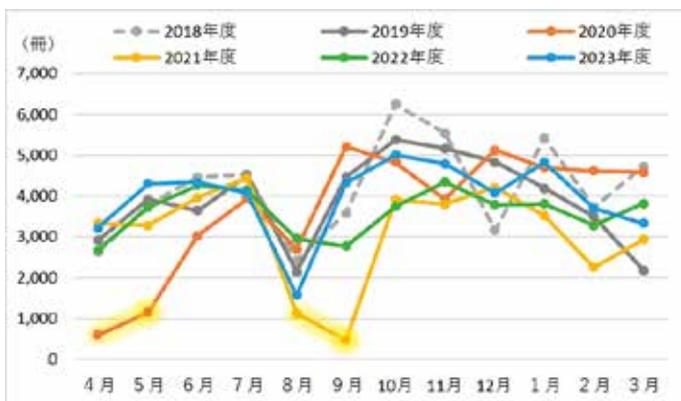
出典:つくば市立中央図書館資料より作成

図 1-37 中央図書館利用状況②

【貸出者数】



【貸出冊数】



※運行休止期間:2020/4/4、4/5、4/8~5/17、2021/8/18~9/23

2022年度より運行車両が1台増加

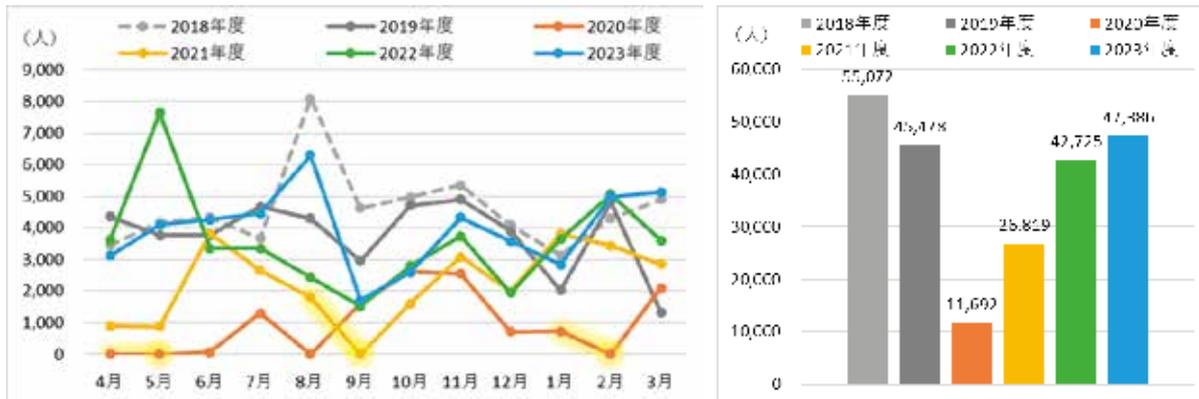
出典:つくば市立中央図書館資料より作成

● 休館期間含む

図1-38自動車図書館利用状況

2) 博物館

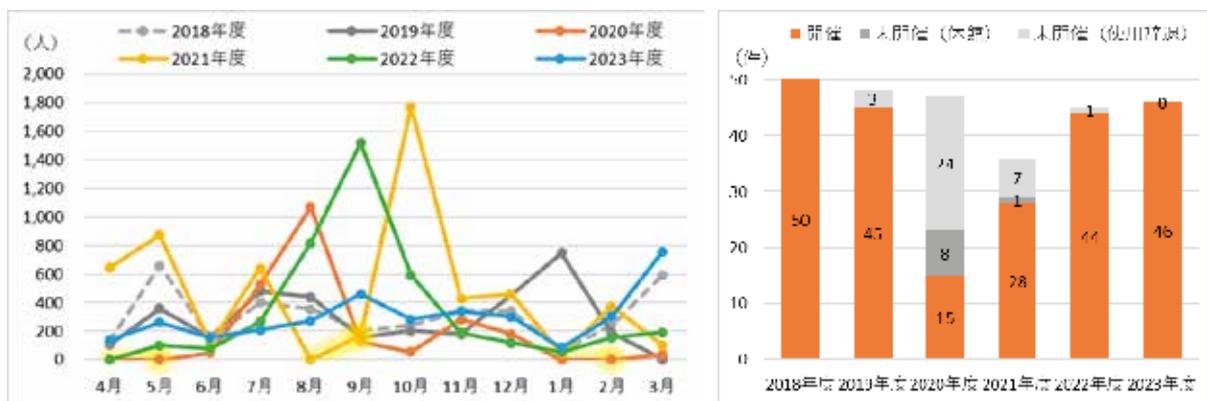
【入館者数】



※展覧会入館者数

【普及活動参加者数】

【展覧会開催状況】



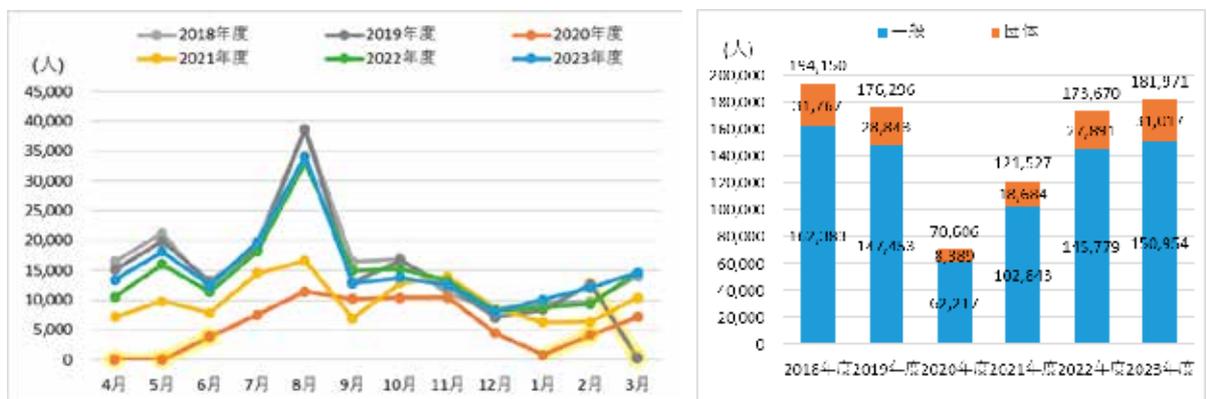
※つくば美術館主催の講演会、講座、ワークショップ参加者数

※休館期間: 2020/4/11~5/10、2021/1/18~2/7、8/18~9/19

● 休館期間含む

出典: 茨城県つくば美術館資料より作成

図 1-39 茨城県つくば美術館利用状況



※休館: 2020/3/2~2020/6/1、2021/1/9~2021/2/9

※予約制による人数制限: 2020/8/1~2020/8/23、2021/9

※プラネタリウム上映中止: 2019/12/13~2020/1/31(更新工事)

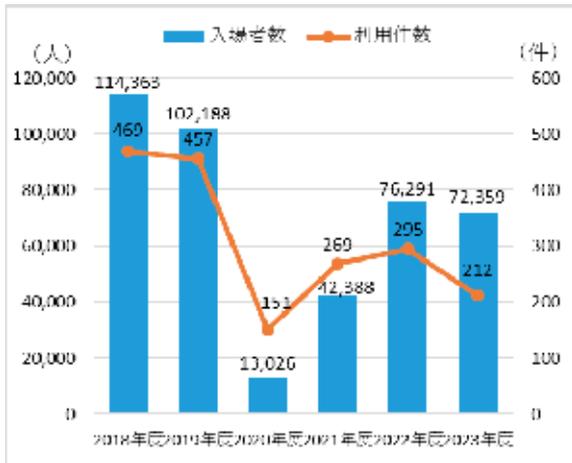
出典: 公益財団法人つくば科学万博記念財団資料より作成

図 1-40 つくばエキスポセンター入館者数

3) ホール

【ノバホール】

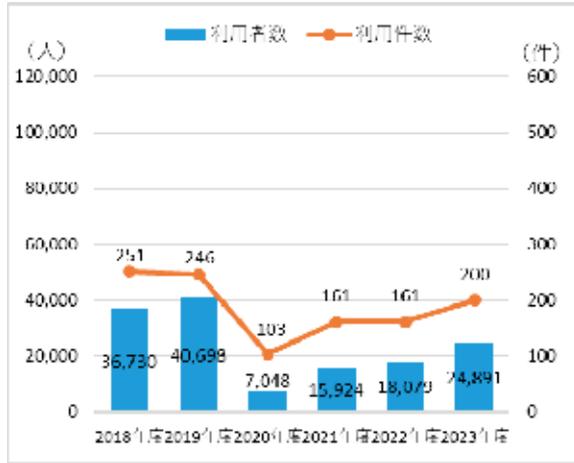
大ホール約1,000名、小ホール約110名



※臨時休館期間等
 2020年度:4/4~5/31、1/18~2/7(感染防止)
 2021年度:8/6~9/30(感染防止)
 2022年度:5/9~7/4(改修工事により大ホール貸出休止)
 10/3~3/31(小ホール改修工事より貸出休止、大ホールは条件付貸出)
 2023年度:4/1~2/13(小ホール改修工事により貸出休止、大ホールは条件付貸出)

【カピオ】

ホール約400名



※臨時休館期間等
 2020年度:4/4~5/31、1/18~2/7(感染防止)
 2021年度:8/6~9/30(感染防止、条件付き貸出あり)
 2022年度:5/9~9/16(改修工事により貸出休止)
 2023年度:6/1~9/15、10月平日、
 1/9~3/4(改修工事により貸出休止)

出典:公益財団法人つくば文化振興財団「事業報告」より作成

【アルスホール】

ホール 100名



※入場者数は、利用者からの入場予定者数(使用許可申請時)の報告に基づく人数
 ※休館期間:2020/4/4~6/8、
 2021/8/6~9/30、2022/5/9~9/16

出典:つくば市立中央図書館資料より作成

【国際会議場】

メインホール約1300名、多目的ホール約500名ほか



※会議室等を含む全館の利用者・利用件数
 ※コロナ禍による休館:2020年度71日間
 2021年度36日間

出典:つくば国際会議場資料より作成

図 1-41 ホール利用状況

コラム コロナ禍におけるホールの利用実態と利用の変化

つくばセンター地区には、ノバホール、カピオホール、国際会議場と、大きなイベントに使用できるホールが複数あり、にぎわいの源になっています。これらの施設のコロナ禍の状況等についてお話をうかがいました。

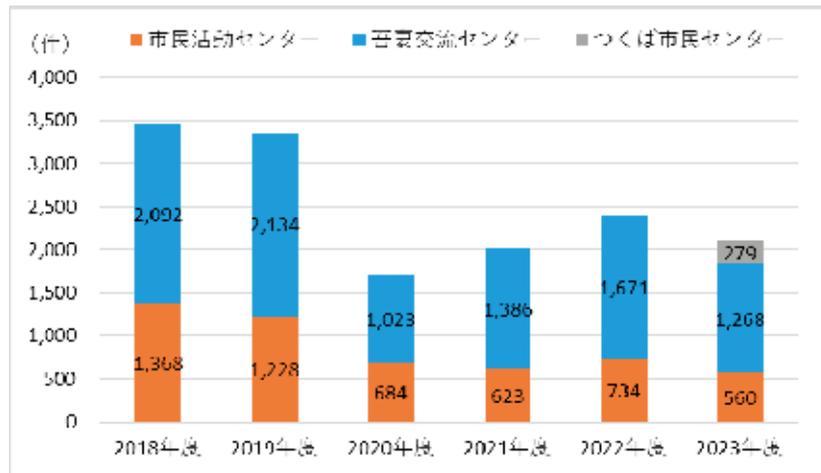
表 1-6 主要ホールにおけるコロナ禍及び現在の状況(各施設ヒアリングより)

	コロナ禍における状況	対応した事項等	変化したこと・今後の見通し
ノバホール・カピオホール	<ul style="list-style-type: none"> 2020年2月末頃からイベントが中止となっていた 海外アーティストの演奏会等は入国制限により中止・延期に 少人数の楽器練習、音楽コンクール提出用の動画撮影などの利用があった ダンスの配信イベントの収録等もあった 	<ul style="list-style-type: none"> サーモグラフィカメラの設置、飛沫防止対策、密を避ける等の対策を実施 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍中に増えた動画撮影等の利用は、現在はほぼなくなった 利用がコロナ禍前より少ない数に留まっているのは、改修工事による貸出休止によるもの。利用率は高く、大きなイベントの予約も入ってきており、工事が終われば利用は戻ると思われる 高齢者の利用が減ったように感じる
つくば国際会議場	<ul style="list-style-type: none"> 2020年2月以降、ほぼすべてのイベントがキャンセルに 大きな催しはすぐに開催できないため、緊急事態宣言があけてからも利用はあまり回復せず 試験会場、社内会議等の利用はあった 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を機にインターネットの専用回線を導入 会議室の一部をリモートワーク用スペースとして貸出 個室レンタルブース(ライトボックス)を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 企業のパーティーが減りケータリング利用が減少。お見合いパーティー等も減少。 全国大会や講習会等も減少(水戸に市民会館が新しくできた影響の可能性も) リモート併用の催しが増え現地参加人数は縮小傾向。借りるスペースも縮小傾向が見られる

(3) 市民活動

つくば駅周辺の市民活動に利用可能な主な施設としては、市民センターとカピオがあります。市民センターは、吾妻交流センターと市民活動センターが統合され2024年2月に開設されました。

2020年度は各施設とも利用が大きく減少しましたが、利用件数に比べ利用者数の減少が大きくなりました。カピオの利用件数は、2022年度にはコロナ禍以上に回復していますが、利用者数はやや少ない数に留まっています。コロナ禍中は、施設において利用人数を絞る制限が行われた影響が考えられますが、コロナ禍以降も、大人数での集まりを避ける傾向がまだ残っていることがうかがえます。

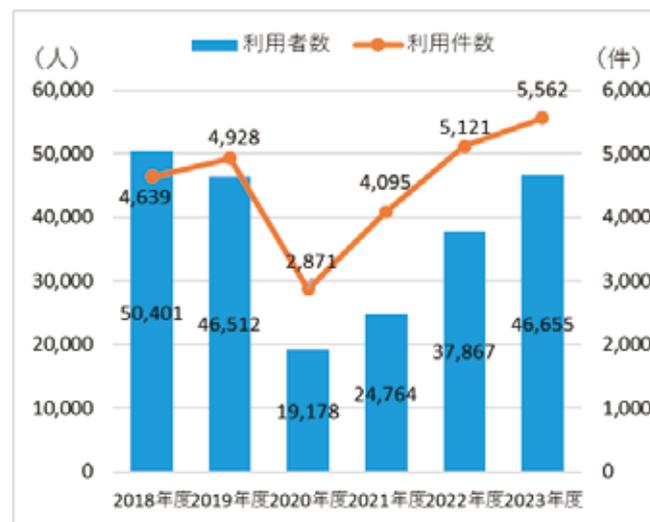


※吾妻交流センターは2023/12末、市民活動センターは2024/1/14に閉館し市民センターに統合。つくば市民センターは2024/2/12開設。

出典：つくば市市民協働課、吾妻交流センター資料より作成

図 1-42 市民センター等利用件数

【カピオ会議室等】



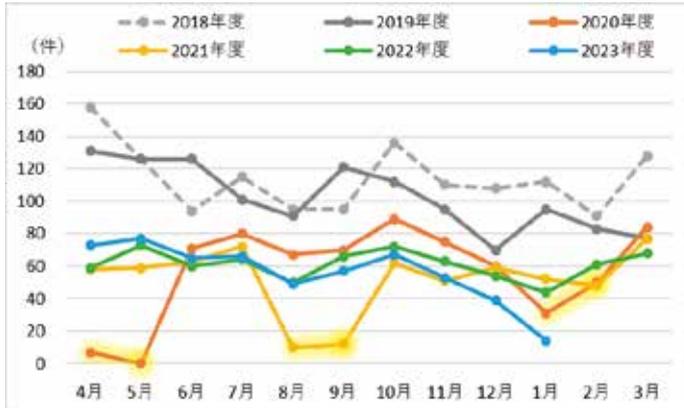
※休館期間 2020年度：4/4～5/31、1/18～2/7(感染防止)

2021年度：8/6～9/30(感染防止)

出典：公益財団法人つくば文化振興財団「事業報告」より作成

図 1-43 カピオ会議室等利用状況

【利用件数】



【利用者数・利用件数】



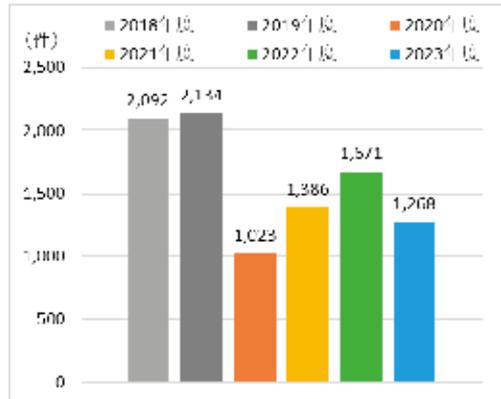
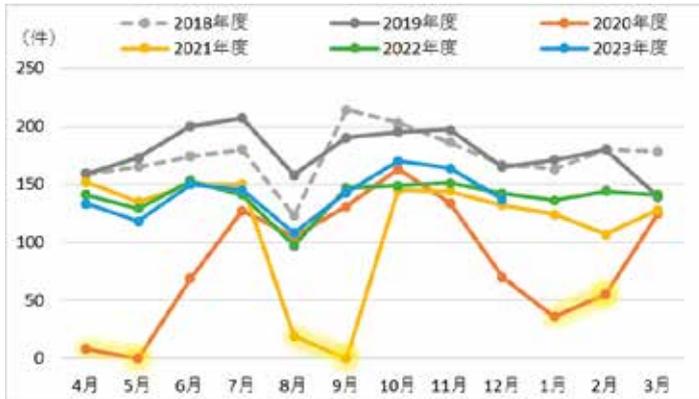
※休館期間:2020/4/4~5/31、2021/1/18~2/7、8/20~9/30

※2024/1/14閉館、つくば市民センターに統合

● 休館期間含む

出典:つくば市市民協働課資料より作成

図 1-44 市民活動センター利用状況



※休館期間:2020/4/4~6/7、2021/1/18~2/7

※2023/12末閉館、つくば市民センターに統合

● 休館期間含む

出典:つくば市吾妻交流センター資料より作成

図 1-45 吾妻交流センター利用件数

(4) スポーツ・屋外活動

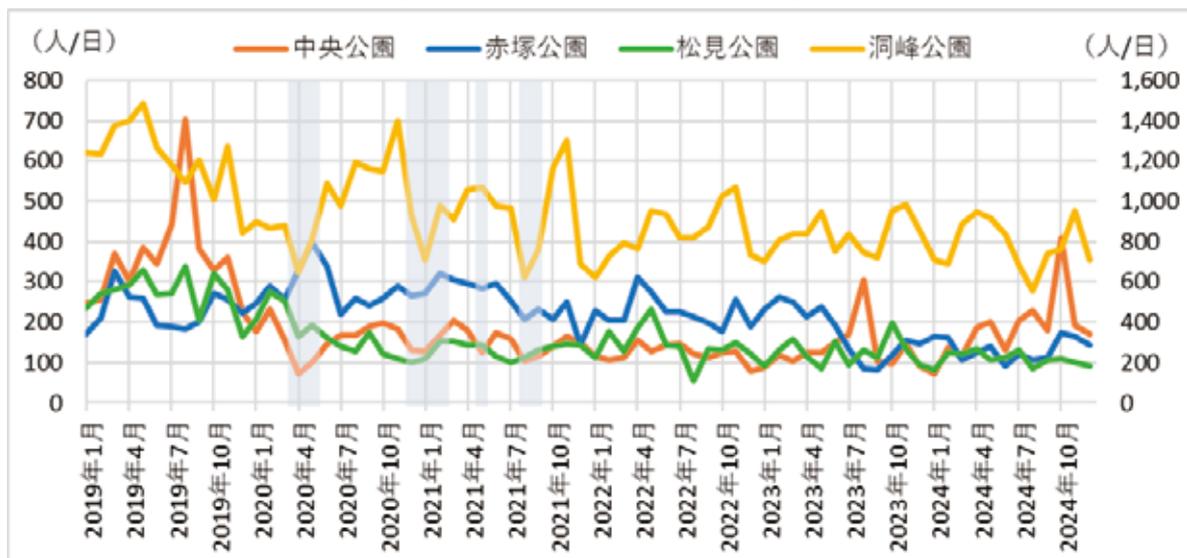
1) 公園

つくばセンター地区周辺の2020年度の公園来訪者数は、コロナ禍の期間中、赤塚公園で増加傾向が見られました。洞峰公園では、年度別では減少しているものの、外出自粛が要請された期間以外は比較的多くの来訪が見られるなど、散歩や運動などに利用されたことが推察されます。

筑波メディカルセンター病院に隣接する松見公園においては、感染拡大が落ち着いていた時期より、緊急事態宣言期間中の滞在者が増加しており、医療関係の人流の影響が考えられます。

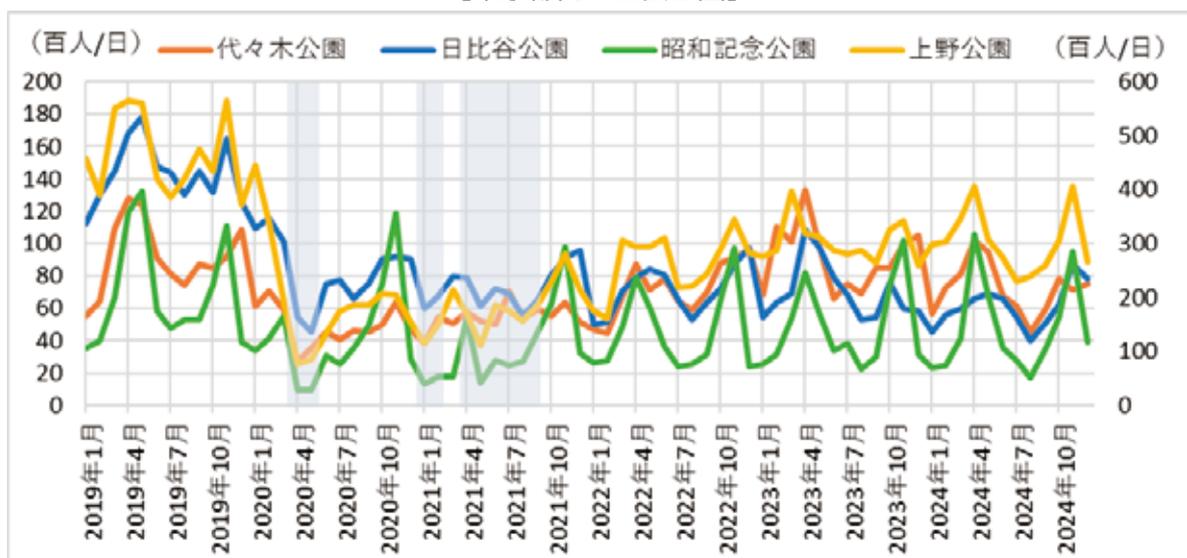
中央公園は来訪者数が大きく減少しましたが、周辺の公務員宿舎の廃止が影響していると考えられます。

【つくばセンター地区周辺の公園】



※右軸：洞峰公園 左軸：中央公園、赤塚公園、松見公園

【東京都内の主要公園】



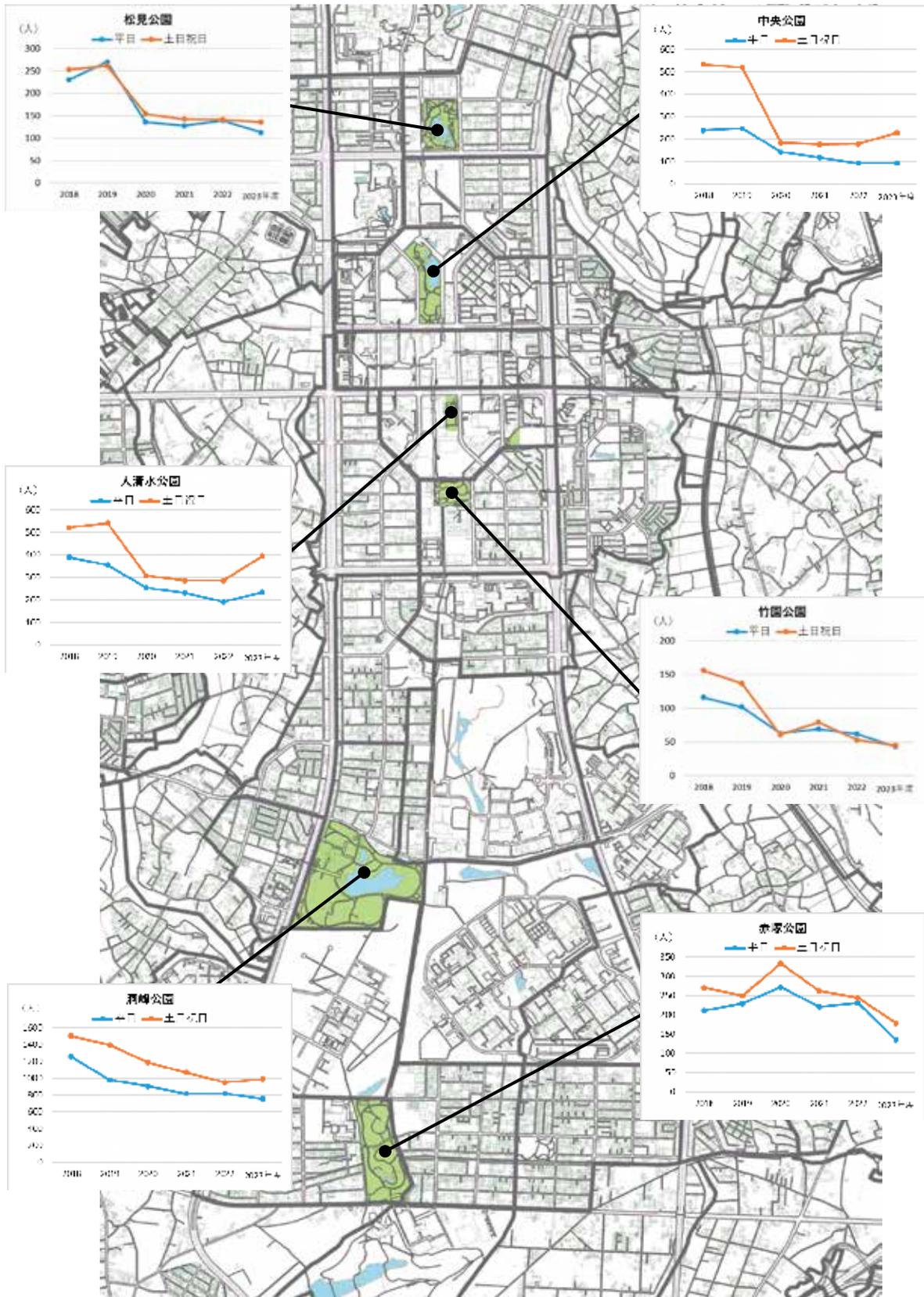
※右軸：上野公園 左軸：代々木公園、日比谷公園、昭和記念公園

※スマートフォン位置情報による拡大推計値(15分以上滞在者)。20歳未満、訪日外国人含まず。

■ 緊急事態宣言・外出自粛要請期間

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-46 (参考)公園来訪者数(推計値)(月別 1 日平均)



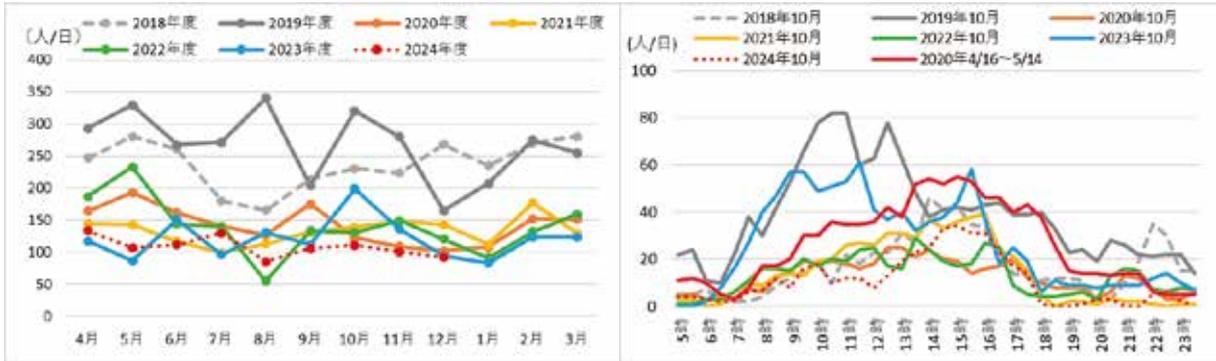
※スマートフォン位置情報による拡大推計値(15分以上滞在者)。20歳未満、訪日外国人含まず。

出典:技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

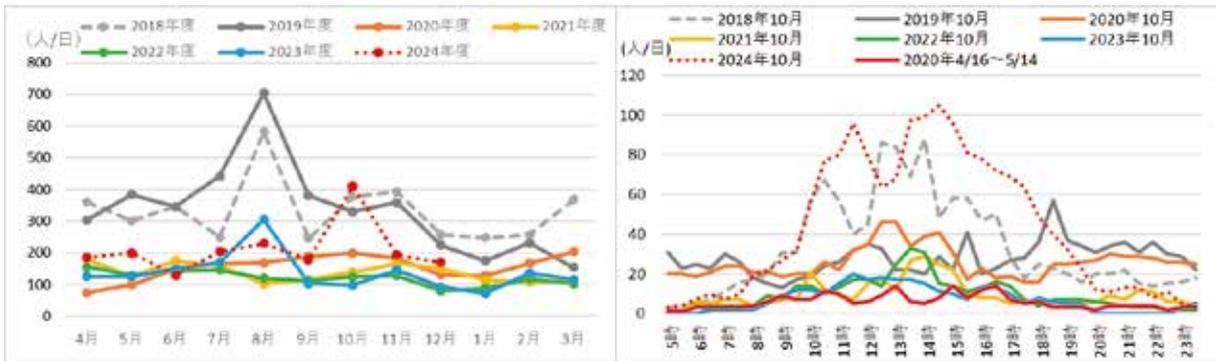
地図:国土地理院基盤地図を加工し作成

図 1-47 (参考)つくばセンター地区周辺の公園来訪者数の推移(年度別・1日平均推計値)

【松見公園】

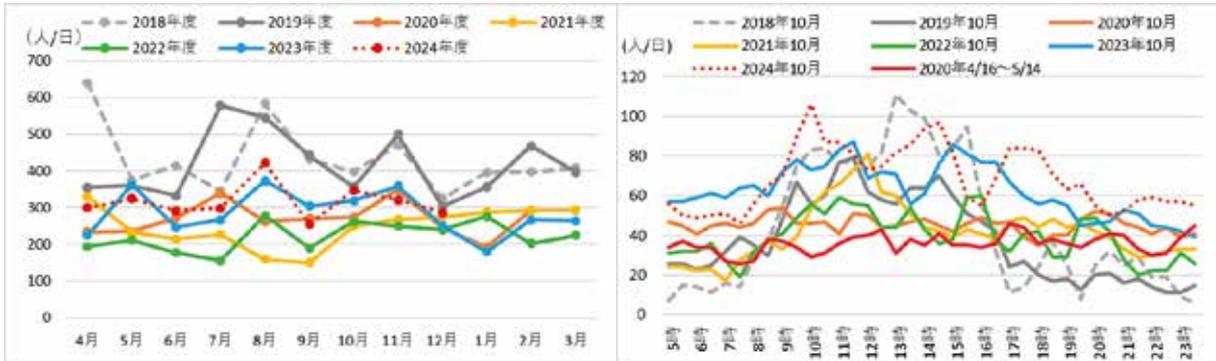


【中央公園】



※2018年度(8・9月)、2019年度(8～10月)はアウトドア体験の実証実験実施

【大清水公園】



【竹園公園】

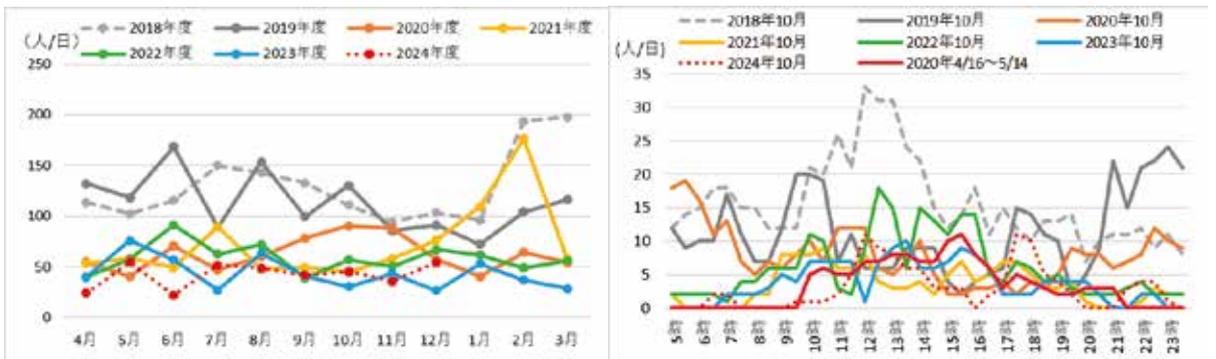
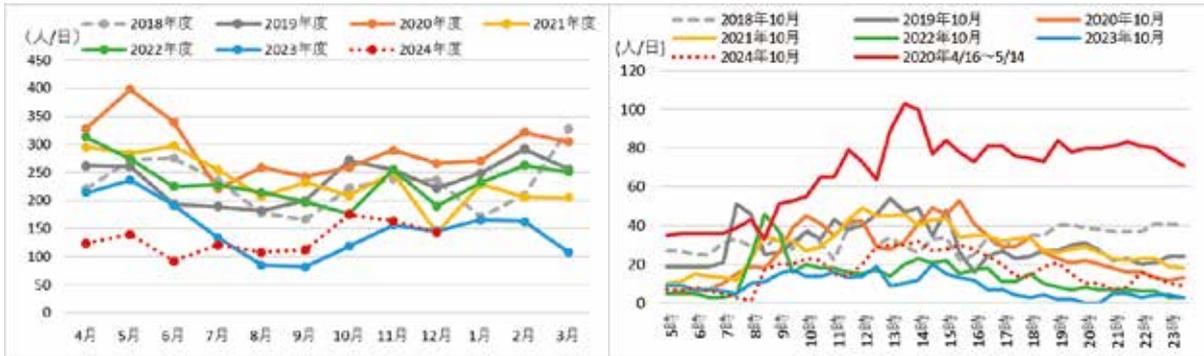
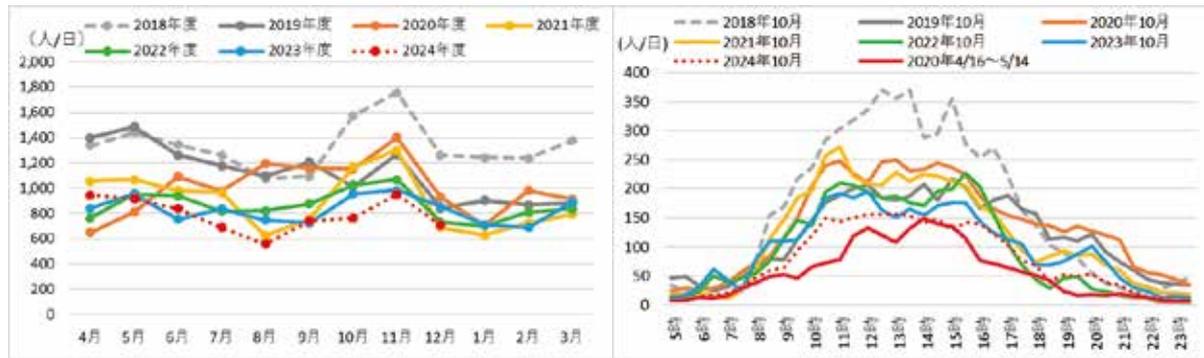


図1-48 (参考)つくばセンター地区周辺の公園来訪者数の推移(左:月別・右:時間帯別(一日平均推計値))①

【赤塚公園】



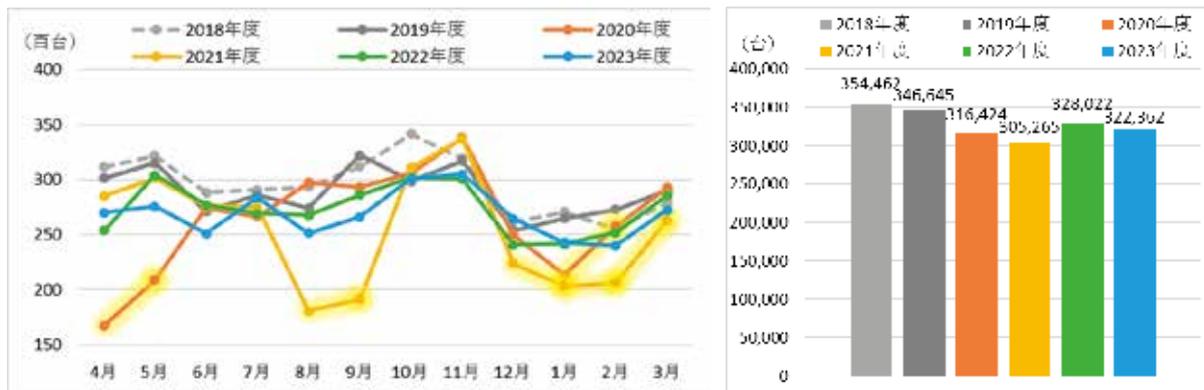
【洞峰公園】



※スマートフォン位置情報による拡大推計値(15分以上滞在者)。20歳未満、訪日外国人含まず。

出典: 技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図1-49 (参考)つくばセンター地区周辺の公園来訪者数の推移(左:月別・右:時間帯別(一日平均推計値))②

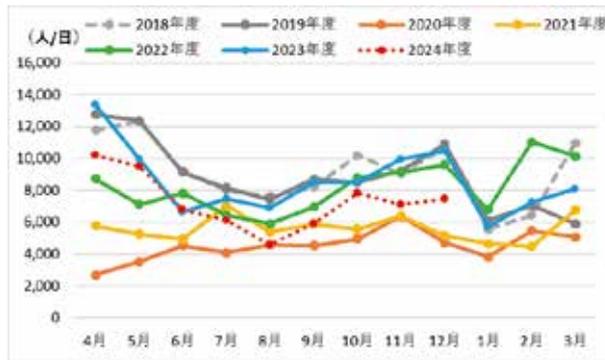


● 公園内施設休業期間含む

出典: 洞峰公園管理事務所資料より作成

図1-50 洞峰公園駐車場利用台数

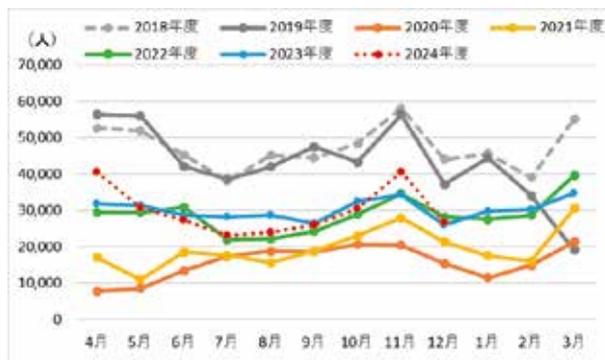
【代々木公園】



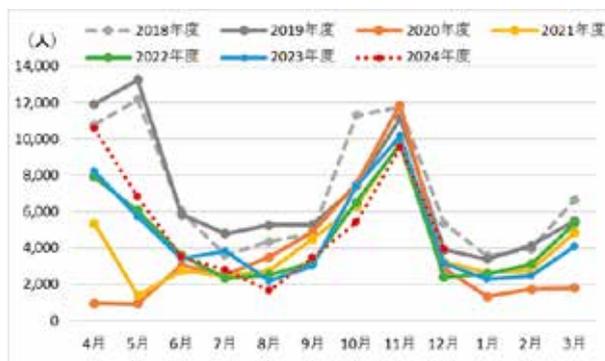
【日比谷公園】



【上野公園】



【昭和記念公園】



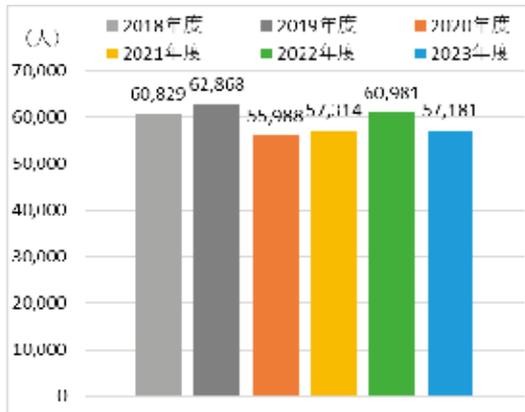
※スマートフォン位置情報による拡大推計値(15分以上滞在者)。20歳未満、訪日外国人含まず。
 出典: 技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-51 (参考) 東京都内の公園来訪者数の推移(月別一日平均推計値)

2) 運動施設

運動施設の利用者は、屋外のテニスコートは減少が少なく、コロナ禍においても活発に利用されたことがうかがえます。屋内施設では、体育館・アリーナよりプールの方が影響が少なく、団体で利用するものの方がより大きな影響を受けたと考えられます。

【洞峰公園 テニスコート】

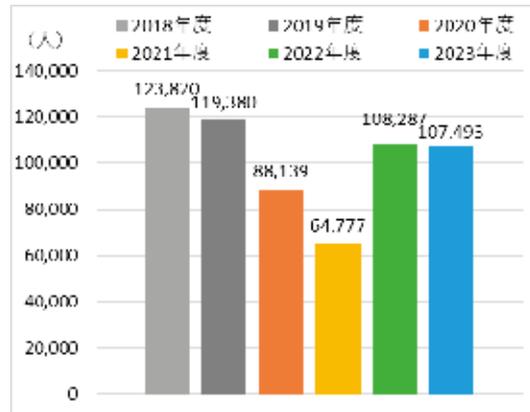


※休業期間

2020年度:4/4,5、4/10~5/24

2021年度:8/18~9/19

【洞峰公園 プール】

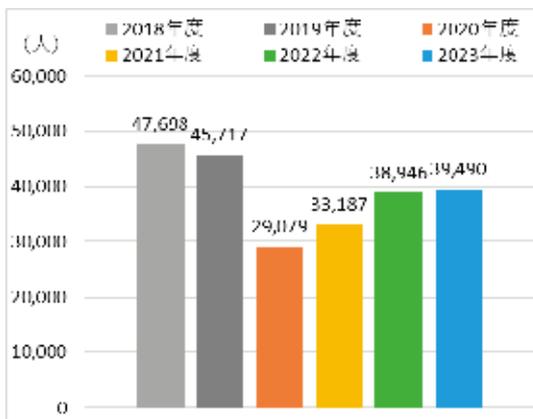


※休業期間

2020年度:4/4,5、4/10~5/24、1/18~2/7

2021年度:8/6~9/30、11/29~3/15(改修工事)

【洞峰公園 体育館】

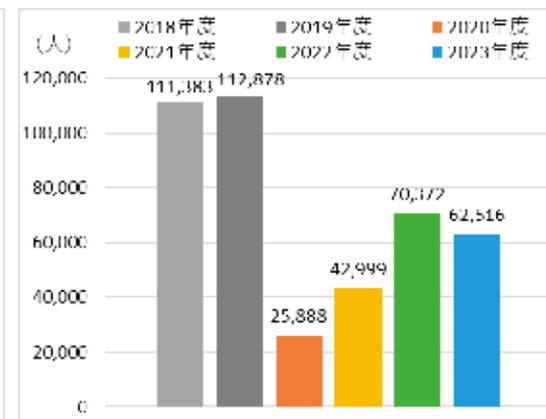


※休業期間

2020年度:4/4,5、4/10~5/24、1/18~2/7

2021年度:8/6~9/30

【カピオ アリーナ】



※休館期間

2020年度:4/4~5/31、1/18~2/7

2021年度:8/6~9/30

2023年度:10/2~10/20 平日、1/9~3/4(改修工事)

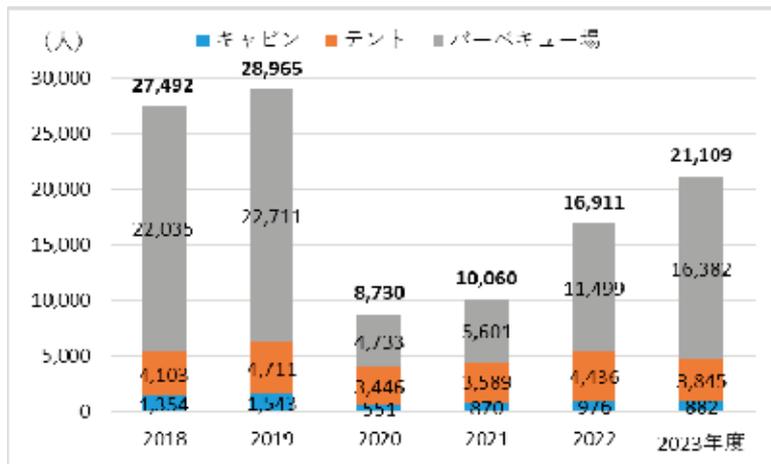
出典:洞峰公園管理事務所資料、公益財団法人つくば文化振興財団「事業報告」より作成

図 1-52 運動施設利用者数

3) アウトドア

キャンプサイトやフィールドアスレチック等の施設を備えた「つくば市ゆかりの森」の屋外施設の利用は、団体での利用が多いと考えられるキャビンの利用は大きく減少しましたが、持ち込みテントの利用は2020年度も減少が少なく、緊急事態宣言期間中以外はコロナ禍前より多くの利用が見られ、遠方への外出が強く抑制された間、感染を気にすることなく楽しめる身近なレジャー施設として利用されたことがうかがえます。

バーベキュー場の利用は、大勢で飲食することによるクラスター発生の懸念のためか回復が遅れましたが、2023年度には約7割まで回復しています。



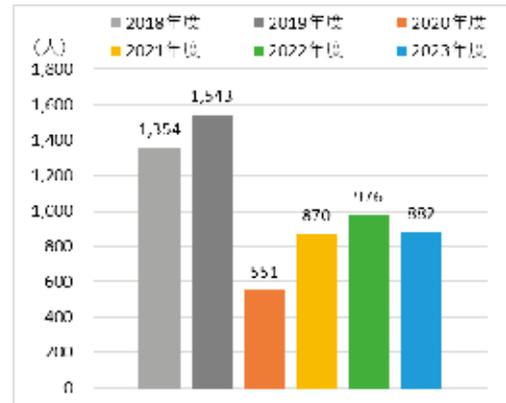
※休業期間

各施設共通：2020/4/3～5/31、2021/8/20～9/30

出典：つくば市豊里ゆかりの森資料より作成

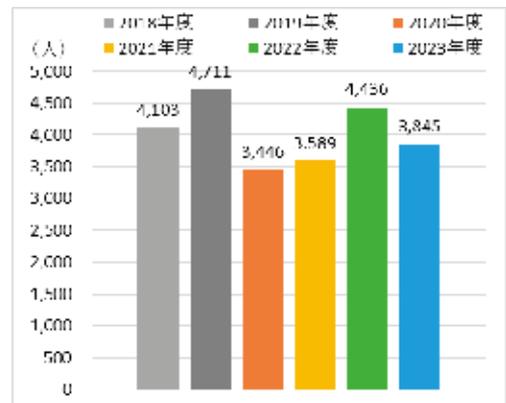
図 1-53 ゆかりの森 施設利用者数

【キャビン】

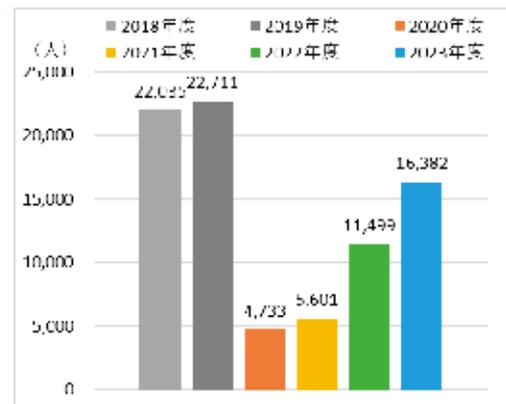
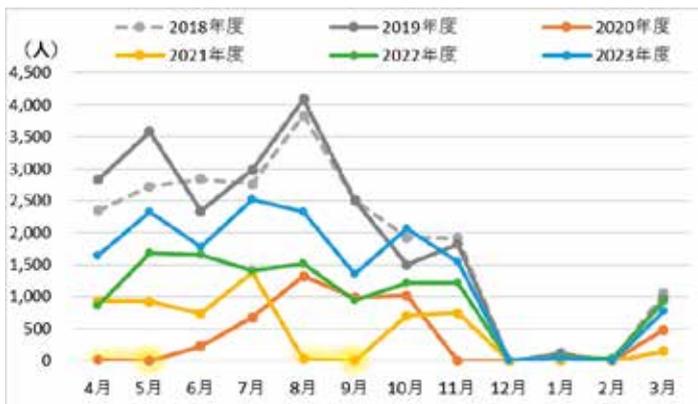


※毎年12月～2月は一般利用休業

【持ち込みテント】



【バーベキュー場】



※毎年12月～2月は一般利用休業

※休業期間(各施設共通): 2020/4/3～5/31、2021/8/20～9/30

● 休止期間含む(例年の休止期間を除く)

出典: つくば市豊里ゆかりの森資料より作成

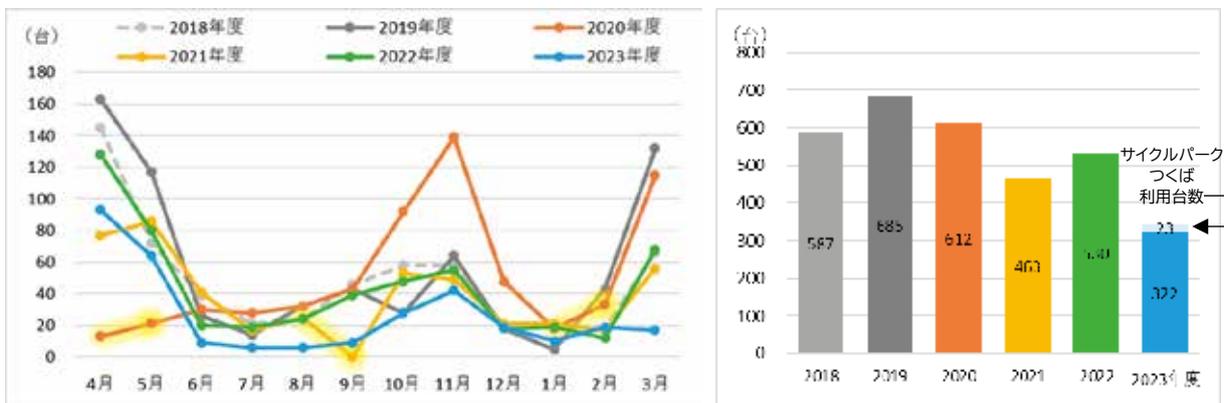
図 1-54 ゆかりの森 施設別利用者数

4) サイクリング

筑波山口におけるレンタサイクル利用者数は、2020年度は緊急事態宣言期間中以外は例年より多くの利用が見られ、特に10月～12月にかけては2倍近い利用がみられました。路線バスデータ、及び観光客数データも同様の傾向を示しており、コロナ禍において筑波山は、感染を気にせず楽しめる身近な行楽地として多くの人が訪れたことがうかがえます。2021年度以降は平年並みに戻りつつありますが、2023年度は減少しています。

つくば駅のレンタサイクルについては、感染拡大に伴う休止期間以外は、例年と顕著な差は見られませんでした。休止期間がなくなった2022年度以降も利用者が伸び悩んでおり、2021年度下期より開始したシェアサイクル実証実験の影響が考えられます。

【筑波山口】



※2023/11/3に開設された近隣の「サイクルパークつくば」においてもレンタサイクル開始

【つくば駅(BiViつくば)】



※2021/10/1より、当該レンタサイクルに加えつくば市シェアサイクル実証実験(つくチャリ)開始。つくチャリつくば駅サイクルポート利用件数には、つくば駅以外のポートの返却台数を含まず。

※貸出休止: 2020/4/4,5、4/8～5/18、2021/1/18～2/7、8/17～9/30

● 貸出休止期間含む

出典: つくば市サイクルコミュニティ推進室資料より作成

図 1-55 つくば市レンタサイクル利用者数

2-3 人口・住宅

(1) 人口の動向

つくば市の人口は増加が続いており、東京都の人口がマイナスに転じた2021年度においても約2%の増加となりました。2020年1月から2024年1月の4年間で、つくば市の人口は約18,000人、つくばセンター地区の人口も複数のマンションが供給されたことを受け約3,000人増加しました。

つくば市の自然増は低下傾向にあり、出生率は2020年と2023年にやや低下の加速が見られ、コロナ禍への不安からの産み控えや、婚姻の減少が要因となった可能性も考えられます。死亡率は、コロナ禍との因果関係は不明ですが2022年にやや上昇の加速が見られました。

2020年から2021年の社会増は、転入の増加より転出が減少したことが要因となっており、国外や東京都などへの転出の減少が見られました。また、2021年以降は、東京都内など県外からの転入が増加しており、テレワークの浸透により、郊外地域をすまいの選択肢に入れる人が増加したと考えられます。

国外からの転入は2022年、転出は2023年よりコロナ禍前の水準に戻り、その他の国内の地域へ転出も増加し人口の流動性が戻ってきたことで、2023年は人口の伸びが低下しています。

1) 人口の推移

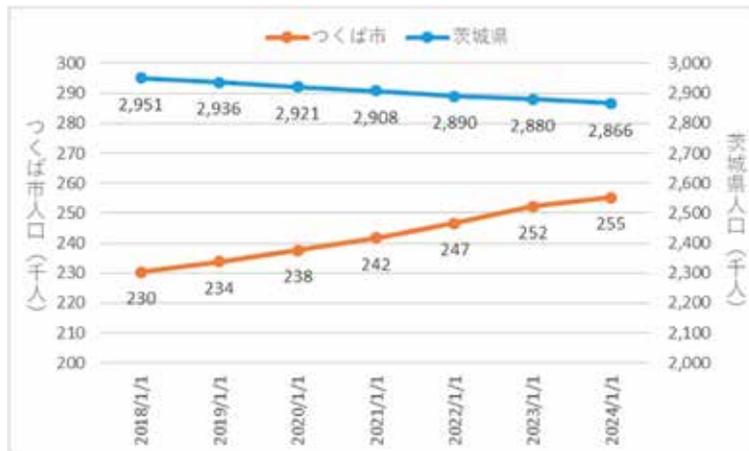


図 1-56 つくば市の人口推移



図 1-57 つくば市及び周辺都県の人口増減率

出典：政府統計の総合窓口(e-Stat)「住民基本台帳人口」より作成



出典:茨城県「常住人口調査結果報告書」より作成

図 1-58 つくば市の社会・自然動態の推移



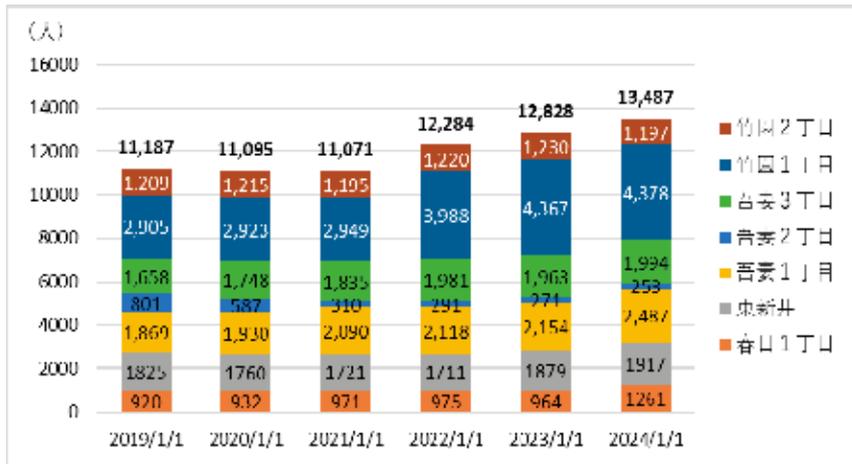
出典:茨城県「常住人口調査結果報告書」より作成

図 1-59 つくば市の出生率・死亡率の推移



出典:茨城県「茨城県の人口動態統計」より作成

図 1-60 つくば市の婚姻数の推移



出典:つくば市 行政区別人口表(住民基本台帳人口)、地図:国土地理院基盤地図を加工し作成

図 1-61 つくばセンター地区の人口推移

表 1-7 研究学園地区、TX 沿線地区内の主な町丁字の人口の変動

【研究学園地区(つくば駅圏)】

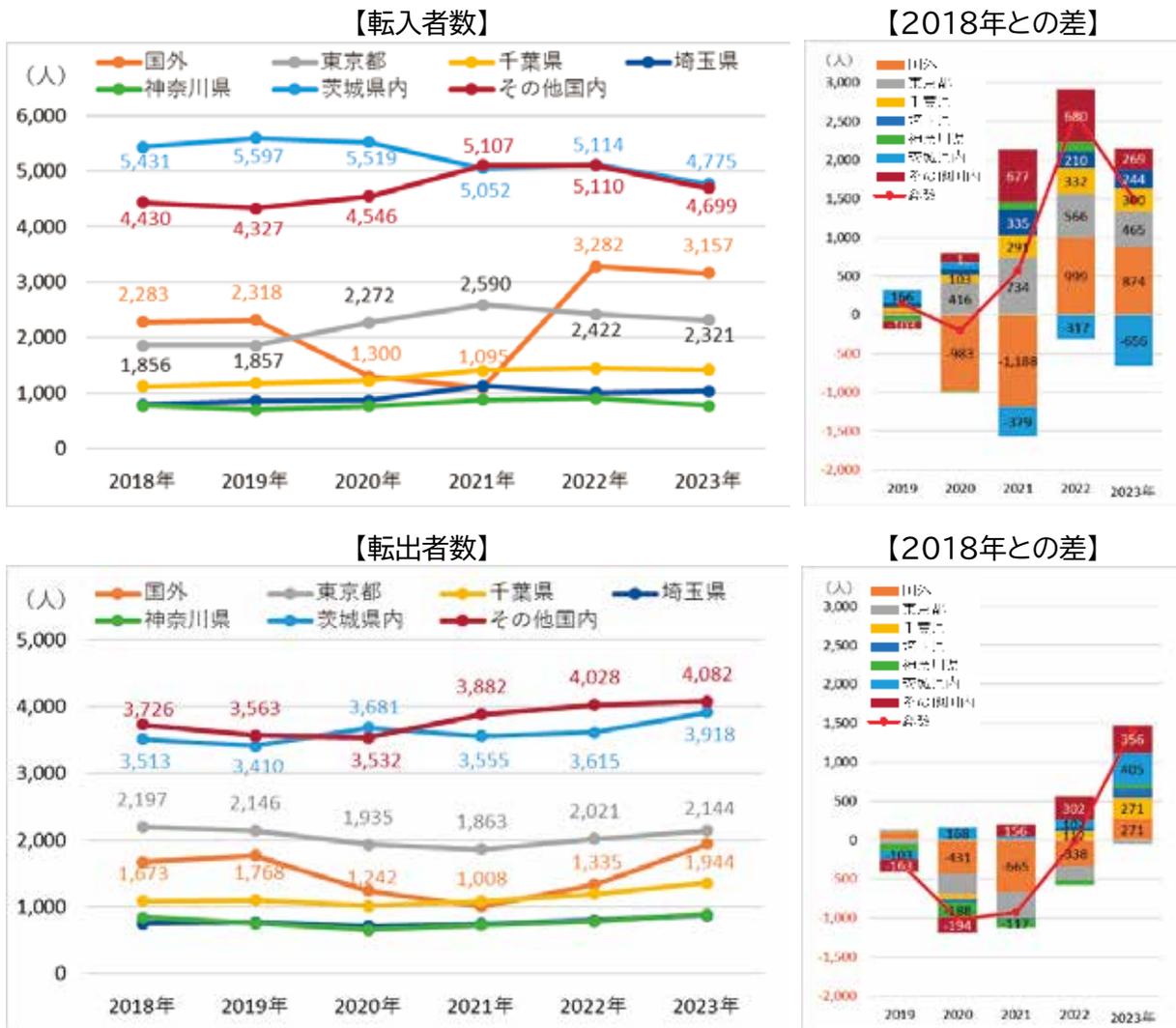
	2018/4/1	2021/4/1	2022/4/1	2023/4/1	2024/4/1	2018-2021 増減率	2018-2022 増減率	2018-2023 増減率	2018-2024 増減率
春日1丁目	897	960	942	1,318	1,432	7%	5%	47%	50%
春日2丁目	2,838	3,099	3,262	3,358	3,329	9%	15%	18%	17%
春日3丁目	1,798	1,863	1,943	1,973	2,004	4%	8%	10%	11%
春日4丁目	2,005	1,848	1,891	1,982	1,956	-8%	-6%	-1%	-2%
東新井	1,802	1,721	1,947	1,941	1,928	-4%	8%	8%	7%
二の宮1丁目	2,384	2,401	2,383	2,550	2,482	1%	0%	7%	4%
二の宮2丁目	1,384	1,392	1,397	1,439	1,446	1%	1%	4%	4%
二の宮3丁目	1,384	1,416	1,453	1,493	1,476	2%	5%	8%	7%
二の宮4丁目	2,546	2,424	2,448	2,412	2,368	-5%	-4%	-5%	-7%
松代1丁目	1,769	1,774	1,765	1,755	1,748	0%	0%	-1%	-1%
松代2丁目	1,131	1,122	1,128	1,116	1,113	-1%	0%	-1%	-2%
松代3丁目	2,421	2,481	2,520	2,552	2,536	2%	4%	5%	5%
松代4丁目	1,611	1,587	1,578	1,533	1,505	-1%	-2%	-5%	-7%
松代5丁目	1,082	1,333	1,606	1,872	2,102	23%	48%	73%	94%
桜1丁目	520	739	778	809	815	42%	50%	56%	57%
桜2丁目	1,076	1,136	1,168	1,216	1,215	6%	9%	13%	13%
桜3丁目	538	531	529	523	520	-1%	-2%	-3%	-3%
天王台2丁目	13	18	38	28	22	38%	192%	15%	59%
天久保1丁目	828	882	862	917	926	7%	4%	11%	12%
天久保2丁目	1,537	1,606	1,611	1,663	1,660	4%	5%	8%	8%
天久保3丁目	1,040	1,094	1,101	1,150	1,182	5%	6%	11%	14%
天久保4丁目	543	565	563	596	586	4%	4%	10%	8%
吾妻1丁目	1,890	2,120	2,132	2,550	3,210	12%	13%	35%	70%
吾妻2丁目	761	290	274	249	205	-62%	-64%	-67%	-73%
吾妻3丁目	1,674	1,993	1,978	1,994	1,972	19%	18%	19%	18%
吾妻4丁目	1,884	1,701	1,638	1,573	1,543	-10%	-13%	-17%	-18%
竹園1丁目	2,894	4,116	4,392	4,347	4,322	42%	52%	50%	49%
竹園2丁目	1,205	1,265	1,234	1,175	1,187	5%	2%	-2%	-1%
竹園3丁目	2,729	3,192	3,340	3,377	3,710	17%	22%	24%	36%
千現1丁目	1,761	1,752	1,840	1,876	1,828	-1%	4%	7%	4%
千現2丁目	833	795	809	827	804	-5%	-3%	-1%	-3%
並木2丁目	1,732	1,820	1,842	2,020	2,214	5%	6%	17%	28%
並木3丁目	2,130	2,305	2,355	2,405	2,385	8%	11%	13%	12%
並木4丁目	1,440	1,368	1,524	1,708	2,043	-5%	6%	19%	42%
梅園2丁目	3,254	3,243	3,280	3,336	3,276	0%	1%	3%	1%
筑波大学生宿舎	1,749	1,164	1,027	1,492	1,446	-33%	-41%	15%	17%
筑波大看護婦宿舎	127	113	99	88	83	-11%	-22%	31%	35%

【TX沿線開発地区】

	2018/4/1	2021/4/1	2022/4/1	2023/4/1	2024/4/1	2018-2021 増減率	2018-2022 増減率	2018-2023 増減率	2018-2024 増減率
学園の森1丁目	1,130	2,010	2,048	2,048	2,044	78%	81%	81%	81%
学園の森2丁目	1,594	2,594	2,659	2,676	2,707	63%	67%	68%	70%
学園の森3丁目	1,168	1,351	1,403	1,465	1,471	16%	20%	25%	26%
研究学園1丁目	13	8	12	6	5	-38%	-8%	-54%	-62%
研究学園2丁目	656	781	784	787	788	19%	20%	20%	20%
研究学園3丁目	759	1,183	1,201	1,208	1,218	56%	58%	59%	60%
研究学園4丁目	2,142	2,251	2,239	2,248	2,260	5%	5%	5%	6%
研究学園5丁目	2,483	2,394	2,455	2,493	2,479	-4%	-1%	0%	0%
研究学園6丁目	1,581	1,562	1,558	1,528	1,510	-1%	-1%	-3%	-4%
研究学園7丁目	1,007	1,023	1,041	1,023	1,040	2%	3%	2%	3%
研究学園7丁目3~14	260	306	315	316	314	18%	21%	22%	21%
学園南1丁目	565	650	669	705	707	15%	18%	25%	25%
学園南2丁目	1,300	1,396	1,377	1,374	1,370	7%	6%	6%	5%
学園南3丁目	1,844	2,135	2,187	2,230	2,202	16%	19%	21%	19%
みどりの1丁目	2,582	2,924	2,994	3,015	3,078	13%	16%	17%	19%
みどりの2丁目	1,562	2,868	3,246	3,455	3,594	84%	108%	121%	130%
みどりの中央	2,246	3,087	3,260	3,349	3,414	37%	45%	49%	52%
みどりの東	806	1,354	1,541	1,655	1,743	68%	91%	105%	116%
みどりの南	1,453	3,286	3,825	4,044	4,209	126%	163%	178%	190%

出典:つくば市 行政区別人口表(住民基本台帳人口)より作成

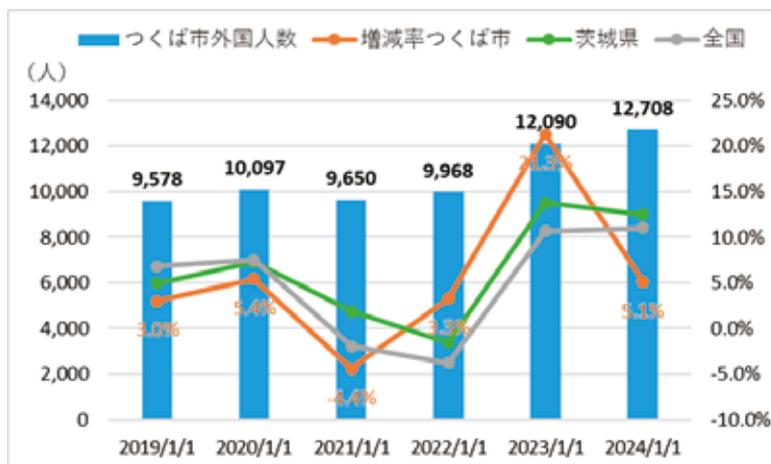
2) 地域間の移動



※従前の住所地が不明、帰化、職権による記載等を含まず

出典：茨城県「常住人口調査結果報告書」より作成

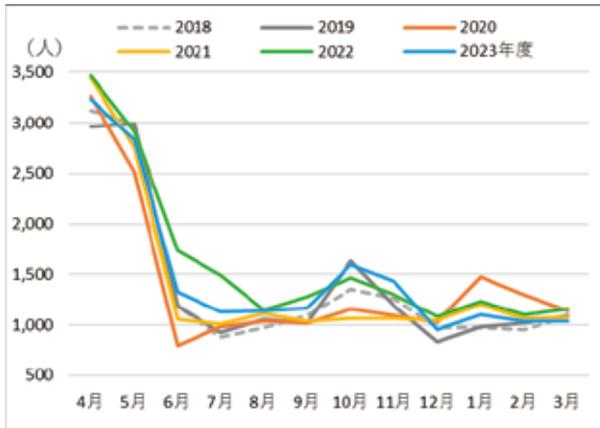
図 1-62 つくば市の転入者の推移



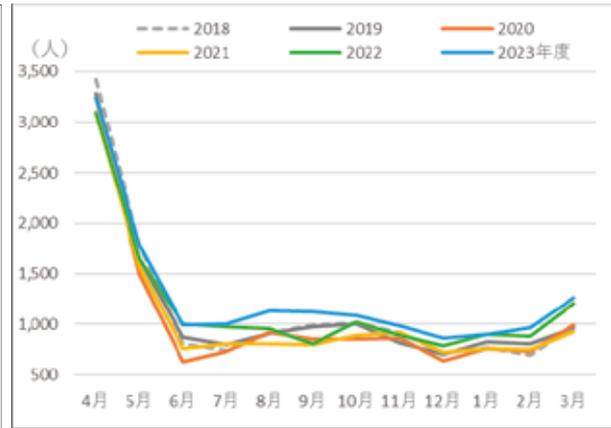
出典：つくば市「行政区別人口統計表」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

図 1-63 つくば市の外国人数の推移

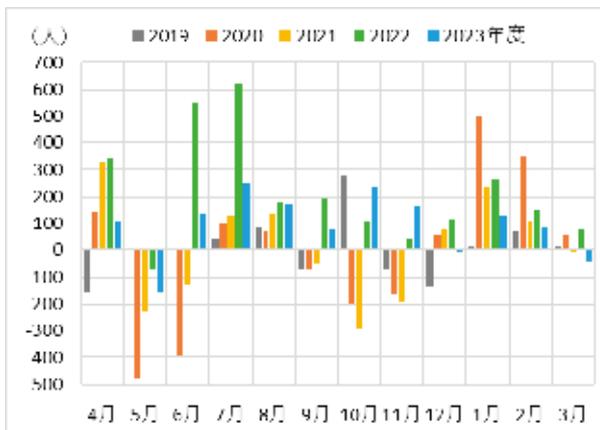
【転入数】



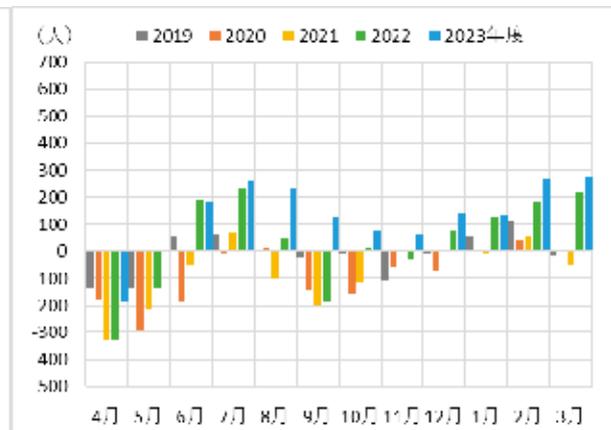
【転出数】



【2018年との差(転入)】



【2018年との差(転出)】



出典：茨城県「茨城県常住人口調査結果報告書」より作成

図 1-64 つくば市の月別地域間移動数

(2) 住宅供給動向

住宅着工数は、つくば市内、東京周辺（一都三県）ともに2020年度は減少となっており、コロナ禍の影響による着工延期の動きがあった可能性があります。

一方でつくば市内においては、2020年度も分譲住宅は前年度より増加し、2021年度は2018年度の倍以上の着工がありました。

つくばセンター地区では、コロナ禍においても公務員宿舎跡地などで年間1~2件の分譲マンションが竣工、2020年以降で約1,500戸が供給され全件完売しています。



出典:茨城県「住宅着工データ」より作成

図 1-65 つくば市の住宅着工数の推移



※東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の合計

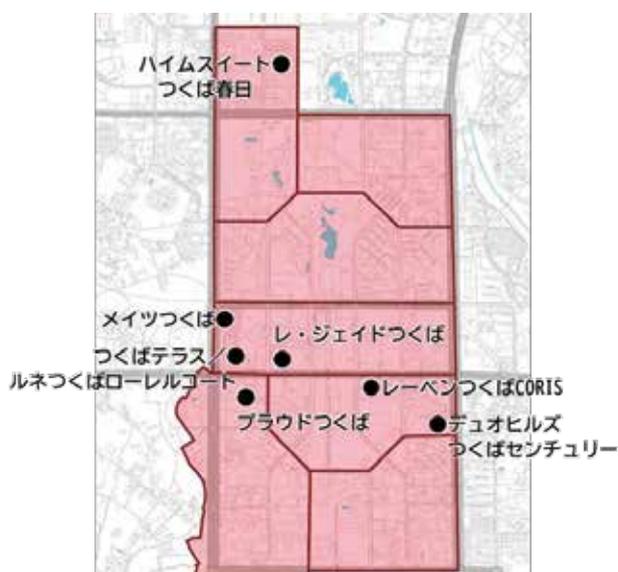
出典:国土交通省「建築着工統計調査」より作成

図 1-66 東京周辺（一都三県）の住宅着工数の推移

表 1-8 つくばセンター地区新築分譲マンション(2018 年度以降販売開始)

	物件名/事業者	総戸数	発売	竣工	最低価格	最高価格	平均価格
1	レーベンつくばCORIS / (株)タカラレーベン	330戸	2018.6	2020.2	3,995万	10,737万	4,800万
2	デュオヒルズつくばセンチュリー / (株)フージャースコーポレーション	229戸	2019.2	2020.11	3,798万	6,098万	4,100万
3	プラウドつくば / 野村不動産(株)	68戸	2020.9	2021.10	4,189万	8,399万	5,259万
4	ハイムスイートつくば春日 / 積水化学工業(株)	122戸	2022.1	2022.9	3,328万	5,498万	3,898万
5	レ・ジェイドつくば / (株)日本エスコン	218戸	2021.4	2022.10	4,390万	16,990万	6,425万
6	つくばテラス/ルネつくばローレルコート / 総合地所(株)、近鉄不動産(株)	320戸	2022.1	2023.8	5,003万	9,248万	3,998万
7	メイツつくば / 名鉄都市開発(株)	166戸	2022.8	2024.4	4,048万	8,098万	5,554万

出典:(有)エム・アール・シー「MRCマンションデータ」ほか。2024年10月時点

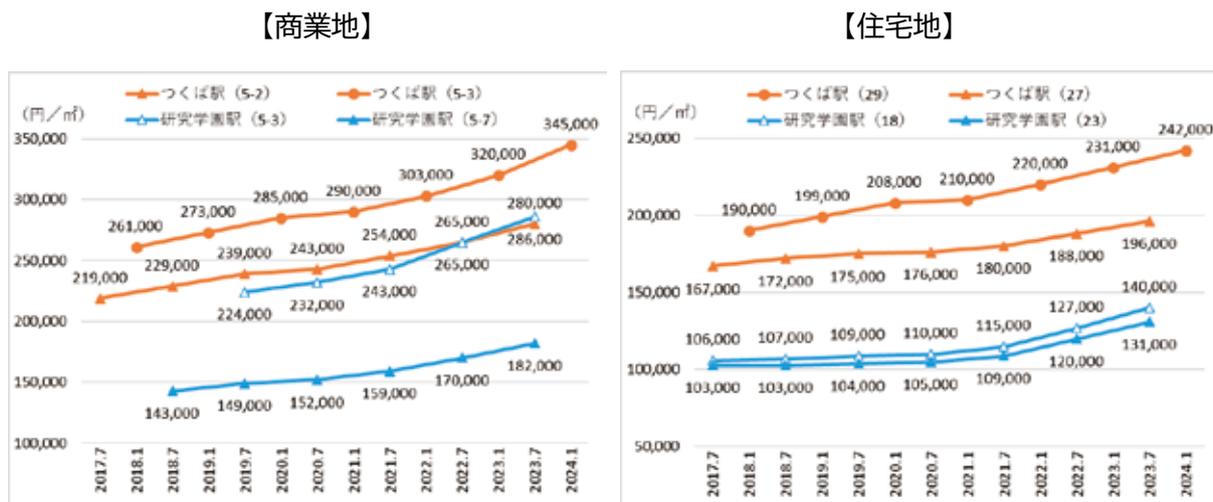


地図:国土地理院基盤地図を加工し作成
図 1-67 つくばセンター地区新規供給
マンション位置図

(3) 地価

つくばセンター地区の地価は、高い伸び率で上昇が続いていますが、2020年度は商業地、住宅地ともに伸び率の鈍化が見られました。2021年度以降は東京圏と比べても高い伸び率で上昇が続いています。

研究学園駅周辺の地価は近年は更に上昇傾向にあり、駅前の商業地においてはつくば駅周辺の価格を超える地点も現れています。



出典：地価公示、都道府県地価調査より作成

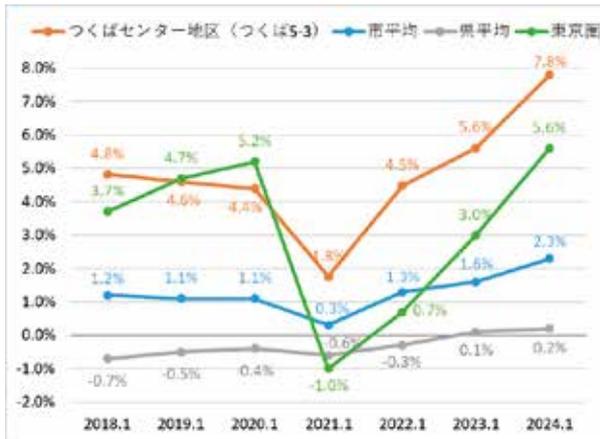
図 1-68 つくば駅周辺・研究学園駅周辺地価の推移



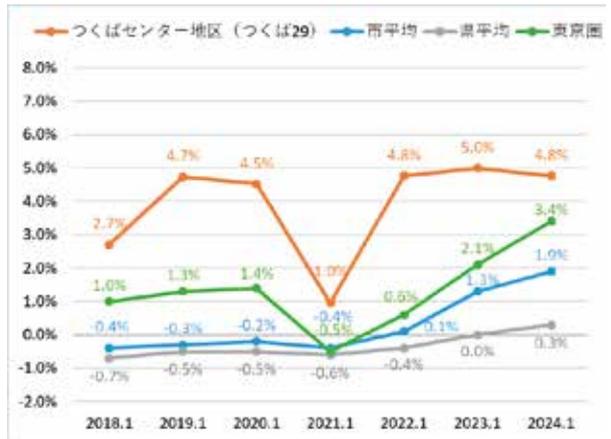
出典：地理院タイルに地価公示及び都道府県地価調査位置を加筆して作成

図 1-69 つくば駅周辺・研究学園駅周辺地価 位置図

【商業地】



【住宅地】



※市平均および県平均の値については、複数地点の変動率の合計を地点数で除して算出

※東京圏：首都圏整備法による既成市街地及び近郊整備地帯を含む市区町村の区域

出典：茨城県「地価公示結果の概要」、国土交通省「地価公示の概要」より作成

図 1-70 用途別地価の平均変動率

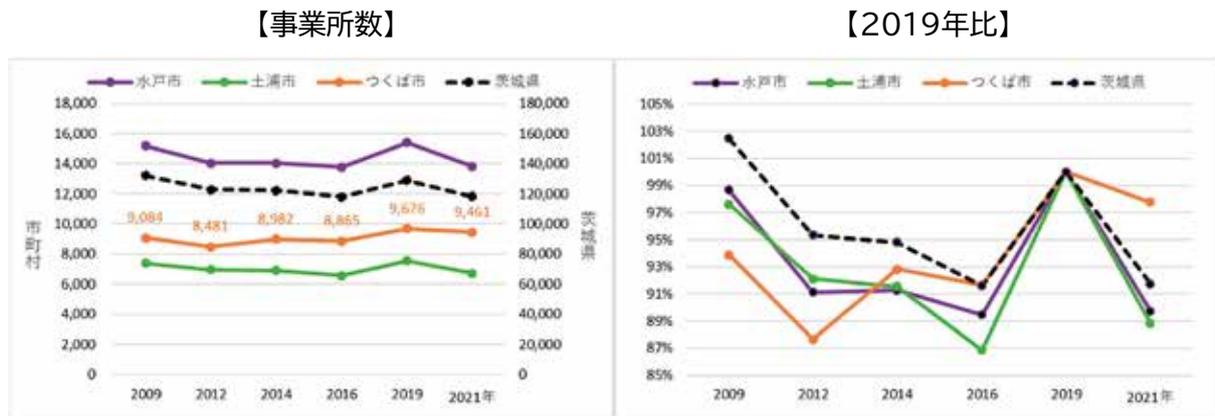
2-4 産業・経済

(1) 景気動向

1) 事業所・従業者数

つくば市内の2021年の事業所数は2019年より減少しましたが、他の市町村と比べ微減にとどまっています。

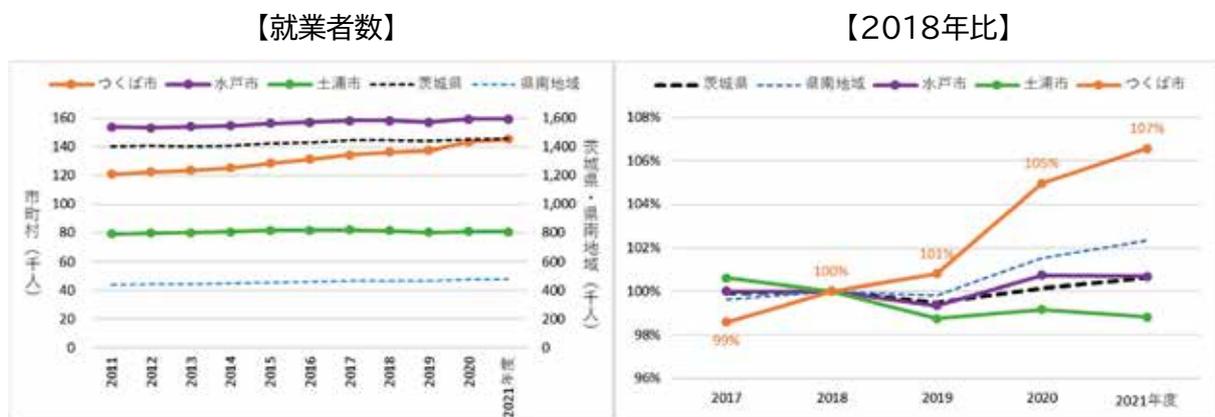
就業者数は、つくば市においてはコロナ禍にかかわらず大きく増加しています。



※事業内容等不詳事業所を含む

出典:「経済センサス」より作成

図 1-71 民営事業所数の推移



出典:「茨城県市町村民経済計算」より作成

図 1-72 就業者数の推移(従業地ベース)

2) 総生産

つくば市の経済成長率は、2019、2020年度にかけてマイナスとなりましたが、2021年度にはプラスに転じており、茨城県内全体も同様の傾向となっています。

一人あたり市町村民所得は、2020年度は減少しましたが2021年度には回復しています。つくば市は他市町村と比べて減少率が低く、また回復の水準も高くなっています。

業種別の実質総生産では、宿泊・飲食サービス業が2018年度の約6割まで激減し大きな打撃を受けたことがうかがえます。その他、運輸・郵便業、卸売・小売業の減少が大きく、製造業、金融・保険業、保健衛生・社会事業は2018年度より増加となりました。



図 1-73 市町村内総生産の推移(実質:連鎖方式)

【つくば市】

【茨城県】

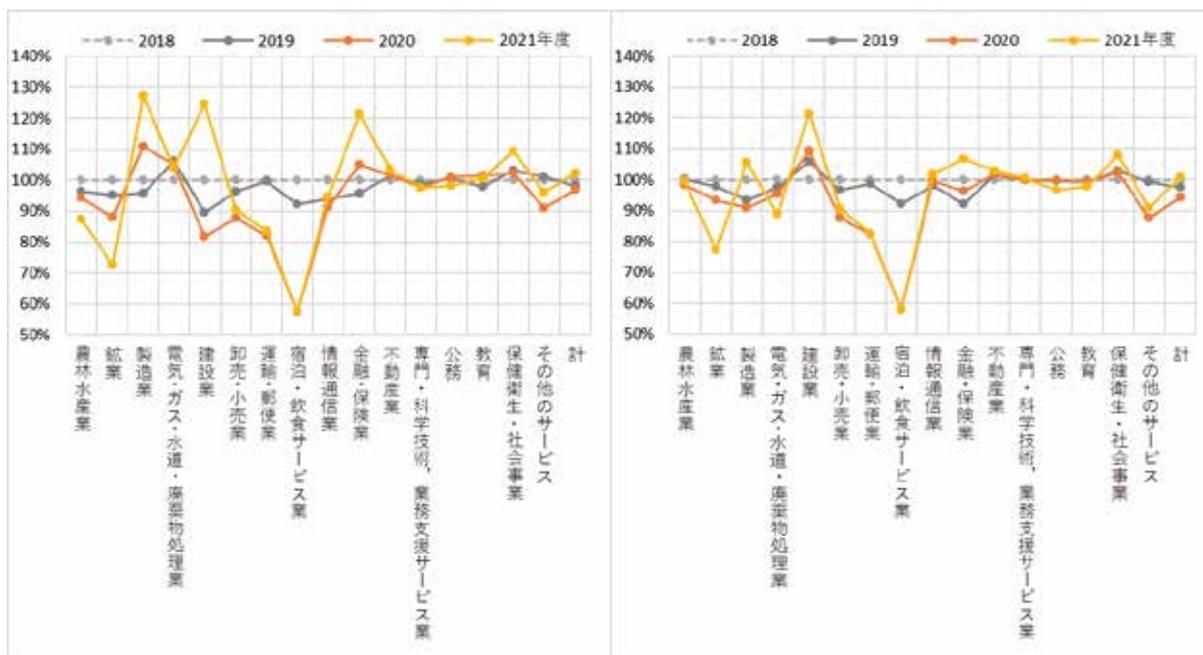
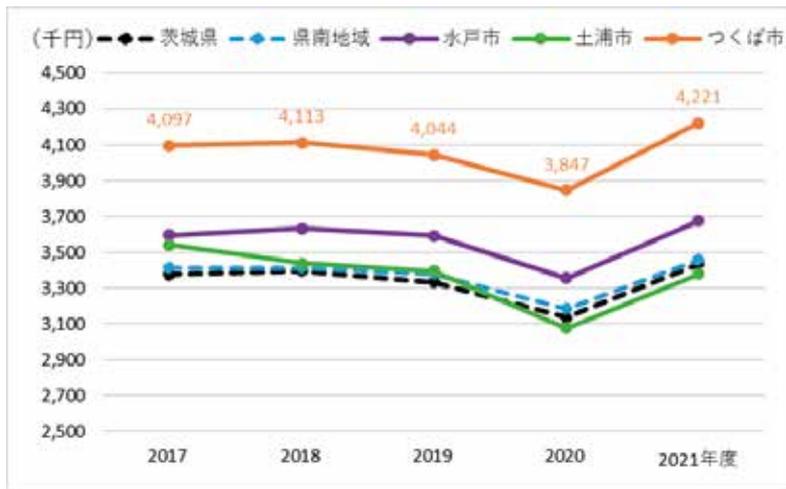


図 1-74 経済活動別市町村内総生産(実質:連鎖方式、実数)

出典:「茨城県市町村民経済計算」より作成

【一人あたり所得額】



【2018年度比】



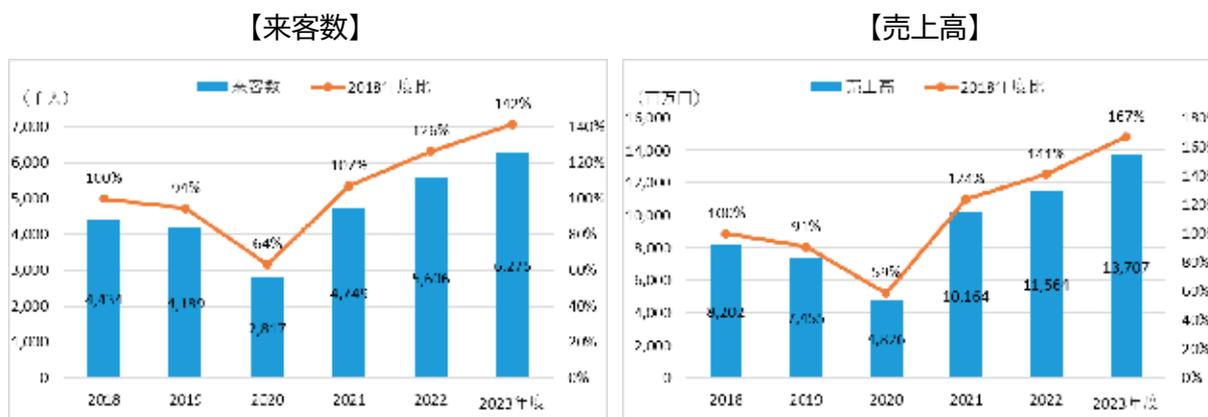
※市町村民所得は、生産活動で生み出された付加価値を、生産活動に参加した経済主体に分配したものです。1人当たり市町村民所得は、企業の利益なども含めた市町村民経済全体の所得水準を表しており、個人の給与や実収入の平均値ではありません。

出典：茨城県「茨城県市町村民経済計算」より作成

図 1-75 一人あたり市町村民所得の推移

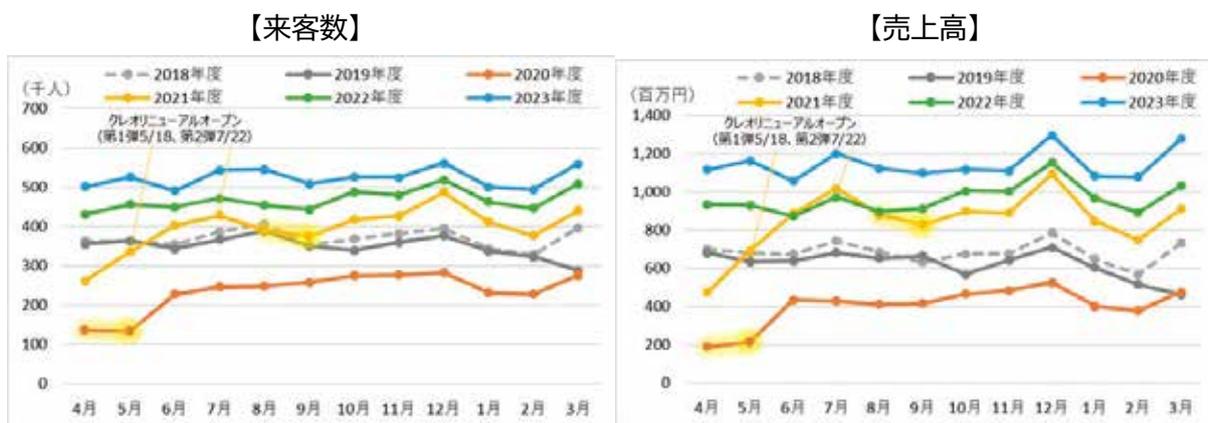
(2) 商業

2020年度のつくばセンター駅周辺の主要な商業施設*の来客数・売上高は、2018年度の約6割、4~5月は売上高は約3割、来客数は約4割まで減少しました。2021年度にクレオがリニューアルオープンし、全体としての来客数・売上高は大きく増加しています。



※来客数・売上高計はQ't、MOG、CREO、BiViつくばの合計

図 1-76 つくばセンター駅周辺商業施設の来客・売上の推移(年度別)



※Q't、MOG、CREO、BiViつくばの合計

※CREOはリニューアルのため2018/2/1～2021/5/18まで閉館

【営業状況】

Q't、MOG 時短営業: 2020/3/6～4/9一部店舗、4/10～6/7全館、2021/1/27～2/20飲食店

休館(生活必需品店舗等除く): 4/4、5、4/18～5/21

BiViつくば 時短営業: 2020/1/27～2/20、4/22～5/6、11/30～12/13、2021/1/8～20

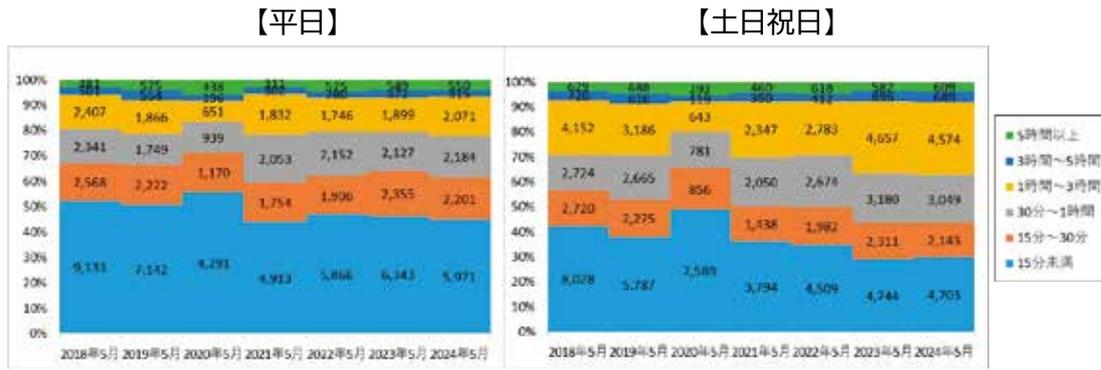
図 1-77 つくばセンター駅周辺商業施設の来客・売上の推移(月別)

出典: (株)日本エスコン、大和リース(株)資料

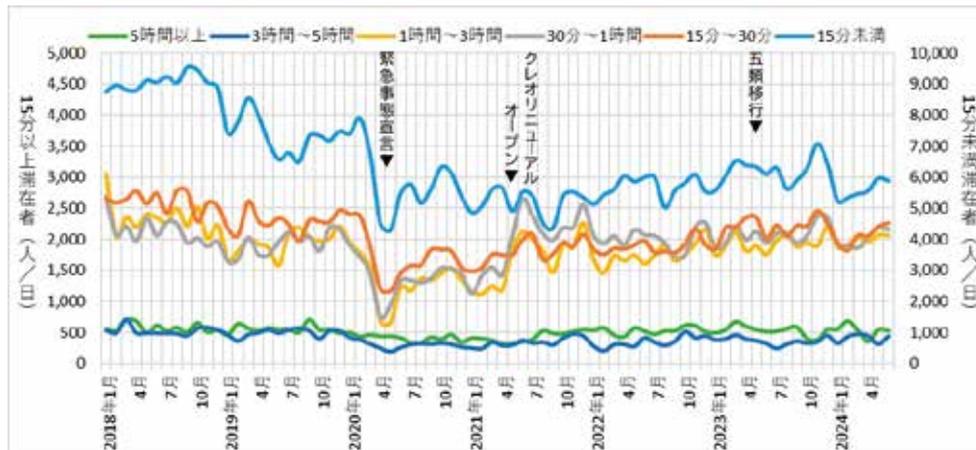
コラム つくば駅周辺来訪者の滞在時間の変化

つくば駅周辺の人流はコロナ禍前の水準には戻っていませんが、2021年5月にクレオがリニューアルオープンしたことで、来訪者の滞在時間には変化が見られました。

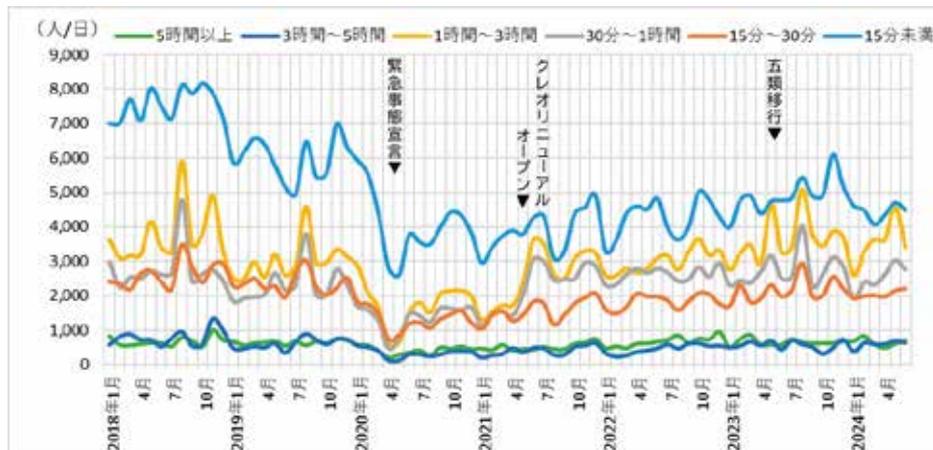
滞在時間15分未満の「通過者」はあまり増加しておらず、平日・休日とも2024年5月時点で2018年の約6割であるのに対し、15分以上の滞在者数は平日で約9割、休日はコロナ禍前と同程度まで回復しています。特に土日祝日は2022年後半から1時間以上の滞在者が増加しており、イベントの活発化が影響していると考えられます。



【平日】



【土日祝日】



※つくば駅南口の2街区(トナリエ、つくばセンタービルが立地する街区)内の居住者・勤務者を除く来訪者数。スマートフォン位置情報による拡大推計値。20歳未満、訪日外国人含まず。

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-78(参考)つくば駅周辺来訪者の滞在時間の変化(一日あたり平均・推計値)

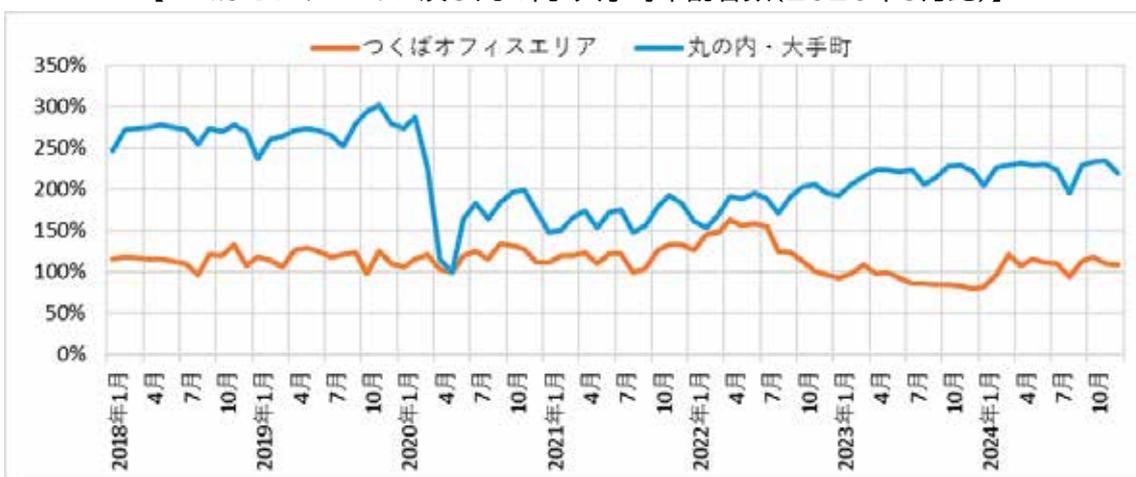
(3) オフィス

スマートフォンの位置情報に基づくつくば駅周辺のオフィスエリアの来訪者数は、2020年春や2021年夏の緊急事態宣言時等の感染拡大期に減少が見られましたが、都内のオフィス街ほど顕著な減少は見られませんでした。サンプル数が少ないこともあり、長期的な増減はテナントの入れ替わりなど個別要因の影響を大きく受けていると考えられますが、茨城県内は東京都内より行動制限が緩かったことや、密な空間となる電車に乗らずに通勤できる人が多いことなどが要因と考えられます。

【つくばオフィスエリア来訪者数】



【つくばオフィスエリア及び丸の内・大手町来訪者数(2020年5月比)】



※スマートフォン位置情報による拡大推計値。平日1時間以上滞在者。20歳未満、訪日外国人含まず。

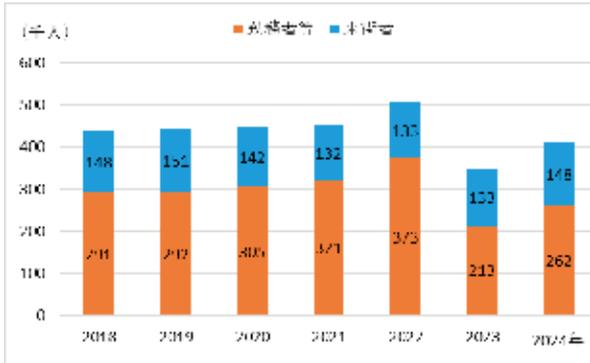
出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-79(参考)オフィスエリアの月別平日一日平均来訪者数(推計値)

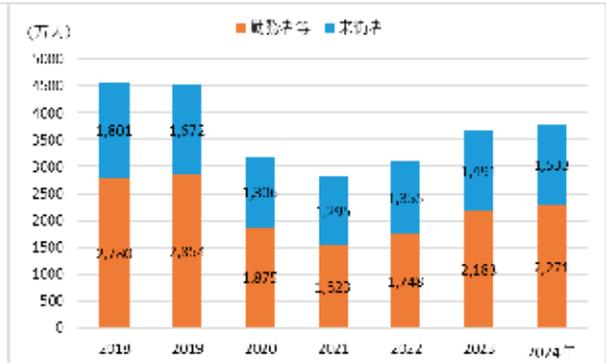


図 1-80 人流計測範囲

【つくばオフィスエリア年間来訪者数】



【大手町・丸の内内来訪者数】



【つくばオフィスエリア来訪者2019年比】

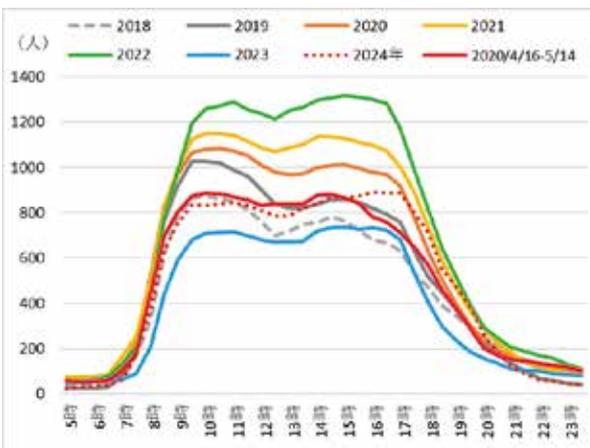


【大手町・丸の内内来訪者2019年比】



図 1-81(参考)オフィスエリアの平日年間来訪者数(推計値)

【つくばオフィスエリア年間来訪者数】



【大手町・丸の内内来訪者数】

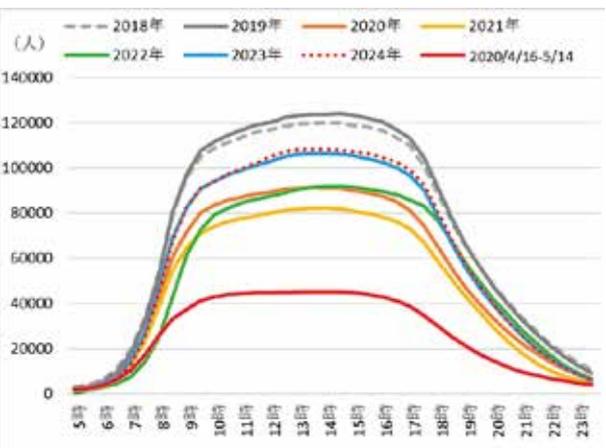


図 1-82(参考)オフィスエリアの平日時間帯別平均来訪者数(推計値)

※スマートフォン位置情報による拡大推計値。平日1時間以上滞在者。20歳未満、訪日外国人含まず。

※勤務者等は、来街者(当該エリア内が推定勤務地・居住地ではない人)以外

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

(4) 観光・交流

1) 観光客数

つくば市全体の観光客数は、2020年度は2018年度の約5割まで減少しましたが、筑波山の観光客は約7割と減少幅は少なく、緊急事態宣言あけは平年以上の人が訪れており、遠方への移動の自粛が呼びかけられていた期間は、身近な行楽地として多くの人々が訪れたことがうかがえます。しかしその後は回復が停滞しており、高齢者の団体旅行が増えていないことが影響している可能性が考えられます。

筑波山以外の観光客は、コロナ禍では約2割と大きく減少しましたが、イベントの再開とともに急速に回復し、2023年度はコロナ禍前の水準となっています。

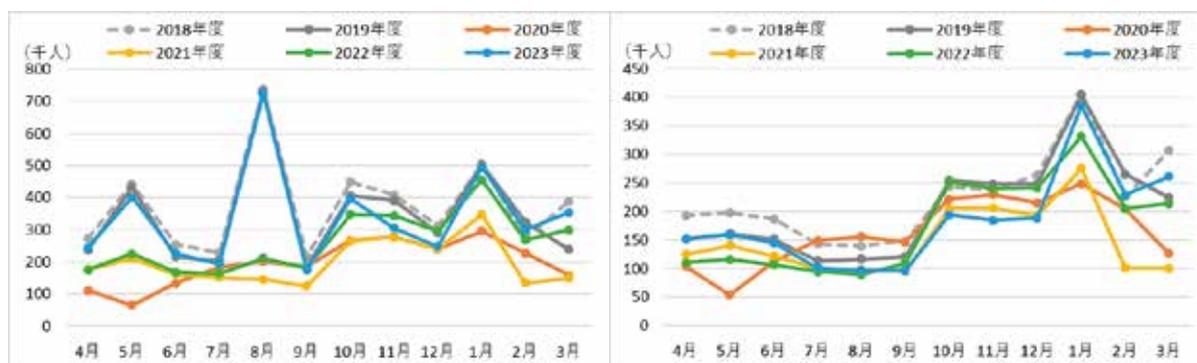


出典：つくば市観光推進課資料より作成

図 1-83 つくば市内観光入込客数(年度別)

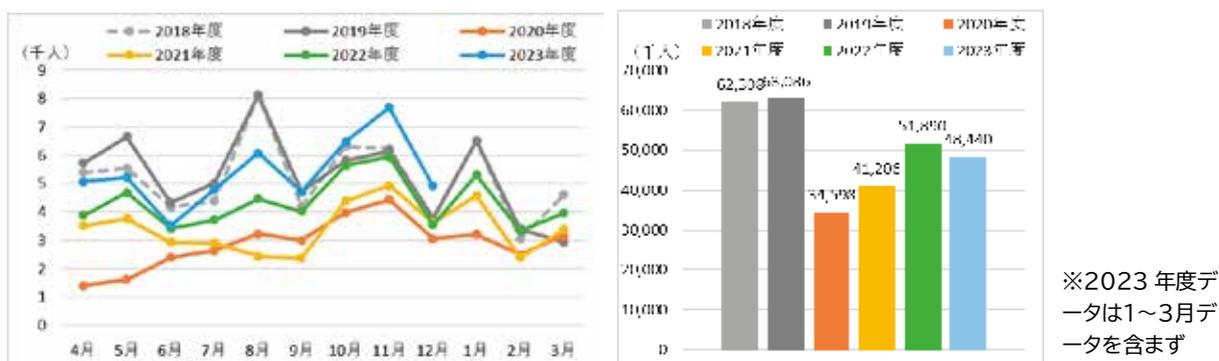
【つくば市全体】

【筑波山】



出典：つくば市観光推進課資料より作成

図 1-84 つくば市内観光入込客数(月別)



※2023年度データは1～3月データを含まず

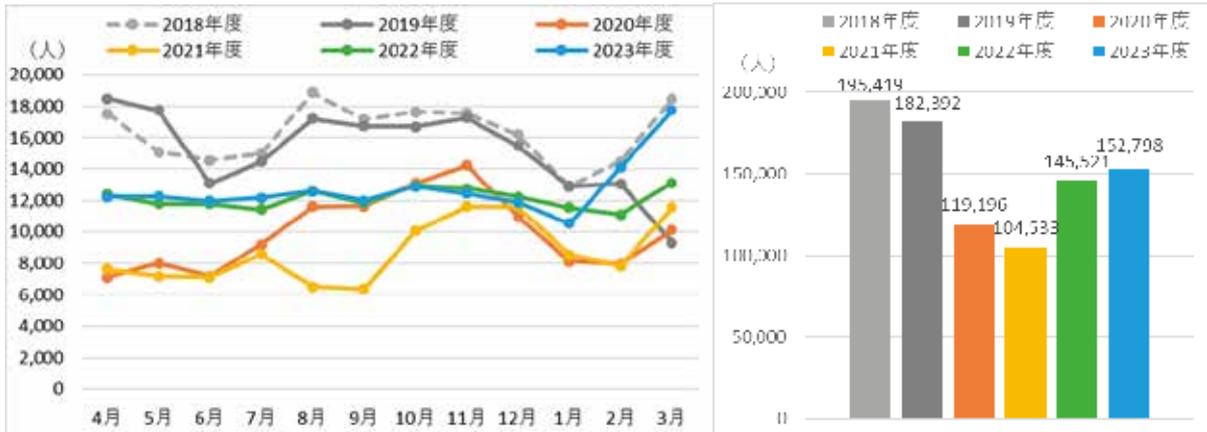
出典：茨城県「観光客動態調査報告」より作成

図 1-85(参考)茨城県内観光入込客数

2) 宿泊者数

つくばセンター地区の主要ホテルの宿泊者数の合計は2020年3月より大きく減少し、その後も緊急事態宣言期間中に顕著に減少し、一部のホテルは感染者の宿泊療養施設として利用されたほか、2021年1月から休業となりました。その他のホテルは、感染拡大期にもテレワーク用の日帰り利用も行われました。

2024年2月からは休業したホテルの営業も再開し、つくばセンター地区全体の宿泊者数は、平年並みに回復しています。



※一部ホテルデータには日帰り利用を含む

※2020年～2023年9月末は一部ホテルが県運営の感染者宿泊療養施設として軽症者・無症状者の受け入れを実施。また、2021年1月～2024年1月まで休業。

出典: ホテル日航つくば、ホテルJAL CITYつくば、ダイワロイネットホテル資料より作成

図 1-86 つくばセンター地区の主なホテルの宿泊者数

【参考】コロナ禍以降の全国の観光・宿泊に係る動向

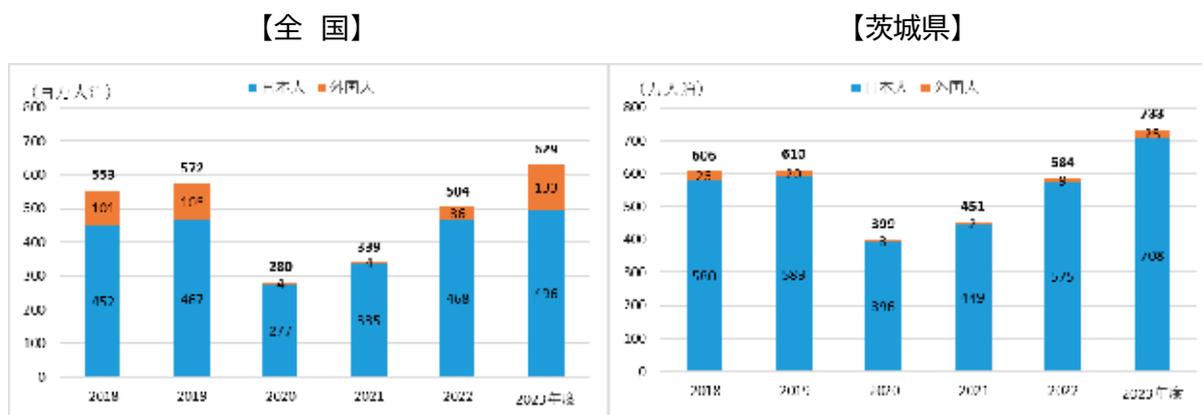


図 1-87 延べ宿泊者数の推移(年度別)

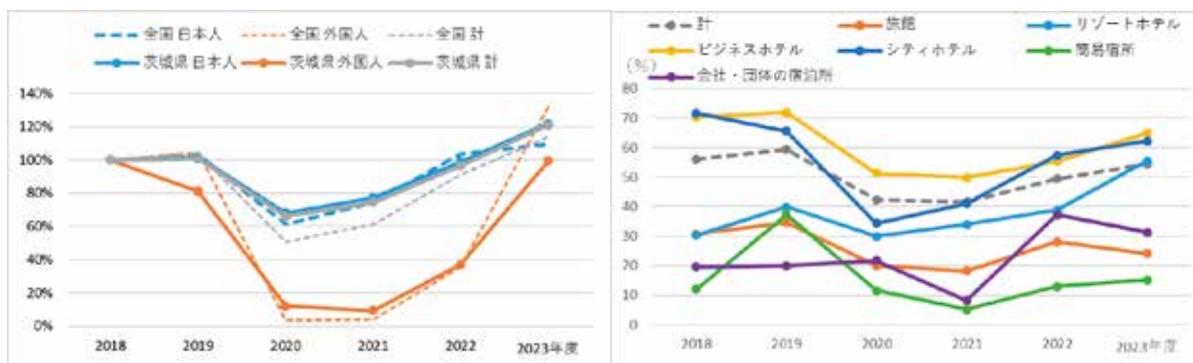


図 1-88 茨城県内延べ宿泊者数の推移(2018 年度比)

図 1-89 茨城県内の客室稼働率

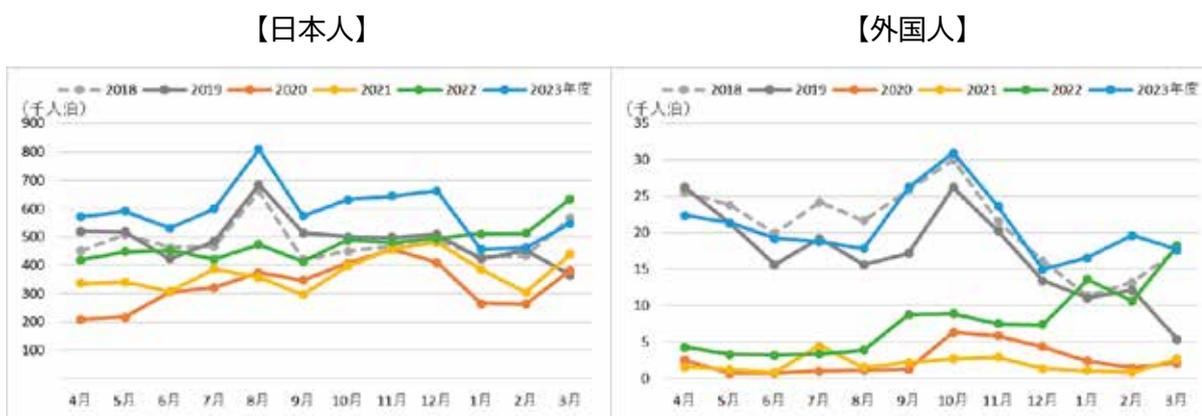


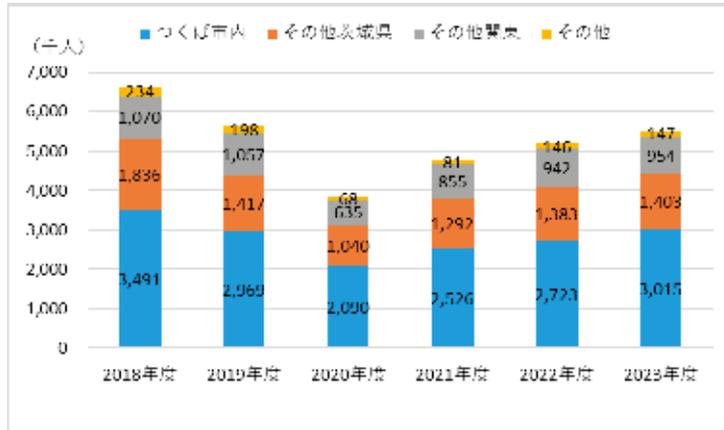
図 1-90 茨城県内延べ宿泊者数の推移(月別)

出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

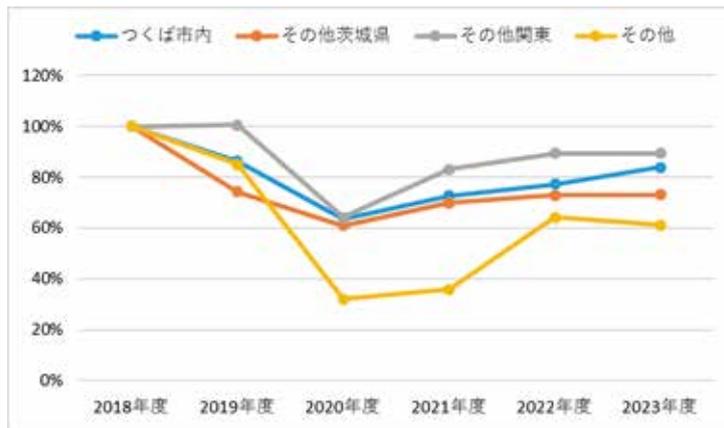
コラム つくば駅周辺来訪者の変化

つくば駅周辺の来訪者数は、2020年度・2021年度までは遠方からの来訪者は大きく減少し、2023年度時点でも2018年度の約6割に留まっています。

休日の来訪者数は今後も増加の兆しが見られますが、平日の市外からの来訪者数は横ばいとなっています。



【平日・2018年度比】



【土日祝日・2018年度比】



※つくば駅南口の2街区(トナリエ、つくばセンタービルが立地する街区)の来訪者数。スマートフォン位置情報による拡大推計値。20歳未満、訪日外国人含まず。

出典:技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

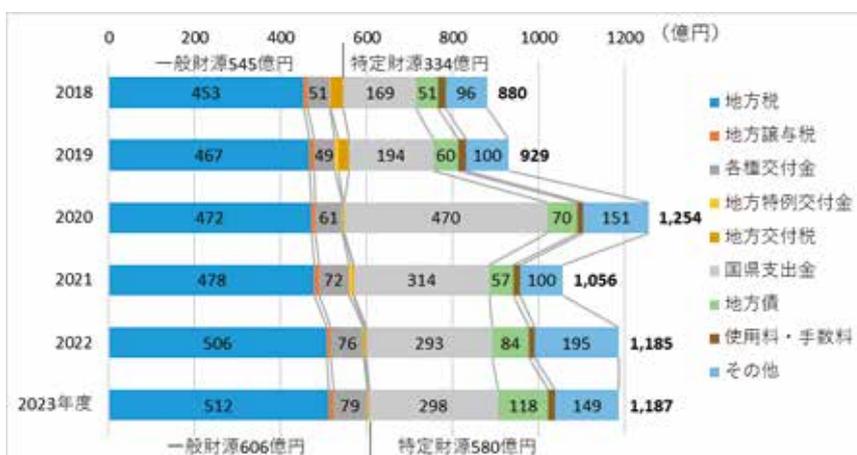
図 1-91(参考)つくば駅周辺来訪者数の居住地別推移(推計値)

(5) 市財政

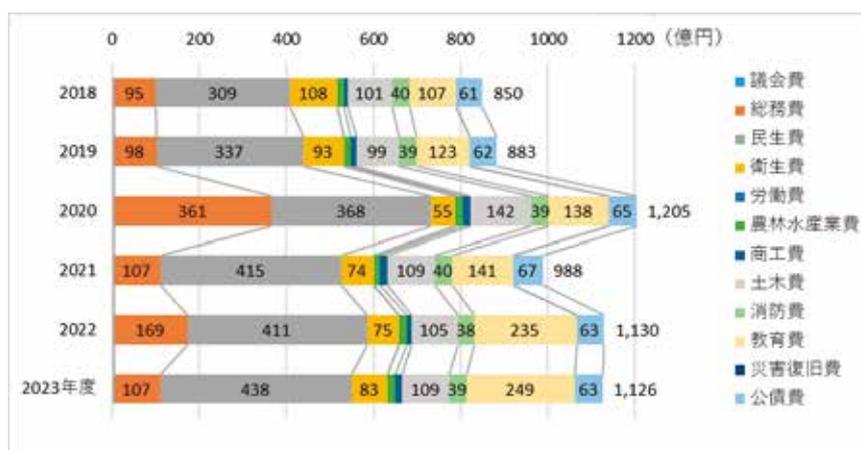
コロナ禍が急拡大した2020年度のつくば市の歳出は、コロナ禍に伴う給付金事業が大きな要因となり総務費が例年より約250億円の増加となりました。2021年度以降は極端に突出した支出はなくなりましたが、民生費や教育費をはじめ各費目とも増加し、2023年度の歳出は2018年度の約1.5倍と大きく増加しています。学校建設など市の大規模事業のタイミングと重なったことでもあります。国庫支出金等の特定財源が増加しており、国等の事業が増加していることが大きな要因となっています。

つくば市の市税収入は、大半を占める個人市民税や固定資産税は人口増加にも支えられ堅調に増加しています。法人市民税は、2020年度は税制改正により税率が引き下げられたタイミングと重なっておりコロナ禍の影響は量りにくいですが、茨城県内の市町村と比べると影響は少なかったことがうかがえます。

【歳入】



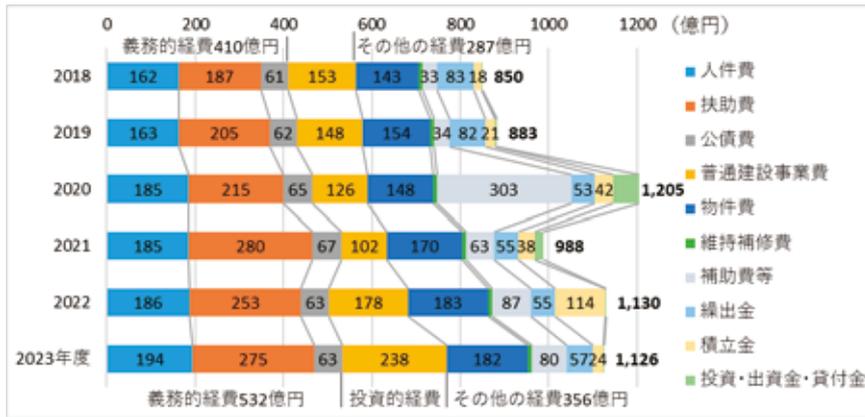
【歳出(目的別)】



出典：茨城県 市町村財政状況資料集より作成

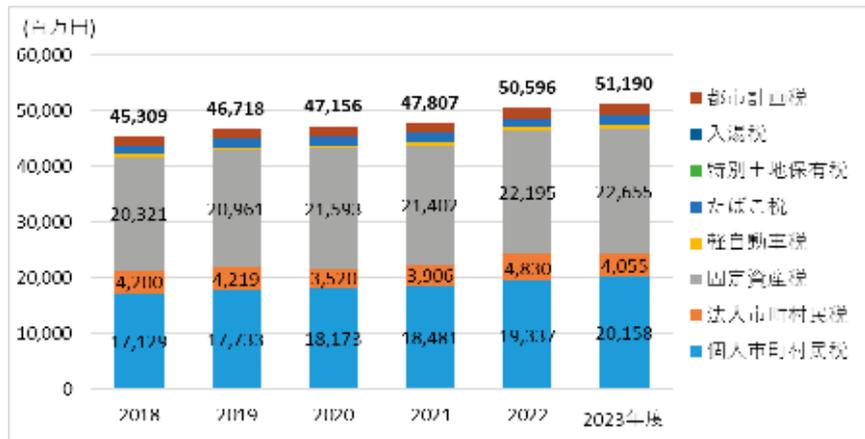
図 1-92 つくば市 一般会計歳入・歳出の推移①

【歳出(性質別)】

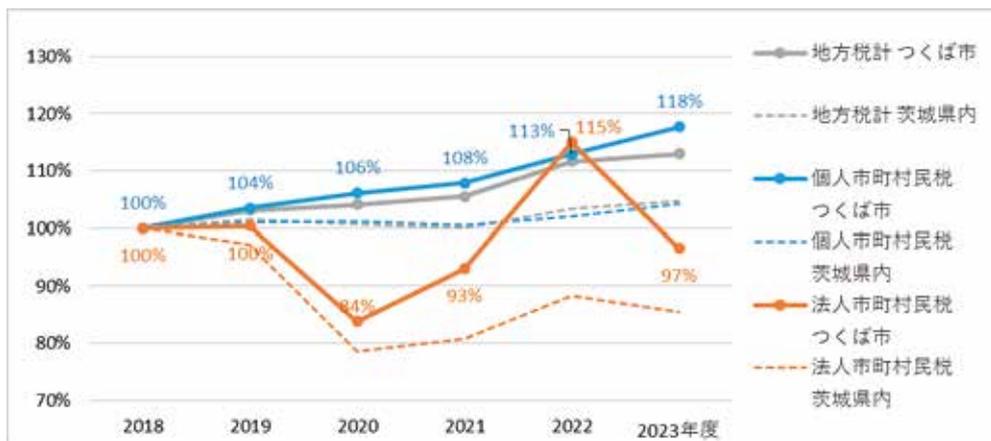


出典:茨城県 市町村財政状況資料集より作成

図 1-93 つくば市 一般会計歳入・歳出の推移②



【2018年度比】



出典:つくば市決算カードより作成

図 1-94 つくば市 市税収入の推移

2-5 研究・教育

(1) 研究活動

研究・教育機関においては、2020年度～2021年度に、研究発表数や図書館の利用状況などでコロナ禍の影響が顕著に見られました。共同研究や受託研究における影響は、件数からは量りかねますが、研究・教育機関及び研究者へのアンケート(p78、p85)では、共同研究や産学連携への影響もあったことがうかがえます。

同アンケートでは、共用研究施設等の利用に関する支障も挙げられました。高エネルギー加速器研究機構においては、施設利用件数は2020年度はやや減少し2021年度以降は平年並みに戻っていますが、共同研究者等受入数は大きく減少して以降、コロナ禍前の水準には至っていません。

筑波大学においては、2022年3月まで原則リモート授業による対応が行われたほか、学内施設の利用制限や施設利用時間の短縮等が行われました。2023年度以降はほぼ正常化していますが、従来は平日24時まで利用できた図書館の開館時間は22時までになり、利用者数もコロナ禍前の6割程度に留まっています。

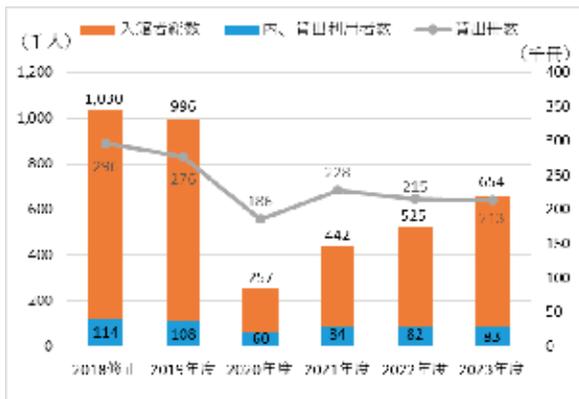


出典：産業技術総合研究所「産総研レポート」「産業技術総合研究所年報」より作成
図1-95 産業技術総合研究所活動実績

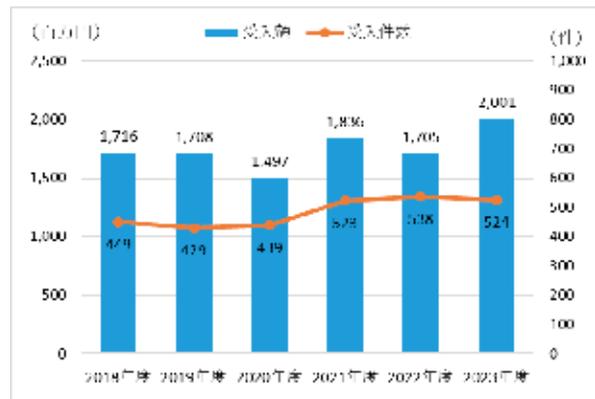


提供 高エネルギー加速器研究機構
図1-96 高エネルギー加速器研究機構活動実績

【筑波大附属図書館利用状況】

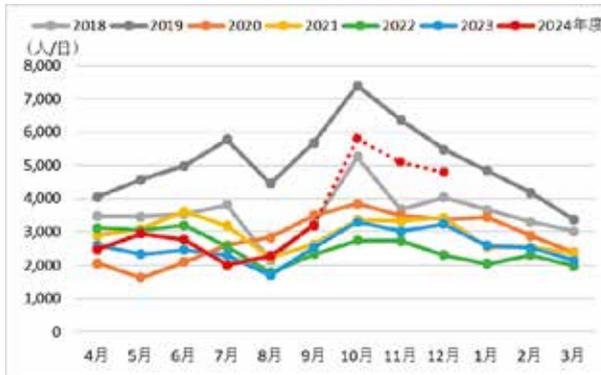


【国内民間共同研究受入額】

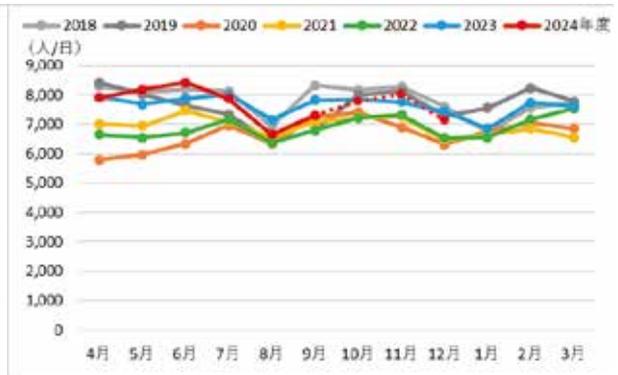


出典:筑波大学「地図とデータで見る筑波大学」リーフレットより作成
図 1-97 筑波大学活動状況

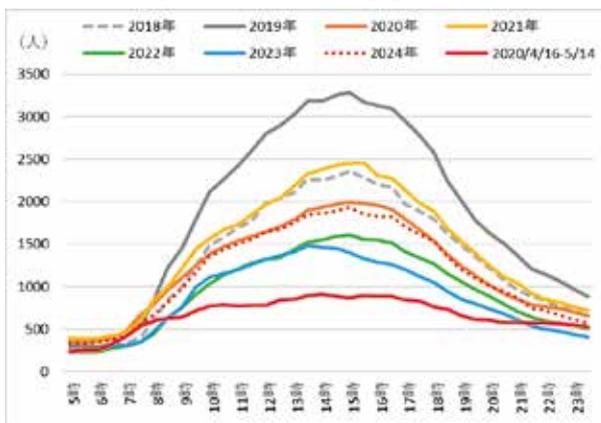
【平日・20代(月別)】



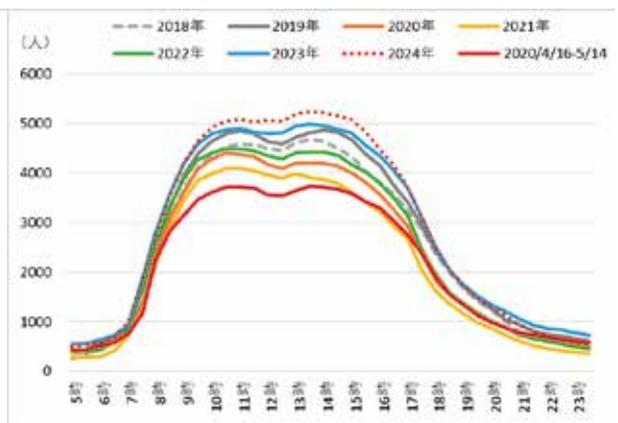
【平日・30代以上(月別)】



【平日・20代(月別)】



【平日・30代以上(月別)】



※スマートフォン位置情報による拡大推計値(1時間以上滞在者。春日エリア含まず)。20歳未満、訪日外国人含まず。

出典:技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

図 1-98(参考)筑波大学来訪者数(一日平均・推計値)

コラム 研究・教育機関におけるコロナ禍の活動実態

筑波研究学園都市内の研究・教育機関及びその従業者を対象に行ったアンケートによると、強く外出抑制が呼びかけられた最初の緊急事態宣言下でも、つくばの研究機関等は比較的出勤する人が多かったようです。

これは、研究活動の継続のために必要であったこともありますが、つくば周辺に住み電車に乗らずに通える人が多かったこと、研究所が広くゆとりのある環境であるため密を避けて仕事がしやすかったことも要因となったようです。

新型コロナウイルス感染症の五類移行後、研究者の出勤日数はほぼ週4～5日に戻っていますが、来客や懇親会などはコロナ禍前に比べ減少しており、外食に出ることが減ったという声も多くありました。

【調査概要】

調査対象：筑波研究学園都市交流協議会会員事業所のうち、大学・研究所もしくは研修施設としての機能をもつ45機関
 調査時期：2024年9月
 調査主体：(財)つくば都市交通センター
 回答数：事業所調査9件(20%)
 従業者調査35件

【出勤に係る対応】



【事業所の全体的な出勤率】

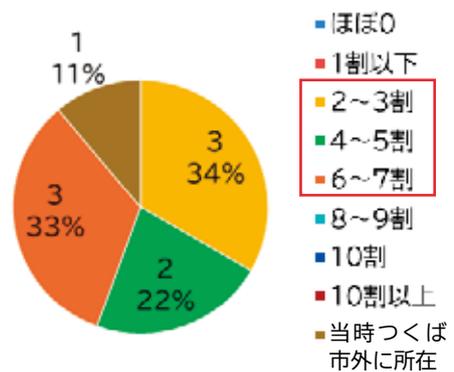
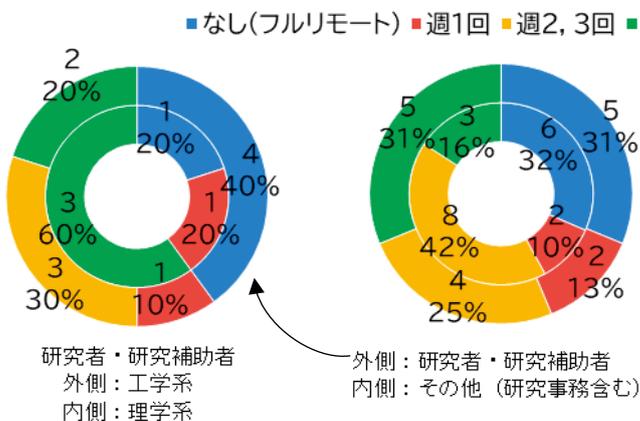


図 1-99 最初の緊急事態宣言期間中(2020年4～5月)の状況(事業所調査)

【緊急事態宣言期間中(2020年4～5月)】



【現在(2024年9月)】

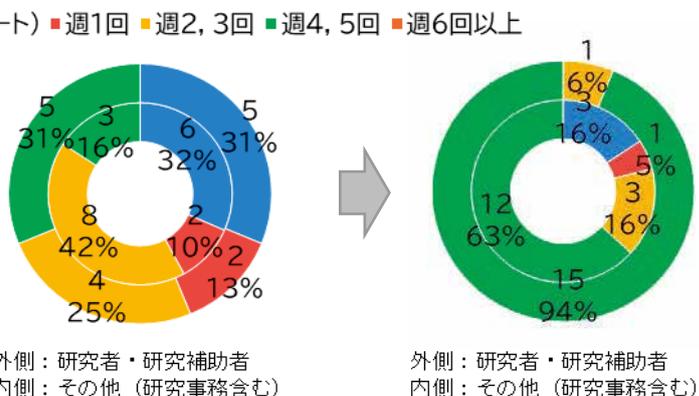


図 1-100 出勤頻度(従業者調査)

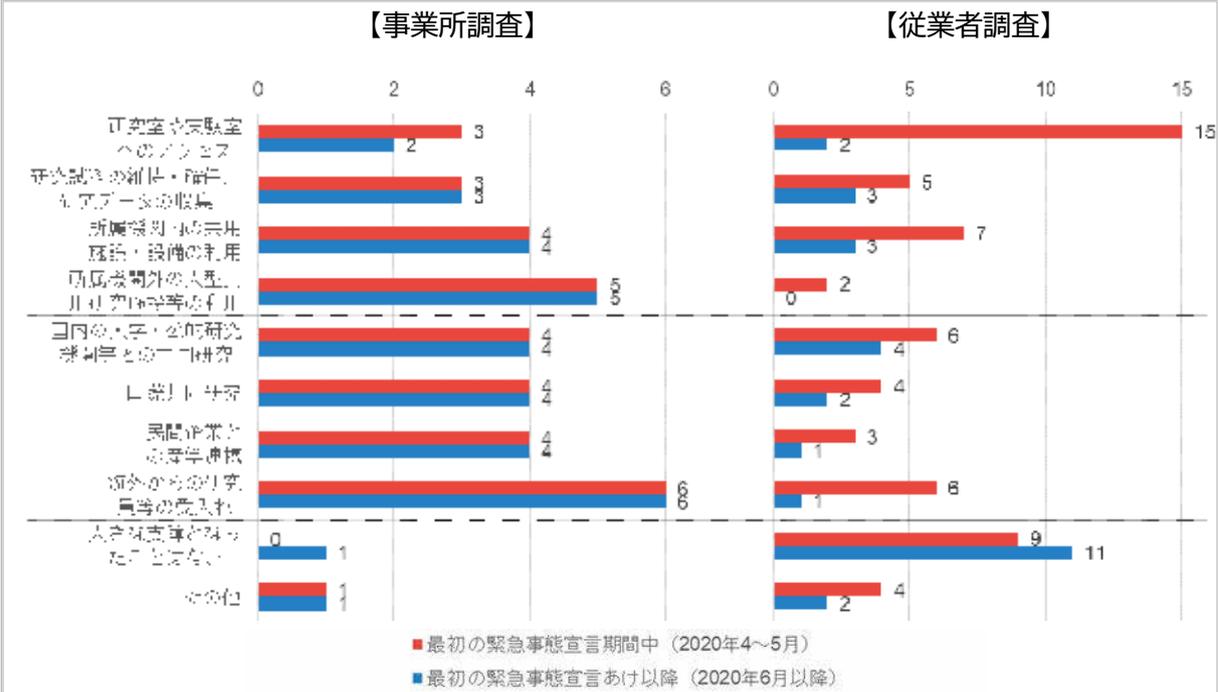


図 1-101 業務上大きな支障となったこと

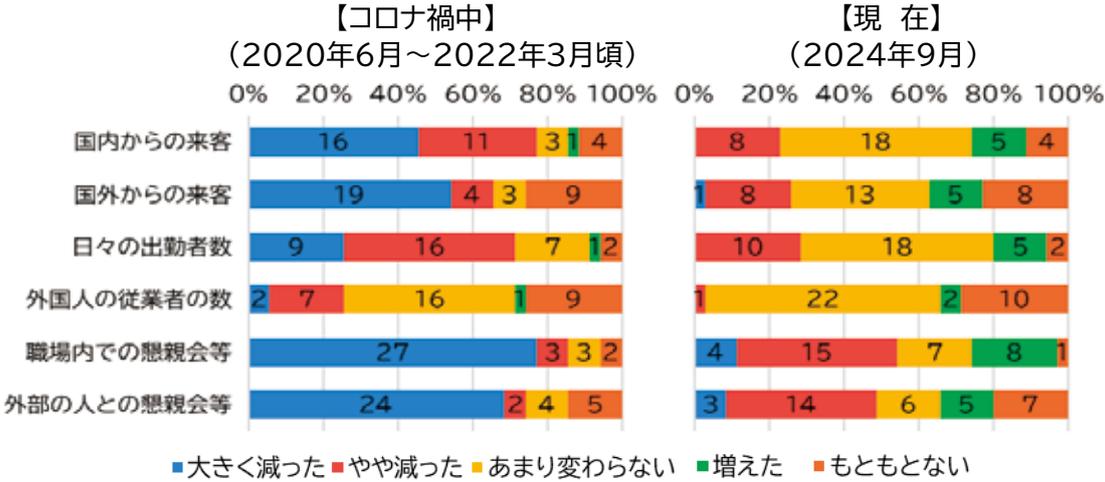


図 1-102 コロナ禍前と比べた人の往来や交流(従業員調査)

表 1-9 事業所が筑波研究学園都市にあったことによるプラス点・マイナス点
コロナ禍を契機に気づいた筑波研究学園都市のメリット・デメリット

<p>【プラスだった点・気づいたメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人混みが少なく、外を出歩くことや感染に気を遣わずに済んだ 里山歩きなど、感染リスクの少ない娯楽がある 公共交通を使わなくても通勤や移動が可能 電車が比較的すいている、ラッシュと逆方向 公共施設は利用できなくなったが、職場にグラウンドやテニスコート等がありリフレッシュできた 医療機関が多い 	<p>【マイナスとなった点・気づいたデメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都内との行き来が減った 研究学園都市といいながらリモートワーク等に必要なインフラが他地域より充実しているわけではなかった 研究所と駅を結ぶ会社のバスが密になる 通勤に時間がかかりすぎる(一度在宅勤務を知ると長い通勤時間(特に駅からのバス)が非合理的に思える)
--	--

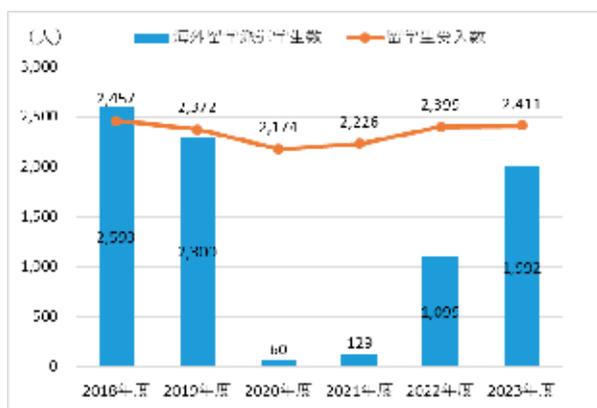
(2) 交流活動

コロナ禍においては、水際対策のため海外との往来が強く制限されたことから、研究・教育に係る海外との人的な交流には大きな影響がみられました。

筑波大学の留学派遣学生数は2020～2021年度は例年の1割以下となり、留学生の受入れも2020年度秋学期は非正規生は中止となりました。産業技術総合研究所においても、職員以外の研究員、研修生の外国人受入れ数が大きく減少、2022年度以降徐々に回復していますが、2023年度時点ではコロナ禍前の水準には至っていません。

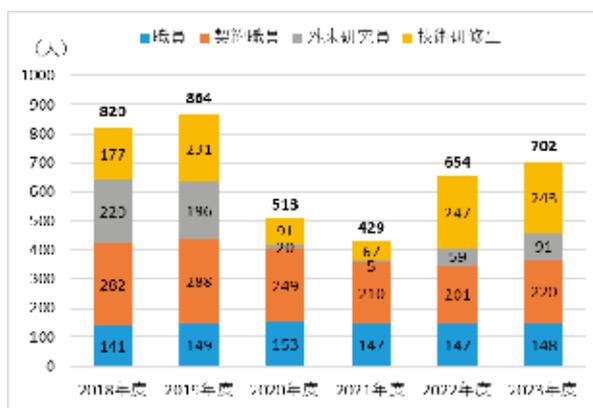
国際会議についても、2020～2021年度は全国的にほぼ中止となりました。2022年度以降は回復し、つくば国際会議場においては開催件数、海外からの参加者数ともにコロナ禍前以上となっていますが、会場とオンラインとの併用開催が定着し、開催規模は縮小傾向となっています。

また、筑波研究学園都市周辺で行われている科学技術関連のセミナー等においては、2020年3月から既にオンライン開催が見られるようになり、2022年度以降は会場開催が増加しましたが、オンラインのみの開催も引き続き多く行われています。



※各年5月1日時点。派遣学生数は当該年度中、前年度からの継続者含む。
出典:筑波大学「地図とデータで見る筑波大学」リーフレットより作成

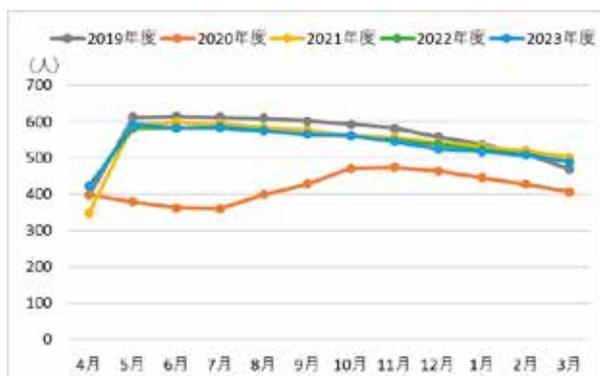
図 1-103 筑波大学 留学生受入・派遣状況



出典:産業技術総合研究所「産総研レポート」より作成

図 1-104 産業技術総合研究所 外国人受入実績

【日本人】



※住民基本台帳(住民票)データ(各月1日時点)

【外国人】



出典:つくば市「行政区別人口表」より作成

図 1-105 筑波大学宿舍居住者の推移



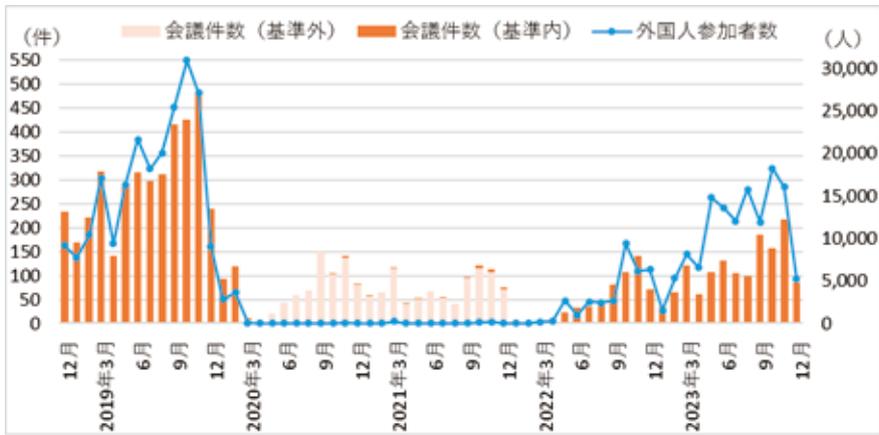
コロナ禍による休館:2020年度71日間 2021年度36日間
出典:つくば国際会議場資料より作成

図 1-106 つくば国際会議場国際会議開催状況



※年次集計
出典:日本政府観光局「国際会議統計」より作成

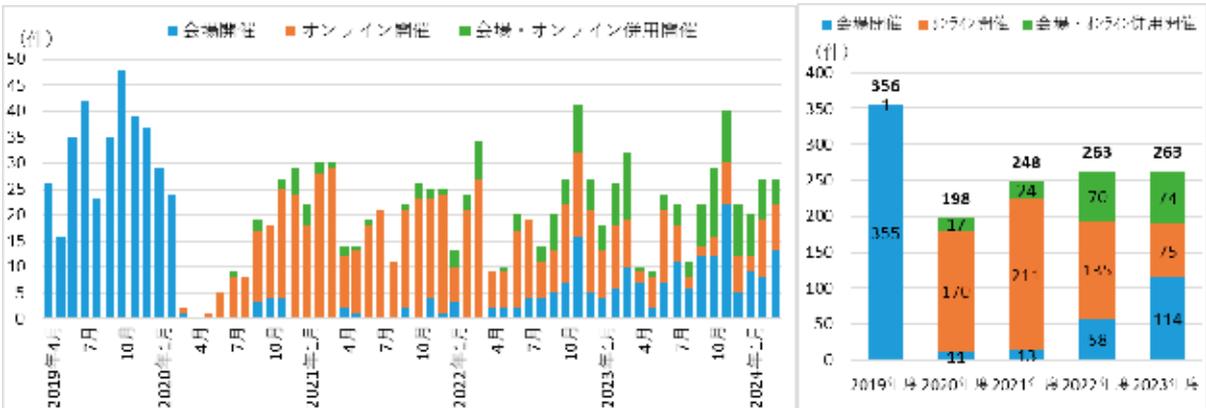
図 1-107 国内の国際会議開催状況



※基準外会議:日本政府観光局が収集した国際会議情報の内、リモート開催等のため、国際会議統計が対象とする定量基準(参加者50名以上、参加国数3居住国・地域以上)を満たさないもの、参加者が会場出席していれば条件を満たしていたもの。2020年、2021年のみ計測。

出典:日本政府観光局「国際会議統計」より作成

図 1-108 国内の国際会議開催数・外国人参加者数の推移



※つくば研究支援センターHPのイベント告知ページに掲載されたイベント(科学技術関連のセミナー、発表会、講演会等)件数を集計(最終的な開催の有無は情報提供があったもの以外は未確認)。つくば市外のイベントを含む。

出典:つくば研究支援センターHP掲載情報より作成

図 1-109 筑波研究学園都市 研究関連イベント開催数

(3) 創業活動

筑波大学発ベンチャー企業設立数は、2021年は例年に比べ少なく、翌2022年にはその反動もあって大きく増加しており、コロナ禍が会社設立のブレーキとなったと考えられます。2023年以降も年間20社程度が設立されており、コロナ禍前より起業活動は活発化していることがうかがえます。

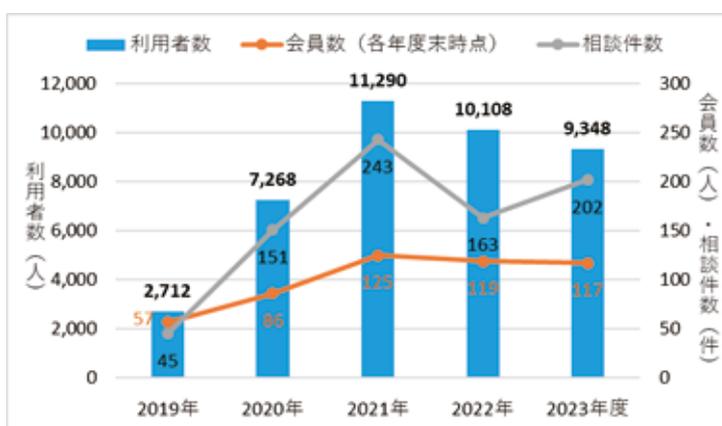
インキュベーション施設「つくばスタートアップパーク」は、2019年に開設されましたが、コロナ禍においても順調に利用を伸ばしており、起業者の活動に大きな影響はなかったと考えられます。



※各年5月1日時点

出典：筑波大学「地図とデータで見る筑波大学リーフレット」より作成

図 1-110 筑波大学発ベンチャー企業設立数(累計)



※つくばスタートアップパークは、2019年10月開設

利用者数は、会員利用数(指定席、自由席、ドロップイン)、イベント参加者数、会議室利用(会員除く利用者)、来訪者数、相談関係来訪者数の合計(カフェ利用含まず)

出典：つくば市スタートアップ推進室資料より作成

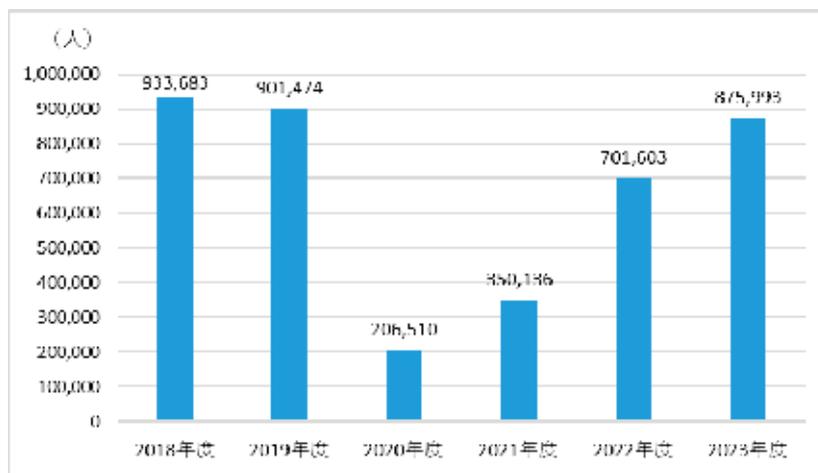
図 1-111 つくばスタートアップパーク利用状況

(4) 普及活動

感染拡大期は研究機関の見学施設の休館もあり、2020年度のつくばサイエンスツアー協力研究機関の見学者は2018年度の約2割、子ども向けのスタンプラリー「つくばちびっ子博士」は中止となりました。

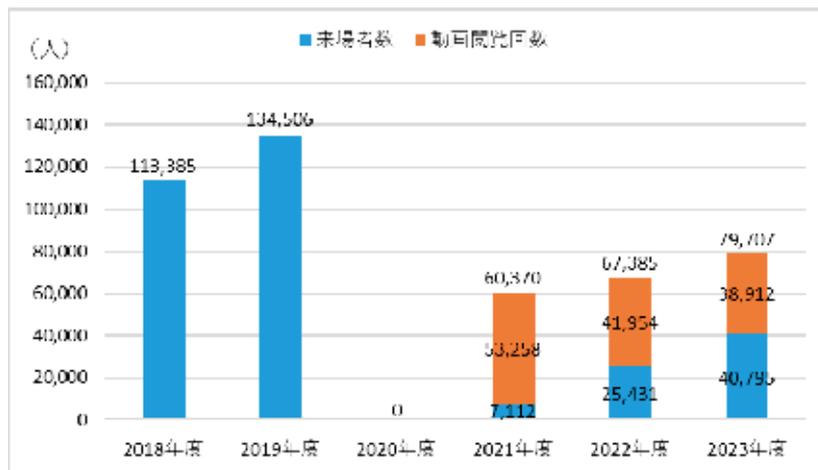
科学をテーマとした講座等はコロナ禍の前に比べ参加者は少ない数に留まっていますが、つくばサイエンスツアーは、遠方への外出が抑制された期間、県内へのPRを強化した効果もあり、見学者数は大きく回復しています。また、つくばちびっ子博士は2021年度より導入したクイズラリー形式が定着するなど、コロナ禍が運営等を見直す転機になった取り組みもあったようです。2023年度は、新たにつくば市立学校児童生徒を対象にデジタルスタンプラリーを実証的に導入し、事業のデジタル化にも着手しています。

【つくばサイエンスツアー協力研究機関等見学者数】



出典：(一財)茨城県科学技術振興財団「事業報告」より作成

【つくばちびっ子博士参加者数】



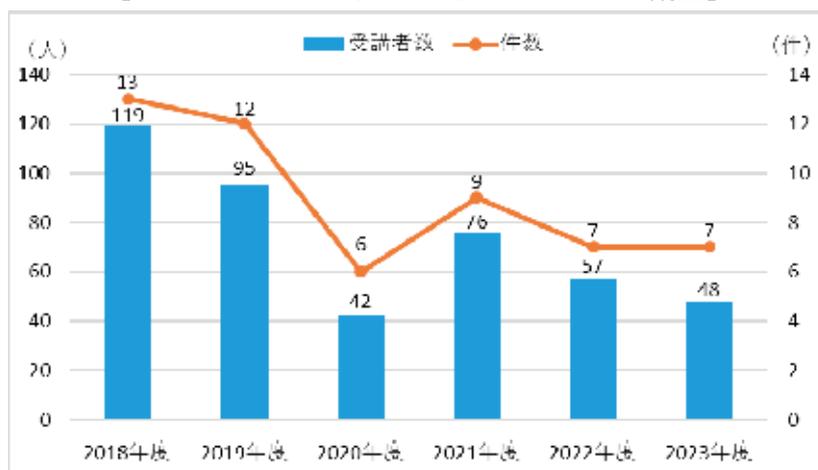
※つくばちびっ子博士：つくば市内の研究機関などをスタンプラリー形式(2021年度からはクイズラリー形式)でまわる科学教育イベント。

※2021年度は7/17～8/31の期間の内、7/30～8/31はまん延防止等重点措置等のため現地見学休止。動画は期間を9/12まで延長。

出典：つくば市教育局生涯学習推進課資料より作成

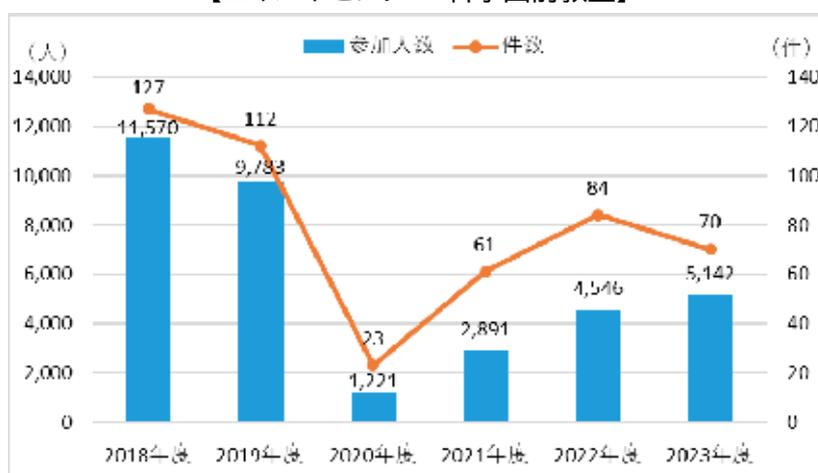
図 1-112 研究機関見学者等

【エキスポセンター 大人のためのサイエンス講座】



出典:公益財団法人つくば科学万博記念財団資料より作成

【エキスポセンター 科学出前教室】



出典:公益財団法人つくば科学万博記念財団資料より作成

図 1-113 科学講座等

資料

コロナ禍における筑波研究学園都市の
研究・教育活動に係る調査

(1) 調査概要

都市活動実態調査のデータでは把握しきれない、コロナ禍における研究・教育活動の実態について把握するため、筑波研究学園都市の大学・研究機関及びその従業者へのアンケート調査を実施しました。

調査対象：筑波研究学園都市交流協議会会員事業所のうち、

大学・研究所もしくは研修施設としての機能をもつ 45 機関

調査方法：筑波研究学園都市交流協議会メーリングリストにより対象事業所へ送付

回答方法：アンケート票(Excel)のメールによる返送もしくは web による回答

調査期間：2024 年 9 月 9 日(月)～2024 年 10 月 11 日(金)

回答数：事業所調査 9 件 (20%)、従業者調査 35 件

■調査対象

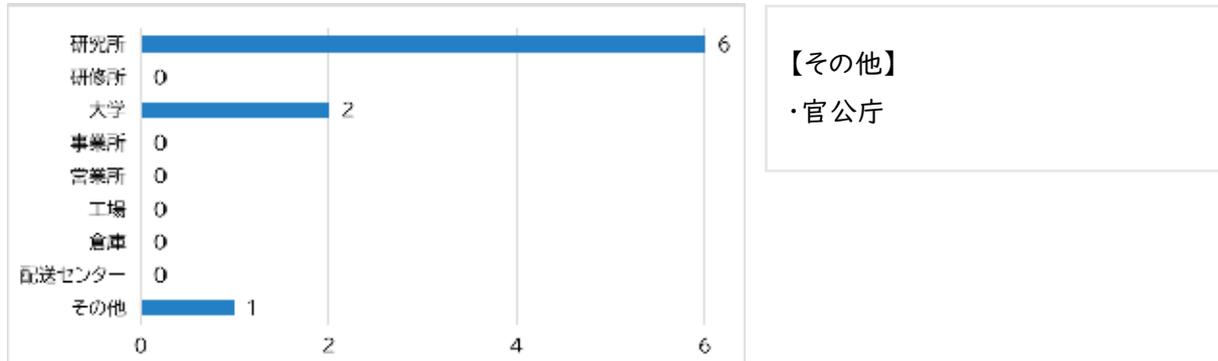
No.	事業所名	No.	事業所名
1	独立行政法人 国立公文書館つくば分館	24	国立研究開発法人 土木研究所
2	独立行政法人 国際協力機構 筑波センター	25	国立研究開発法人 建築研究所
3	独立行政法人 国立科学博物館筑波地区	26	国立研究開発法人 国立環境研究所
4	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	27	一般財団法人 日本自動車研究所
5	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	28	公益財団法人 日本農業研究所実験農場
6	独立行政法人 教職員支援機構	29	一般財団法人 ベターリビングつくば建築試験研究センター
7	国立研究開発法人 理化学研究所筑波キャンパス	30	一般財団法人 リモート・センシング技術センターつくば事業所
8	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター	31	全農飼料畜産中央研究所
9	国立大学法人 筑波大学	32	アステラス製薬株式会社つくば研究センター
10	国立大学法人 筑波技術大学	33	安藤ハザマ技術研究所
11	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構	34	エーザイ株式会社筑波研究所
12	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所	35	NTTアクセスサービスシステム研究所
13	農林水産研修所つくば館	36	応用地質株式会社
14	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	37	株式会社奥村組技術研究所
15	国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター	38	株式会社熊谷組技術研究所
16	国立研究開発法人 森林研究・整備機構	39	株式会社クラレつくば研究センター
17	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	40	JSR株式会社筑波研究所
18	国土交通省 国土技術政策総合研究所	41	株式会社長大総合研究所
19	国土交通省 国土地理院	42	戸田建設株式会社技術研究所
20	気象庁 気象測器検定試験センター	43	株式会社フジキン万博記念つくば先端事業所
21	気象庁 気象研究所	44	ホソカワ受託加工株式会社
22	気象庁 高層気象台	45	保土谷化学工業株式会社筑波研究所
23	気象庁 数値予報開発センター		

(2) 事業所調査結果

1) 事業内容等

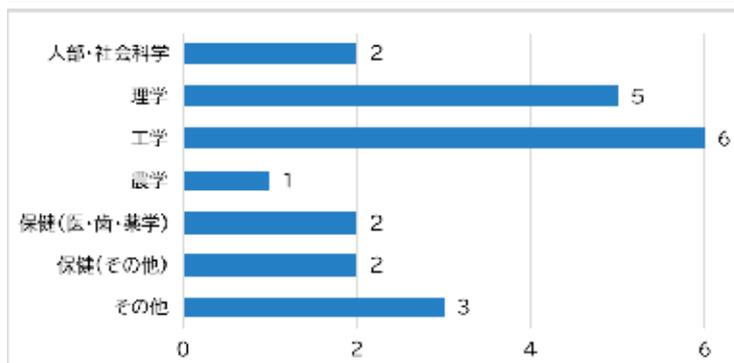
① 事業所の形態

9 事業所から回答を得た。研究所からの回答が最も多い。



② 事業所の研究分野、事業分野(複数選択可)

工学分野、理学分野の事業所からの回答が多い。

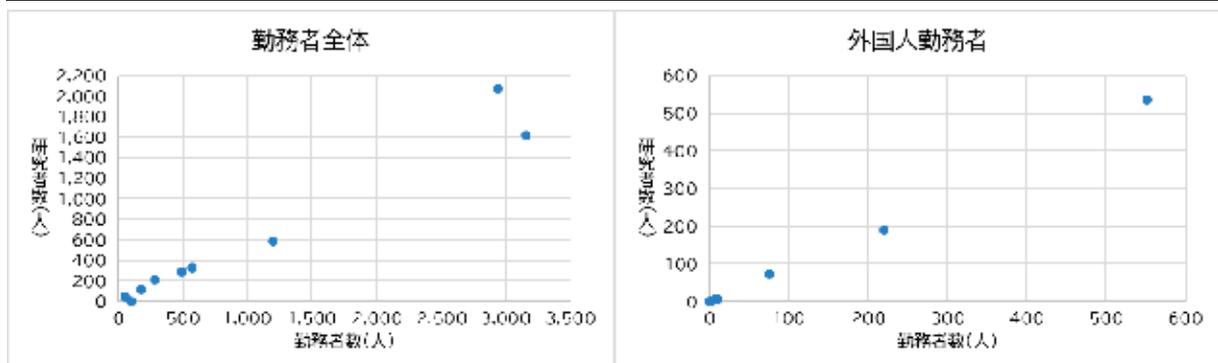


2) 事業所の勤務者数

① 勤務者数、研究者数

勤務者数 100 人以下から 3,000 人以上まで、様々な規模の事業所より回答を得た。

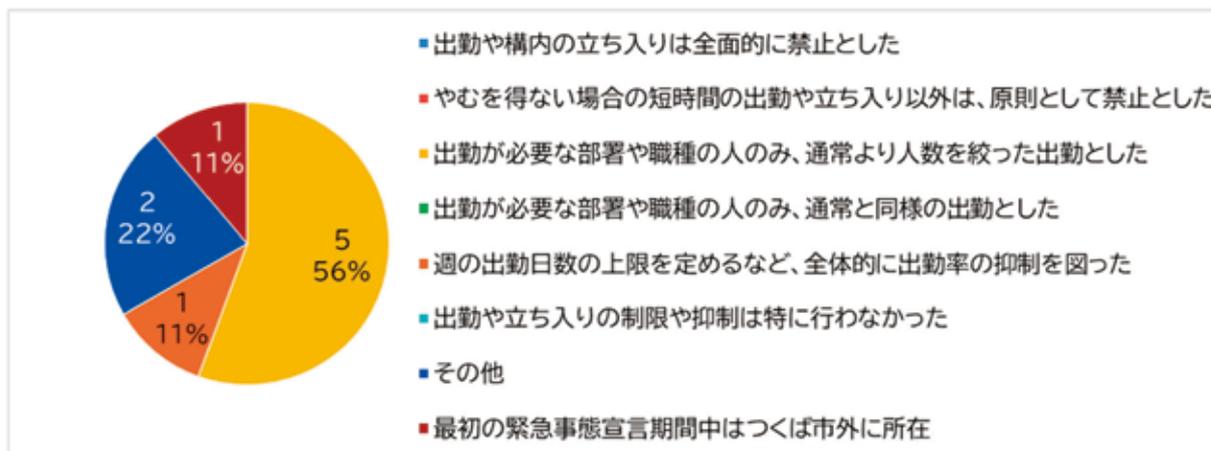
ほとんどの事業所に研究者が在籍しており、研究者数は 100 人以下の事業所もあれば 2,000 名以上の事業所もある。また、外国人勤務者のほとんどは研究者であった。



3) 最初の緊急事態宣言期間中の勤務者の活動の制約

①最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）の出勤に係る対応

出勤が必要な部署や職種の人のみ、通常より人数を絞った出勤とした事業所が最も多く、半数以上を占める。



【その他】

- ・ 東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県からの通勤者、公共交通機関を利用している通勤者については原則在宅勤務。それ以外の職員は2つのグループに分割し、交代制で勤務。
- ・ 育児支援室や居室等を利用した子連れ出勤を認めた。

②コロナ禍前と比較した最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）の事業所の全体的な出勤率

出勤率が5割以下の事業所が半数以上を占める。



③最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）に出勤していた人の職種・用務あるいは出勤理由

<研究者>

- ・ 実験等現場での従事が必須の研究職、エンジニア職。
- ・ 関係機関への観測データ提供業務。

<事務、財務従事者>

- ・ 一般職など在宅勤務では対応できない業務の者。出勤人数を制限した上で、居室を分離するなど感染防止に配慮して出勤した。
- ・ 給与支払等、外部からアクセスできないシステムを利用した業務を行っている部署。

<その他>

- ・ 職種や用務では限定していない。

4) 最初の緊急事態宣言期間以降の勤務者の活動の制約

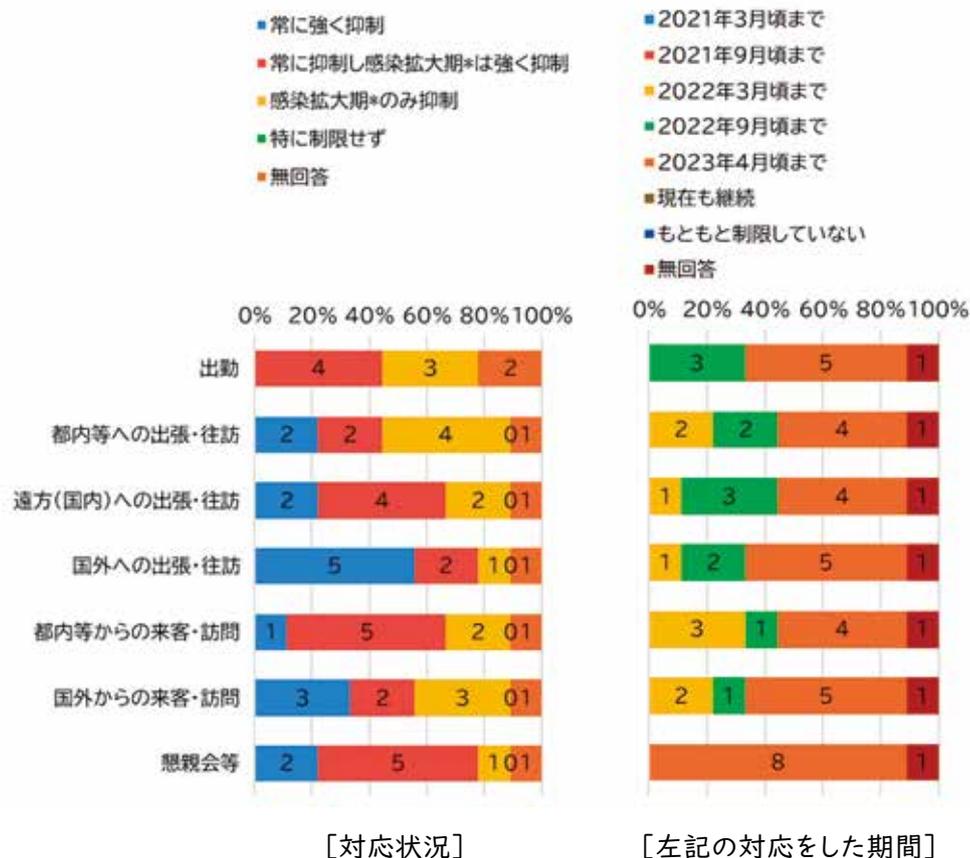
①最初の緊急事態宣言期間があけてから行動制限がなくなるまで（2020年6月～2022年3月頃）の期間における出勤や外部との往来に係る対応への制約内容と期間

出勤や外部との往来にかかる制約は、制約の強さに関わらず、新型コロナウイルス感染症が五類に移行するまでの2023年4月まで制約した事業所が多い。懇親会以外については、行動制限が緩和されていった2022年に制約を解除した事業所も見られる。現在まで出勤や外部との往来にかかる制約を継続しているという回答はなかった。

国外への出張・往訪、国外からの来客・訪問は、常に強く抑制した事業所が多い。一方、出勤については常に強く抑制した事業所はなく、抑制しつつ感染状況に合わせ対応されたことがうかがえる。

※参考 新型コロナウイルス感染症に係る主な経過

2021年1月	外国人の新規入国の停止、緊急事態宣言（～2月）
2021年7月	緊急事態宣言、東京オリンピック・パラリンピック（～9月）
2022年3月	最後のまん延防止等重点措置が解除
2022年10月	水際対策の大幅緩和
2023年5月	五類移行



上記以外の対応

- ・ 安否確認システムを利用して毎朝の体調報告を義務付けた。(令和2年4月から令和5年5月)

5) 学生の活動の制約

①最初の緊急事態宣言期間中(2020年4月～5月)におけるつくば市内のキャンパスの学生への対応

- ・ 構内の立入の全面禁止、留学生の新規受入れの停止、課外活動の禁止。
- ・ 不要不急の外出の自粛要請、構内の立入の原則禁止、授業のオンライン化、課外活動の自粛要請、宿舎への新規入居の延期。

②最初の緊急事態宣言期間中(2020年4月～5月)に登校していた学生の登校理由

- ・ 現在進行中の実験・研究作業に従事する必要がある大学院生のみ入構を認めていた。

③最初の緊急事態宣言期間があけてから(2020年6月以降)、つくば市内のキャンパスにおける、学生や外部との往来に係る制約内容と期間

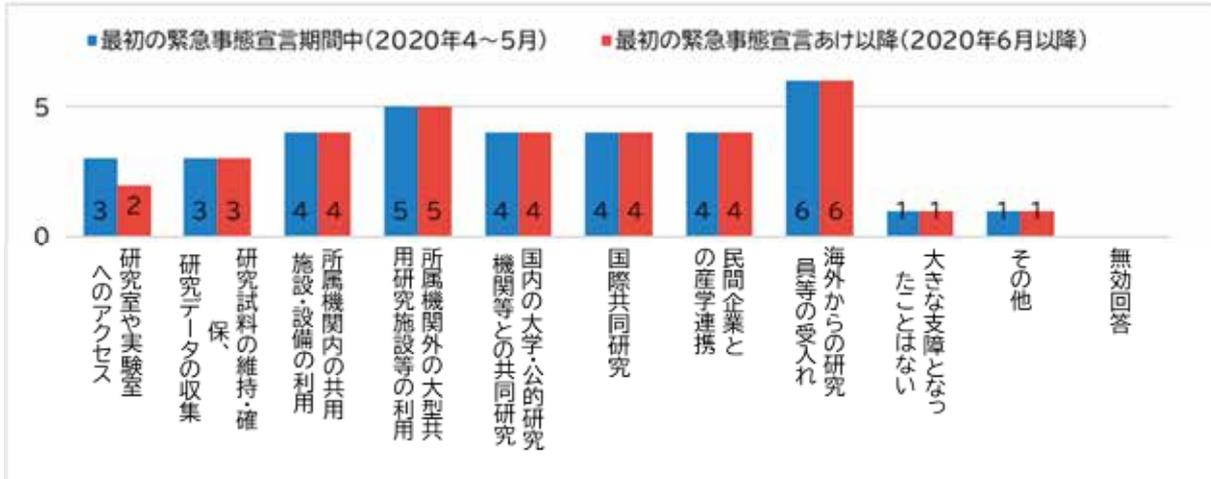
リモート授業と対面授業の併用や、部外者の構内立ち入り制限について、水際対策の大幅緩和された頃(2022年9月)まで実施した大学と、新型コロナウイルス感染症が五類移行となった頃(2023年4月)まで実施した大学があった。

6) コロナ禍がもたらした変化

①コロナ禍において、業務に関連し大きな支障となったこと(複数選択可)

「海外からの研究員等の受け入れ」を選択した事業所が最も多く、次点は「所属機関外の大型共用研究施設等の利用」だった。

最初の緊急事態宣言期間中とそれ以降で傾向に変化はほぼ無く、コロナ禍においては緊急事態宣言の有無に関わらず業務に支障があったと見られる。



【その他】

- ・ オンライン上でのコミュニケーション。

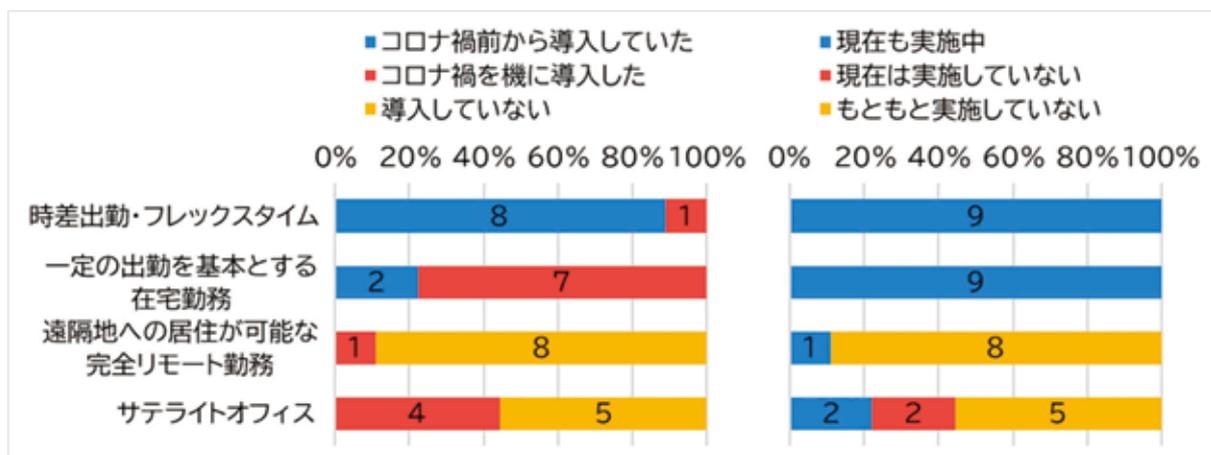
②コロナ禍に対応し新たに導入した勤務形態と、現在の実施状況

時差出勤・フレックスタイムは、コロナ禍前より導入していた事業所が多い。

在宅勤務はコロナ禍を機に導入が増え、全ての事業所が現在も実施中と、定着が見られる。

完全にリモート勤務やサテライトオフィスを導入した事業所は少ないが、一部事業所では現在も実施されている。

コロナ禍 → 現在



③事業所においてコロナ禍を経て変化したこと(プラス面の変化・マイナス面の変化)

<プラス面の変化>

- ・ オンライン会議が増え、出張しなくても会議に参加できるようになった。このため日程調整が容易になった。
- ・ テレワークの促進によるワークライフバランスの改善や、事務手続きの電子化により、業務の効率化が図られた。

<マイナス面の変化>

- ・ 会議や研修、講演会等、対面での実施からオンラインによる実施が増えた。

7) 筑波研究学園都市(つくば市)の環境について

①コロナ禍において、事業所が筑波研究学園都市(つくば市)にあってプラスだった点、マイナスとなった点

<プラス>

- ・ 交通網がそれほど発達していないため、つくば在住者は自家用車を使用している者が多く、公共交通機関を介しての感染拡大に心配は少なかった。
- ・ 都心と比較して人口密度が低いため、密の回避はしやすかった。

<マイナス>

- ・ 研究所と駅を結ぶ会社バス(密室・密集)。

②コロナ禍を契機に気づいた筑波研究学園都市(つくば市)のメリット・デメリット

<メリット>

- ・ 東京都と比較して、3密の回避が容易。

③その他、コロナ禍における研究・教育活動や、筑波研究学園都市(つくば市)のまちの変化等、気付いたことや補足事項等

- ・ 回答なし。

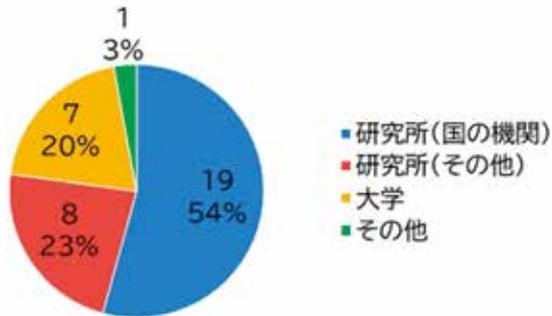
(3) 従業者調査結果

1) 業務内容・勤務形態

①勤務先の種別

従業者 35 名より回答を得た。

研究所(国の機関)に勤務する従業者からの回答が半数以上を占める。

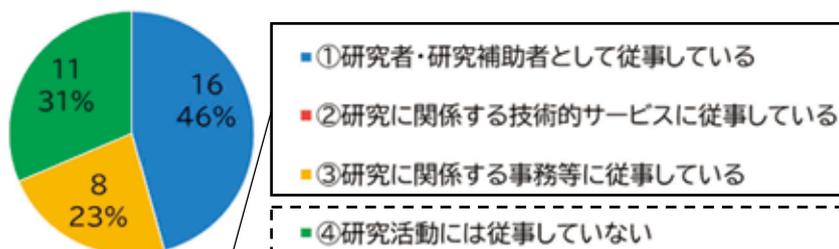


【その他】

- ・ 大学共同利用機関法人
- ・ 宇宙・航空関係

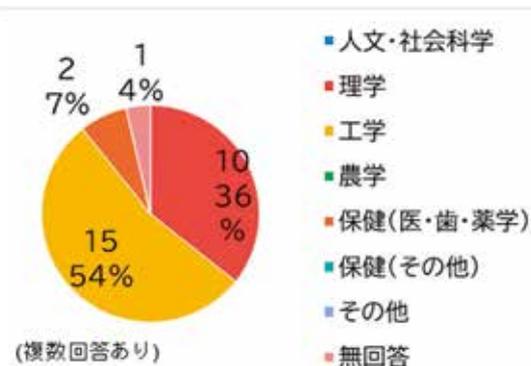
②業務内容

研究活動に何らかに従事している従業者からの回答が約 7 割を占める。研究分野は、工学、理学系が多い。研究活動に従事していない従業者は全員、事務・管理部内の従業者であった。



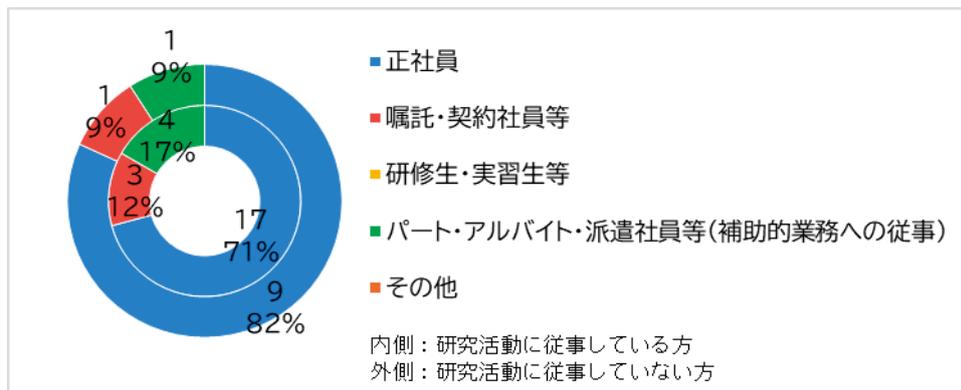
研究活動に何らかに従事している従業者

研究活動に従事していない従業者



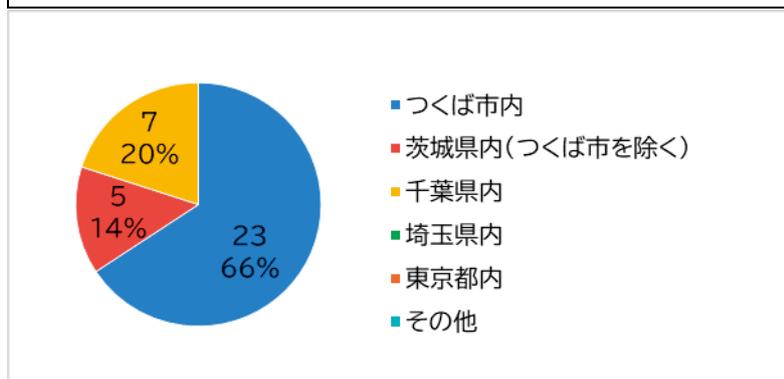
③雇用形態

業務内容に関わらず、正社員からの回答が7割以上を占める。



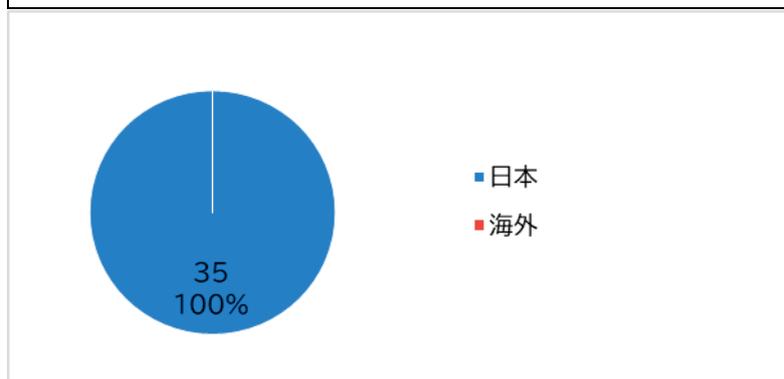
④居住地

つくば市内に居住する従業者が約7割を占める。次点に多いのは千葉県内、茨城県内。東京都内に居住する従業者からの回答はなかった。



⑤国籍

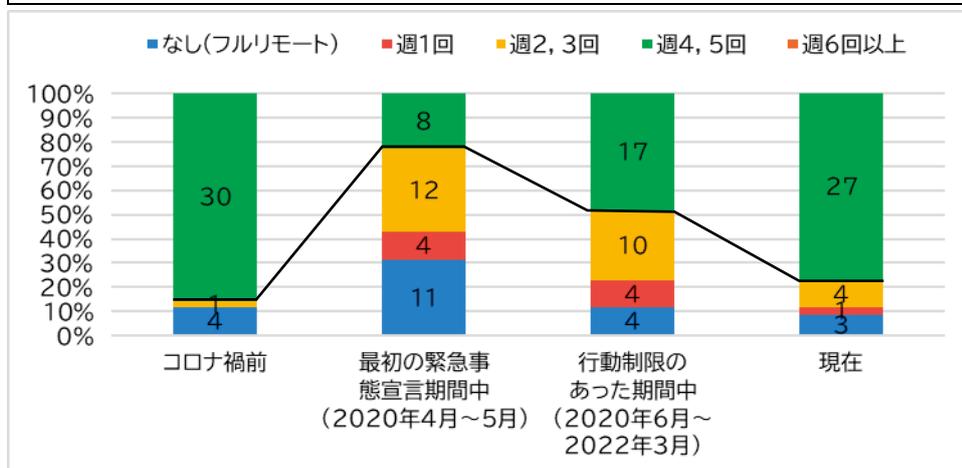
海外国籍の従業者からの回答はなかった。



2) コロナ禍における活動の制約

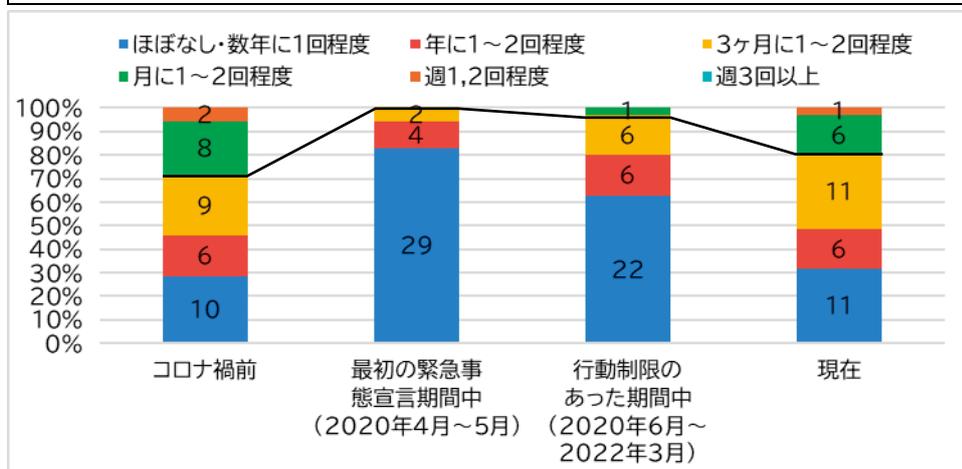
① 出社の頻度

コロナ禍前は約9割が週4,5回出社していたが、最初の緊急事態宣言期間中は約2割まで減少している。現在は約8割と、コロナ禍前と比較してやや少ない。



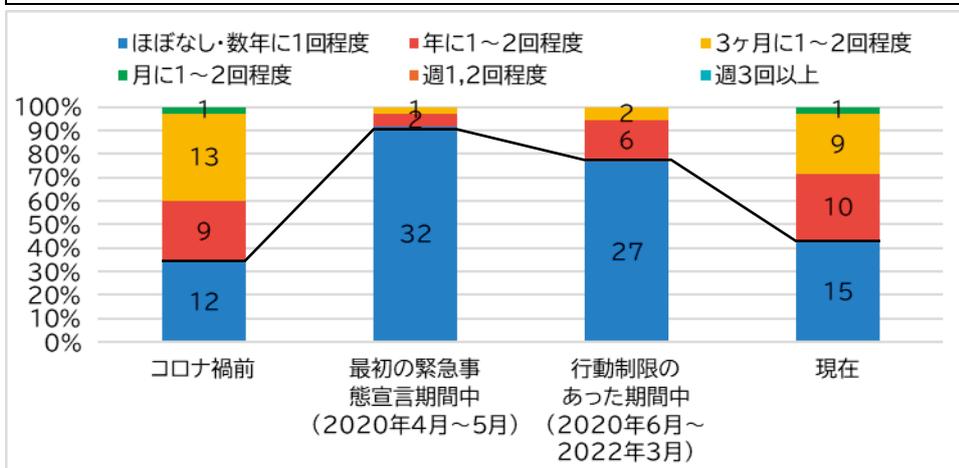
② 近傍地域(関東圏内)への出張頻度

コロナ禍前と比較して、最初の緊急事態宣言期間中及び行動制限のあった期間中は、近傍地域(関東圏内)への出張頻度が大幅に減少している。月に1回以上近傍地域へ出張する人は、コロナ禍前は約3割だったが、現在は約2割とやや少ない。



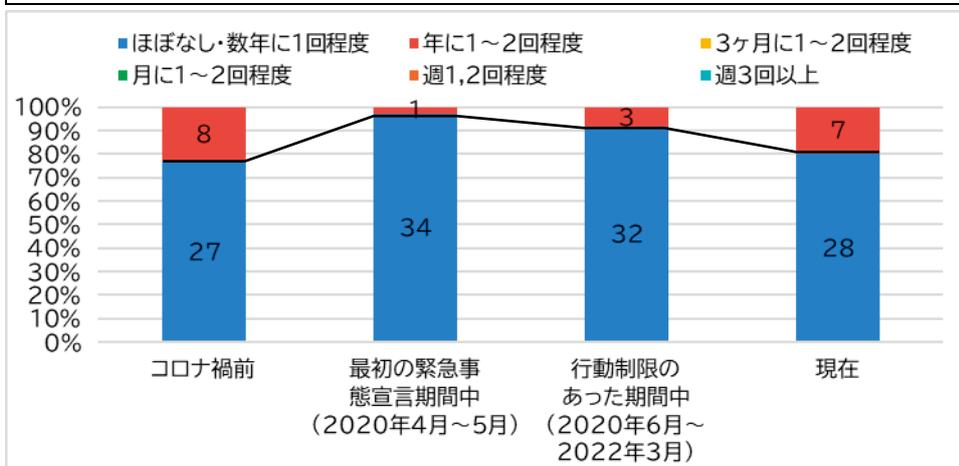
③国内遠方地域(関東圏外)への出張頻度

コロナ禍前と比較して、最初の緊急事態宣言期間中及び行動制限のあった期間中は、国内遠方地域（関東圏外）への出張頻度が大幅に減少している。年に1～2回以上遠方地域へ出張する人は、コロナ禍前は約7割だったが、現在は約6割とやや少ない。



④海外への出張頻度

コロナ禍前と比較して、最初の緊急事態宣言期間中及び行動制限のあった期間中は、海外への出張頻度が減少しているが、期間中に出張した人もわずかに見られる。海外への出張頻度はコロナ禍前の状況にほぼ戻っている。



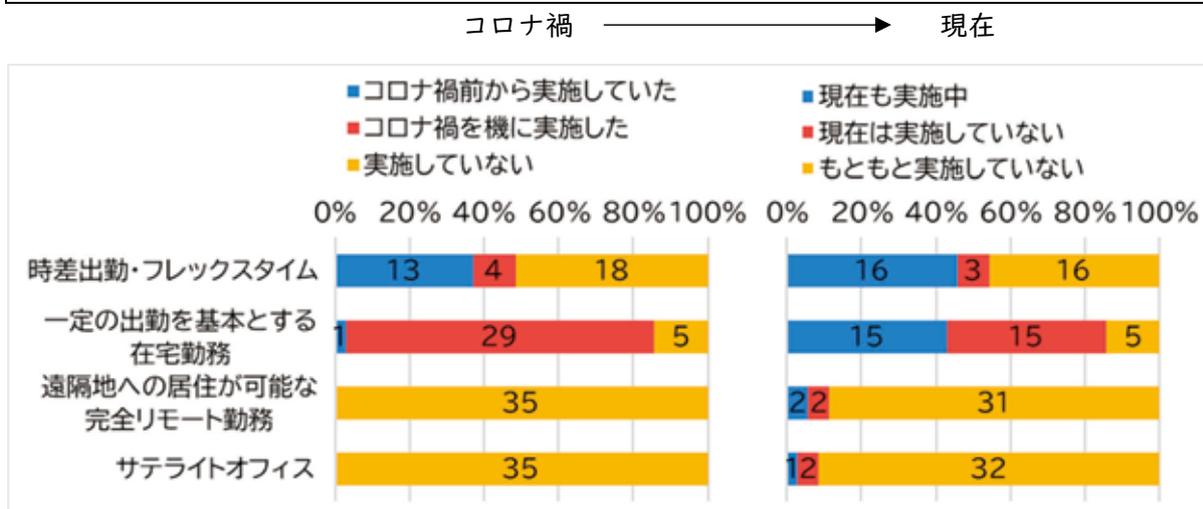
⑤その他、業務上の出社・外出等の頻度について変化したこと等

- ・ 勤務先でテレワークの制度ができた。
- ・ コロナ禍と出張頻度にそこまでの相関は感じていない。

3) コロナ禍による働き方やライフスタイルの変化

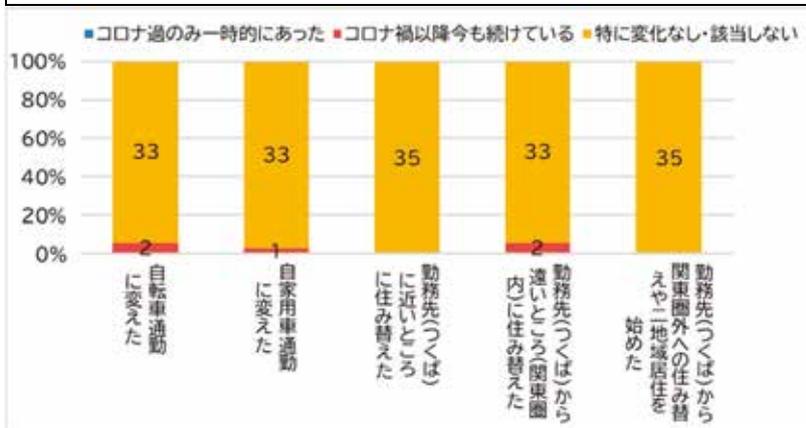
①勤務形態の変化と、現在の実施状況

時差出勤・フレックスタイムは、コロナ禍前から実施している従業員が約4割を占めている。在宅勤務は、コロナ禍を機に実施した人が約8割と多く、その内約4割は現在も実施している。



②コロナ禍前と比較して、通勤手段や居住地に関して変化したこと

通勤手段や居住地を変えた従業員は少ないが、自転車通勤に変えた人、自家用車通勤に変えた人、勤務先(つくば)から遠いところ(関東圏内)に住み替えた人が数名いる。



③その他、あなたや職場の人の通勤手段やライフスタイルの変化について、お気づきのこと

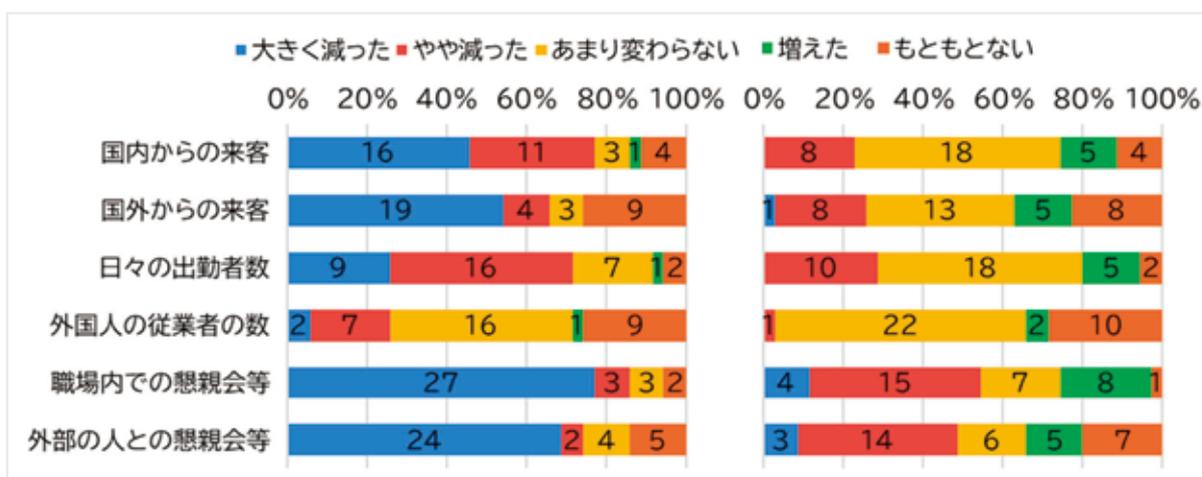
- ・ コロナ禍では特例措置として在宅勤務制度があったが、現在はなくなった。育児や介護等理由付きでの在宅制度が同時期に運用開始となったが、条件が厳しく手続きも煩雑なため、普及していない。
- ・ 通勤時間帯のバス混雑度が上がった。障害者・高齢者割引を使う人が増えた。
- ・ 路上駐車ピックアップや一時停止など交通ルールを守らない自家用車が増え、接触事故を経験した。夜はライトを持ち歩き、駅周辺で歩く時も気を使うようになった。
- ・ 徒歩通勤を増やした。

4) コロナ禍による人の往来や交流の変化

①最初の緊急事態宣言期間があけてから、行動制限がなくなるまで(2020年6月～2022年3月頃)の期間における人の往来や交流

国内からの来客が減った人が約8割を占め、現在も約2割が減ったと回答した。
 国外からの来客が減った人は約7割を占め、現在も約3割が減ったと回答した。
 職場において出勤者数が減ったと感じた人は約7割を占め、現在も約3割が減ったと感じている。
 外国人の従業者数が減ったと回答した人は約3割だが、現在も減っていると回答した人はほぼいない。
 職場内での懇親会が減った人は約8割、外部の人との懇親会が減った人は約7割を占め、現在も共に約5割が減ったと回答した。

コロナ禍 → 現在
 (2020年6月～2022年3月頃)



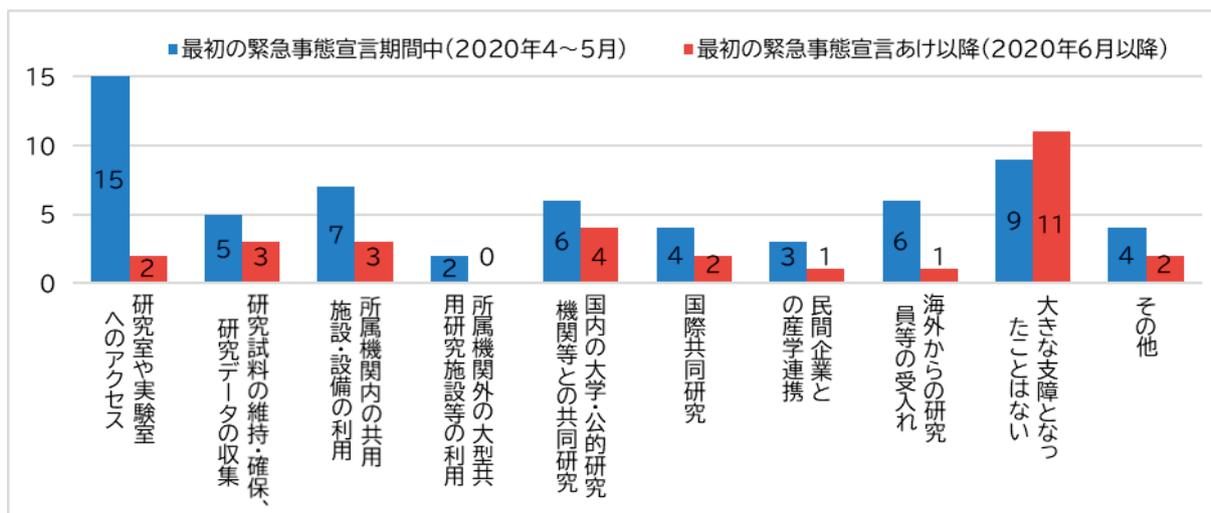
5) コロナ禍による業務への影響や変化

①コロナ禍において、業務に関連し大きな支障となったこと(複数選択可)

最初の緊急事態宣言期間中に大きな支障となったことは、「研究室や実験室へのアクセス」が最も多く、「所属機関内の共用施設・設備の利用」も多い。一方で、「大きな支障となったことはない」を選択した人も2番目に多かった。

最初の緊急事態宣言あけ以降は、「大きな支障となったことはない」を選択した人が最も多く、次点に「国内の大学・公的研究機関等との共同研究」が挙げられた。

「研究室や実験室へのアクセス」や「海外からの研究員等の受入れ」は、最初の緊急事態宣言あけ以降改善が図られた人が多いと見られる。



【その他】

- ・ 最初の緊急事態宣言期間中、交代制勤務になったが、職場にリモートワーク設備が導入されていなかったため、在宅勤務の日はPCを使った作業を行うことができなかった。
- ・ 在宅勤務者との連絡がメールのみとなり、口頭でやり取りできなかったため、業務がスムーズに捗らない場面もあった。
- ・ 個人情報データや職場の共有フォルダにアクセスできなかったこと。
- ・ 被験者実験を計画していたが、実施がなかなかできなかった。
- ・ 知り合いの研究者であるが、海外での現地調査をメインとした研究を計画していたが、渡航制限により計画変更せざるを得なかった。
- ・ 館内清掃担当の不在期間が発生し、館内に弁当ごみが山積みになって不衛生だった。

②その他、コロナ禍を経て変化したこと(プラス面の変化・マイナス面の変化)

<プラス面の変化>

- ・ オンラインミーティングが普及し、遠方の方とミーティングしやすくなり便利になった。
- ・ リモートワークにより、ワークライフバランスが取れるようになった。子供と過ごす時間をしっかり確保できるようになった。
- ・ 強制参加型の飲み会がなくなった。

<マイナス面の変化>

- ・ リモートデスクトップ等の性能次第では作業効率がかなり落ちてしまう可能性がある。

6) 筑波研究学園都市の環境について

①筑波研究学園都市(つくば市)での過ごし方や関わり方について、コロナ禍を経て変わったこと

<外食、飲み会>

- ・ 外食が前よりは減った。
- ・ コロナ禍中は近くの飲食店の利用者が減ったので、積極的に利用するように心がけた。
- ・ 飲み会が減った。

<外出>

- ・ 外出が減った。
- ・ できるだけデリバリーやテイクアウト、インターネットショップなどを活用し、人混みを避けるようになった。
- ・ 一人でリフレッシュする場合は、都内か千葉へ行くようになった。

<その他>

- ・ つくば市内に住む同世代の友達がなくなった。
- ・ 今も継続して店内でマスクをしている。
- ・ つくば市内の都市銀行窓口が激減して、千葉か東京の支店へ通うようになった。

②コロナ禍において、事業所が筑波研究学園都市にあってプラスだった点、マイナスとなった点

<プラス>

人口密度

- ・ 人の密集度が低いため、東京都心程には感染に気を使わないでよかった。
- ・ 人が少なく、コロナ禍に外を出歩くことや公園で子供を遊ばせることに問題がなかった。

通勤

- ・ 電車が比較的空いており安心だった。
- ・ 通勤はバス、自動車あるいは徒歩であったので、感染リスクが小さかった。

その他

- ・ 研究支援業務はデスクワーク主体のため、子供の休校やオンライン学習体制に合わせて在宅勤務できた。居住地近隣で労働する保護者たちは出勤事情に苦慮しており、つくば勤務の恩恵を感じた。
- ・ 行動制限が課されていた期間は、つくば市内の運動施設が利用できなかったが、職場の敷地内にグラウンドやテニスコート等があったため、そこでリフレッシュすることができた。
- ・ 仕事場が完全に閉鎖とならなくてよかった。

<マイナス>

都内等との往来

- ・ 都内との行き来が減った。
- ・ 都内からの通勤する職員も多く、一時期、首都圏と茨城県で行動制限レベルが異なっていたため、調整が難しい場面があった。
- ・ 関東圏の研究会へ全く参加できなかった。

③コロナ禍を契機に気づいた筑波研究学園都市のメリット・デメリット

<メリット>

通勤のしやすさ

- ・ 自動車通勤も選択できること。
- ・ 公共交通機関利用者が少ないので、感染の危険性が低い。

テレワーク

- ・ WEB 会議でも、会議によっては事足りることが分かった。

環境の良さ等

- ・ 環境整備の迅速さなど、前衛都市としての応答力の高さに非常に好感。
- ・ 医療機関が多い。
- ・ 里山歩きなど、感染リスクの少ない娯楽があること。
- ・ 田舎と都市が融合して不便は無いのに広々としていて、場所によっては人混みも少ないので感染リスクは低いように感じた。

<デメリット>

通勤環境

- ・ 都内に出る際は密な空間を利用せざるを得ない。
- ・ 公共交通機関で勤務している人が来られなくなったことがあった。
- ・ 通勤時間がかかりすぎる点。一度在宅勤務を知ると、長い通勤時間（特に駅を降りてからのバス通勤）をかけることが非合理的に思える。

その他

- ・ 研究学園都市と言いながら、リモートワーク等に必要なインフラが他地域に比べ充実している訳ではなく、メリットではないことが明らかになった。
- ・ 専門病院の待ち時間が異常に長い。

④その他、コロナ禍における研究・教育活動や、筑波研究学園都市(つくば市)のまちの変化等、お気づきのことや補足事項等

<テレワーク等>

- ・ コロナ禍前に逆戻りした感が否めない。研究学園都市と胸を張って言うためには、コロナ禍の教訓を活かし、次に同様の事態が起きた際には他の模範となるような、新たな生活スタイルやそれを可能とするインフラ整備に注力すべきではないか。
- ・ リモートでも OK だと思えるところ（職場、学校）が、コロナが落ち着いてから戻ってしまった。柔軟に継続するようにして欲しかった。
- ・ コロナ禍前は集合研修を実施していたが、コロナ禍によりオンライン研修が主流になった。また、会議についてもオンライン会議が主流となっている。
- ・ 気象状況が悪い時もリモートワークを選択できるのもよい。

<交通>

- ・ 通勤時の渋滞がコロナ前と比較して悪化したような気がする。
- ・ 県道や国道脇の故障した街灯や伸びた街路樹が放置されていて、夜間歩行時によく不安を

感じる。

<飲食店等>

- ・ コロナ禍を経て店舗の時短営業が定常化したり、閉店が相次ぎ、利便性が減った。
- ・ テイクアウトのお店が増えてよかった。
- ・ 企業やサービス業において、コロナ禍での生き残りがとても大変そうだった。そんな中でも行政を含め、色々な人たちが力を合わせ工夫している姿が見られた機会になった。

<その他>

- ・ 学校閉鎖は学生にとってデメリットが大きかったと思う。
- ・ 保育園が閉鎖され、かつ仕事も在宅でやる必要があり、子供を見ながら仕事が進まず困った。負担が母親側に偏るのが目立った。

(4) アンケート票

■依頼文

令和6年9月

コロナ禍における筑波研究学園都市の 研究・教育活動に係るアンケートのお願い

一般財団法人つくば都市交通センター

拝啓 時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団では、つくばセンター地区の活性化に資することを目的とした各種調査を行い、成果を「TUTCライブラリー」として発行を行っております。

令和3年度からは毎年、コロナ禍におけるつくばセンター地区を中心とした都市活動の状況について把握するため、地域の人流や暮らし、経済、研究・教育活動に関わる各種データの収集を行っており、本年度は、アフターコロナの状況も踏まえた総括を予定しています。

つきましては、データと合わせて大学・研究機関等のコロナ禍における活動の実態について把握をたく、アンケートへのご回答にご協力をお願い申し上げます。

本調査結果につきましては、個別の組織や個人が特定できない形で令和7年3月発行の「TUTCライブラリー」に取りまとめ、当財団ウェブサイト*等で公表させていただくことを予定しております。

ご多忙の折、お手数をおかけし恐縮ですが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*TUTCライブラリー掲載 URL <https://www.tutc.or.jp/company/library/>

敬具

■調査内容

- ①事業所調査：事業所毎でご回答をお願いします。
- ②従業者調査：コロナ禍前より現事業所に勤務されていた方にご回答をお願いします。（無記名式）
ご回答者の雇用形態等は問いません。
1事業所につき5名程度以上、幅広い部署の方にご回答頂けましたら幸いです。

■回答方法

web または別添アンケート票による回答

【従業者調査 QRコード】

【webによる回答】 事業所調査 <https://forms.gle/zSPN5hXaLu2Mj2DZ8>
従業者調査 <https://forms.gle/RqY2ebVjA7NQ62vFA>

【アンケート票による回答】 メールまたは FAX にてご返送ください

メール：ayako_h@tutc.or.jp FAX：029-861-0501



■回答期限 **令和6年10月11日(金)**

■問い合わせ先

一般財団法人つくば都市交通センター 野村・堀口 TEL：029-859-1896

【II. 事業所の勤務者数について】

つくば市内の事業所の人数についてお答えください。 ※令和6年6月1日時点

問7-1 勤務者数を教えてください。

※外へ研究者、技術研修生、パートタイム等、日常的に業務に従事している人も含めた人数

人

問7-2 上記の勤務者数のうち、外国人数を教えてください。

人

問8-1 研究者数を教えてください。

※「研究者数」は、専門知識を有する人で、特定のテーマを持って研究を行っている人を指入ください。
(研究補助者を含め、技術者、調査事務その他の関係者を除く)。

※管理職のうち、研究経歴のある人は「研究者」に含めてください。

人

問8-2 上記の研究者数のうち、外国人数を教えてください。

人

【III. 最初の緊急事態宣言期間中の勤務者の活動の制約について】

つくば市内の事業所における勤務者への対応についてお答えください。

問9 最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）の出勤に係る対応について、最も近いものを選択してください。

- 出勤や市内の立ち入りは全面的に禁止とした
- やむを得ない場合の短時間の出勤や立ち入り以外は、原則として禁止とした
- 出勤が必要な部署や職種の人のみ、通常より人数を絞った出勤とした
- 出勤が必要な部署や職種の人のみ、通常と同様の出勤とした
- 週の出勤日数の上限を定めるなど、全体的に出勤率の抑制を図った
- 出勤や立ち入りの制限や抑制は特に行わなかった
- その他【 】

問10-1 最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）の事業所の全体的な出勤率は、

1)コロナ発前の通常時と比べ、おおむねどれくらいでしたか。

- ほぼ0
- 1割以下
- 2～3割
- 4～5割
- 6～7割
- 8～9割
- 10割
- 10割以上

問10-2 上記にあてはまらない例外的なケースや補足事項がございましたら、ご記入ください。

問11 最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）に出勤していた人がいた事業所にお聞きします。どのような職種や用務の方、あるいはどのような理由で出勤していたのでしょうか。

--

【IV. 最初の緊急事態宣言期間以降の勤務者の活動の制約について】

つくば市内の事業所における勤務者への対応についてお答えください。

問12-1 最初の緊急事態宣言期間があけてから、行動制限がなくなるまで（2020年6月～2022年3月頃）の期間、出勤や外部との往来について、どのような対応を行いましたか。

* 感染拡大期は、国や県等が行動抑制を呼びかけた時期等

	常に強く抑制	常に抑制し感染拡大期*は強く抑制	感染拡大期*のみ抑制	特に制限せず	その他
出勤	<input type="checkbox"/>				
都内等への出張・往訪	<input type="checkbox"/>				
遠方（国内）への出張・往訪	<input type="checkbox"/>				
国外への出張・往訪	<input type="checkbox"/>				
都内等からの来客・訪問	<input type="checkbox"/>				
国外からの来客・訪問	<input type="checkbox"/>				
懇親会等	<input type="checkbox"/>				

問12-2 上記の対応は、いつ頃まで実施しましたか。

【参考：新型コロナウイルス感染症に係る主な経過】

2021年1月 外国人の新規入国の停止、緊急事態宣言（～2月）

2021年7月 緊急事態宣言、東京オリンピック・パラリンピック（～9月）

2022年3月 最後のまん延防止等重点措置が解除

2022年10月 水際対策の大幅緩和

2023年5月 五類移行

	2021年 3月頃 まで	2021年 9月頃 まで	2022年 3月頃 まで	2022年 9月頃 まで	2023年 4月頃 まで	現在も 継続	もともと 制限して いない	その他
出勤	<input type="checkbox"/>							
都内等への出張・往訪	<input type="checkbox"/>							
遠方（国内）への出張・往訪	<input type="checkbox"/>							
国外への出張・往訪	<input type="checkbox"/>							
都内等からの来客・訪問	<input type="checkbox"/>							
国外からの来客・訪問	<input type="checkbox"/>							
懇親会等	<input type="checkbox"/>							

問12-3 上記以外に行った対応がありましたら、その内容と実施期間を教えてください。
また、上記の「その他」の内容及、補足事項等がありましたらご記入ください。

【 V. 学生の活動の制約について 】

問5（事業所の形態）で「大学」と回答いただいた方に、つくば市内のキャンパスでの学生への対応についてお聞きします。

※ 「大学」以外の方は、次のセクションVIに進んでください。

問13 最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）、つくば市内のキャンパスでは学生についてどのような対応を行いましたか。

例）入内の立入の全面禁止、授業中の通観見入れの停止、課外活動の禁止

問14 最初の緊急事態宣言期間中（2020年4月～5月）に登校していた学生はいましたか。
いた場合、どのような用務や担当で登校していたのでしょうか。

問15-1 最初の緊急事態宣言期間があげてから（2020年6月以降）、つくば市内のキャンパスでは、学生や外部との往来について、どのような対応をいつ頃まで行いましたか。

【参考：新型コロナウイルス感染症に係る主な経緯】

- 2020年1月 緊急事態宣言（～2月）、外国人の新規入国の停止
- 2021年7月 緊急事態宣言、東京オリンピック・パラリンピック（～9月）
- 2022年3月 最後のまん延防止等重点措置が解除
- 2022年10月 水際対策の大幅緩和
- 2023年5月 五類移行

	2021年 3月頃 まで	2021年 9月頃 まで	2022年 3月頃 まで	2022年 9月頃 まで	2023年 4月頃 まで	現在も 継続	もともと 制限して いない	その他
原則リモート授業とする対応	<input type="checkbox"/>							
リモート授業と対面授業の併用	<input type="checkbox"/>							
大学施設（図書館やPC室等） の利用制限	<input type="checkbox"/>							
大学施設（図書館やPC室等） の利用時間の短縮	<input type="checkbox"/>							
場内や大学周辺でのゼミ・ サークル活動の抑制	<input type="checkbox"/>							
ゼミ・サークル活動等での 会食の抑制	<input type="checkbox"/>							
人が集まるイベント・式典等 の自粛	<input type="checkbox"/>							
留学生の受入	<input type="checkbox"/>							
部外者の館内の立ち入り	<input type="checkbox"/>							

問15-2 上記以外に行った対応がありましたら、その内容と実施期間を教えてください。

また、上記の「その他」の内容や、補足事項等がありましたらご記入ください。

【VI. コロナ禍がもたらした変化について】

問16-1 コロナ禍において、業務に関連し大きな支障となったことはどんなことでしたか。

あてはまるものを選択してください。(複数選択可)

	最初の緊急事態宣言発布中 (2020年4~5月)	最初の緊急事態宣言あけ 以降(2020年6月以降)
研究室や実験室へのアクセス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究試料の維持・確保、研究データの収集	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属機関内の共用施設・設備の利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属機関外の大半共用研究施設等の利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国内の大学・公的研究機関等との共同研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国際共同研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
民間企業との産学連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
海外からの研究員等の受け入れ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大きな支障となったことはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問16-2 「記「その他」の内容について、ご記入ください。

問17-1 「コロナ禍に対し、新たに導入した勤務形態はありますか。あてはまるものを選択してください。

	「コロナ禍前から 導入していた	「コロナ禍を機 に導入した	導入していない
薄給出勤・フレックスタイム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一定の出勤を基本とする在宅勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遠隔地への居住が可能な完全リモート勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サテライトオフィス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問17-2 上記の勤務形態等は、現在も実施していますか。あてはまるものを選択してください。

	現在も実施中	現在は実施して いない	もともと実施 していない
薄給出勤・フレックスタイム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一定の出勤を基本とする在宅勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遠隔地への居住が可能な完全リモート勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サテライトオフィス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問17-3 記の勤務形態以外に導入した働き方がありましたら、内容と現在の実施状況を教えてください。

問18 これまで回答された内容の他に、事業所においてコロナ禍を経て変化したことがありましたら教えてください。（プラス面の変化・マイナス面の変化）

【VII. 筑波研究学園都市（つくば市）の環境について】

問19 コロナ禍において、事業所が筑波研究学園都市（つくば市）にあってプラスだった点、マイナスとなった点がありましたら、教えてください。

問20 コロナ禍を契機に気づいた筑波研究学園都市（つくば市）のメリット・デメリットがありましたら、教えてください。

問21 その他、コロナ禍における研究・教育活動や、筑波研究学園都市（つくば市）のまちの変化等、お気づきのことや有識事項等がございましたらご自由に記入ください。

～ご協力いただきありがとうございました～

■従業者調査 アンケート票

コロナ禍における筑波研究学園都市の研究・教育活動に係る調査
【従業者調査】10/11付

コロナ禍以前より、つくば市内の現事業所に勤務されていた方に、コロナ発生の動向の状況や
コロナ禍を経た働き方等の変化についてお聞きします。

※回答期限：10/11(金)

※回答内容はすべて統計処理し、個人の情報をお知らせすることはありません。

また、調査の目的以外には使用いたしません。

【1.業務内容・勤務形態等について】

問1 あなたの勤務先の様子を教えてください。

	研究所	大学	その他
トの機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他の公務・公益機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
民間企業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問2 上記「その他」の内容について、ご記入ください。

問3 あなたは研究活動に従事していますか。あてはまるものを選択してください。

- ①研究者・研究補助者として従事している
- ②研究に関係する技術的リーダーに従事している
- ③研究に関連する事務等に従事している
- ④研究活動には従事していない

問3 研究活動に何らかの形で従事している方（問2で①～③を選択した方）にお聞きします。

従事している研究の分野を教えてください。

- 人文・社会科学
- 工学
- 工学
- 農学
- 保健（医・歯・薬学）
- 保健（その他）
- その他【 】

問4 研究活動に従事していない方（問2で④を選択した方）にお聞きします。

どのような業務に従事していますか。

- 開発
- 製造
- 事務・管理
- 営業
- その他【 】

問8-2 近傍地域（関東圏内）への出張頻度

	ほぼなし・毎 年に1回程度	年に1～2回 程度	3ヶ月に 1～2回程度	月に1～2回 程度	週1,2回 程度	週3回 以上
コロナ禍前	<input type="checkbox"/>					
最初の緊急事態宣言期間中 （2020年4月～5月）	<input type="checkbox"/>					
行動制限のあった期中 （2020年6月～2022年3月）	<input type="checkbox"/>					
現在	<input type="checkbox"/>					

問8-3 国内遠方地域（関東圏外）への出張頻度

	ほぼなし・毎 年に1回程度	年に1～2回 程度	3ヶ月に 1～2回程度	月に1～2回 程度	週1,2回 程度	週3回 以上
コロナ禍前	<input type="checkbox"/>					
最初の緊急事態宣言期間中 （2020年4月～5月）	<input type="checkbox"/>					
行動制限のあった期中 （2020年6月～2022年3月）	<input type="checkbox"/>					
現在	<input type="checkbox"/>					

問8-4 海外への出張頻度

	ほぼなし・毎 年に1回程度	年に1～2回 程度	3ヶ月に 1～2回程度	月に1～2回 程度	週1,2回 程度	週3回 以上
コロナ禍前	<input type="checkbox"/>					
最初の緊急事態宣言期間中 （2020年4月～5月）	<input type="checkbox"/>					
行動制限のあった期中 （2020年6月～2022年3月）	<input type="checkbox"/>					
現在	<input type="checkbox"/>					

問8-5 業務上の入社・外出等の頻度について、上記にあてはまらないことや、その仕変化したこと等がございましたら、ご記入ください。

【Ⅲ. コロナ禍による働き方やライフスタイルの変化について】

問9-1 コロナ禍中、あなたの勤務形態に変化はありましたか。あてはまるものを選択してください。

	コロナ禍前から導入していた	コロナ禍を機に導入した	実施していない
完全出勤・フレックスタイム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一定の出勤を基本とする在宅勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遠隔地への居住が可能な完全リモート勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サテライトオフィス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問9-2 上記の勤務形態等は、現在も実施していますか。あてはまるものを選択してください。

	現在も実施中	現在は実施していない	もともと実施していない
完全出勤・フレックスタイム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一定の出勤を基本とする在宅勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遠隔地への居住が可能な完全リモート勤務	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サテライトオフィス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問9-3 上記以外に、コロナ禍を機に実施した働き方がありましたら、内容と現在の実施状況を教えてください。

問10-1 コロナ禍前と比べ、通勤手段や居住地に関して、変化したことはありますか。

あてはまるものを選択してください。

	コロナ禍中のみ一時的にあった	コロナ禍以降今も続けている	特に変化なし・該当しない
自転車通勤に変えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自家用車通勤に変えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
勤務先（つくば）に近いところに住み替えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
勤務先（つくば）から遠いところ（関東圏内）に住み替えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
勤務先（つくば）から遠いところ（関東圏外）への住み替えや二地域居住を始めた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問10-2 上記以外に、あなたや職場の人の通勤手段やライフスタイルの変化について、
お気づきのことがありましたら教えてください。

【IV. コロナ禍による人の往来や交流の変化について】

問11 コロナ禍前と比べ、あなたの職場の人の往來や交流はどのように変化しましたか。

問11-1 最初の緊急事態宣言期間が明けてから、行動制限がなくなるまで（2020年6月～2022年3月頃）
の期間

	大きく 減った	やや 減った	あまり 変わらない	増えた	もともと ない
国内からの来客	<input type="checkbox"/>				
国外からの来客	<input type="checkbox"/>				
日々の出勤者数	<input type="checkbox"/>				
外3人の従業員の数	<input type="checkbox"/>				
職場内での懇親会等	<input type="checkbox"/>				
外部の人との懇親会等	<input type="checkbox"/>				

問11-2 現在

	大きく 減った	やや 減った	あまり 変わらない	増えた	もともと ない
国内からの来客	<input type="checkbox"/>				
国外からの来客	<input type="checkbox"/>				
日々の出勤者数	<input type="checkbox"/>				
外3人の従業員の数	<input type="checkbox"/>				
職場内での懇親会等	<input type="checkbox"/>				
外部の人との懇親会等	<input type="checkbox"/>				

【V. コロナ禍による業務への影響や変化について】

問12-1 「コロナ禍において、業務に関連し大きな支障となったことはどんなことでしたか、
 当てはまるものを選択してください。（複数選択可）

	最初の緊急事態宣言期間中 (2020年4～5月)	最初の緊急事態宣言あけ 以降(2020年6月以降)
研究室や実験室へのアクセス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究試料の維持・確保、研究データの収集	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属機関内の共用施設・設備の利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属機関外の大型共用研究施設等の利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国内の大学・公的研究機関等との共同研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国際共同研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
民間企業との産学連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
海外からの研究員等の受入れ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大きな支障となったことはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問12-2 上記「その他」の内容について、ご記入ください。

問13 これまで回答された内容の他に、コロナ禍を経て変化したことがありましたら教えてください。
 (プラス面の変化・マイナス面の変化)

【VI. 筑波研究学園都市の環境について】

司14 筑波研究学園都市(つくば市)での過ごし方や関わり方について、コロナ禍を経て変わったことがありましたら教えてください。

例) 帰省に出ることが減った。寄り道をしなくなった。

司15 コロナ禍において、事業所が筑波研究学園都市にあってプラスだった点、マイナスとなった点がありましたら、教えてください。

司16 コロナ禍を契機に気づいた筑波研究学園都市のメリット・デメリットがありましたら、教えてください。

司17 その他、コロナ禍における研究・教育活動や、筑波研究学園都市(つくば市)のまちの変化等、お気づきのことや補正事項等がございましたらご自由にご記入ください。

～ご協力いただきありがとうございました～



つくば駅周辺における パブリックスペース活用実践調査

—つくばセンター広場における多様な人が溜まれる場の検討—

1. 調査の目的

つくば市では、2011年よりペDESTリアンデッキや公園、広場などのパブリックスペースの活用を進めており、マルシェやイベント等の様々な取組みを実施しています。その多くの取組みがつくば中心市街地で実施されており、街の魅力向上やにぎわい創出に大きく貢献していると言えます。

特に、休日を中心に開催されるイベントについては、多くの方が来街し、つくば中心市街地の他の施設にも回遊したことにより、にぎわいが創出されていることが伺えます。また、冬季以外は毎週末に何かしらのイベントが開催されていることから、つくば駅周辺に行けば何かやっているだろうと訪れる方も増えてきています。

一方、平日は取組みが少ないことや、常時くつろぐことができる日常の溜まり場は少ないなどにより、来訪者や滞留している方が少なくなっています。しかしながら、街の魅力を高めていくためには、イベントのような過ごし方を決めるものだけでなく、常時利用できる自由な場で、利用者がそこで自らの活動を自由にできる、より多様性がある場を創ることも重要だと考えています。

つくば市では、コロナ禍の2020年に感染症対策を行いながら、飲食店支援や市民の皆様の憩いの場を創ることを目的に、屋外のくつろぎ空間「ソトカフェ」を設置。ソトカフェではくつろぐだけでなく、仕事の間や保育所の散歩の間など多様な使われ方をされ、一定の効果が見られています。一方、つくば市は冬季に風が強く、什器が飛ばされるという管理上の課題も顕在しています。

本調査では、パブリックスペースの利活用として、更に多様な使い方ができる日常のたまり場及び冬季の管理がしやすい場づくりを目的とした実証実験を実施し、今までにはない新たなたまり場を設置することで来街者がどのような行動をするかについての効果検証を行いました。

今回の実証実験の結果が今後のつくば中心市街地においてより魅力あるパブリックスペース形成の一助となれば幸いです。

2. 今までのパブリックスペースの取組み

(1) つくば市におけるこれまでの取組み

① つくばペデカフェプロジェクトの取組

つくば市では「パブリックスペースで街を一体化、街のつなぎ役に ～点ではなく面で見たまちづくり～」を目指し、2011年よりパブリックスペースの活用を進めています。また、2018年に策定された「つくば中心市街地まちづくりビジョン」においては一つの柱として「魅力と驚きが散りばめられ、訪れたいまち」を掲げ、パブリックスペースを中心に一日中過ごせるサードプレイスや魅力が散りばめられ歩きたいくなるプレイスメイキングに取り組んでいます。

つくば市では、2011年より公共空間活用実証実験を実施し当初は以下の3つの形態で実験を行い、効果検証を行ってきました。

A) 地先利用型

公共空間沿道の既存店舗の前にテーブルやイス、パラソルなどを設置し、既存店舗の店舗スペースを拡大する形態

B) ワゴン販売型

公共空間自体に物販、飲食等の移動販売車やテーブル、イス、パラソル等を設置し、新たな簡易店舗を設ける形態

C) テント等配置型

公共空間自体に物販、飲食等のテントや簡易施設によって簡易店舗を設ける形態



図 1-1 実証実験の形態(左から A,B,C)

これらの実験を通じて、ペDESTリアンデッキ等のパブリックスペースを活用することにより賑わい創出につながる都市の魅力向上や来街者増加の効果を見ることができました。

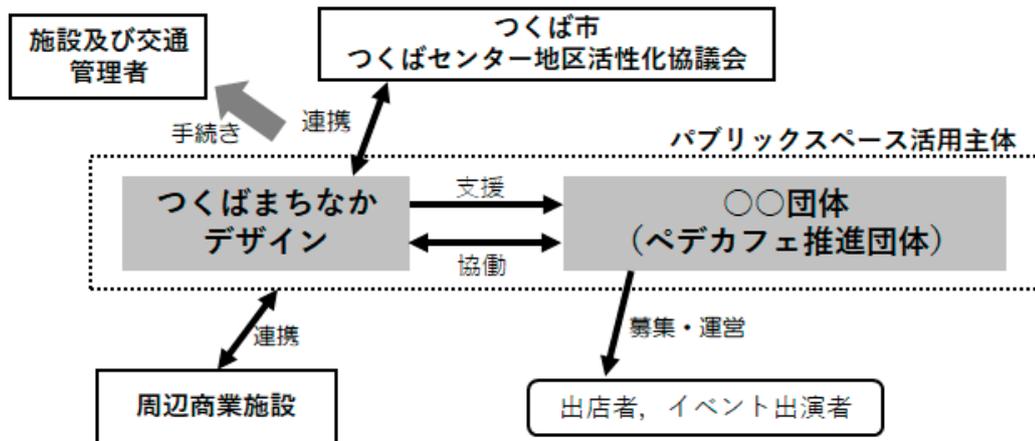
実証実験の結果を踏まえ、つくば市では2016年には市内のペDESTリアンデッキ等を活用したまちづくりを推進する「つくばペデカフェプロジェクト」を開始しました。

② その他の取組み

・イベント支援によるイベントの開催

イベントを実施したい地域の団体が困っていることを市が支援し、市と地域の団体が協働でイベント等を実施する仕組みを構築しました。なお、2022年度からはまちづくり会社である、つくばまちなかデザイン株式会社を中心となり運用しています。現在は

イベント数も増加しており、2024年度は冬季以外はほぼ毎週末イベントが開催されています。



※図中央の「つくばまちなかデザイン」は制度設立時は「つくば市」が実施

図 1-2 イベント支援の体制

・ 一体化実験の実施

パブリックスペースの活用による、街の一体化の効果を検証するため、期間限定でつくば中心市街地の複数のパブリックスペースを活用する実証実験をつくば市が実施しました。中央公園、つくばセンター広場、カピオ前、デイズタウンの4か所でイベントや手ぶらで利用できるバーベキュー場を設置するとともに、それらの箇所をつなぐロードトレインを走らせ、回遊性の向上を目指しました。まちなかの複数個所で取組みを実施し、周知や回遊性を高める仕組みをすることにより、多くの方が複数地点を回遊するなど、街としての魅力向上やにぎわい創出に効果が見られました。

・ 公園を活用した取組み

イベントなどの一時的な利用だけでなく、日常のにぎわいづくりを行うため、中央公園においてアウトドアが楽しめる場づくりを2018年と2019年に実施しました。

《取組内容》

i) 水遊び場の整備

夏の子どもの遊び場として、使用されていなかった水遊び場を再生



ii) カヌー体験

中央公園の特徴である大きな池を新たな遊び場とするため、カヌー体験を実施



iii) 手ぶらでバーベキュー

木に囲まれ、普段あまり使われていない場所をバーベキュー場として利活用



iv) フラワーマーケット&オープンライブラリー

中央公園の芝生広場にグランドピアノを設置して演奏をするとともに、花や雑貨などのマーケットや移動図書館による屋外ライブラリーを実施。



2018年は、バーベキュー場は14日間の実施で175組が利用（1日平均12.5組）、カヌーは14日間で355人（1日平均25人）するなど、多くの方が利用し、新たなにぎわい創出に向けた効果が見られました。

・日常の場づくり「ソトカフェ」

新型コロナウイルス感染症が拡大し、3密を避けるために屋外空間の利用が推奨されていたことから、パブリックスペースを活用した With コロナ（After コロナ）のための新たな居場所づくりを行うと同時に、市内飲食店の支援を行いました。この取組みにより、イベントとは異なり自由に様々な活動ができる日常の場を創出することができ、多くの方が自由な使い方をするなど、日常のたまり場として効果が見られました。



(2)つくばまちなかデザインにおける取組み

つくば中心市街地のエリアマネジメントを促進するため、2021年につくば市と地域の事業者が中心となり、まちづくり会社「つくばまちなかデザイン(株)」が設立されました。つくばまちなかデザインは、つくばをここにしかない魅力ある街に変えるため、人と人、コトとコトをつなげる取組をしています。

特に、パブリックスペースの活用に関して以下の取組みを実施しています。

① つくばセンタービルにおける地先利用

つくばセンタービル1階においてつくばまちなかデザインが運営している co-en の地先で誰もがくつろげる場を設置しています。広場を遊ぶこどもを見守る親の居場所としても活用され、多くの方に利用頂く一方、日陰がないことから、日差しが強く暑くなる時期は利用しにくいとの課題も見られました。

② イベント支援の実施

つくば市が実施していたイベント支援について2022年よりつくばまちなかデザインが運用し、より地域の実態に即した支援やイベントをより良くするためのアドバイス等を実施しています。現在は多くのイベントが開催され、2024年度は冬季以外はほぼすべての週末でイベントが開催されるなど、にぎわい創出に寄与しています。

③ つくばの魅力を高めるためのイベントの実施

つくばならではの魅力を伝えるため、4月につくば市内の国立系研究機関を一堂に集め、市民に科学を伝える「科学技術週間プレイベント」やつくばセンタービルに入居しているスタートアップ企業等の取組みを伝える co-en イベント等を実施しています。つくばの魅力を伝えることにより、街の魅力向上に寄与しています。

3. 今後のパブリックスペース活用の方向性

つくば市及びつくばまちなかデザインにおいて様々なパブリックスペースを活用した取組みが実施されてきましたが、現在までに以下の効果や課題が明らかになっています。

効果

- ・毎週末イベントが開催されていることから、休日においては訪れて楽しいまちなかを創出することができている。
- ・イベントにより多くの来街者が訪れており、来街者が周辺施設へ訪れるなどの波及効果も見られている。
- ・ソトカフェなどの日常にくつろげる場により、日常的に一定の滞留や活動を生むことができている。

課題

- ・イベントの企画内容をより地域の方が望むような内容にブラッシュアップしていくことや更に多様なイベントを誘致する必要がある。
- ・今までの取組みはイベントが中心であることから、つくば中心市街地へ日常的に訪れることにはつながっておらず、街に愛着を持つきっかけづくりが必要。
- ・現在のソトカフェ等の日常のくつろぎの場は、什器の老朽化や風等で什器が飛ばされるなど管理の難しさも顕在化していることから、管理が簡単でかつ質の高い場を創る必要がある。

以上の効果や課題等を踏まえ、つくばまちなかデザインではパブリックスペースの活用に関して次の方向性を考え、取組みを進めています。

休日

毎週末に様々なイベントが開催し、わくわくする場

飲食、お酒、音楽、パフォーマンスなど毎週末、様々な種類のイベントが開催していて、訪れるとわくわくする場

平日

自由に使える場があり、自分が好きな様々な活動ができる場

おしゃれな休憩スポットがあり、そこで仕事したり、話したり、飲食したり、休憩したり、自分がやりたいことを気軽にやれるとともに愛着を持つ場

上記方向性実現のため、つくばまちなかデザインでは、2024年度は「毎週末イベントが開催されるようなイベント支援の実施」及び「新たなたまり場の検討」を行うこととしており、当財団の調査研究として、「新たなたまり場の検討」に向けた実証実験を実施しました。

4. プレイスメイキング実証実験について

(1) 実証実験の目的

本実証実験では、3. に示したつくば中心市街地における今後のパブリックスペースの方向性の実現に向け、多様な使い方ができる日常のたまり場及び冬季の管理がしやすい新たなたまり場を設置することで、どのような行動が発生するかを検証しました。

(2) 実証実験の実施事項の検討

1) 検討のポイント

本実証実験では、現在のソトカフェが有する課題を踏まえ、新たな取組みを検討しました。

現在のソトカフェの課題

- ・おしゃれな空間となっておらず、単なる休憩スペースとなっている。
- ・利用の年齢層の偏りが大きく、若年層の利用が少なくなっている。
- ・場に愛着を持つ方の減少。
- ・夏季の暑い時や冬季の風が強い際は利用しにくい。
- ・冬季の風により什器等が飛ばされることがある。

新たな取組みの検討のポイント

- ・若年層も利用できるようなおしゃれな空間とする。
- ・暑い日や寒い日もの利用者が一定程度利用できるようにする。
- ・様々な什器を用い、什器による利用頻度の差を確認する。
- ・つくばらしさを感じられるものを導入し、愛着を持ってもらう取組みを実施する。

2) 実施個所の選定

つくば中心市街地には様々なパブリックスペースが整備されていることや、多くのイベント等が開催されていることから、実施場所については、以下を満たす場所を検討する必要があります。

場所についてのポイント

- ・一般の利用者や通行者の利用を妨げない場所。
- ・多く開催されているイベント等の実施を妨げない場所。
(イベントと相乗効果を出せる場所が望ましい)
- ・日常的に利用者が溜まれる場所。
- ・日常の維持管理がしやすい場所。

上記のポイントを踏まえ、実施場所は下図のつくばセンター広場2階ペDESTリアンデッキ部分の一部で実施することとしました。

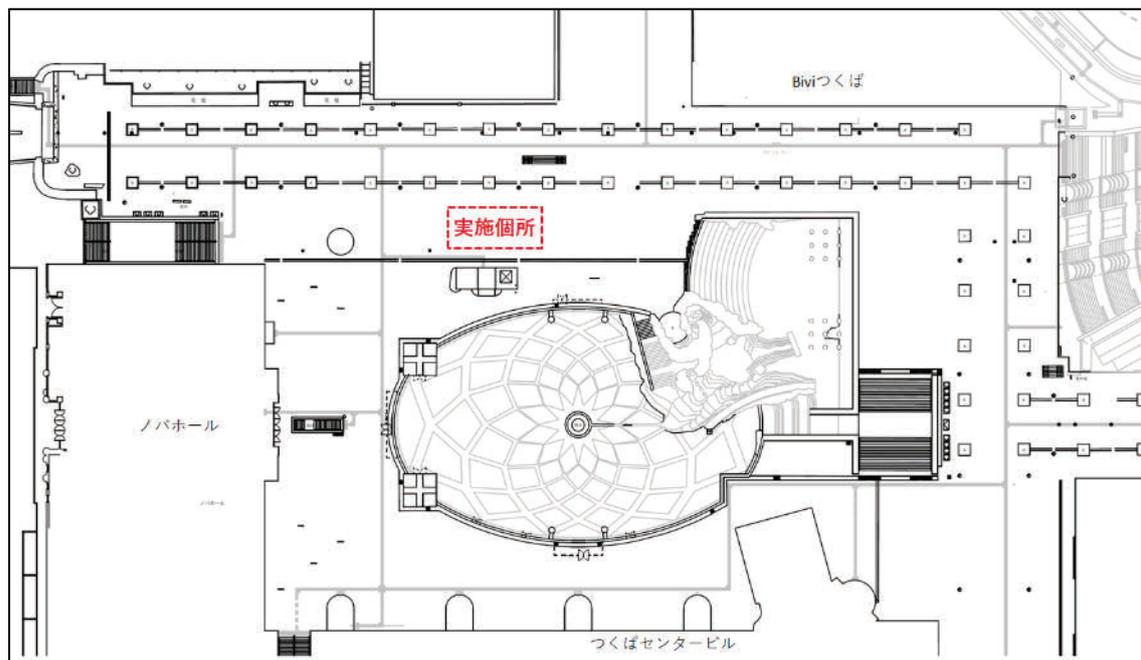


図 2-3 実証実験の実施個所

3)実施事項

検討のポイントや当該地の現状等を踏まえ、本実証実験の実施内容を以下のようにしました。

実施の方向性

- ・おしゃれで目立つようにするため、特徴的なデザインにする。
- ・空間を目立たせ、筑波山などのつくば市周辺部との連続性を持たせるため、ウッドデッキを使用するとともに、筑波山に関するオブジェを設置。
- ・寒さに対応するため、ドームテント等の風よけを設置。
- ・多様な行動を創出するため、テーブルや什器等も様々な種類を設置。
- ・日常管理が最低限となるもの。

空間及びデザイン

- ・コンクリートが多いつくばセンター広場において、温もりのある木を使用する。
- ・ウッドデッキは板を様々な色に塗装するなどデザイン性を重視。
- ・ウッドデッキ両端にドームテントを設置し、その間にテーブルやいす等を配置することにより、滞留しやすい空間を創出。
- ・イルミネーションを設置し、夜間利用の快適性を向上。

什器の選定

- ・様々な種類のテーブルやいすを選定することで、什器による利用の変化を確認する。
- ・一部の什器は地元の企業等と連携し、木材を加工した什器を制作。
- ・風等に飛ばされないようにするため、できる限り重量があるものを選定。

以上を踏まえ、実証実験における什器や配置等は以下の通りとしました。

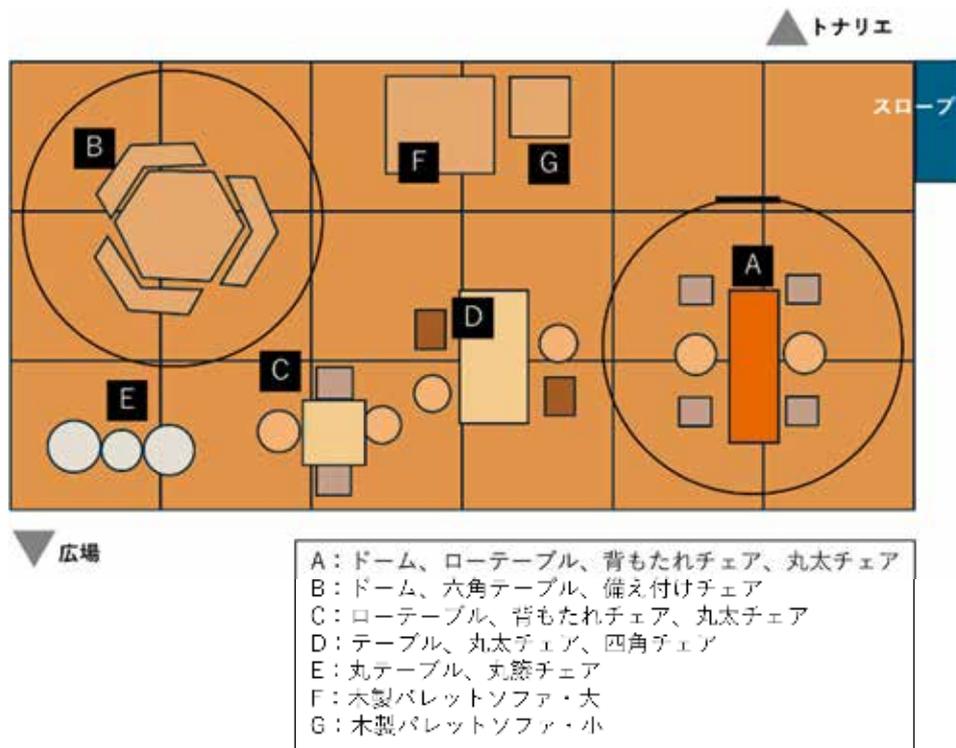


図 2-4 実証実験における什器や配置

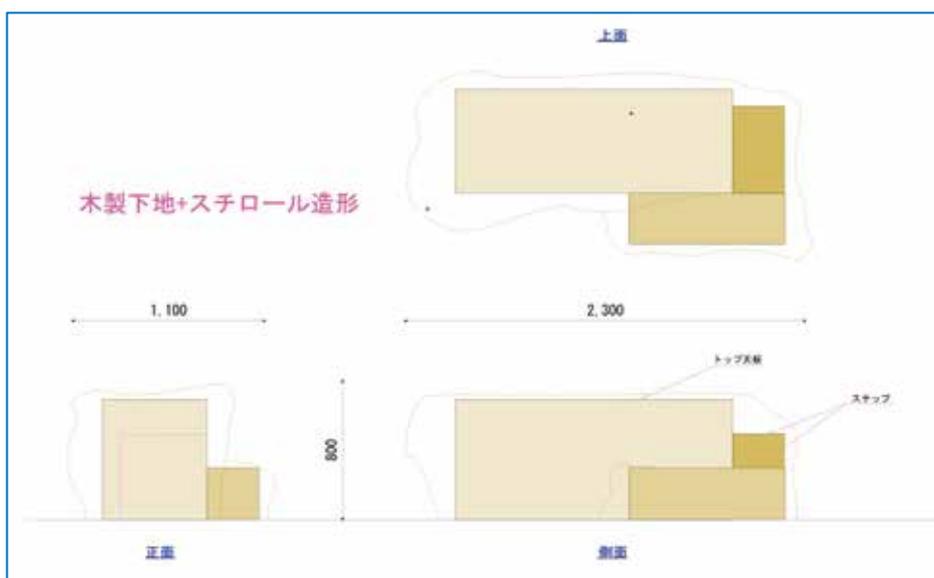
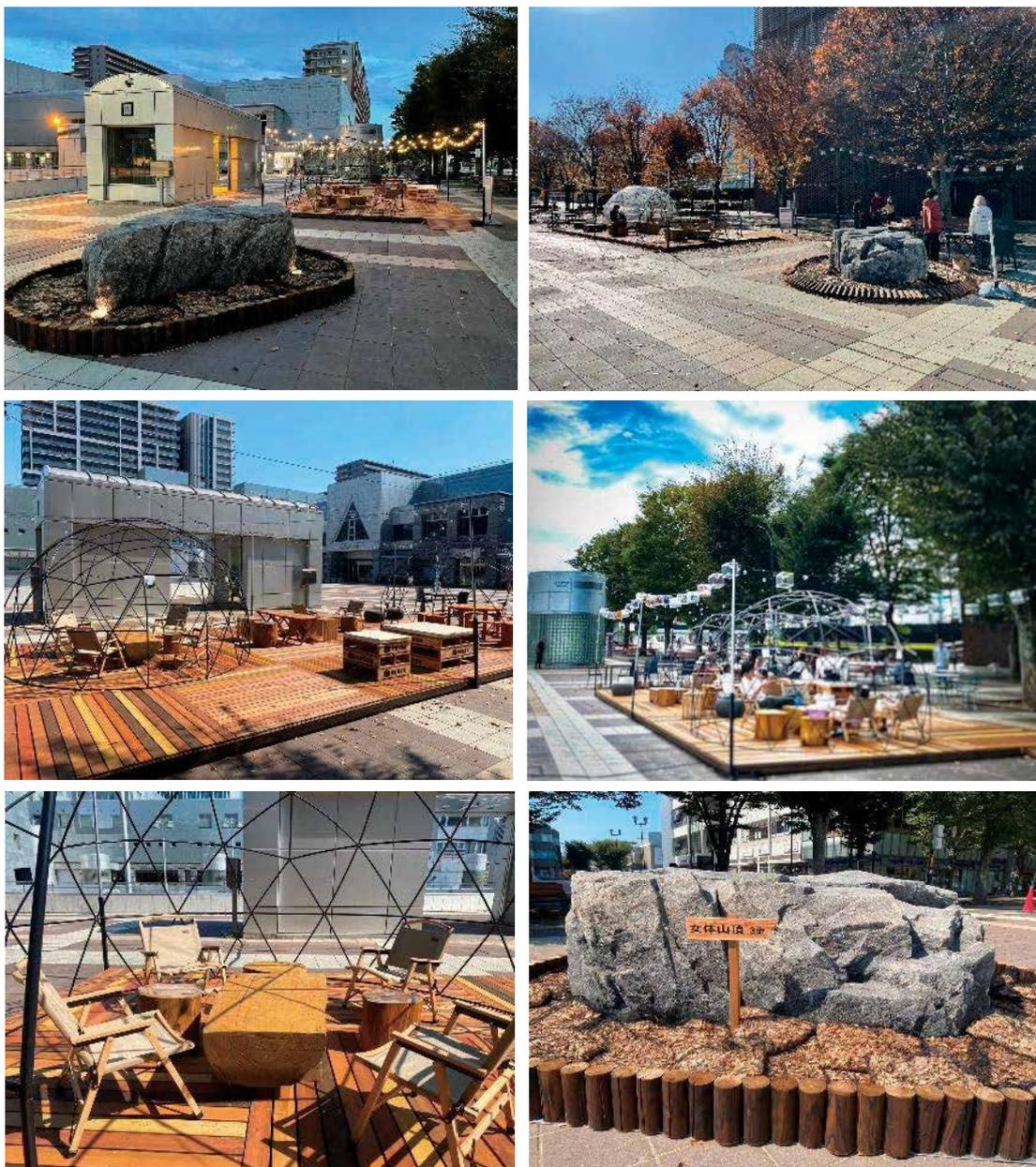


図 2-5 実証実験における筑波山オブジェのサイズ

設置の様子



実験の開始時期については、つくばセンター広場のイベント開催の都合により、以下から開始しました。

実証実験開始日：2024年10月1日（準備期間：2024年9月25～30日）

(3)効果検証

本実証実験では、以下の4つの手法で効果検証を実施しました。

- ① 日常での目視確認
期間を決めずに定期的に目視による利用状況確認
- ② アンケートによる動態調査
実証実験で設置した新たな場（以下、場と称する）に設置されたQRコードによるアンケート及び、特定日に対面でのアンケート調査。
- ③ 調査員による動態調査
特定日に調査員を配置し、目視で利用者の行動を把握。
- ④ 筑波山のオブジェへの愛称の募集
場へ愛着を持ってもらうため、筑波山のオブジェへの愛称を募集。

1)日常での目視確認

利用状況等について確認するため、目視で確認を行いました。

確認期間：2024年10月1日から2025年12月27日

結果概要

- ・曜日や時間に関係なく、多くの方に利用頂いており、夜間の利用も多くなっています。
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代で利用されています。
- ・今までに見られなかった若い年齢層（高校生、大学生）の利用も多く、写真撮影をしている方も多くみられました。
- ・什器による利用の差も見られ、背もたれがありゆっくりとくつろげる椅子が多く利用されていました。
- ・設置当初は気温が高かったことから、ドームテントのカバーは設置していませんでしたが、11月下旬にドームテントに1基のみカバーを設置したところ、カバーがあるドームテントの利用が増加しました。
- ・ソトカフェ時は冬季に利用している方は少なかったが、本実証実験では12月であっても利用者は一定数いることがわかりました。
- ・筑波山のオブジェについては、登ったりして興味を持つ方が一定数いました。
- ・飲食をし、ゴミをそのまま放置する利用者も見受けられます。
- ・従来のソトカフェに比べ、什器を移動させる人が少ない印象でした。

2) アンケートによる動態調査

利用目的や滞在時間などを確認するため、以下の2つの方法でアンケートを実施しました。

	調査1	調査2
実施方法	場にQRコードを設置し各自回答	特定日に対面でアンケートを実施
実施期間	2025年10月4日(金) ~12月16日(月)	2025年10月25日(金) 11月12日(火) 11月17日(日) 12月13日(金) 12月14日(土) 10時~19時
回答数	44件	67件

上記調査の質問項目は同一であり、調査手法による回答の差が無いことから、ここでは調査1, 2合わせた結果を示します。

【アンケート結果概要】

- ・利用の年齢層は幅広い世代が利用しているが、平日は30、40代及び学生の1人の利用が多く、休日は30、40代のファミリー利用が多くなっています。
- ・利用者の多くは市内在住であり、つくば中心市街地に居住している人も多いことから、近隣の方が多く利用していることがわかります。
- ・つくば中心市街地への来訪頻度は平日回答した方は、ほぼ毎日来訪している方が多く、休日は月に数回来訪している方が多くなっています。
- ・場の設置について知ったきっかけとしては、実際に設置されているのを見て知った方がほとんどであったことがわかりました。
- ・場の利用目的としては、一時的な休憩、くつろぐため、飲食をするためとの回答が多くなっていますが、他の活動をしている方もおり、多様な利用があることが推察されます。
- ・平日は1人で利用している方も多いが、休日は複数で利用している傾向がみられます。
- ・場の中の利用した箇所については、半数以上がドームテントの中を利用しており、これは、ドームテントにより滞留しやすくなることが考えられます。
- ・滞在時間は11~30分と回答した方が多く、短時間の滞在が多いことがわかりましたが、1時間以上滞在している方も一定程度おり、利用方法が多様であることが推察されます。
- ・平日、休日ともに、ほとんどの方が満足しているとの回答であり、本実証実験により新たなくつろぎの場として効果があったことが伺えます。
- ・筑波山のオブジェについては、設置を支持する声が4割弱、どちらでもよいが約5割となり設置を反対する意見は少ない結果となりました。

アンケート回答集計結果

(回答者の年齢層)

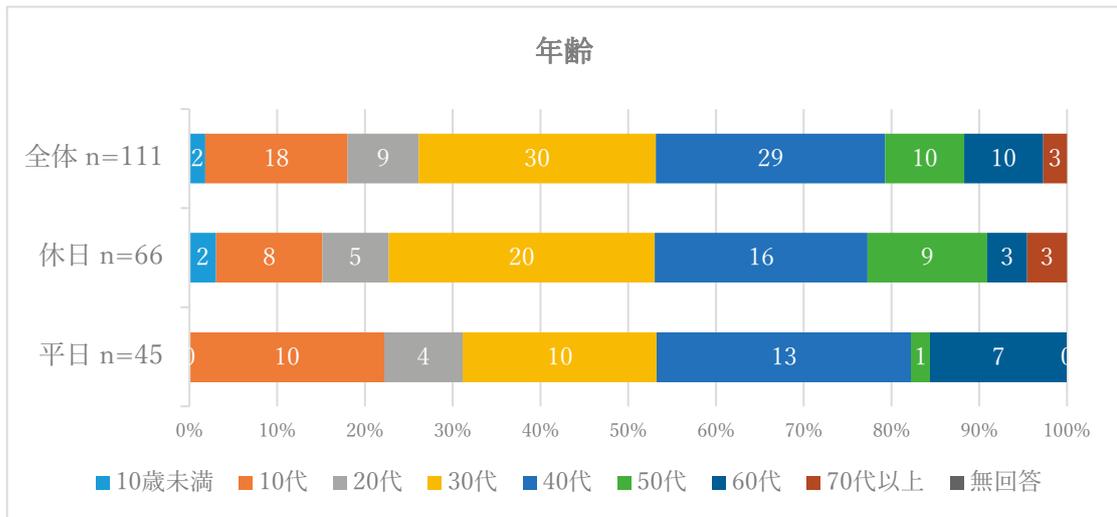


図 2-6 回答者の年齢

(回答者の居住地)

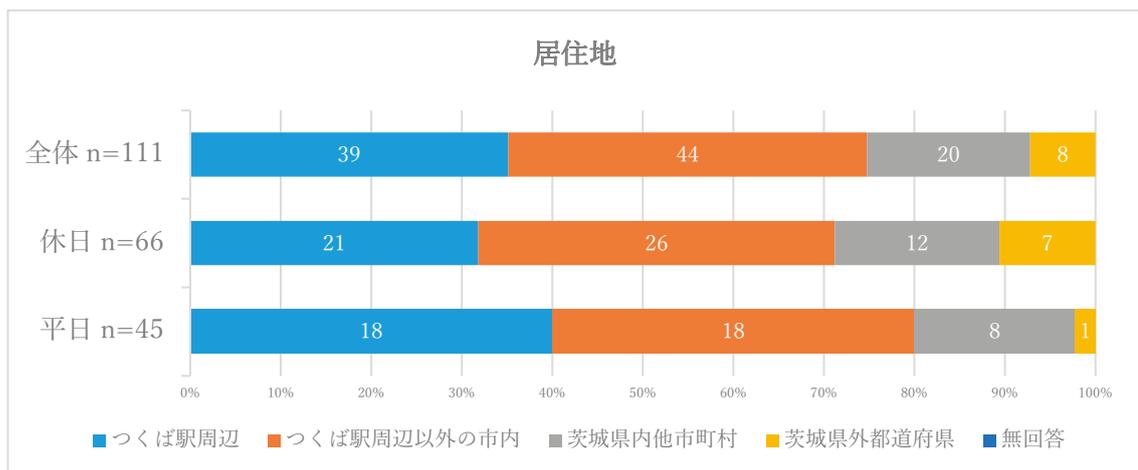


図 2-7 回答者の居住地

(つくば中心市街地への来訪頻度)

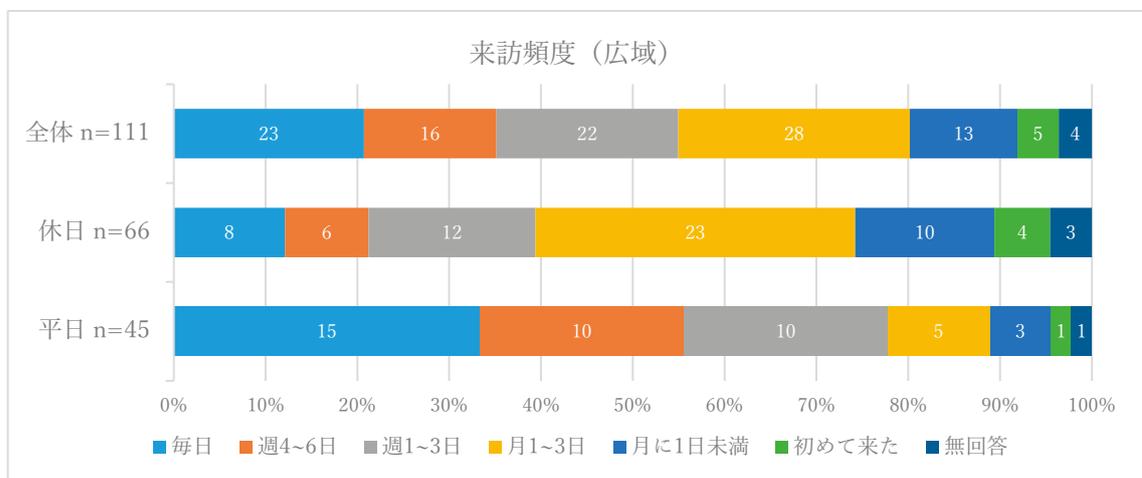


図 2-8 回答者の中心市街地への来訪頻度

(場の利用目的)

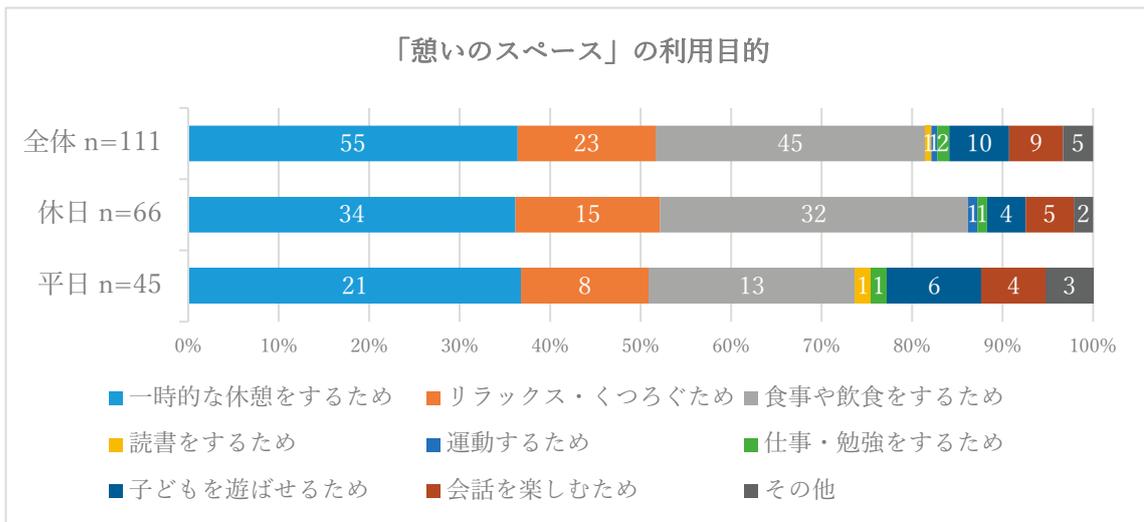


図 2-9 場の利用目的

(場を誰と利用したか)

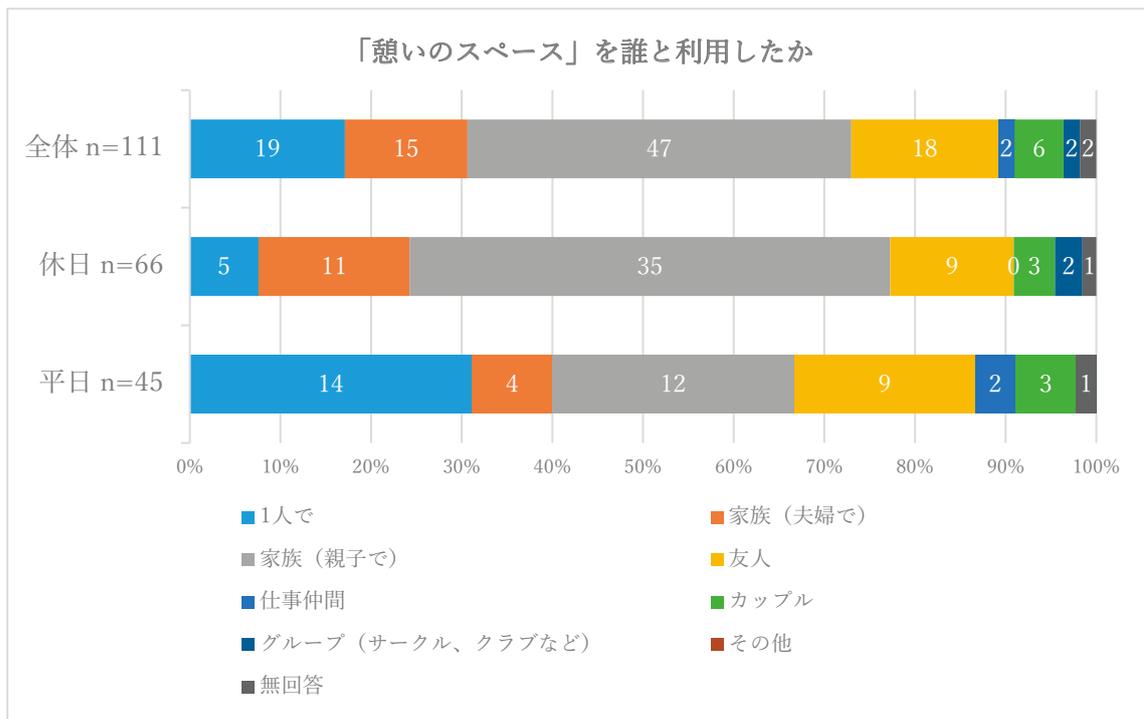


図 2-10 場を誰と利用したか

(この取組みをどこで知ったか)

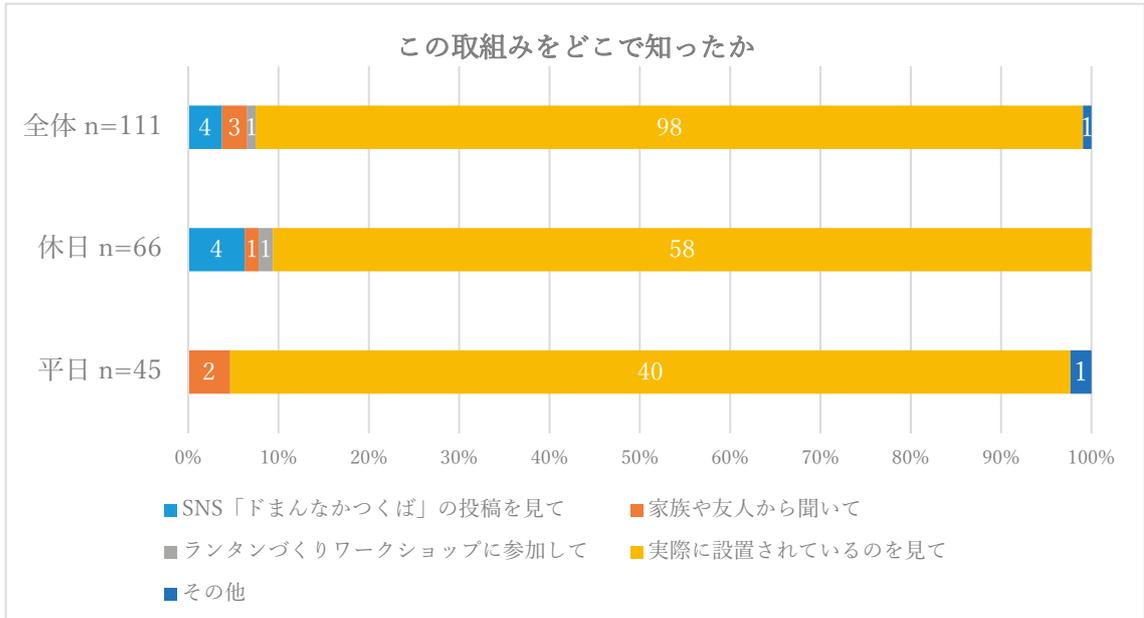


図 2-11 この取組みをどこで知ったか

(居心地の良さを感じる公共空間の特徴)

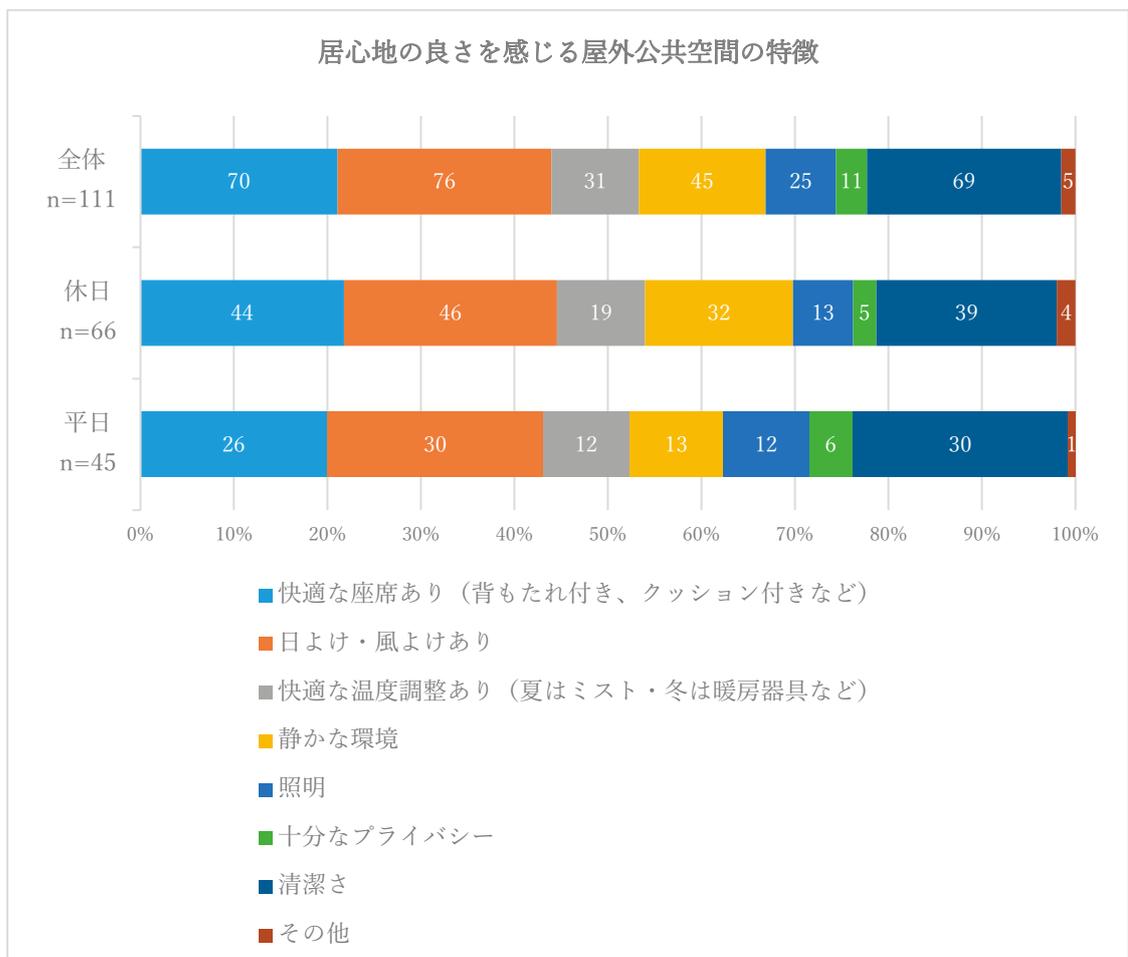


図 2-12 居心地の良さを感じる公共空間の特徴

(場の利用した箇所)

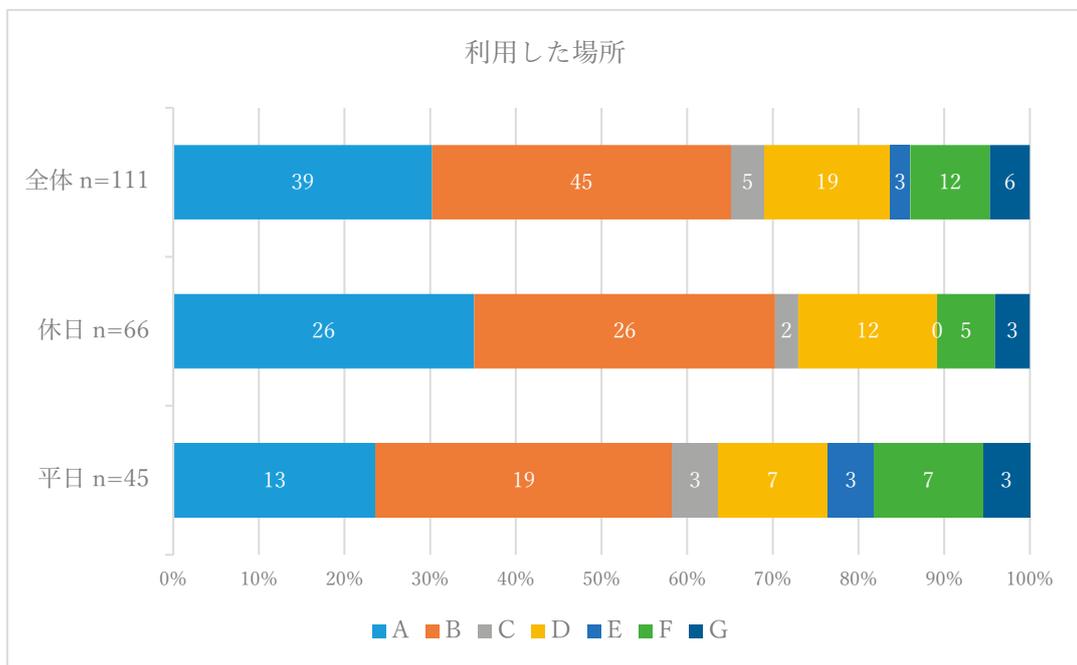
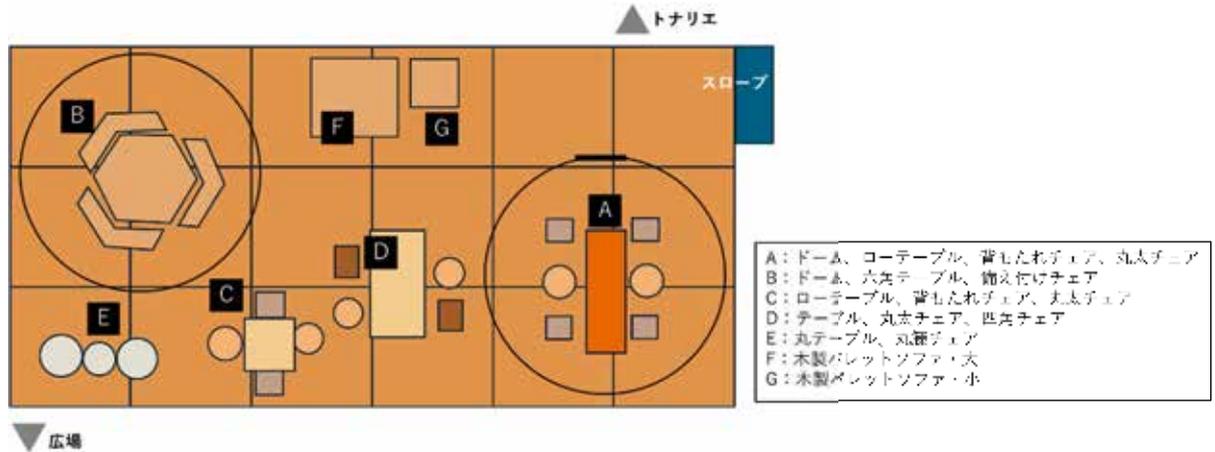


図 2-13 場の利用した箇所

(場の滞在時間)

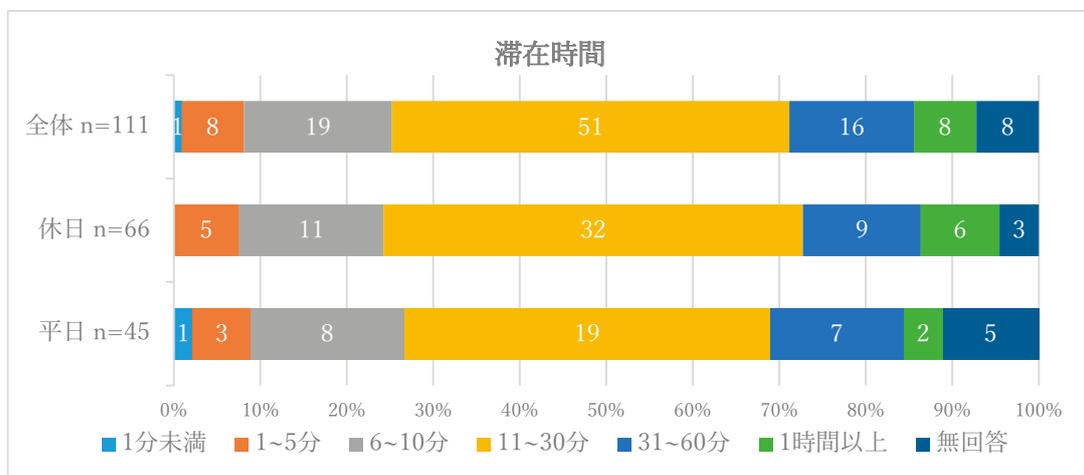


図 2-14 場の滞在時間

(場の利用の満足度)

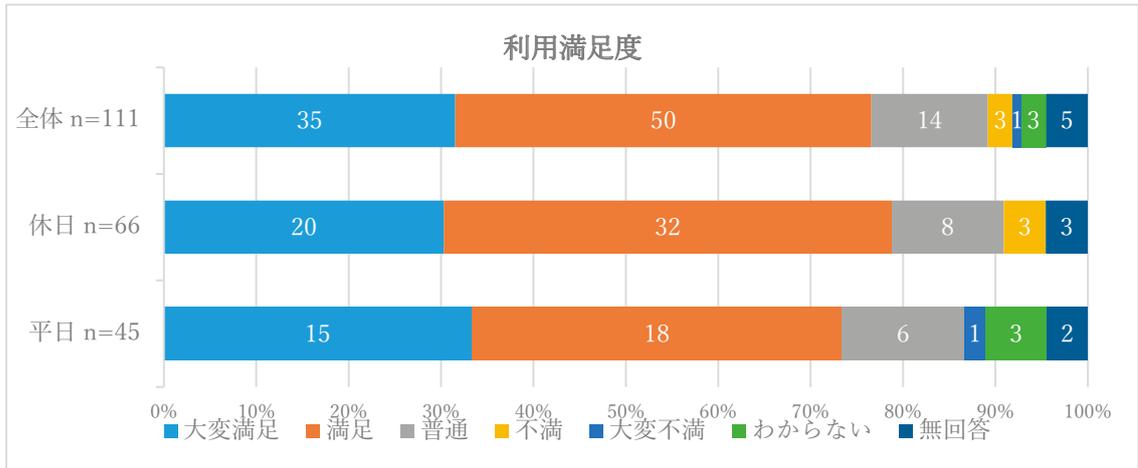


図 2-15 場の利用満足度

(筑波山オブジェに対する行動)

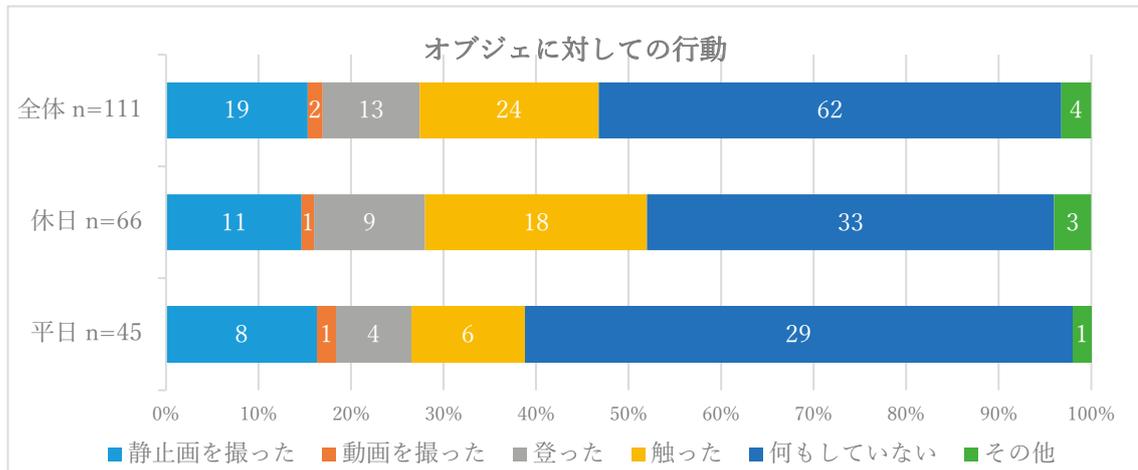


図 2-16 筑波山オブジェに対する行動

(筑波山オブジェに対する満足度)

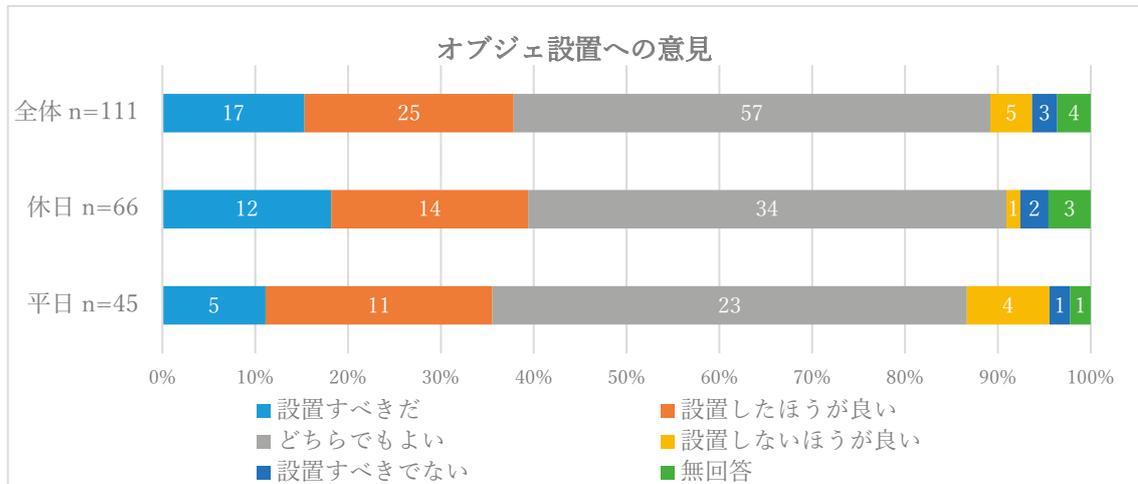


図 2-17 筑波山オブジェに対して満足度

3)調査員による動態調査

利用目的や滞在時間などを確認するため、調査員を配置して利用者の動向を調査しました。

実施日：全 10 日間 平日 6 日間、休日 4 日間

10 月 24 日（木）、10 月 25 日（金）、10 月 26 日（土）、11 月 12 日（火）

11 月 14 日（木）、11 月 16 日（土）、11 月 17 日（日）、12 月 12 日（木）

12 月 13 日（金）、12 月 14 日（土）

実施時間：9 時～20 時

調査方法：今回設置した新たな場と従来からのソトカフェの利用者について調査員を設置して行動を目視で調査。（年齢層は利用人数でカウント、それ以外の調査項目については利用組数でカウントしています）

調査件数（利用人数）

場所	平日	休日	計
新たな場	174	528	702
ソトカフェ（従来）	143	480	623
計	317	1008	1325

調査件数（利用組数）

場所	平日	休日	計
新たな場	83	176	259
ソトカフェ（従来）	99	216	315
計	182	392	574

【結果概要】

- ・利用者の年齢層を見ると今回の実験の場はソトカフェより若い世代が利用しており、特に平日は高校生の利用が多いことがわかりました。
- ・利用人数は、ソトカフェの平日を見るとほぼ 1 人での利用であったのに対し、実験の場は複数での利用が多く、利用人数の差も見られました。
- ・利用時間の差は見られず、ほとんどの方が 30 分未満の利用でした。
- ・利用の目的については、実験の場もソトカフェも多くの方が一時的な休憩や食事のために利用していましたが、実験の場では子どもが遊ぶために利用した人もいました。
- ・実験の場で最も利用されているのはドームテント内の背もたれがある椅子がある箇所であり、次はもう一つのドームテント内であり、総利用者の約半数がドームテントを利用していたことがわかりました。
- ・利用が多い時間帯は実験の場とソトカフェともに昼の時間帯が多いが、実験の場は夕方の 18 時頃の利用も増加することがわかりました。

(利用者の年齢) 以下目視による推定

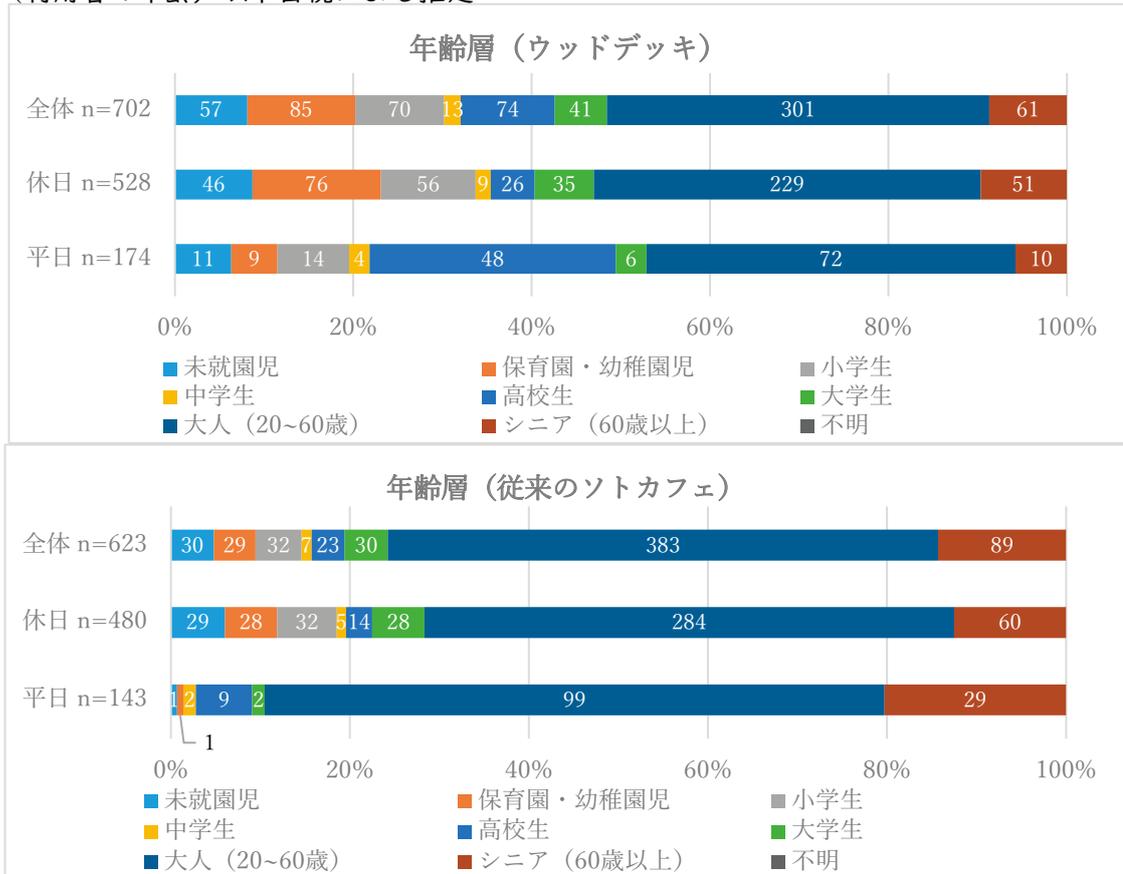


図 2-18 利用者の年齢層

(利用した組数)

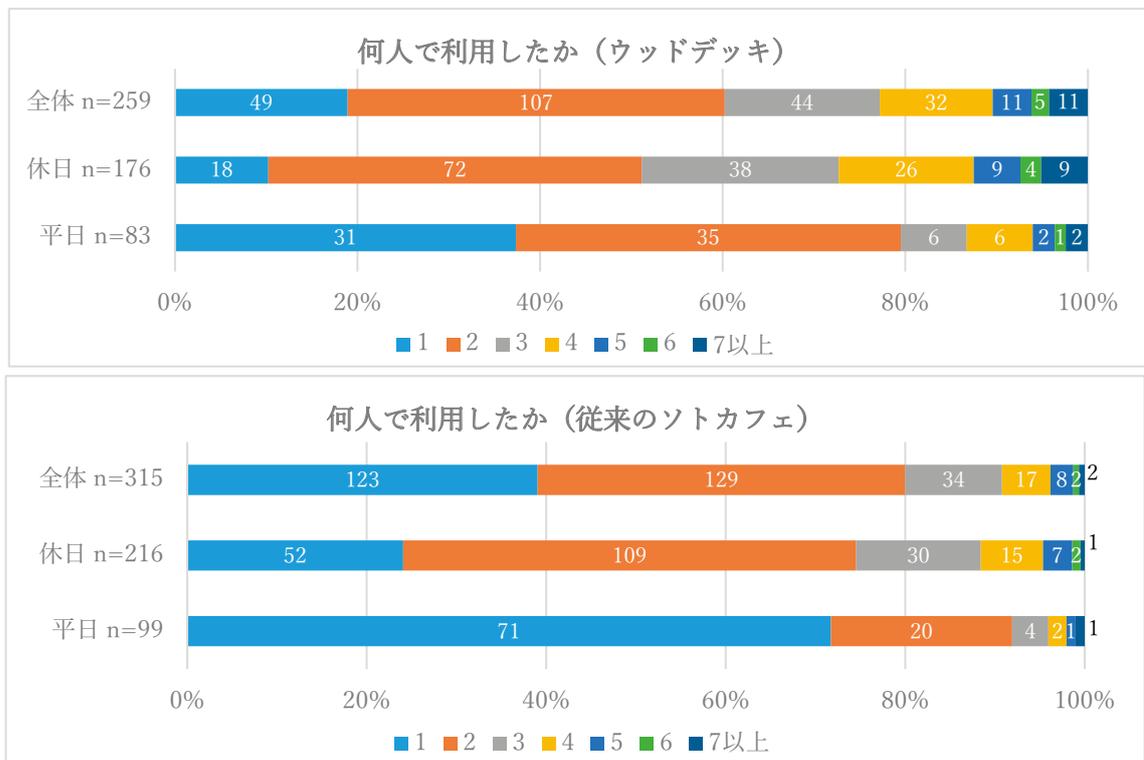


図 2-19 利用した組数

(誰と利用したか)

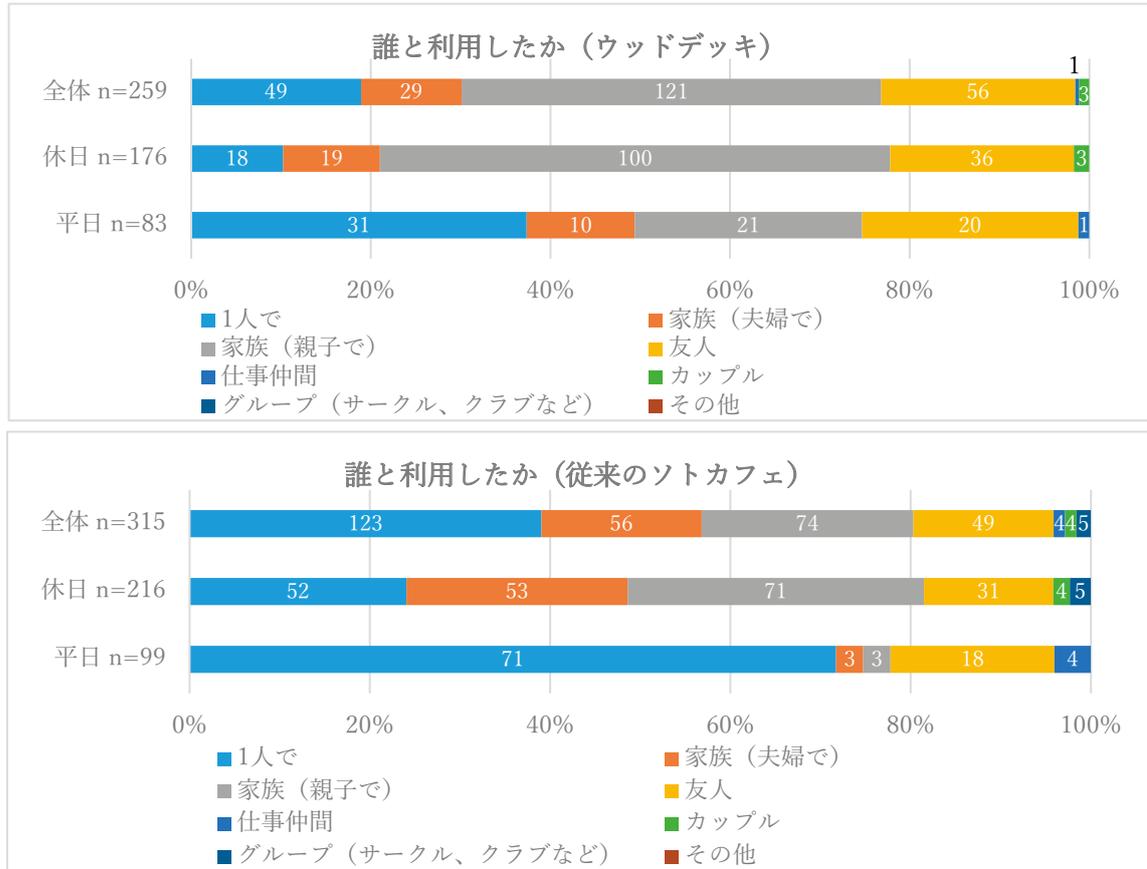


図 2-20 誰と利用したか

(利用者の滞在時間)

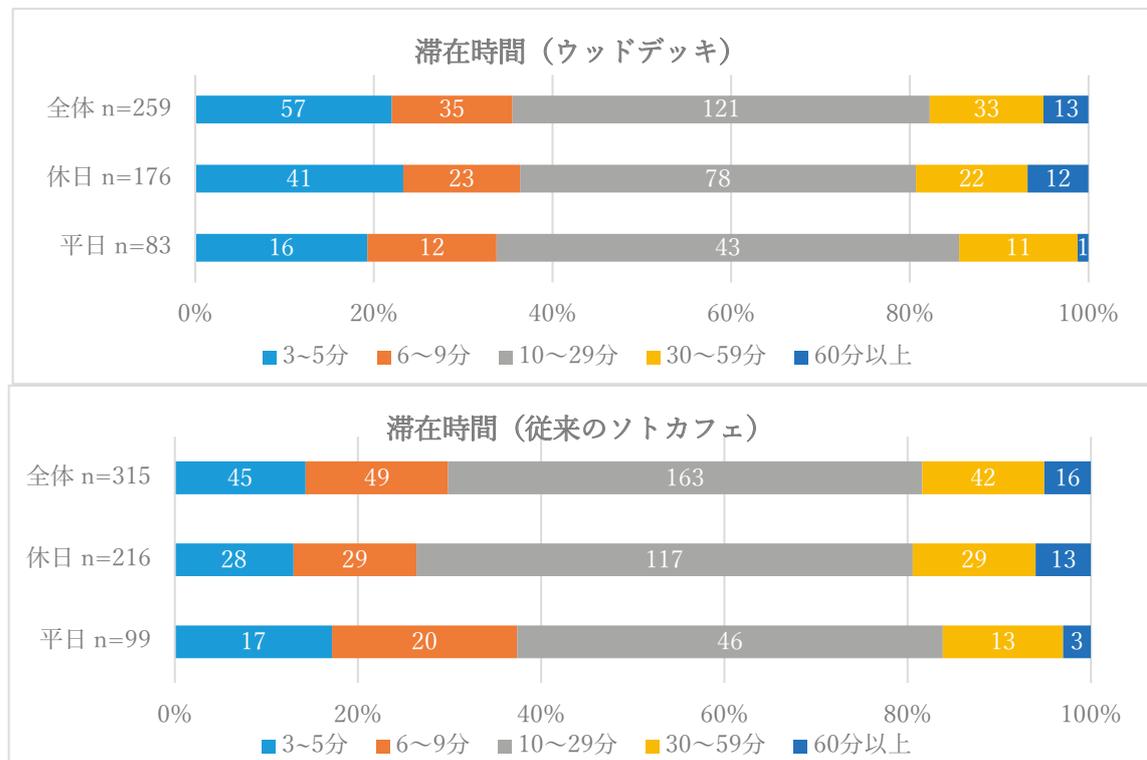


図 2-21 滞在時間

(利用時の行動)

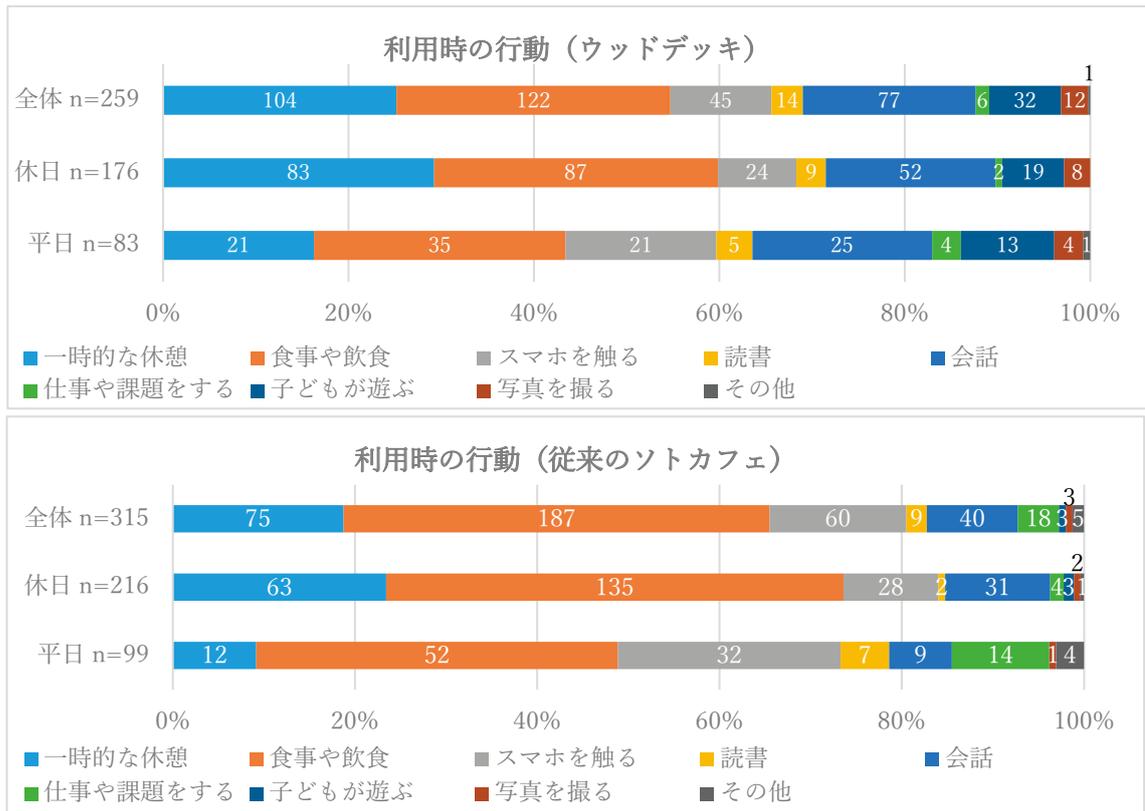


図 2-22 利用時の行動

(利用した箇所)

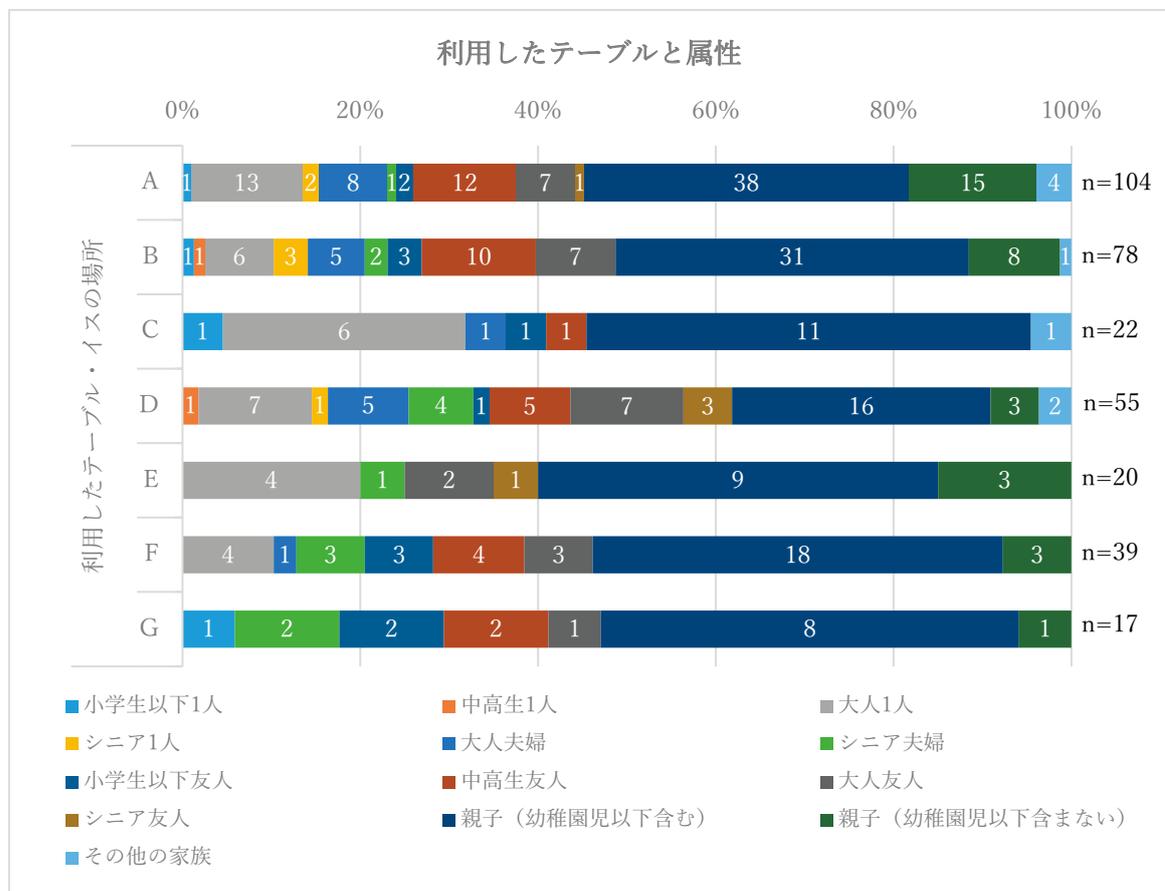
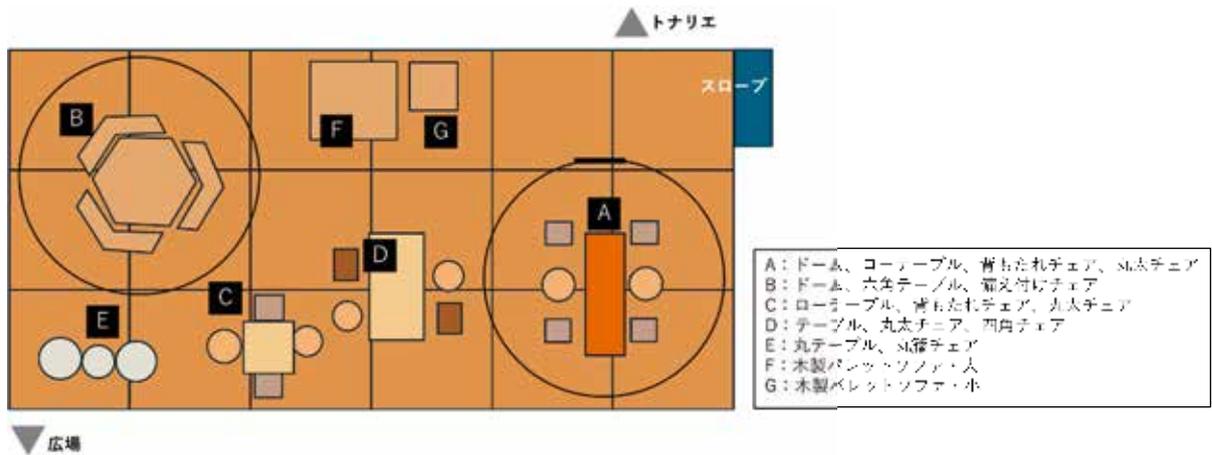


図 2-23 利用した箇所ごとの属性

(時間ごとの利用組数)

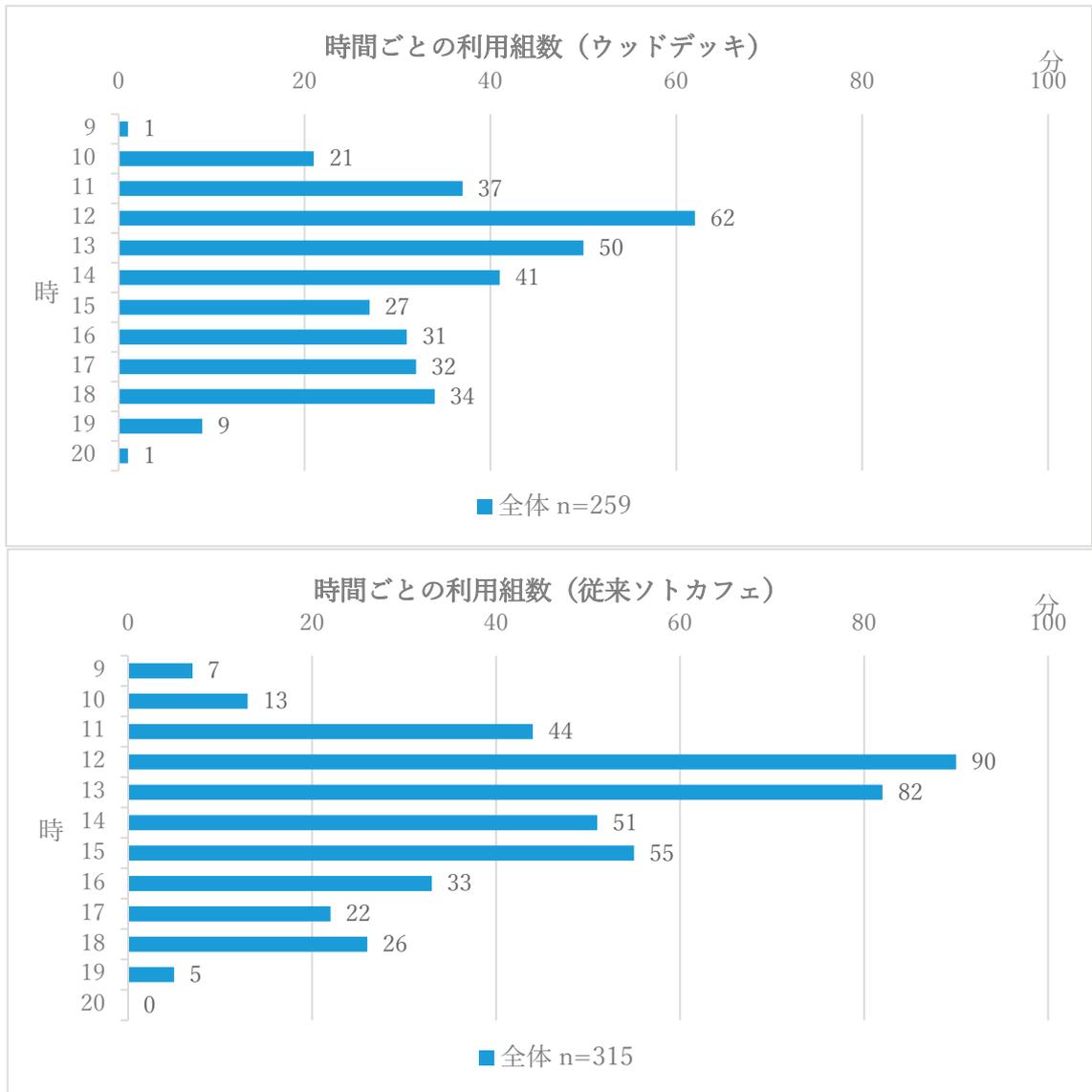


図 2-24 時間ごとの利用組数

4) 筑波山オブジェへの愛称の募集

場への愛着を持ってもらうため、筑波山のオブジェについて、愛称を募集しました。

募集の期間：2024年10月4日～2025年12月16日

募集の方法：アンケートで募集

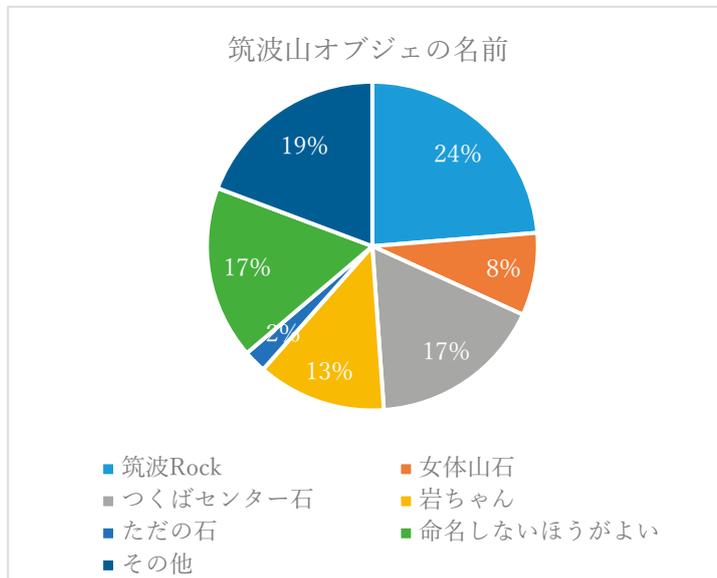


図 2-25 筑波山オブジェの愛称

その他で出された意見

- イワロック
- つくセン岩
- ばーつくパワーストーン
- つくばクラフト岩
- 女体山頂もどき
- Rock in Tsukuba
- TKB
- The unknown Rock
- 筑波山オブジェ
- ただの休憩所
- 岩
- セカイのいただき
- 女体
- つくば Rock
- センターロック
- 大きい石

(4)実証実験の結果

1) ~ 4) の調査結果より、今回の実証実験は以下の効果が見られました。

利用者について

- ・ソトカフェでは若い世代の利用が少なかったが、今回の実験では多様な世代が利用していることがわかり、特に高校生の利用が多く見られたことから、若い世代に訴求する場づくりができたと考えられます。
- ・ソトカフェは1人での利用、新たな場では複数人での利用と場により利用人数も変化していたことから、場の作り方により滞留する人数も変化することがわかりました。
- ・利用者は近隣の方が多いことから、近隣の方には日常のくつろぎの場として認識頂けた一方、つくば中心市街地には多くの来街者がいることから、より多様な方の利用を促す必要があります。

場について

- ・什器により利用頻度の差が見られたことから、什器の選定が滞在しやすさにつながることをわかりました。特に椅子については、背もたれの有無が滞在時間に影響していると考えられます。
- ・ドームテント内の利用が多かったことから、ドームテントの効果が大きかったことが推察されます。
- ・今までは冬季の利用は少なかったが、ドームテントやイルミネーション等の対策を実施することにより、一定の利用者増が見られました。

行動について

- ・アンケートや、目視確認から一時的な休憩やくつろぐため、食事のための利用が多くなっていますが、様々な利用がされていることがわかりました。また、ソトカフェと今回の実験では行動の差は見られませんでした。
- ・滞在時間はソトカフェ及び実験の場双方とも11分から30分の方が多い傾向が見られましたが、長時間利用者も一定数いたことから、多様な使われ方がされていることがわかりました。
- ・利用する時間は、両方の場ともに昼時間帯が多いですが、実験の場は夕方にも利用が増加する傾向が見られました。
- ・ソトカフェの際に一定程度見られた仕事をしている方がほぼ見られなかったことから、滞留しやすい空間を作ったことにより、仕事や作業をする方には敬遠されたことが推測されます。
- ・筑波山のオブジェについては、撮影をしたり登ったりしている人が一定程度見られるとともに、設置に対して前向きな声も一定程度見られたことや、愛称の募集にも多くの名前が出されたことから、愛着に向けて一定の効果が見られました。

5. 今後の取組みについて

本実証実験では、多様な使い方ができる日常のたまり場を設置することで、様々な滞留や行動が生まれることがわかりました。また、デザインを工夫することで利用者層に変化がでることや、設置する什器により快適性に差が出るなど、場づくりにおいて考慮すべき事項を見出すことができました。

近年、人々の価値観も多様化しており、皆が同じ行動をするのではなく、それぞれの価値観で活動することが多いこと、またネットショッピングや飲食の配達が進んでいることから、人々の街に対する役割が変化してきていると考えられます。これからの時代は、まちなかにそれぞれの価値観で活動ができる自由な場を各所に設置していくことが望まれています。

今回の実証実験はその一つであり、今後もどのような場が様々な活動をしやすい場となるかについて検証していく必要があります。

つくば中心市街地では、マンションの建設等により人口が増加していることや新たな店舗等も設置されており、にぎわいが創出されてきていますが、多様な活動ができる場やくつろげる場は不足している状況です。

そのため、つくば中心市街地では、以下の取組みを実施していくことが必要だと考えられます。

① 本実証実験の結果をふまえ、更なる魅力ある場を創出する

今回の実証実験では一定の効果が見られたことから、今回の成果を踏まえ、更に魅力ある場づくりを進めていく必要があります。

② つくば駅周辺で不足している他の場づくりを進める

今回、多様な世代のたまり場を創出することができましたが、つくば中心市街地には小さな子どもが遊べる場が不足していると言われていています。そのため、新たな場づくりとして、小さな子どもが溜まる場の創出を検討する必要があります。

実施に当たっては、つくば中心市街地のエリアマネジメントを担っているつくばまちなかデザイン(株)やつくば中心市街地の企業等で組織するつくばセンター地区活性化協議会が中心となり、取り組むことで、まち全体に取組みを拡大させていくことが望ましいと考えています。

今後もつくば都市交通センターでは、地域の事業者と連携しながら、つくば中心市街地の魅力向上に向けた支援を進めていきます。



つくばセンター地区の動き

2024年のできごと

	つくば市のできごと	つくばセンター地区のできごと
1月	1/7 二十歳の集い(成人式) 新型コロナウイルスが5類になって初	1/22 ~ 1/30 自動運転バス実証実験 筑波大学キャンパス循環 1日6便
	1/23~ 1/27 オンデマンド型移動投票所による 模擬投票実験	
2月	2/1 洞峰公園 県営から市営に移管	2/1 ホテル JAL シティつくばリニュー アルオープン コロナ禍の休業を経て約3年ぶりに営業再開
		移動用小型車シェアリングサービ ス「つくモビ」実証実験 2/10 ~ 3/24 
		つくばセンタービルに市民活動拠 点コリドイオオープン 2/12 つくば市民センター、つくば市消費生活センタ ー、つくば市国際交流協会が統合
3月	3/20 (株)AirX が上境に空飛ぶクルマ テストフィールドオープン	3/13 筑波大学 4年遅れの入学式 コロナ禍で入学式が中止となった在校生のため開催
	3/22 分譲マンションつくばウェルビー イングプロジェクト入居開始 竹園三丁目 第1街区	
4月		分譲マンションメイツつくば竣工 (166戸) 
	4/1 コミュニティバスつくバス減便 平日昼、土日祝日を減便	

	つくば市のできごと	つくばセンター地区のできごと
4月	4/3 みどりの南小・中学校 開校	4/1 分譲マンションつくばテラス／ルネ つくばローレルコート入居開始 (320戸) 
		4/5 筑波学院大学、大学名を日本国際 学園大学に変更
5月		
6月	6/9 洞峰公園市営化スターティングイ ベント開催	
7月	7/3 豊里ゆかりの森に新美術館オー プン	
8月	8/27 未来医工融合研究センターが筑 波大学附属病院にリニューアルオ ープン	
9月	9/6 土浦スマート IC(仮称) 事業許可	9/30 こども MaaS 実証実験 ～ 10/9 こども単独で習い事や学習塾等へ移動でき る、子育てに優しい都市を目指す
10月	10/1 高速バス谷田部車庫・研究学園駅 ～バス新線 新設運行開始	
	10/27 つくば市長選 五十嵐立青氏当選 (三期目)	
11月		つくば駅構内とつくばセンターバ スターミナルに「shikAI(シカイ)」 導入 点字ブロックの QR コードで視覚障害者を道 案内 11/1 
12月		

謝辞

都市活動実態調査については、筑波研究学園都市交流協議会会員事業所のうち 45 機関にアンケート調査依頼をさせていただくとともに、下記の関係機関の皆さまにデータ収集にご協力を頂きました。

この場を借りて深く感謝申し上げます。

- ・つくば市
 - ・茨城県立つくば美術館
 - ・関東鉄道株式会社
 - ・株式会社日本エスコン
 - ・大和リース株式会社
 - ・つくばまちなかデザイン株式会社（つくばセンター地区活性化協議会）
 - ・ホテル日航つくば
 - ・ホテル JALCITY つくば
 - ・ダイワロイネットホテルつくば
 - ・つくばエキスポセンター
 - ・つくば国際会議場
 - ・株式会社東京アスレティッククラブ（洞峰公園管理事務所）
 - ・公益財団法人つくば文化振興財団
 - ・筑波研究学園都市交流協議会
- （敬称略 順不同）

あとがき

本冊子の発刊にあたり、都市活動実態調査については、株式会社 UR リンケージに、パブリックスペース活用実践調査についてはつくばまちなかデザイン株式会社にご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本書が皆様の一助となり、地域活性化の参考となりますと幸甚です。

TUTC Library 51

発行日 令和7年3月
発行所 一般財団法人 つくば都市交通センター
〒305-0031
茨城県つくば市吾妻1-5-1
TEL 029-855-7211

TUTC Library

Tsukuba Urban Transportation Center

TUTC Library 51号

発行日 令和7年3月

発行所 一般財団法人 つくば都市交通センター

〒305-0031

茨城県つくば市吾妻1-5-1

Tel. 029-855-7211